令和元年度　文部科学省補助事業

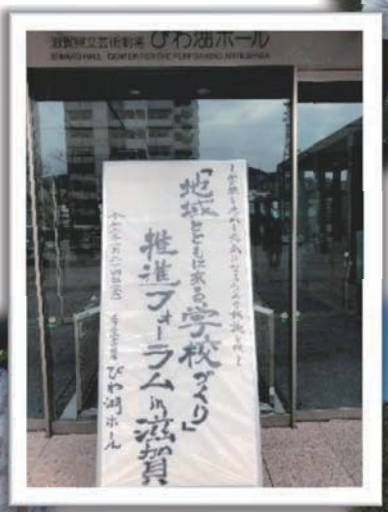
学校を核とした地域力強化プラン事業

実践事例集

地域とともにある学校づくりをめざして

『地域学校協働活動推進事業』
『コミュニティ・スクール推進事業』
『地域における家庭教育支援基盤構築事業』






滋賀県教育委員会

－はじめに－

昨今、急速なグローバル化や人口知能の飛躍的な進化等により、将来の予測が困難な時代を迎え、子どもを取り巻く状況も、増々複雑化しております。安全に安心して子どもを育てていくために、地域と学校が連携・協働して幅広く地域住民等の協力を得て、社会総掛かりでの教育の実現を図ることが求められています。その中で、子どもたちが他者との協働により社会を取り巻く課題を見つけ、解決する力を育むことが大切であります。

また、来年度から順次実施される新学習指導要領の目指すものとして、「社会に開かれた教育課程」の実現が謳われています。これは、家庭や地域と連携しながら、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を達成するというものです。

そのような中、本県におきましても、今年度から５年間の教育の方針と施策の体系を示す「滋賀の教育大綱（第３期滋賀県教育振興基本計画）」を策定したところであり、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げております。この基本目標の達成に向けた大きな柱の１つとして「社会全体で支え合い、子どもを育む」を掲げ、「家庭や地域と学校との連携・協働活動の充実」を図るために、「持続可能な地域学校協働活動の展開」と「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入推進」を図ることを盛り込んでいます。

地域学校協働活動と学校運営協議会は、それぞれが持つ役割を十分に機能させ、一体的な推進を図ることで相乗効果を発揮し、地域の教育力の向上と学校運営の改善に結びつけることが期待されます。このため今年度も「学校を核とした地域力強化プラン事業」として「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」、さらに「家庭教育支援」の３つを総合的に推進し、県全体での展開を目指してまいりました。

本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれた実践をまとめたものです。県内の取組を参考に、事業の更なる拡充に取り組んでいただければと存じます。また、今後、地域と学校の連携・協働体制の構築を目指される市町におかれましては、本実践事例集を参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」「地域づくり」に献身的に取り組まれている関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援のほどお願いします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報提供や寄稿をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和２年（2020 年）３月

滋賀県教育委員会事務局
生涯学習課長　合田　遼

〔目　次〕

◆ **事業の概要**・・・

Ⅳ　地域未来塾の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174

◆令和元年度地域未来塾一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174

◇彦根市 ・・・・・・・175
◇豊郷町 ・・・・・・・189
◇日野町 ・・・・・・・182
◇甲良町 ・・・・・・・189
◇湖南市 ・・・・・・・183
◇多賀町 ・・・・・・・190
◇米原市 ・・・・・・・184

Ⅴ　放課後子ども教室の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・191

◆令和元年度放課後子ども教室一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・191

◇近江八幡市 ・・・192
◇東近江市 ・・・・202
◇草津市 ・・・・・・・194
◇日野町 ・・・・・・・205
◇栗東市 ・・・・・・・195
◇豊郷町 ・・・・・・・208
◇野洲市 ・・・・・・・199
□放課後児童クラブの現状 ・・210

Ⅵ　土曜日の教育支援活動の実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212

◆令和元年度土曜日の教育支援活動一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212

◇甲賀市 ・・・・・・・213
◇湖南市 ・・・・・・・215
◇東近江市 ・・・・・220
◇竜王町 ・・・・・・・227

Ⅶ　地域における家庭教育支援基盤構築事業の実践事例　・・・・・・・・・231

◆令和元年度家庭教育支援活動一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・231

◇近江八幡市 ・・・232
◇湖南市 ・・・・240
◇草津市 ・・・・・・・234
◇高島市 ・・・・242
◇栗東市 ・・・・・・・236
◇日野町 ・・・・244
◇甲賀市 ・・・・・・・238
◇竜王町 ・・・・246

Ⅷ コミュニティ・スクール推進事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 248

令和元年度 学校を核とした地域力強化プラン

地域住民等の参画により、地域の将来を担う人の育成を社会全体で担うとともに、持続可能な地域の教育基盤の形成を図る。

趣旨 滋賀県「地域学校協働活動推進事業」

【補助率】国 1/3 都道府県 1/3 市町村 1/3

地域と学校が連携・協働し、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、県民一人ひとりが当事者意識をもって地域を創生する活動として、「地域学校協働活動」を推進する。

県 推進協議会の設置

○総合的な教育支援活動の在り方の検討
○コーディネーター等を対象とした研修の企画
○事業の評価

市町 運営委員会の設置

○教育委員会と福祉部局等の連携方策
○地域の人材確保方策の検討
○支援体制の整備・支援活動の実施　等

統括的な地域学校協働活動推進員
（統括的なコーディネーター）
・未実施地域における取組実施を推進
・地域コーディネーターの資質や活動の質の向上

学校等 活動の場

従来の学校支援地域本部等を基盤とし、幅広い地域住民や団体等の参画によりネットワークを構築し、**地域学校協働活動**を推進

地域の多彩な人材　家庭（保護者）

地域学校協働活動推進員
（地域コーディネーター）
・地域住民等や学校との連絡・調整
・地域学校協働活動の企画・推進等

学校（教職員）




地域人材等の参画 地域学校協働活動

多数のボランティア等

協働活動支援員・協働活動サポーター・学習支援員
特別支援サポーター
協働活動支援員
協働活動サポーター

地域学校協働本部
■地域と学校が連携・協働する仕組みづくり（本部）を促進し、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施
（R1） 12市町121本部
・学校支援活動・学校周辺環境整備
・郷土学習　・学びによるまちづくり
・地域人材育成・地域行事への参加 等



地域未来塾
■中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施
（R1） 7市町30教室
・放課後や長期休業中に学習を深めたいすべての子どもに学ぶ機会を提供



放課後子ども教室
■放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実
（R1） 7市町38教室
・活動拠点(居場所)の確保　・放課後等の学習指導
・自然体験活動支援　・文化活動支援　など
○放課後児童クラブ（首長部局）と連携

土曜日の教育支援
■すべての子どもたちの土曜日の教育活動を充実させるため、外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施
（R1） 4市町35教室
・民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得た支援体制の構築

趣旨 「コミュニティ・スクール推進事業」（県実施）

【補助率】国 1/3 都道府県 2/3

公立学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」をめざす「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の導入を加速させ、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。

CSアドバイザー派遣	研修の充実	推進協議会・連絡協議会の開催
■各自治体のCS立ち上げや推進体制の構築に向けた助言 ■市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進	■学校運営協議会委員・教職員等を対象とした研修会を開催。	■CSの推進方策や効果的な運営方法等の情報共有、関係者による情報交換、県の推進方策の検討等を行う。

趣旨 「地域における家庭教育支援基盤構築事業」 8市町16活動

【補助率】国 1/3 都道府県 1/3 市町村 1/3

各地域における家庭教育支援員等の養成、家庭教育支援チームの組織化及び学習機会の効果的な提供等の様々な取組に加え、家庭教育支援チーム等の組織化・活動強化を図るための取組の推進など、家庭教育を支援するための様々な取組を支援する。

地域人材の養成	家庭教育支援体制の構築	家庭教育を支援する取組の展開
■家庭教育支援員の養成 （R1） ３市町で実施予定	■家庭教育支援チームの組織化 ■家庭教育支援員の配置 （R1） ４市で実施予定	■学習機会の効果的な提供 ■親子参加型行事の実施　（R1） ■情報提供・相談対応８市町で実施予定

家庭教育支援チーム等の強化を図るため追加して実施可能な取組

①連絡会議・ケース会議等の設置・運営
②活動拠点の整備促進
③企業内における家庭教育に関する学習機会の提供
④保護者に対する家庭教育支援に関する情報提供

※①②は支援チームの設置が必要要件

地域学校協働本部 「支援」から「連携・協働」へ

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携･協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

趣旨 地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る。

地域学校協働本部

■令和元年度実施予定
12市町 121本部



学校

関係者による協議会の設置（目標、活動方針や取組内容等の共有）



地域学校協働活動推進員
(地域コーディネーター)
■ 退職教職員、PTA経験者など地域と学校の現状をよく理解している人

（活動の企画、地域・学校との連絡・調整）

地域ボランティア





参　画

- 保護者
- 地域の青少年・成人・高齢者
- 社会教育関係団体
- 労働関係機関・団体
- 民間教育事業者
- 文化・スポーツ団体
- 企業・経済団体

幅広い地域住民等



地域における連携･協働の場の提供

連携・協働

校　長

地域連携担当者
■ 学校側の窓口

教員



地域資源を生かした学校の教育活動

子ども

地域学校協働活動

【活動の例】

○学びによるまちづくり
- 地域資源を活用した地域ブランドづくり学習
- 地域防災マップ作成等

○地域人材育成
- 地域課題解決型学習
- 地域人材によるキャリア教育 等

○地域行事への参加
- 地域･学校協働防災訓練
- 地域の伝統行事への参画等

○ボランティア・体験活動
- 地域の高齢者施設でのボランティア学習
- 地域の商店街での職場体験活動等

○学校支援活動
- 学習支援
- 部活動支援
- 校内環境整備
- 学校行事支援
- 子どもの安全確保、見守り 等

○学校周辺環境整備
- 地域学校協働清掃活動
- 花壇整備等

○郷土学習
- 郷土史調査学習
- 地域の自然環境、フィールドワーク

地域に出かけていく活動の創出

期待される効果

子どもにとって ⇒ 専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りになり、地域の担い手としての自覚が高まる。また、多様な経験を積むことで、学習意欲が喚起され、自ら課題を解決しようとする資質や能力が育まれる。

学校にとって ⇒ 地域住民等の理解と協力を得て、地域資源を生かした授業づくりが進められる。また、学校支援ボランティアが組織化されると、教員の異動に関わらず、持続可能な学校支援体制が担保される。子どもの教育を保護者や地域住民等とともに担うことで、ひいては教員の負担軽減につながり、子どもと向き合う時間が増える。

地域にとって ⇒ 地域住民等が自らの経験や知識を子どもの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会や場がつくられる。地域の子どもと顔見知りになり、ひいては、地域住民同士も顔と名前が一致する関係が進む。学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たな地域コミュニティがつくられる。

地域未来塾 －地域の力による放課後等学習教室－

【補助率】

国1/3
都道府県1/3
市町村1/3

現状と課題

・児童・生徒が、家庭において、学習する時間、特に予習・復習を行う時間が短い。
・学校において、放課後に学習支援を行う時間が短い。
【平成27年度全国学力・学習状況調査結果より】
・家庭で保護者に学習を見てもらう機会が減っている。
【平成25年度全国ＰＴＡ意識調査結果より】

『学ぶ力向上滋賀プラン』（H27.3策定）

一人ひとりの「学ぶ力」を高めるため、生活の中で「学ぶ力」をつけること、子どもが繰り返し努力したことを認め、能力や可能性を引き出すこと、放課後や土曜など家庭での時間の使い方を考えることを重視し、子どもの力を県全体で伸ばしていく。

国の動向

・予算の増額
H29322百万円
→H30566百万円
・平成31年度までに5,000中学校区で実施を目標
H283,000中学校区
H293,600中学校区
→H304,400中学校区

地域未来塾



趣旨

中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

◆幅広い地域の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい全ての子どもに学ぶ機会を
◆家庭での学習習慣が十分に身に付いていない中学生への学習支援の場として、多様な視点からの支援を実現
◆部活動休業日（ノー部活デー）の受皿として実施することで、教員の負担軽減を



教室のモデル

大学生や教員OBなどの学習支援員・教育活動サポーター等を配置

【内容】
①自学自習の支援など補習的学習
②講義・授業など、教科に即した発展的学習
【対象】
学年や参加希望の有無などは、実施主体の実態に応じて柔軟に設定
【場所】
実施主体の実態に応じて柔軟に設定（学校の余裕教室や地域の公民館など）
【回数等】
回数、定期・不定期不問

○県内の取組事例H30
〈中学校で実施・放課後の学習支援〉

・対象は、中１～３年生の希望者
・年間40日（毎週水曜日、1時間程度）
・国語、英語、数学の基礎学力を培う補充学習
・指導員は、教員OBや大学生

子どもたちの学習習慣の定着「学ぶ力」の向上

学校との連携

・活動スペースとなる余裕教室の提供
・学習プリントの提供
・児童生徒の情報交換
・参加を促す広報チラシ等の配布
・ボランティアへの助言・サポートなど

■令和元年度実施予定
７市町30教室
・彦根市（１５　小⑧中⑦）
・湖南市（　２　中②）
・米原市（　８　小①中⑦）
・日野町（　１　中①）
・豊郷町（　１　中①）
・甲良町（　１　中①）
・多賀町（　２　小①中①）
※H30年度までの本部内実施もR元年度から地域未来塾として一本化
※R2年度から小学生対象の学習支援は、放課後子ども教室に移行予定

学習が遅れがちな子どもに対して、基礎学力の定着を図る。

学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る。

貧困対策

貧困の中にある子どもの安全を確認し、その中で学習も支援する。

福祉部局からのアプローチ

○生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業
市町が国の補助事業を受け、**13市2町**で実施(H30)
対象は生活困窮世帯等限定あり

○地域で遊べる・学べる淡海子ども食堂
「はぐくみ基金」による実施団体への助成事業
13市5町115か所で実施(H30)

放課後子ども教室
～放課後子ども総合プランの推進～

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所）を設け、地域住民等の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。

令和元年度実施：７市町38教室

放課後子ども教室

『放課後子ども総合プラン』として実施（H26.7月策定）

放課後児童クラブ

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）

連携協力

双方で情報共有

〈学校区ごとの協議会などで情報共有を図る。〉

取組の企画、交流できる機会や場づくり

放課後児童クラブ指導員

放課後子ども教室が設置されている場合は、積極的に交流する。

協働活動支援員
協働活動サポーター
特別支援サポーター
学習支援員

多様なプログラムの提供

安全管理

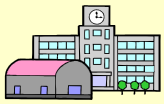
参画

大学生、地域の高齢者、民間教育事業者、文化・芸術団体等の様々な地域人材、特別支援学級の介助員、ホームヘルパー有資格者など

【共通のプログラムの例】

○室内での活動
- 学習支援（宿題の指導、予習・復習、補充学習など）
- 多様な体験プログラム（実験、工作、英会話、文化・芸術教室など）

○校庭・体育館での活動
- スポーツ活動（野球、サッカー、バドミントン、卓球、一輪車など）



小学校など
- 余裕教室等を提供
- 学校敷地内の専用施設を利用
- 体育館などの一時利用の促進

県の取組

放課後子ども総合プラン指導者等研修会（学校を核とした地域力強化プラン研修会）

コーディネーター、運営委員会委員、協働活動推進員、協働活動サポーター、ボランティア、専任指導員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子ども総合プラン運営委員会
- 事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
- ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室	連携	放課後児童クラブ（学童保育）
○すべての子ども	対象	○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
○学び・体験・遊び・交流の場 地域の大人が、スポーツや学習、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。	内容	○生活の場 専任指導員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○遊び、学習（宿題）、スポーツ、文化活動など	主な活動	○遊び、学習（宿題）
協働活動支援員・協働活動サポーター ：学習支援や多様なプログラムの実施、安全管理 **特別支援サポーター** ：特に配慮が必要な子どもたちへの支援 	スタッフ	**専任指導員** 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。 
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など	実施場所	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後・週末（教室により異なる）	開催日	○平日の放課後、土曜（クラブにより異なる）
○無料（教室により保険、材料費などの徴収あり）	利用者負担	○月額5,000円～10000円程度（施設により異なる）
○７市町38教室　（令和元年度）	県内数	○19市町327クラブ17,041人（平成30年５月１日現在）

土曜日の教育支援活動

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

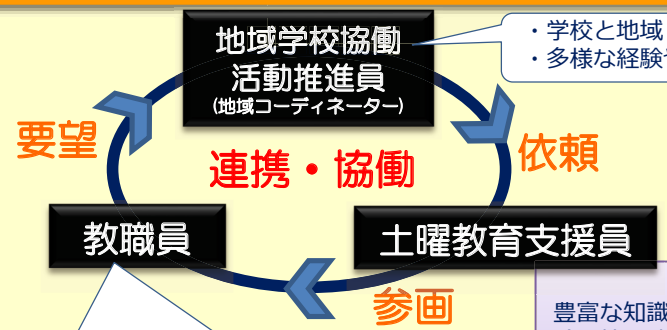
趣旨

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の協力・参画を得て、地域の豊かな資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムや特色ある学習プログラムを企画・実施する市町・学校等の取組を支援することにより、支援体制の構築を図るとともに、「学ぶ力(※)」を育むことをめざす。

(※)「学ぶ力」：子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら学ぼうとする力



土曜日の教育支援活動の仕組み



・学校と地域・企業・団体との連絡調整
・多様な経験や技能を持つ外部人材の発掘

令和元度実施予定
4市町35教室

「学校支援メニュー」・「地域で学ぼう『出前講座』」の活用
※実社会での経験を生かした「出前授業」を行うことが可能な企業・団体のメニューを紹介。滋賀県学習情報提供システム「におねっと」にてプログラムの検索が可能。（URL ： http://www.nionet.jp/ ）

・「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
・部活動休養日（ノー部活デー）の受け皿としても実施する。
・放課後や土曜日など、家庭での時間の使い方を考える。
・子どもの地域での学びを学校の学びに生かす。

豊富な知識や経験を持つ地域・民間企業・団体の外部人材等の活用

企業人 / 大学・研究者 / 在外経験者 / 図書館司書 / 出版関係者
外国人 / スポーツ選手 / 農林・漁業者 / 教員OB

地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの教育支援活動の実施

●地域の子どもを中心に据え、地域（地域人材）・家庭（保護者）・学校（教員）が確かにつながり、それぞれの立場から教育の営みに関わることにより、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。
●地域の豊かな社会資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムを実施することにより、「学ぶ力」の向上を図る。

～土曜学習例～

●学習意欲や学習習慣形成につなげる事例
学力向上を図る補充的・発展的学習、作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室 等

●体験活動を中心とした事例
自然体験、書道、絵画、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏 等

●地域の歴史や文化を学ぶ事例
地域の伝統学習（伝統行事、祭り）等

地域・企業・団体ならではの実社会で得られた知識や経験を子どもたちへ！

外部人材を活用した土曜日の教育支援体制の構築により、社会全体で「子どもの育ち」を支える地域づくりを推進する。



地域における家庭教育支援基盤構築事業

【補助率】

国	1/3
県	1/3
市町	1/3

背景

○家庭教育が困難な現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうなどの現状がある中、全ての親が安心して家庭教育を行う上で、身近な相談相手として、地域の多様な人材で構成される家庭教育支援チームによる支援活動が有効。

趣旨

各地域における、地域人材の養成、家庭教育支援体制の構築及び家庭教育を支援する取組に加え、訪問型家庭教育支援を含めた家庭教育支援活動の強化を図る取組の推進など、地域における家庭教育支援の基盤構築に向けた取組を支援するもの。

県

①推進協議会の設置

・家庭教育支援活動の総合的な在り方の検討
・市町における家庭教育支援体制の充実
・家庭教育に関する事業の評価



②家庭教育に関する人材育成・啓発
※家庭教育活性化推進事業として実施

- **家庭教育支援員の養成研修**
- 親育ち・家庭教育学習講座の開催
- 企業内・PTA家庭学習講座の開催支援
- 家庭教育啓発ポスター作製

市町

運営委員会等の設置

・家庭教育支援体制の整備、支援活動の実施
・地域の人材確保や養成方策の検討
・福祉部局等との連携方策

令和元年度実施予定
（８市町16活動）
近江八幡市、草津市、栗東市、甲賀市
湖南市、高島市、日野町、竜王町

①地域人材の養成

◆家庭教育支援員等の養成

○家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う人材を養成
○支援活動の企画・運営、関係機関・団体との連携等を担う中核的人材を養成

課題について意見交換

参画



子育て経験者など地域の多様な人材

［３市町で実施予定］

体制の構築

②家庭教育支援体制の構築

◆家庭教育支援員の配置

家庭教育に関する情報提供や相談対応等をで行う家庭教育支援員を配置し、家庭教育支援体制を強化

◆家庭教育支援チームの組織化

家庭教育支援員などの地域人材を中心としたチームの組織化
○学習機会や交流の場づくりの企画
○家庭や地域の状況に応じた支援をコーディネート

【チーム員構成例】
子育てサポーターリーダー
民生・児童委員、元教員、保健師等



［４市で実施予定］

支援の実施

③家庭教育を支援する様々な取組を展開

◆学習機会の効果的な提供

就学時健診や保護者会、参観日など、多くの親が集まる機会を活用した学習機会の提供

◆親子参加型行事の実施

親子の自己肯定感、自立心などの社会を生き抜く力を養成するため、親子での参加型行事やボランティア活動、地域活動等のプログラムを展開

◆情報提供や相談対応

悩みを抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭の状況に応じて、家庭教育支援チームによる情報提供や対応を実施

［８市で実施予定］

家庭教育支援活動の強化

○家庭教育支援チームの拡充を含めた地域における家庭教育支援体制の拡充・強化
…**訪問型家庭教育支援に取り組む家庭教育支援員の配置拡充は、必要要件**
○学校と連携し、家庭をつなぐ機会を創出するための家庭教育支援員のコーディネート力や専門性の向上等に関わる研修機会の充実

子育て中の全ての親への支援

身近な地域において、家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整え、地域全体で家庭教育を支援する。

滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

※昨年度より「学校を核とした地域力強化プラン事業」へ統合。

趣旨

・学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」への転換を目指すことが必要であり、平成29年４月学校運営協議会の設置が努力義務化された。
・「学校運営協議会制度」に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。また市町や県立学校のコミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行うアドバイザーを県に配置し、各市町や県立学校を訪問して助言を行うとともに、県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進する。

CS導入・運営の充実に向けた支援体制の構築

国庫補助事業　地域学校協働活動推進事業として実施　　補助率：国1/3

①CSアドバイザー派遣

市町・県立学校のCS立ち上げや推進体制構築に向けた助言

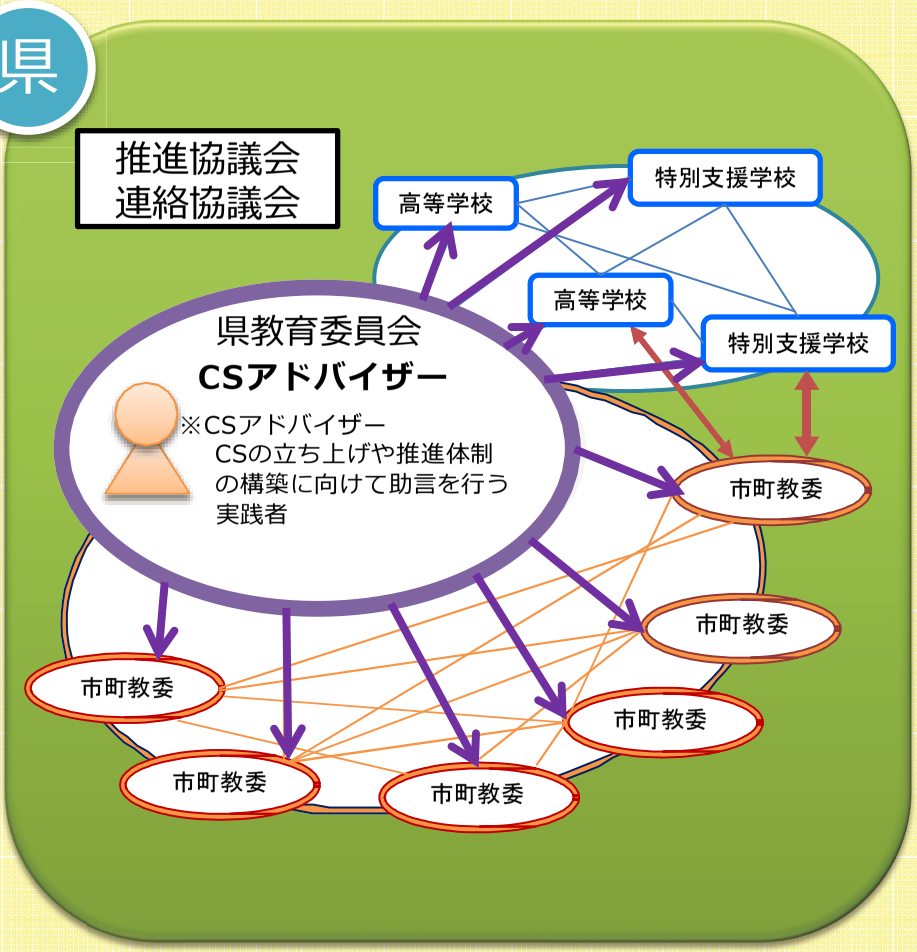
②コミュニティ・スクールの研修の充実

推進フォーラム・学校管理職研修会・事業成果報告会等開催

③推進協議会・連絡協議会の開催



④学校運営協議会設置（県立学校）



コミュニティ・スクールの設置拡大および取組が充実することにより得られる効果

- **学校教育の質の向上および学校支援活動の充実**
- **地域と学校が、共通したビジョンをもった主体的・能動的な取組の展開**
- **地域の学校理解の深まり、当事者意識の向上**

→社会総がかりで子どもたちを育む

⇨地域と学校の連携・協働体制の構築により、教職員が子どもと向き合う時間が確保される。

『学校を核とした地域力強化プラン』に係る県推進協議会

◆ 推進協議会委員（敬称略）

No.	氏　名	所　属	No.	氏　名	所　属
1	市田　太芽男	竜王町立竜王中学校　校長	5	髙木　和久	文部科学省総合教育政策局地域学習推進課　コミュニティ・スクール推進員
2	小川　祥枝	高島市教育委員会事務局教育総務部社会教育課地域教育連携室　室長	6	武井　哲郎	立命館大学経済学部　准教授
3	上村　文子	滋賀県スクールソーシャルワーカースーパーバイザー・スクールソーシャルワーカー	7	溝江　　透	東近江市社会教育指導員 統括的な地域学校協働活動推進員
4	佐々木　保孝	天理大学人間学部　准教授	8	村田　耕一	滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課　参事

（Ⅰ）　推進協議会の概要

◆第１回推進協議会

１　協議会概要

期　日：令和元年７月２日（金）14:00～16:30　　会　場：大津合同庁舎７階　７－Ａ会議室
出席者：武井座長、髙木副座長、市田委員、小川委員、上村委員、佐々木委員、溝江委員、村田委員
オブザーバー：(県ＣＳアドバイザー) 伊藤アドバイザー、北島アドバイザー、北辺アドバイザー、松田アドバイザー
事務局：県生涯学習課（７名)、子ども・青少年局（１名）

（１）　開　会　　県生涯学習課長　挨拶
（２）　座長、副座長選出
（３）　協　議
①令和元年度「学校を核とした地域力強化プラン」について
②今年度の力点について
③令和元年度年間研修計画について



２　協議要旨

〇学校を核とした地域力強化プラン」について

・ＣＳアドバイザーの強みを生かしていく。県の方向性とぶれない様にしていくことが大切。県立学校で伝えるスタンス、市町で伝えるスタンスを確認するためにもアドバイザー会議などでの共有が必要。
・実践事例集の書き方を検討しようという話があったはず。目標があり、活動があって地域がよくなっていく。
・この事業を始めてボランティアが６００名を越えた。大きなボランティア団体ができつつあることを考えると、このプランが生きているのではと感じる。
・家庭教育は全ての教育の基盤。子どもが居て、住民がたくさんいる地域でも地域の力が弱いところがある。先生でも親でも地域の支援で子どもが変化していく場面を見る。地域のカバーで個への見取りが増える。地域の方は具体的に「何を手伝えばいいのか」と尋ねられる。貧困や家庭的に厳しい子どもたちが、放課後子ども教室や地域未来塾などにつながっていくことを希望する。
・学校評議員をそのままスライドさせて学校運営協議会にすることは意味がない。それは子どもをこうしたいという「ねらい」が無いから。実際に「こうしたい」だから「この人」とならなければいけない。

〇今年度の力点について

▪力点「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進」
（１）「一体的推進を図っていくために、どのような働きかけができるか」
（２）「学校運営協議会が評議員会のすげ替えにならないための働きかけについて」

⇩

①学校にどう働きかけていくかという視点・・・課題解決型の提案
②校長先生へのアプローチ・・・校長先生への説明機会の確保
③市町の行政部局への働きかけ・・・成功事例のモデルづくり



◆第２回推進協議会



１　協議会概要

期　日：令和２年２月６日（木）14:00～16:00
会　場：滋賀県庁本館４階　４－Ａ会議室
出席者：武井座長、髙木副座長、市田委員、小川委員、上村委員、溝江委員、村田委員
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：(県ＣＳｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ）伊藤ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ、北島ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ、北辺ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ、松田ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ、宮治ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
事務局：県生涯学習課（８名）こども・青少年局(１名)



（１）　開　会　　武井座長　挨拶
（２）　協　議
①令和元年度各事業の成果と課題、今後の方向性について
ア　県実施事業について（県主催研修会の振り返り、および来年度の方向性）
イ　各市町における実施事業の状況について（各事業における市町訪問ならびに、実践報告から）
ウ　コミュニティ・スクール導入状況およびＣＳアドバイザー派遣について
②今後の地域と学校の連携・協働体制の推進の在り方について
ア　情報提供（「学校を核とした地域力強化プラン」令和２年度予算案について）
イ　今後の県の推進方策について
（柱１）「コミュニティ・スクールの県立学校へのアプローチを
どのよう図っていくか」
（柱２）「教育と福祉の連携をどのように図っていくか」
（柱３）「小さな自治体への支援をどのように図っていくか」



２　協議要旨

・研修会は、毎回まとめて集めている印象を受ける。もっと個々のニーズに応じた研修でもよいのではないか。
・働き方改革とＣＳが関連づけられているが、文科省には定数改善でしかないと伝えている。働き方改革と一緒にすると混同・混乱する。
・ＣＳに不安。社会教育が風前の灯火状態の中で持続可能なものか懸念されている。学校長の立場からだと、地域連携は十分できていると認識している。学校は積み上げていく意識が強い。スクラップ＆ビルドの視点をもっと浸透させないといけない。学校側はやはり負担感がある。
・ＣＳを契機として社会教育を盛り上げていきたい。
・多忙な現場の先生には、必然性、目的性を理解してもらうことが大切。教育課程は教務主任に集約されていることが多い。
・福祉と教育では、家庭でも学校でもない第３の場が必要だと言われている。社会教育でこの第３の場をつくっていくことが必要になってきている。家庭教育支援はしんどい子にフォーカスが当たるようにしていく支援。子どもは多くの方にいっぱい愛してほしい、そのためにＣＳが機能していくとよい。生徒指導上の諸課題とリンクさせて周知していきたい。
・高校教育関係者の方にこの会に関与してほしい。事務局レベルでも、部署間の垣根を越えて行動することが大切ではないか。
・高校のＣＳは生徒の参画だと思う。小中と地域の中で育ってきて、高校が最終ステージであり、「自分たちのために、地域のために」高校生が参画することが必要ではないかと考える。
・学校評議員がそのまま学運協委員になることが多いと聞いたが、管理職がＣＳについてどういう思いをもっているかを語れないといけない。
・子ども、保護者、先生の熟議が大切。お互いが同じ方向性を向いていることが重要。好事例を示していけるかが大切。
・ＣＳを子どもに教えることが大切ではないか？教師が理解し、子どもに伝えられるようにしないといけない。
・学校がどうあるべきかということを、ＣＳを使って考えていく視点が大切。

（Ⅱ） 各研修会の概要

◆第１回研修会 兼 コミュニティ・スクール連絡協議会

１．目　　的　県内で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者や地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。さらに地域学校協働活動推進のキーパーソンとなる地域学校協働活動推進員の委嘱、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及に繋げる。

　コミュニティ・スクール連絡協議会では、県内全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について研究する。

２．主　　催　滋賀県教育委員会

３．対　　象　（1）「学校を核とした地域力強化プラン」事業実施市町担当者
（2）各市町コミュニティ・スクール担当者
（3）上記事業の未実施市町における参加希望者
（4）各市町生涯学習・社会教育担当者
（5）各市町学校教育担当者
（6）地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）等



４．日　　時　令和元年（2019 年） 5月 17 日（金）13:30～16:30

５．日　　程

○行政説明　・滋賀県における地域と学校の連携・協働推進方針について
・事業概要について
・今年度の研修計画について
・補助金事務および事業実施の留意点について

○講　　演　演題：「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進について」
講師：長尾　彰　氏
（山口県教育委員会　地域連携教育エリアアドバイザー）

○滋賀県コミュニティ・スクール連絡協議会

６．場　　所　滋賀県庁東館７階大会議室

７．参加者数　58 名

８．概　　要

・行政説明では、当課の担当より「令和元年度　学校を核とした地域力強化プラン」の事業概要、地域学校協働活動推進員の配置促進、年間研修計画、補助金事務手続きについて説明を行った。
・講演では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進について、山口県における具体的な実践事例を写真や動画で示され、丁寧に説明された。講師から事業を推進する立場の参加者に対して、後押しする言葉かけもあり、好評を得た。
・コミュニティ・スクール連絡協議会では、ＣＳアドバイザーの紹介とアドバイザー派遣の説明を行い、市町の担当者間の情報交換会を実施した。講師の長尾氏にも引き続き参加していただき、県内市町の実態を踏まえての助言をいただいた。

９．参加者のアンケートより

○具体例を交えながら、学校と社会が win-win となれるような関係づくりのきっかけを与えていただいたと思う。地域の特性を生かしつつ、その地域に合ったシステムが構築していけるとよいと感じた。
○具体的な事例をたくさん教えていただき、市に戻った時に実践してみたいものもあった。「１歩を踏み出すことが大切」が印象に残った。この１年でひとつでも１歩を踏み出せたら良いなと思った。
○他市町、各アドバイザーの方々の話を聞くことができて大変勉強になった。CS を導入してから数年経つ学校が増えてきたこともあり、その面でのテコ入れが必要であると感じた。



◆第２回研修会（地域学校協働活動推進研修会）

１．目　　的　将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、地域学校協働活動が推進されることが求められている。また、コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せるなか、地域にとって学校が資源として活用され、学校が核となり地域が生き生きと躍動する地域学校協働活動の展開が期待されている。

そこで、地域学校協働活動推進の中核を担う対象者へ、地域学校協働活動のさらなる展開に向けての方策について理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深めるために本研修会を開催する。

２．主　　催　滋賀県教育委員会

３．対　　象　（１）公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
（２）地域学校協働活動推進の中心となる方
（※地域学校協働活動推進員、統括的な地域コーディネーター、地域コーディネーター等）
（３）地域学校協働活動に地域ボランティアとして参画している人
（４）その他地域学校協働活動に関係する方
（※ＣＳ関係者、各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者、放課後児童クラブ関係者等）

４．日　　時　令和元年７月 12 日（金）13：30～16：30

５．日　　程
○講演　　演題：「地域・学校が効果的に協働していく地域学校協働活動の在り方について」
講師：全国体験活動ボランティア活動総合推進センター　コーディネーター　橋本洋光　氏
（亜細亜大学非常勤講師　日本フィリピンボランティア協会会長）
○ワークショップ　テーマ「地域の教育資源を生かした社会に開かれた教育課程をつくってみよう」

６．場　　所　滋賀県庁東館７階大会議室

７．参加者数　98 名

８．概　　要
・講師より、地域と学校の連携・協働の意義や活動に関わる地域連携担当教職員、コーディネーターおよびボランティアに求められる役割について具体的な事例をもとに説明いただいた。
・後半のワークショップでは、講師のファシリテートのもと、「地域の教育資源を生かした社会に開かれた教育課程をつくってみよう」とのテーマで活動をした。地域を基本要素として参加者をグルーピングし地域の教育資源を共有・活用していけるようにアイデアを出し合ってプログラムを作成した。また、成果物を交流し合うことで参加者がより深い学びをすることができた。



９．参加者のアンケートより
○各地域での取組について分かりやすく説明いただけた。これまで体験学習として取り組んできたことをさらにもう一歩進めていくことで、地域とつながり、地域に貢献できる活動が見えてくると感じた。
○様々な地域の成功例が具体例とともに紹介していただけたので視野が広がりました。地域学校協働活動に関わるコーディネーターなどの役割についても詳しく教えていただき、理解を深めることができた。
○地域を共通項としてグループ分けしていただいたので、「教育資源」についてグループ内で熟議することができた。テーマに沿って深い話し合いができた。
○「地域」には素晴らしい宝があることが他のグループの発表から知ることができた。そして、それを教材にしてグループで組み立てていくワークショップはとても楽しかった。グループで話をしていくことで同じ市でも地域によって特色がしっかりとあることが分かった。
○こういった研修会で「同じような悩みを持つ他地域との交流」があるとよい。悩みを共有し改善点を意見し合いたい。





◆コミュニティ・スクール推進事業研修会（コミュニティ・スクール推進フォーラム 兼 第2回コミュニティ・スクール連絡協議会）

1．目　　的　学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演や事例発表をとおして、県立学校や市町における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資する。

2．主　　催　滋賀県教育委員会

3．対　　象　（1）公立幼稚園・小・中学校教職員、県立学校教職員
（2）学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
（3）地域学校協働本部・地域未来塾関係者・土曜日の教育支援活動関係者
（4）放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者
（5）家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
（6）ＰＴＡ、県・各市町社会教育委員、公民館職員
（7）各市町担当職員
（8）学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民　など



4．日時・会場・参加者数

○大津会場：令和元年６月 14 日（金）　13:30～16:45
滋賀県庁東館７階大会議室
参加者数　75 名

○近江八幡会場：令和元年８月 20 日（火）13:30～16:30
滋賀県立男女共同参画センター　大ホール
参加者数　130 名

5．日　　程

○大津会場

□事例発表
「学校運営協議会の導入と立ち上げ」
滋賀県立伊香高等学校　校長　山田　薫　氏

□講　演
演　題：「コミュニティ・スクールの効果的な導入・推進に向けて」
講　師：横浜薬科大学　教職課程センター
教授　梶　輝行　氏
元神奈川県教育委員会教育局総務室
県立高校改革担当課長
元中央教育審議会初等中等教育分科会
教育課程部会総則・評価特別部会委員

○近江八幡会場

□講　演
演　題：「これまでの地域連携を活かしたコミュニティ・スクールの導入・推進に向けて」
講　師：文部科学省ＣＳマイスター
ゆめ☆まなびネット　地域コーディネーター
大谷　裕美子　氏

□パネルディスカッション
テーマ「これまでの地域連携を活かしたコミュニティ・スクールの連携・協働について
コーディネーター：大谷　裕美子　氏
パネリスト：北島　泰雄　氏（県ＣＳアドバイザー）
三田村治夫　氏（高島市地域学校協働活動推進員）
平居　繁和　氏（湖南市教育研究所 所長）

□グループディスカッション[第２回コミュニティ・スクール連絡協議会]（両日・両会場）

6．概　　要

・大津会場では、高校や特別支援学校での取組から学んでいただくために、県内の高校から学校運営協議会の立ち上げに至る経緯や取組事例を発表いただき、講師の先生からは神奈川県の県立学校への全校導入に取り組んでこられた実践などをお話しいただき、参加者の学びを深める機会となった。
・近江八幡会場では、「これまでの地域連携を活かしたコミュニティ・スクールの推進」をテーマに、これまで実践されてこられた学校・地域・行政のそれぞれの立場から実践例をお話しいただき、今後の市町で取り組むべき方向性について御示唆いただいた。





7．参加者のアンケートより

・グランドデザインの話があり、本校がどのような学校を目指すのか、本校の「売り」は何なのかを考える機会になった。
・コミュニティ・スクールを目指し、学校支援から連携・協働へとステップアップしていきたい。
・講師が“苦労”に焦点をあててパネルディスカッションを進めていただいたのはありがたかった。また、「学校づくり」だけでなく、「地域づくり」も考えて進めることも大切だと感じた。
・地域福祉との連携という考え方を教えていただき、一つの可能性として持つことができた。

◆地域における家庭教育支援基盤構築事業にかかる研修会

１．家庭教育支援に係る研修会

（１）目　　的　核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えた保護者の増加等、家庭教育の困難な現状が指摘されている。そうした中、本県においては地域の実情に応じた家庭教育支援の取組が展開されている。そこで、家庭教育支援や子育て支援関係者等が一堂に会し、今、求められる家庭教育支援のための体制整備に向けた具体的な手立てを学ぶ機会とする。

（２）主　　催　滋賀県教育委員会

（３）対　　象　「地域における家庭教育基盤構築事業」担当者・家庭教育支援員・市町子育て支援担当等

（４）日　　時　令和元年９月６日（金）13:20～16:30

（５）会　　場　滋賀県庁東館７階大会議室

（６）参加者数　４５名

（７）内　　容　○事例発表

演　　題：橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」の取組について

事例発表者：橋本市家庭教育支援チームチーム員　鈴木敏子　氏　松本祐代　氏

○講　　演

演　　題：「家庭教育支援員としての役割とは」

講　　師：泉大津氏家庭教育支援チーム　リーダー　芦澤　万里子





（８）概　要

・今回の研修では家庭教育支援員の役割を具体的に橋本市や泉大津市の事例から学んだ。特に「家庭教育支援として大切にしたいこと」として家庭教育支援では、情動面で家庭を支援すること、孤立させない人間関係づくりそして、人と人・人と行政機関とつなぐ役割が大切であることを教えていただいた。

・橋本市の実践からは、家庭教育支援チームの「講座部」「広報部」「家庭訪問部」などの組織の成り立ちやチームワークを維持するための「対等・尊重・信頼・勇気づけ」という基本理念を学んだ。

・訪問型家庭教育支援を行っている泉大津では、課題のある家庭の訪問活動を行い、寄り添いながら、様々な悩みを聞くことから始め、訪問活動が継続していくと、やがて保護者は本音を出せるようになり、ストレスが軽減され、サポーターとの信頼関係が生まれ、現実の問題と向き合えることができるようになるとのお話であった。

・家庭教育支援の取り組みでは、保護者や子どものエンパワーメントによる成果が見られている。

（９）参加者のアンケートより

・今回の芦澤先生のお話にあった、保護者へのストレスを少しでも減らせる関わり方というものはとても大切だと感じた。教えるのではなく、寄り添う。難しいかもしれないが実践したい。

・ヘスティアさんの取り組みに大変共感しました。もう１０年もこのような活動を続けておられることに感心した。滋賀県でもこのような家庭教育支援チームが増えると、家庭も学校も地域社会も安心してすごせる、素敵な社会になると思った。

２．全国家庭教育支援連絡協議会

・日　　時　令和２年２月１８日（火）10:00～16:15

・会　　場　文部科学省　東館３階第１講堂

・参加者数　３名（県２名・市１名）

・内　　容　「保護者に寄り添う“アウトリーチ型支援”の普及・定着に向けて

○事例報告　　茨城県・山口県・岩国市・釧路市・泉大津市・湯浅町

○パネルディスカッション・ワークショップ（具体的な実施方法）

講師：ペアレンツキャンプ代表　水野　達朗　氏

・詳細は、文部科学省ホームページ「家庭の教育力の向上」を参照。

～学校も地域も元気になるための秘訣とは～
「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 滋賀

兼　令和元年度　第３回滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会

１．主　催　文部科学省　滋賀県教育委員会

２．趣　旨

・有識者による講話、有識者と県内関係者を交えてのディスカッション、県内外の取組事例報告等、全国規模の参加者を誘致するフォーラムをとおして、県内における地域とともにある学校づくりの機運を高める。
・滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会を兼ねて開催することにより、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組推進を図るための研修の機会とする。

３．日　時　令和２年（2020 年）１月 24 日（金）　12:30～16:40

４．会　場　滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール　（〒520-0806　大津市打出浜 15-1）

５．対　象　地域と学校の連携・協働について関心のある方
公立学校・園教職員、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）関係者、学校評議員、
地域学校協働活動関係者、ＰＴＡ、社会教育委員、行政関係者等

６．参加者　691 名（滋賀県内 264 名　県外 427 名）

７．内　容

アトラクション　12:30～12:50
○甲西高等学校吹奏楽部によるマーチング

開会行事　13:00～13:10
○主催者あいさつ　文部科学省 地域学習推進課 課長　水田　功
滋賀県教育委員会 教育長　福永　忠克

行政説明　13:10～13:30
○行政説明　文部科学省 地域学習推進課 課長　水田　功

トークセッション　13:30～16:30
コーディネーター　竹原　和泉 氏（NPO 法人まちと学校のみらい　代表）
○第１部：「持続」するために大切なこととは
パネリスト　新谷　明美 氏（奈良市富雄中学校区地域教育協議会総合コーディネーター 奈良県ＣＳアドバイザー）
宮治　一幸 氏（滋賀県ＣＳアドバイザー　湖南市立岩根小学校　元校長）
岩井　康浩 氏（山口県萩市立田万川中学校　校長）
○第２部：教職員の役割とは
パネリスト　増渕　広美 氏（ＣＳマイスター　神奈川県立市ケ尾高等学校　前校長）
松田　幸夫 氏（滋賀県ＣＳアドバイザー　長浜市立余呉小中学校　主任事務主査）
谷野　善則 氏（岡山県浅口市立鴨方東小学校　教諭）

閉会行事　16:30～16:40





８．概　要

・全国 37 都道府県からお越しの多数の参加者とともに、「学校も地域も元気になる秘訣とは」のテーマのもと、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について具体的に学ぶ機会となった。
・本フォーラムでは、「持続するために大切なこと」、「教職員の役割」にターゲットを絞った参加型のトークセッションがメインであり、事前に大会申込者に聞いたアンケート結果を出発点に、竹原和泉さんのコーディネートのもと、第一部では持続可能な取組の実践者、第二部では校長、事務職員、地域連携担当職員としての実践者をパネリストに、具体的な事例を紹介しながら、参加者目線のトークセッションが展開された。
・甲西高校吹奏楽部生徒９１名による壮大な歓迎アトラクションから始まり、事前アンケートの活用や大会冊子の表裏表紙の２色を使い、参加者全員が質問に答えるなどの参画型の仕組みづくり、セッションにより導き出されたキーワードをタイムリーにスクリーンに表示するなどの ICT 機器の効果的活用など、参加者の課題意識に対応した工夫が好評を得た。

「持続」のポイント
・「何のためか」（目的）を常に意識＝ねらいがぶれないように
委員の選定、人材育成
・当事者として関わる委員の選定
ＣＳと地域学校協働活動の違い
・Ｐ（Plan）はＣＳ＝審議機関　Ｄ（Do）は協働活動＝アクション機関
・ＣＳは「ミッション　課題の共有」　地域学校協働活動は「アクションの共有」
・なぜ２つ必要か？→学運協の Let’ｓだけではできない。（担い手が協働活動）
教職員の意識
・ＣＳでラクになるか？→そのことが目的ではない。もっと大きな効果がある。
・熟議で教職員が「胸襟を開く」ことが動き出すポイント

事務職員の参画
・地域の方とファーストコンタクトできる立場。地域連携教職員としても適任。
熟議・協働のポイント
・学校と地域はイコールパートナー：「一緒に」が合い言葉
・大人が学びながら、新しい扉を開けるつもりで
・先生方の「本音」を話し出す、学運協委員が聞くことが大切。
ＣＳの成果：地域と学校の小さな成功体験の共有を積み重ねて
地域：知れば知るほど応援したい
校長：いざというとき頼りになる信頼関係ができた。
その他運営のポイント
・ＣＳは漢方薬のようなもの。カンフル剤でも新薬でもない。
・ポイントは、思いを重ねる熟議、想いをカタチにする協働、それを支えるマネジメント

令和２年（2020 年）１月 24 日（金曜日）

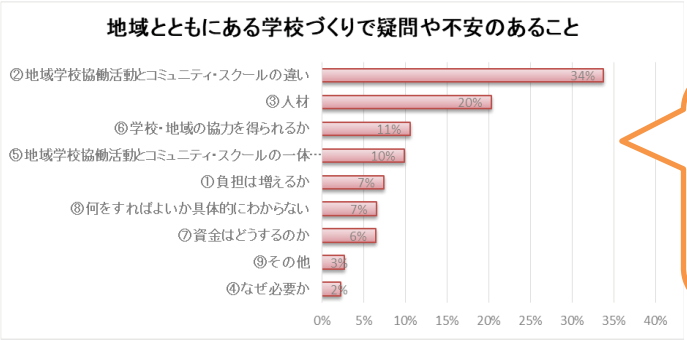
「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 滋賀
トークセッションのまとめ

フォーラムテーマ：「学校も地域も元気になる秘訣とは」

→コミュニティ・スクールや地域学校協働活動をとおして、学校と地域がよきパートナーとして、「地域とともにある学校づくり」への好循環を生み出すことを、滋賀県では「学校が元気に」「地域が元気に」という言葉でイメージしている。
トークセッションでは、そのキーワードとなるものをテーマに設定し、秘訣に迫りたいと考えた。

第１部：「持続」するために大切なこととは

参加者事前アンケートより



参加者ニーズ

1　地域学校協働活動とＣＳとの違い
2　人材に関して
3　協力を得られるかの不安

「持続」のポイント

・「何のためか」（目的）を常に意識＝ねらいがぶれないように
・しんどい子どもを支えることを常に意識（地域と学校で共有したこと）
・「細く、長く」積み上げる。他校を参考にはするが意識はしない。
・変えること　：会議の内容、具体的取組、地域と学校の役割の明確化
　変えないこと：目的やＣＳのあり様、無理をしないこと

委員の選定、人材育成等について

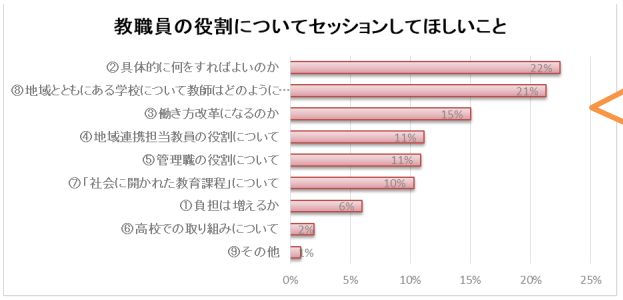
・委員の交代スパンを短く：何のために交代し、新たな方に担ってもらうかを委員と共有
　委員経験者が地域活性化の次のステージで活躍できるように
・委員の充て職は避ける：地域には汗を流してくださる人材が埋もれている。
　いろんな方と関わることの大切さ
・委員自身が育つ、喜びを感じてもらう（役目として来てもらうだけではなく）
・地域は学ぶ意欲にあふれている。
・当事者として関わる委員選定→「担い手」となる方を。（説明だけ、言いっぱなしの方ではなく）

ＣＳと協働活動の違い

・Ｐ（Plan）はＣＳ＝審議機関　　Ｄ（Do）は協働活動＝アクション機関
・ＣＳは「ミッション　課題の共有」　地域学校協働活動は「アクションの共有」
・なぜ２つ必要か？→学運協のLet’ｓだけではできない。（担い手が不明…）
　協働活動だけでは「社会に開かれた教育課程」に収まりきらない。やったフリになってしまうことも。

第２部：教職員の役割とは

参加者事前アンケートより



参加者ニーズ

1　具体的に何をすればよいのか
2　教師がどのように捉えているのか
3　働き方改革になるのか

教職員の意識

・これからの社会に通じる「本物の力」を育みたい→ＣＳの可能性
・ＣＳで「なにかやらなきゃ」からの脱却。ＰとＤのバランス大切。
・校長の熱量が「魂」を吹き込む
・ＣＳでラクになるか？→そのことが目的ではない。もっと大きな効果がある。
・学運協の様子をリアルタイムで職員室に流す、全教職員が１回は会議に参加するなど、理解を深めるための手立て必要。
・熟議で教職員が「胸襟を開く」ことが動き出すポイント

事務職員の参画

・地域の方とファーストコンタクトできる立場。地域連携教職員として適任。
・予算、行政仕事など、教員にはない視点で関われる。

熟議・協働のポイント

・「みんなで決めた」が勇気になる。学運協で審議することで、地域の後押しが生まれる。
・スクラップ→学校だけではしにくい。一つの行事に地域等いろんな方が関わっているため。
　地域と一緒に答えを出すことが大切。教職員の意識改革にもなる。
・サイレントマジョリティの存在を大切に→「声の大きい人」の意見だけに流されず、意見を引き出す。
・学校と地域はイコールパートナー：「一緒に」が合い言葉
・「協働」：異なった立場の人が同じ目的のために対等な立場で活動すること。
　大人が学びながら、新しい扉を開けるつもりで

・だれもがチームになれる学校・地域に→チーム学校
・地域に求められること→スキル、熱い思いだけでなく「ボランティアマインド・子ども理解・学校理解」を大切に。
・先生方の「本音」を話し出す、学運協委員が聞くことが大切。
・思いがあっても方向性がちがうと大きな力にならない→思いを重ねる熟議の必要性
・スクラップの基準がなければ思いつきの改革になってしまう。その基準を熟議する。

ＣＳの成果：地域と学校の小さな成功体験の共有を積み重ねて

地域：知れば知るほど応援したい
　　学校、教職員への理解が深まった

校長：いざというとき頼りになる信頼関係ができた。
　　→困り感を共有できる関係　困難なときに一つになれる関係　学校からの困り感が訴えられたときに地域はよりアイデアを出せる。
　　〇か×かでない判断を迫られたとき、学運協での協議後判断ができた。
　　→校長が判断するのに難しい部分に地域が寄り添う。

教職員：理解が深まった。（会議に出て）
　　職員室で話せないことも話せた
　　地域で子どもが成長する様子を見て納得した

その他運営のポイント

・看板をつけかえる（評議員から学運協へ）だけでは本質、取組が変わらない。
・説明や文字だけでは教職員や地域に伝わらない。
・ＣＳは漢方薬のようなもの。カンフル剤でも新薬でもない。
・ポイントは、思いを重ねる熟議、想いをカタチにする協働、それを支えるマネジメント
・ＣＳで教育の質の向上と業務の効率化を図る

・ＣＳ未導入校長の９割が「すでに地域とよい関係にある」との回答データあり。どのレベルで「協働」しているのか。おいしいケーキは知っていても、「ほんとうにおいしいケーキ」を知らない。
・子どもの未来のために、地域の未来のために、自分の経験を自分の言葉で語り合うストーリーテラーをめざしたい。

彦根市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

〇実行委員会の開催（年２回）

構成委員:19 名 各中学校管理職、ＣＳ管理職、地域コーディネーター、彦根市ＰＴＡ連絡協議会、ＮＰＯ法人、事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）

７月４日(木)：事業説明・各本部の実践交流

１月 27 日(月)：各本部の実践交流・今年度の振り返り・次年度に向けた協議

〇10・11・12 月：学校訪問

７中学校とコミュニティ・スクールの２小学校を訪問し「地域学校協働本部事業」「地域未来塾事業」と「コミュニティ・スクールの事業」の進捗状況の把握と助言を行った。

〇10 月 28 日（月）：県コミュニティ・スクールアドバイザーによる研修会

「支援から協働へ　コミュニティ・スクールについて考える」高木和久先生

〇12 月 19 日（木）：地域コーディネーター研修会「なぜ今コミュニティ・スクールか」北辺禎雄先生

〇 １月 29 日（水）：県コミュニティ・スクールアドバイザーによる研修会

「学校と地域が元気になるコミュニティ・スクールのあり方」伊藤照男先生

■本年度の成果

〇学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」をしていくことの理解を深めることができた。

〇コミュニティ・スクール設置に向けた研修や協議等を繰り返すことにより、コミュニティ・スクールを視野に入れた取組を少しずつではあるが進めることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化している傾向がある。地域未来塾の学習支援員の確保のためにも、支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。

〇地域における活動の認知度が高まっていないので、広報活動にも力を入れていく。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進委員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度新たに２校が学校運営協議会を立ち上げ、彦根市のＣＳは４校となる予定である。今後は、４校の取組の成果と課題をもとに他校の学校運営協議会のスムーズな導入につなげていきたい。

近江八幡市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　■地域学校協働本部　　□地域未来塾　　■放課後子ども教室　　□土曜日の教育支援

■目指す姿

市内の公立幼稚園、小学校、中学校すべてに地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めてきた。

学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）の拡大に伴い、地域と学校の協働体制の構築に重点に置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向き合っている。

■本年度の具体的活動

４月 23 日（火）運営委員会（校園所の担当者）〔桐原コミセン〕
４月 26 日（金）運営委員会（地域学校協働活動推進員）〔ひまわり館〕
５月～６月　　各校園の第１回学校運営協議会への出席および説明
７月 29 日（月）学校支援メニューフェア in 近江八幡〔桐原小学校〕
１月 24 日（金）「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 滋賀
２月 28 日（金）運営委員会　兼　推進研修会・情報交換会



【4 月運営委員会】

■本年度の成果

・地域学校協働活動のねらいや運営方法が各校園に定着し、それぞれの地域性や校園の個性を活かした教育活動を展開している。
・放課後子ども教室を設置している小学校では、元教員や専門的な知識を持つ学習支援員が、自分の得意分野を活かして、教員とは異なった視点で子どもを見つめ、幅広い学力をつけることができている。大人と子どもが楽しみながら笑顔で活動する微笑ましい光景も見られている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・コミュニティ・スクールを設置した校園における地域学校協働本部の役割や、学校運営協議会と地域学校協働本部の連携のあり方について、不安を持ちながら取組を進めている校園が多いので、引き続き、理解が進むような取組を行う必要がある。
・放課後子ども教室では、人材や場所の確保等で、設置までのハードルが高い小学校もあるため、地域住民や学校との丁寧な議論を重ねた上で、設置に向けた動きを進める必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・社会教育法および、本市が昨年度に制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、本年度より地域学校協働活動推進員を委嘱した。
・市内の２５校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ１名の地域学校協働活動推進員を配置して、委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・市内には、９つの公立幼稚園およびこども園、１２の公立小学校、４つの公立中学校がある。現在、学校運営協議会を設置しているのは、幼稚園が１園、小学校が４小学校、中学校が１中学校である。
・令和３年度までに、市内すべての公立幼稚園、小学校、中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとする予定である。
・コミュニティ・スクールへの移行に対して、大きな不安を持っている校園があるため、設置済みの校園はもちろん、今後設置予定の校園に対しても、丁寧な説明をしていく必要がある。

草津市における地域協働合校の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

草津市では平成 10 年度から、「地域協働合校推進事業」に取組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに知恵を出し合い、体験、活動することで、様々な学びや発見、成長につなげている。人と人、人と地域がつながる機会となり、未来を担う子どもたちが地元を知り、愛し、地域の大人が子どもたちと共に地域・学校をより良くしていこうとする輝く人づくり・まちづくりを目指している。



【地域コーディネーター会議】

■本年度の具体的活動

（１）運営委員会

第１回（４月 11 日）地域協働合校推進事業の趣旨説明と地域学校協働本部事業との関連性と方向性について協議

第２回（８月 20 日）コミュニティ・スクールと地域協働合校推進事業についての研修・意見交換

第３回（２月 14 日）総括会議　一年の振り返り、実績報告書について説明

（２）地域コーディネーター

業務説明会（４月 18 日）地域コーディネーターの機能と業務について

情報交換会（７月 25 日）１学期の地域コーディネーターの活動報告および課題の検討、情報交換

総括会議（１月 30 日）一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

（３）地域協働合校研修会（11 月 11 日）

対象：地域協働合校担当教職員、地域コーディネーター、小中学校ＰＴＡ、まちづくり協議会地域協働合校推進委員、地域まちづくりセンター職員、市関係課職員

内容：講演と分散会を行い、今の子どもたちに必要なことは何かを考えるとともに、地域のまちづくりにおいて双方向の連携・協働が必要であること等を再確認し、今後の事業展開につなげるための意見交流

（４）広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を４回発行

広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布、庁内掲示、草津市ＨＰ掲載

■本年度の成果

継続した支援と、地域の特色を生かした事業実施の結果、文部科学大臣表彰を受賞できる取り組みへと発展している。また、「連携・協働」をテーマにし、学校・地域・家庭の代表者が集まり、具体的な活動について意見を交流する場を設けることで、横のつながりの大切さや、リーダー育成を様々な場面で仕組んでいくことの重要性を共通認識することができた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

６名の方が新規地域コーディネーターとして事業の推進に尽力したことで、事業の見直しや新規事業展開が図られたが、継続事業の引き継ぎに課題もあった。地域や学校との連携をより深められるようにコーディネーター交代時に引き継ぎ方法の整理等を進め、協議の場を提供し、継続できる取り組みへと発展させていく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成 31 年４月から地域学校協働活動推進員として委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成 30 年４月から市内全小中学校（計 20 校）に学校運営協議会を導入している。

栗東市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿
・学校を核として、学校、家庭及び地域住民相互の連携及び協力を推進し、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに地域のコミュニティの活性化を図る。

■本年度の具体的活動
・市内９小学校区のうち８小学校区において、地域住民の方にサポータースタッフとして協力を頂きながら放課後子ども教室を開催し、おおむね年間を通じて、放課後を中心に週１回程度の割合で放課後や週末におけるスポーツや体験・文化活動をとおして、子どもと地域住民との交流などを行う。
・市内３中学校区のうち１中学校区において、地域学校協働本部を設置し、地域サポーターの方々により組織された団体が基幹となって、地域ぐるみで青少年の健全育成や、学校や家庭での教育活動支援に取り組む。

■本年度の成果
・放課後子ども教室事業では、学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの居場所（活動拠点）を設け、地域の大人、退職教員、大学生、青少年・社会教育団体関係者等を安全管理員等として配置し、年間を通じて、放課後を中心に週１回程度スポーツや体験・文化活動を通じて子どもたちには放課後を楽しく過ごしてもらうことができました。また、子どもたちと地域住民との交流も深めることができました。
・地域学校協働本部事業では、学習環境支援、図書室支援、環境整備支援、栗中コミュニティガーデンなどの校内での活動や、通学マナーアップ、校行事支援などの地域に目を向けた校外での活動を通して、地域サポーターの方々と生徒との交流が促進され、地域と学校との連携を深めることができました。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて
・放課後子ども教室事業、地域学校協働本部事業とも協働活動に欠かすことのできない地域サポーターの方々の高齢化が進み、慢性的なスタッフ不足が大きな課題となっています。特に放課後子ども教室事業では、活動が実施される時間帯において、若い世代の方は、就労や小学生未満の子どもの育児、また、スタッフの主要構成世代となっているシルバー世代の方についても就労されている方が増えてきており、なかなかスタッフが集まらないのが現状です。今後の活動を継続していくにあたり、地域住民の方に対して活動への理解を深めてもらえるような情報提供を行うとともに、保護者の方などにも声かけをしながら少しずつでもスタッフの確保を進めていきたいと考えております。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況
・地域学校協働活動推進員の委嘱については行っておりません。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画
・域内の公立学校園の学校運営協議会の導入は行っておりません。
今年度は、コミュニティースクールに係る研修会等に参加しました。

■その他
・放課後子ども教室事業では季節に応じたイベントや、お楽しみ会など子どもたちが楽しめるよう工夫しながら活動を行いました。
・地域学校協働本部事業では長年にわたる活動により、ユニホームを着たサポーターさんが生徒やその保護者に自然な形で受入られ、和やかな雰囲気で開かれた学校づくりに繋がっています。



【　放課後子ども教室　】



【　地域学校協働本部　】

甲賀市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

～あい甲賀「いつもの暮らしにしあわせを感じるまち」～

社会教育、生涯学習の分野から、まちを愛し、そこに住み続けたい、働きたい、まちのために活躍したいという思いを、地域と共に育てます。



【　社会教育委員の会議　】

■本年度の具体的活動

社会教育委員の会議において、地域学校協働活動本部の設置について、平成 30 年度から協議を重ねている。
昨年度は研修を含め、５回実施。本年度は、ＣＳマイスターを講師に招いた研修の機会をつくるなど、年間５回の会議を実施。

また、子どもたちが健やかに育つ地域づくりを目指し、教育の基礎となる家庭教育力の向上ならびに地域における持続的な生涯学習社会の実現のため、「甲賀市夢の学習事業」を、平成 30 年度からＮＰＯ「地域で作る土曜日夢の学習」に委託している。貧困や生活困窮による教育格差を無くすことを目標とし、事業への参加は無料としている。

■本年度の成果

地域学校協働活動のあるべき姿の方向性がなかなか見えていなかったが、自治振興会に、学校との連携が図れる担当者がいると、活動しやすいことがわかってきた。

また、夢の学習事業は、市がＮＰＯ「地域で創る土曜夢の学習」に委託して、地域学校協働活動、土曜日の教育支援、家庭教育支援など包括的な取り組みを行っている。昨年度は水口、甲南、信楽地域での実施であったが、今年度は、土山、甲賀地域も含め、範囲を全市に広げることとなった。実践を通じて新たな課題を見出し、研究しながら、課題解決に取り組んでいる。（令和元年１２月時点で、講座数 758、参加者数は 10,000 人を超える。）

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

上記に示す役割を担う担当者が、定期的に学校に出向いていただき、新たに任用したコーディネータとつながり、学校の現状や課題、求める学習や体験活動にどのようなものがあるかを熟知していただいた上で、自治振興会でつかんでいる人材等とのすり合わせをしていくなどの連携が大切である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和４年度導入に向けて準備している段階。

■その他

野洲市における地域学校協働活動の取組①

［取組状況］■地域学校協働本部□地域未来塾□放課後子ども教室□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域、保護者、ＰＴＡ等の参画の下、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する姿

■本年度の具体的活動

８月　地域学校協働活動の取組を開始
　　校長会・教頭会での主旨説明
９月　県教委市町訪問受入れ（北野小）
10 月　地域学校協働活動推進員９名の委嘱
11 月　運営協議会開催

■本年度の成果

これまで本市では、学校、保護者及び地域の代表者で構成する「学校応援団」を組織し、家庭を含む地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めてきたが、今年度から、「地域学校協働活動」に活動の範囲を広げた。

このため、運営協議会を開催し県教委の担当課より活動の説明を受け、今後の地域と学校との協働のあり方を学んだ。

各本部においては、学習支援、環境整備、見守り活動など年間を通じて協働活動が実施できている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

これまで本部ごとに独自の活動を行ってきたが、その地域の独自性は活かしながら、学校を核とした地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業に取り組みを進めたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

これまで、学校応援団活動の中心となっていただいた方を、地域学校協働活動推進員として、全ての本部で委嘱した。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

既存の学校評議員制度を活用し、地域学校協働活動と連携しながら地域の実態に応じて拡大・移行していく予定。

平成 30 年度から学校運営協議会検討会を立ち上げ、県のＣＳアドバイザーの指導を受けながら研修を重ねている。



【野洲市学校応援団運営協議会開催】

野洲市における地域学校協働活動の取組②

［取組状況］ □地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の具体的活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年２回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実　施　日	参加人数	協　　議　　内　　容
1	令和元年 ５月 31 日	16 名	(1) 令和元年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 令和元年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	令和２年 ２月 21 日 実施予定	―名	(1) 令和元年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 令和２年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市青少年育成市民会議会長、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議会長、篠原地域子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、中主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、コミュニティセンターぎおう事務局長、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、コミュニティセンターきたの事務局長、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会代表、小学校教頭会代表

■本年度の成果

・子ども教室を通じて、子ども達の協調性や自主性、社会性が育ってきている。
・地域の方が子ども教室に関わってくださることで、地域の交流が生まれ、「地域の子どもは地域で育てる」という雰囲気が出来ている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・教室を運営してくださっているスタッフの確保が難しくなってきている。市民活動サークルとして登録をされている方や、各地域のコミュニティセンターで活動されている団体などへも積極的に協力の呼びかけを行っていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在は、市職員が事務局として担っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校運営協議会については、協議中である。

湖南市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　■地域学校協働本部　　■地域未来塾　　□放課後子ども教室　　■土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、明日を担う子どもを育てるため、「楽しくて力のつく湖南市教育」を標榜し、「夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、「学力保障」、「仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱としている。「全ての学校が、コミュニティ・スクールへ」を本市教育委員会の方針として掲げ、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」を推進している。

■本年度の具体的活動

〇市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会議　年２回

第１回　４月 24 日(水)　・湖南市教育指針、「地域とともにある湖南市ビジョン」の周知

・地域コーディネーター委嘱状授与　・地域学校協働活動推進事業等の進め方について

第２回　各中学校区において開催

甲西北中校区　11 月 12 日（火）　石部中校区　11 月 18 日（月）

日枝中校区　　11 月 21 日（木）　甲西中校区　11 月 26 日（火）

〇学校運営協議会理事長・地域学校協働本部委員長等交流会

11 月 29 日（金）

・小中連携、小小連携を重視した各校の事業取組の交流や情報交換等

〇学校評議員・学校運営協議会理事・地域学校協働本部委員、地域まちづくり協議会役員、教職員、地域ボランティア等合同研修会(兼：運営委員会、事業成果報告会)　令和２年２月 21 日(金)

１）功労者感謝状贈呈　　２）実践発表　石部南小学校の取組発表

３）講演　子どもが活きる「富よりだんごの取組」

講師　奈良県ＣＳアドバイザー　新谷　明美　氏

■本年度の成果

・４中学校区ごとに主な取組内容の情報交換、児童・生徒の姿から成果と課題の交流を行い、学校や地域の特性を生かし、児童・生徒が将来の地域の担い手となる力を育てる取組となるよう年々工夫・改善を加えることができた。

・まちづくり協議会とのつながりを深め、スクール・コミュニティづくりに取り組むことができた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・事業の周知と地域人材の育成を図る中で、各地域学校協働本部の経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、企業やＮＰＯ法人等との連携・協働をいっそう進めていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・地域学校協働活動推進員全員を委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・１中学校区において校区の連携や地域の実態を生かして中学校区としての学校運営協議会の設置を目指す。



【　甲西中ミニ部活　】

高島市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域学校協働活動を通じ、「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の関係をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティが形成されることをめざす。

■本年度の具体的活動

(1)　地域や学校の特色を生かした活動
・学校のニーズや地域性などをいかし、それぞれの中学校区で特色ある取組が行われている。

(2)　地域学校協働本部と地域関係団体とのネットワーク化
・今年度、社会教育課内に地域教育連携室を設け、青少年育成事業と地域学校協働活動事業を一体的に行い、「地域の子どもは地域で育む」の共通の目的のもと活動を行うことができた。
・学校支援活動について今年度は個人から団体への呼びかけを行った結果、事業ごとに支援してくれる団体が定着しはじめ、緩やかなネットワーク化が進んだ。

(3)　研修への積極的な取り組み
・全国コミュニティ・スクール研究大会において、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールについて、湖西中学校での取り組みを中心に導入から成果・課題等について発表した。また、地域学校協働活動推進員（以下、推進員）にとっても、学校を核とした地域づくりの推進に向けて、さらに学びを深めることができた。ＣＳコンサルタント派遣事業も活用し、課題解決のため助言もいただいた。
・地域とともにある学校づくり推進フォーラムなどの研修会に、推進員の活動拠点である学校の教職員等を派遣し、先進地の実践事例などについて研修を深めた。推進員と学校が目指す方向を共有することで活動を進みやすくするとともに、校区内教職員のキーパーソンとして現場職員への働きかけが期待できる。
・青少年に関わる活動を行っている団体などを対象に、地域全体で子どもを育む必要性についての研修を行った。
　期日　１１月２４日（日）
　場所　藤樹の里文化芸術会館
　講演　講師　ＮＰＯ法人まちと学校のみらい
　　代表理事　竹原　和泉　さん
　　演題　「子どもも大人も一緒に学ぶ
　　～地域の子どもを地域で育むために～」


【ＣＳコンサルタントによる助言】

■本年度の成果

市の広報や学校便りなどで、地域学校協働活動の取り組みや成果が紹介され、活動への理解やボランティアなどの支援が広まった。
特に青少年関係団体や民生委員などの福祉関係団体との連携・協働が進み、様々な場面で地域の子どもへの関心・理解が高まった。また、学校支援だけでなく、学校から地域へ子どもたちが出向く姿も多く見られた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・学校支援中心の活動からさらに地域と学校の協働活動へ推進するため、学校運営協議会と「高島の子どもたちにどう育ってほしいか」のビジョンを共有し、一体的な推進を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成 30 年度に地域学校協働活動推進員６名を委嘱し、中学校区に配置済み。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

公立学校においては、全てで学校運営協議会を導入済み。（平成 30 年度）

東近江市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

■本年度の具体的活動

・本部長（担当者）及び地域学校協働活動推進員合同会議の開催（４月・10 月）

・東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（５月・10 月・２月）

・東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催
（小学校：６月・11 月／中学校：７月・12 月／小中合同：８月・１月・３月）
（１）各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
（２）少人数でのグループワーク
（３）県教育委員会主催の研修会報告

・県教育委員会主催研修会への参加

■本年度の成果

・今年度、地域学校協働活動推進員連絡会の開催方法を見直し、小学校、中学校それぞれにおける事業の在り方を再度見い出す手がかりとなった。
・本部長（担当者）と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために、学期ごとに合同会議を開催した。（年２回）
・各本部に御協力をいただき、アンケートを実施した。前年度と比較し、次年度の事業実施につなげていきたい。
・各本部において、ボランティア会議等で活用いただくために、各本部の活動をまとめたリーフレットを作成した。



【第２回運営委員会及び研修会】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・市街地や山間部等、各地域の特色を生かし、持続可能な活動を見い出し推進していく。
・地域ボランティア等の人材確保が必要である。
・学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく必要がある。



【第２回合同会議】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成 30 年度から教育委員会委嘱（令和元年度 28 名）

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

持続可能なものとするために、今後も導入に向けた検討を重ねていく。

米原市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　■地域学校協働本部　　■地域未来塾　　□放課後子ども教室　　□土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域学校協働活動もその仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

■本年度の具体的活動

（１）学校運営協議会委員研修会（４月 17 日）

学校運営協議会委員を対象に、協議会の趣旨および役割等について理解を深める研修会を開催した。市職員による行政説明の後に、学校ごとに意見交換を行った。

（２）教育フォーラムの開催（９月～12 月）

中学校区	日　　時	内　　容
柏原中学校区	９月 27 日	○各校からの教育活動の報告
大東中学校区	11 月 13 日	○避難所運営ゲーム　テーマ：地域と連携した災害対策を考える
伊吹山中学校区	10 月 21 日	○避難所運営ゲーム　テーマ：防災でつながる園・学校・家庭・地域
米原中学校区	12 月　５日	○中学校各学級の人権宣言の発表　○パネルディスカッション（テーマ：人権教育） ○講演「共生社会をめざして」講師：パラリンピック出場選手
河南中学校区	11 月　６日	○学校運営協議会、学校支援地域本部からの活動報告 ○各校園からの教育活動の報告
双葉中学校区	11 月 16 日	○各校園の取組紹介 ○狂言ワークショップ　○狂言鑑賞

■本年度の成果

○市内すべての小中学校（９小学校、６中学校）および市内の各園も参画し、各校区の実情に応じた協働活動を推進することができた。

○今年度新たに８校で学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動と連携した活動を進めることができた。また未設置校については、来年度導入に向けた素地となる活動を進めることができた。

○教育フォーラムは今年度６年目の開催となった。地域連携や保幼小中連携の在り方を考える機会となっている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

○学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの更なる構築を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況・・・令和２年度から委嘱を進める方向で検討している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・平成 30 年度　中学校３校をモデル校として新規に導入（伊吹山中、米原中、河南中）
・令和　元年度　小学校７校、中学校１校を追加
　（山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小、柏原中）
・令和　２年度　小学校２校、中学校２校を追加予定
　（柏原小、坂田小、大東中、双葉中）　※市内全小中学校に設置完了予定

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に！ふるさと日野学習の推進

［取組状況］　■地域学校協働本部　■地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

学校、家庭および地域住民みんなが役割と責任を自覚し、日野町の宝である子どもたちを健やかに育む体制づくりを確立する。子どもたちの成長を支える「日野町地域学校協働活動推進本部」を設置し、「ふるさとを愛し　ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域を誇りに持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして地域と学校が連携・協働して学校教育を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢や志を持ち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りを持てる子どもたちの育成を目指している。

■本年度の具体的活動

小学校では３年目、中学校では２年目を迎え、前年度末に活動内容の構想をたて、意欲的に取り組みを始めるようにした。

学期ごとに定期的に実践交流会を実施し、地域コーディネーターと教頭によって各校の取組についての情報交流を行ってきた。子どもたちや保護者の反応がよく効果が大きかった事業について、スタッフやボランティアの招集を含め、活動が活性化した。コーディネーターが作成した活動の便りやアンケートなどの活用方法など、話し合いを重ねる度に新しいアイディアや取り組んでみようとする意欲が伝わってきた。

校長会や教頭会などでも、各校の取組状況の交流を図り、各校が互いに地域とともにある「特色ある学校づくり」に大変効果があった。



【地域学校協働活動
推進員実践交流会】

■本年度の成果

町独自で実施している「特色ある学校育成事業」に加えて、地域学校協働活動推進員のコーディネートによる地域学校協働本部事業を昨年度から実施しており、本年度も順調に進められている。２年目となった中学校では、生徒の読書離れという実態から読書活動に重点をおいた取組を計画した。町内４つのお話ボランティアによる「読み語り」の時間を、朝に 15 分間設定し、生徒がお話に静かに聞き入る様子が見られた。西大路小学校では、通学路の危険箇所の確認をする際、ＰＴＡ役員などの保護者の他に自治会長、民生委員にも加わっていただき、安全点検を実施した。学校からの「こども達の注意喚起のための看板を設置したい」という要望の提案を汲んでいただき、自治会長から地域の方に依頼してくださるなど、スムーズに安心・安全な学校の環境づくり進めることができた。

スタッフへアンケート等をとり、ご支援いただいた皆さんへの感想や意見等を参考にしながら、次年度の協働活動を計画的に実施することができた。



【自分のペースで学習！
夏休みチャレンジ教室】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

団体のボランティアの皆さんにご支援いただくことが多かった。各校における学習支援については、学習支援員や地域の大学生に協力いただき進められた。今後は、地域の方による学習支援の輪が広がるような協働活動が進められるようにしていきたい。

今年度で５回を迎えた「夏休みチャレンジ教室」も、町の中心部での開催のためか近隣の子どもたちは多く参加することができたが遠くの子どもたちの参加数が少ない傾向にあった。保護者や子どもたちからも来年も参加したいというニーズが増えていることから、学校の補充学習に学習支援スタッフを振り分けて、勉強がわかる楽しさを実感させたいと考えている。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・日野町地域学校協働活動推進協議会には、各学校区の地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）６名、青少年育成町民会議会長・町少年センター所長・学識経験者・小中学校長会代表・町 PTA 連絡協議会代表・町公民館長代表・各小中学校教頭６名の合計 18 名で構成され、教育委員会より委嘱されている。

・各小学校区に地域学校協働本部を設置し、ＰＴＡ・学校評議員メンバー等に地域学校行動活動推進員を委嘱し、各校の教頭と連携を図りながら、ふるさと地域学校協働活動推進員が家庭や地域との連携を図っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・保護者や地域から熱い期待と多方面で支援を受けている本町では、校長会にＣＳアドバイザーによる説明の時間を設けたりや町の事務局と県生涯学習課との懇談会を実施したりするなど、地域学校協働活動を学校運営協議会への導入に向けた取組を実施している。

竜王町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

本町では、地域学校協働本部の事務局を公民館に置き、公民館講座の受講生や情報等を活用しつつ、学校（園）支援のために学校（園）と地域人材とを結びつけながら、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上をめざしている。

そして、公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で一人ひとりの人生をより豊かにすることにつながり、一層のまちづくり活動の推進へとつなげたい。

今後は、これまでの「支援活動」から、「連携・協働活動」へ、すなわち地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係から地域と学校がパートナーシップに基づき、「双方向」の関係になるようにしていきたい。

これまでの活動をベースに子どもの成長を軸にして自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図り、「地域とともに歩む学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」をめざしたい。

■本年度の具体的活動

・４月中旬　　学校園情報交換会の開催。活動方針や課題の検討、問題の共有を図る。
・毎　　月　　統括マネージャー・コーディネーター会議（地域学校協働本部定例会）の開催。
・年　２　回　　地域学校協働本部だよりの発行。（上半期、下半期）
・通　　年　　学校園応援団（ボランティア）の募集。
・公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信。

■本年度の成果

・小中学校の学習では、児童生徒のきめ細かい個別対応が可能になり教育効果が上がった。
・託児や校外学習の引率などでは、学校やＰＴＡの行事を安全に円滑に進めるための支援ができた。
・地域のボランティアと幼児・児童・生徒とが顔見知りになり、人間関係が密になった。
・中学校では、部活動に地域の競技指導者を積極的に外部コーチとして招き、教員と連携を図りながら部活動の運営に取り組んでいる。また、「土曜龍王塾」と称して、教員ＯＢや地元の大学生ボランティアで講師団を形成し、土曜日に高等学校入試対策を実施する試みをはじめている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・依頼されたらボランティアとして関わる段階にとどまっており、チームを作って支援できる体制まで高まっていない。リーダーとなってまとめていく人材が育っていないので、協働活動の推進にはその確保と育成を強化していく必要がある。



【　プール授業の安全監視支援　】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・現在、地域学校協働活動推進員の委嘱は行っていないが、令和２年度からの委嘱を考えている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本年度からコミュニティスクールとして、これまでの２小学校・１中学校に、２幼稚園が加わり全公立学校園で取り組みを開始予定である。共に学校支援地域本部が機能していたので、引き続きその活動を発展させながら、コーディネート機能を強化し、より多くの、より幅広い層で活動する地域住民の参画を得て、活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施していくことで、地域学校協働本部体制へと発展させていきたい。

豊郷町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

［地域未来塾］

・地域の力を活かし、町内の中学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。

［放課後子ども教室］

・地域の力を活かし、町内の小学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。

・町内の小学生を対象に、学校・学年が違う子どもたちや地域の方と関わり、様々な体験活動をすることで、生きる力や協働する大切さを学ぶ。

■本年度の具体的活動

［地域未来塾］

(1) 夏季休業中の学習補充教室

3～4 名のグループに 1 名学習支援員を配置し、生徒同士の教え合いの補助や学習指導を行う。

(2) 放課後質問教室

受験に向けた家庭学習でのつまづきを解消するため、放課後に質問教室を行った。

［放課後子ども教室］

(1) 小学校夏季休暇中の学力補充教室

復習プリント等を使い、子ども達がわからないところをボランティアや教職員が個別に指導し、課題の採点などを行った。また、教室の最終日に「科学実験教室」を実施し、理科分野に関する興味や関心を高め、理解を深めた。

(2) さとっこふれあい教室・とよっ子探検隊(全 5 回)

さとっこ(1～3 年生)・とよっ子(4～6 年生)に分けて募集し、事業を行った。さとっこは 30 人の定員を設けて募集し、地域の方を講師として迎え、料理やスポーツなどの活動を行った。とよっ子は各回 20 名の定員を設けて募集し、博物館や牧場などで体験活動を行った。

■本年度の成果

［地域未来塾］

・放課後に地域の方や学生に来ていただくことで教員の負担軽減につながった。

・既習内容の復習を中心に学習することで、2 学期の学習がスムーズに進められた。

・回を重ねるごとに放課後に学習をして帰るというスタイルが徐々に定着してきた。

［放課後子ども教室］

・夏季休暇中の学力補充教室では、休業中の児童の様子を把握したり、生活リズムの改善につなげることができた。

・とよっ子探検隊・さとっこふれあい教室では、学校や学年の違う子どもが、班活動を行うことにより、普段関わることが少ない子ども同士の交流を図ることがでた。また、体験活動を行うことで、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

・地域の方に事業の協力をお願いしているが、年々確保が難しくなっている。

・地域の教育力の低下および家庭の教育を支える環境不足が課題で、家庭や地域が担うべき教育が学校に持ち込まれすぎている。

・参加希望者が固定されつつあるため、参加したことのない子どもへのアプローチが必要。



【さとっこふれあい教室の様子】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校評議員を委嘱しているが、学校運営協議会は導入していない。

甲良町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

・進学に向けて、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
・学習課題に粘り強く取り組み、課題を解決しようとする。
・学生支援員とのふれあいを通して、自身の進路に対する希望や積極的な気持ちを持つ。



【マンツーマンでの支援】

■本年度の具体的活動

中学３年生の希望者対象に 10 月～２月の毎週月、木、金の実施可能な日に、１回につき２時間程度、合計 50 回の放課後学習会を実施した。参加は各回 20 名程度であった。

本年度は、学生支援員 12 名の登録があり、毎回３～６名の学生の支援を得ることができた。

■本年度の成果

本町では、学力向上を目指した町独自の取組として、大学と提携して町内小学校および中学校の授業づくりや学級経営等、全般に渡って指導助言を受ける事業を展開している。その繋がりから、学生支援員も関連大学の学生が多く参加してくれているところである。本事業の一環として、12 月に中学３年生を対象に大学への訪問を行ったところ、それを機に大学進学への憧れを持つ生徒が増え、後半は、学生支援員を身近な先輩として慕い、放課後学習会に参加する生徒が増えた。放課後学習会に参加した生徒は、学生支援員に丁寧に関わってもらうことで、親しみながら落ち着いて学習に取り組むことができた。学校の教員とは違う、より身近な学生支援員とふれあい、勉強について相談にのってもらう中で、学習への意欲が増し、自ら学ぼうとする気持ちをもつことができた生徒が増えたことは大きな成果であった。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

学生が学生を紹介してくれる形で、今年度は 12 名の学生支援員に協力を得ることができた。しかし、できる限り少人数での学習を実施していくためには、毎回５名以上の学生に参加してもらうことが必要である。今後、さらに情報を発信し高等学校や大学等との連携を深めていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、令和３年度を目標に全ての小学校および中学校に学校運営協議会の導入を予定している。保育センターへの導入は未定だが、現在のところでは小学校の運営協議会に参加する形で連携していきたいと考えている。

多賀町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］　■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

多賀町は、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。少子高齢化・人口減少という本町の課題に対して、「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、安心して子育てのできる施策を充実させ、町の活性化を図っている。

また、地域の大人が子どもと顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるよう努めている。大人は子どもと共に活動することを通して、持っている知識や経験を子どもたちに伝えることができ、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる。そうした、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

■本年度の具体的活動

（１）登録者に対するボランティア研修会の開催

「応急手当講習」の受講、「読み聞かせ（紙芝居）研修会」の開催で、活動のスキルアップを図った。

（２）広がりつつある活動の輪

ボランティア活動の中で、「こんなこともできるから何かあったら連絡して」などの声があり、校園での新たな活動が生まれている。また、口コミで紹介を受け、読み聞かせや放課後の見守り活動などへの参加人数が少しずつ増えている。子どもたちと直接会話しながら活動できる喜びが、やりがいとなっている。



【土曜講座での教育長挨拶】

（３）「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」「放課後見守り（学びっこタイム）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、提携塾から派遣された講師による学習講座（土曜講座）を実施している。また、大滝小学校の低学年児童を対象に、地域サークルやボランティアの方による、宿題やバランスボール等の体験活動（学びっこタイム）を行っている。

■本年度の成果

（１）研修会を重ねることで、参加者のスキルアップを図るとともに、ボランティア同士の交流や意見交換が活発に行われるようになった。

（２）学校や園の花の手入れや学習に必要な野菜作りの下準備など、先生方の意向を聞きながら、熱心に子どもたちに関わることができた。ほぼ毎日学校に出向いて活動されたり、園舎周辺の環境を見て連絡をいただくなど、校園と地域との距離が近くなってきたと感じる。

（３）土曜講座・学びっこタイムは、小・中学生の学力向上を図るとともに、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として評価され、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

平日は、ボランティア登録者の中で活動できる人数が限られている。ＦＡＸや有線放送、紹介等を活用して、幅広く周知するなど工夫している。今後も学生、保護者等など広く募集を行う。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。


【学びっこ（音読・計算カード読み）】

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、「校園の子どもにとって、どのような地域支援が必要か」「地域人材を活用し、開かれた学校づくりをどのように進めるか」等について、ＣＳアドバイザーの指導を受けた研修を重ねている。多賀町に相応しい学校運営協議会を導入するため、他市町の取組も参考にしてイメージを膨らませ、今後の具体的な方向性を探っている。

令和元年度　地域学校協働本部一覧　　12市町121本部

No.	市町名	本部名	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区地域学校協働本部	東中学校、城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校	7	17	7
		西中学校区地域学校協働本部	西中学校、城西小学校、城北小学校、城北幼稚園			
		中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校、平田小学校、金城小学校、平田こども園 金城幼稚園			
		南中学校区地域学校協働本部	南中学校、城南小学校、城陽小学校、亀山小学校			
		彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校、河瀬小学校、高宮小学校			
		鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校、鳥居本小学校			
		稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校、稲枝東小学校、稲枝西小学校 稲枝北小学校、稲枝東幼稚園、みづほ会みずほ保育園 ふたば会稲枝ふたば保育園、ことぶき会ことぶき保育園			
		若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校			
2	近江八幡市	八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校	9	12	4
		島小学校地域学校協働本部	島小学校			
		沖島小学校地域学校協働本部	沖島小学校			
		岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校			
		金田小学校地域学校協働本部	金田小学校			
		桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校			
		桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校			
		北里小学校地域学校協働本部	北里小学校			
		武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校			
		安土小学校地域学校協働本部	安土小学校			
		老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校			
		八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校			
		八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校			
		八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校			
		安土中学校地域学校協働本部	安土中学校			
		武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園			
		八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園			
		岡山幼稚園地域学校協働本部	岡山幼稚園			
		桐原幼稚園地域学校協働本部	桐原幼稚園			
		馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵幼稚園			
		金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園			
		北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園			
		老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園			
3	草津市	志津小学校地域協働合校	志津小学校	0	14	0
		志津南小学校地域協働合校	志津南小学校			
		草津小学校地域協働合校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校			
		渋川小学校地域協働合校	渋川小学校			
		矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校			
		老上小学校地域協働合校	老上小学校			
		老上西小学校地域協働合校	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働合校	玉川小学校			
		南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働合校	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校			
		笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校	常盤小学校			
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	0	1
5	野洲市	中主小学校地域学校協働本部	中主小学校	0	6	3
		篠原小学校地域学校協働本部	篠原小学校			
		祇王小学校地域学校協働本部	祇王小学校			
		三上小学校地域学校協働本部	三上小学校			
		野洲小学校地域学校協働本部	野洲小学校			
		北野小学校地域学校協働本部	北野小学校			
		中主中学校地域学校協働本部	中主中学校			
		野洲中学校地域学校協働本部	野洲中学校			
		野洲北中学校地域学校協働本部	野洲北中学校			

6	湖南市	石部小地域学校協働本部	石部小学校	0	9	4
		石部南小地域学校協働本部	石部南小学校			
		みくもっ子地域学校協働本部	三雲小学校			
		東っ子地域学校協働本部	三雲東小学校			
		岩根小地域学校協働本部	岩根小学校			
		菩提寺小地域学校協働本部	菩提寺小学校			
		菩提寺北小地域学校協働本部	菩提寺北小学校			
		下田小地域学校協働本部	下田小学校			
		水戸小地域学校協働本部	水戸小学校			
		石部中地域学校協働本部	石部中学校			
		甲西中地域学校協働本部	甲西中学校			
		甲西北中地域学校協働本部	甲西北中学校			
		日枝中地域学校協働本部	日枝中学校			
7	高島市	高島学園地域学校協働本部	高島小学校、高島中学校	0	13	6
		マキノ地域学校協働本部	マキノ東小学校、マキノ西小学校、マキノ南小学校、マキノ中学校			
		今津地域学校協働本部	今津東小学校、今津北小学校、今津中学校			
		朽木地域学校協働本部	朽木東小学校、朽木西小学校、朽木中学校			
		安曇川地域学校協働本部	安曇小学校、青柳小学校、本庄小学校、安曇川中学校			
		新旭地域学校協働本部	新旭南小学校、新旭北小学校、湖西中学校			
8	東近江市	玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校	0	22	9
		御園小学校地域学校協働本部	御園小学校			
		八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校			
		箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校			
		八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校			
		八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校			
		布引小学校地域学校協働本部	布引小学校			
		市原小学校地域学校協働本部	市原小学校			
		山上小学校地域学校協働本部	山上小学校			
		五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校			
		愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校			
		愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校			
		湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校			
		蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校			
		蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校			
		蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校			
		能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校			
		能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校			
		能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校			
		能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校			
		玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校			
		聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校			
		船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校			
		永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校			
		五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校			
		愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校			
		湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校			
		朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校			
		能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校			
9	米原市	柏原学区学校協働本部	柏原保育園、柏原小学校、柏原中学校	7	9	6
		河南学区地域学校協働本部	河南小学校、河南中学校、かなん認定こども園			
		伊吹山学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	伊吹山中学校、春照小学校、伊吹小学校 いぶき認定こども園			
		米原学区地域学校協働本部	米原中学校、米原小学校、まいばら認定こども園			
		大東学区地域学校協働本部	大東中学校、山東小学校、大原小学校、山東幼稚園 大原保育園			
		双葉学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	息長小学校、坂田小学校、双葉中学校、おうみ認定こども園			
10	日野町	日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	0	5	1
		西大路地域学校協働本部	西大路小学校			
		南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校			
		必佐地域学校協働本部	必佐小学校			
		桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校			
		日野中学校地域学校協働本部	日野中学校			
11	竜王町	竜王町地域学校協働本部	竜王小学校、竜王西小学校、竜王中学校 竜王幼稚園、竜王西幼稚園	2	2	1
12	多賀町	多賀町地域学校協働本部	多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園 大滝たきのみやこども園、多賀ささゆり保育園	3	2	1

子どもたちの笑顔のために 「できる人が　できるときに　できることを」

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	東中学校　学校運営協議会 ：□有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ：□有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（青少年育成協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）


【　図書室開館のサポート　】

〇図書室開館・図書整備・読み聞かせ・・・毎日昼休み、当番のボランティアが図書室を開け、パソコンを立ち上げ、貸出の準備をして、図書委員のサポートをしてくださっている。昼休みが短いため、図書委員だけで開館するのは難しく、子どもを主にした臨機応変のサポートは大変ありがたい。本の整理・新刊のブッカーかけ等の整備、おすすめ本の紹介、読み聞かせなどもしている。
〇外国にルーツを持つ生徒の支援・・・日本語がわからない生徒に、日本語や数学を教えていただいている。親の承認のもと、言葉がわからず参加しにくい教科の授業時に別室で個別に支援している。生徒にとってみれば、周りに気兼ねせずにおしゃべりしたり相談したりできる場にもなっている。担任や日本語指導教員とも情報共有し連携をしている。
〇ゲストティーチャーによる授業・・・浴衣の着付け、性教育、キャリア教育、沖縄学習等、その道のプロの方が来校し、生徒に実技指導や講義、コンサート等
〇環境整備・・・地域の方が家で育てられた観葉植物を校内の各トイレに置き、環境委員の生徒が世話をしている。地域の方が自主的に校庭樹木剪定等の支援もしている。芹川を地域の方と生徒が清掃（悪天候のために３月に延期）している。
〇部活動の支援等

■　実施に当たっての工夫
年度初めの職員会議で、地域コーディネーターから資料を使って事業の目的や内容について説明し、全職員が理解した上で取り組んでいる。学校には、ボランティアとの打ち合わせを丁寧におこなうよう伝え、可能な限りコーディネーターも同席してサポートしている。学校（教員）やボランティア双方の思いや考えを聞き連携できるように努めている。管理職や地域担当の教員だけでなく、その活動の主になる教員との打ち合わせをしている。打ち合わせや連絡に SNS を活用し、急な変更等にも対応できるようにしている。

■　事業の成果
学校を訪れる人が増え、毎日のように地域の方が子どもたちを支援してくださっている。子どもが力を発揮できる場が増え、先生とは違った立ち位置で子どもたちに関わってくださるので、先生に見せる姿とはまた違った姿が引き出されている。授業や課外活動等に専門性を持った人が関わることで、子どもたちが深く学ぶことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
学校の規模が大きいため、学年や担当を超えた教員間での情報共有が難しく、地域協働についての意識差も小さくない。コーディネーターからの働きかけや丁寧な打ち合わせで、どの職員の意識も高めるようにしていきたい。協働のパートナーとして、地域の方が主体的に関われるような環境を整えていきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（教員・読書支援員・日本語指導教員等）

報告書記入者（地域コーディネーター）

伝統を引き継ごう～城東小マーチングバンドの活動の充実に向けて～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	城東小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・マーチングバンドの各パートの練習（毎週金曜日６校時）　・東中学校吹奏楽部との連携
・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加

■　実施に当たっての工夫
・指導者確保のため、ボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いするようにした。また、地域学校協働本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集をお願いしたところ、２名の方がトロンボーンやフラッグ等の指導をしていただけることになり、指導体制が充実した。
・12 月上旬から１月下旬にかけて、６年生から５年生への引き継ぎ期間を設定している。
ボランティアの方の指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心も大切にしている。
・毎年５月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催している。後半には、吹奏楽部員にマーチングバンドのパート別指導をお願いしている。

■　事業の成果
・地域学校協働本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。
・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上し、意欲向上へとつながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域学校協働本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくこと。
・地域コーディネーターと共に人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。



【城まつりパレードへの参加】

■　その他
【　マーチング活動に関する児童の感想　】
日曜日、城まつりパレードでマーチングバンドをしました。１年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。市役所前の通りに入ると家族もいました。ここから彦根東高校まで少し疲れたけどたどり着くことができました。
後半、前半の疲れがどっと来て、１セット目からシンバルを重く感じるようになりました。でも、先輩もいたし、いろんな人たちが見てくれているので、何だか力がわいてきました。そのまま、ゴールして何だか誇らしい気分で、終えることができました。
５年生にも、この楽しさなどを伝達できるようにがんばります。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者　（　地域連携担当教職員　）

地域・保護者の方々と共に　～佐和山応援隊の発足～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

＜地域・保護者ボランティア『佐和山応援隊』を中心にした活動＞

今年度、地域コーディネーターからの発信で『佐和山応援隊』を立ち上げていただき、学校生活の様々な活動に協力していただいた。

○　朝のさわやかタイムでの外国語活動【低学年】
○　英語で読み聞かせ（ペープサート劇とオーボエ演奏）【２年生】
○　校外の施設見学時の見守り支援【４年生】
○　家庭科調理実習・ミシン操作の支援【５年生】
○　楽器演奏の支援【６年生】
○　長期休業前の印刷物の印刷【全校】
○　クラブ活動の支援【料理クラブ、パソコンクラブなど】
○　外部学校支援団体との連携・調整



【　１年生　さわやかタイムの外国語活動　】

＜応援隊以外の方の学校支援＞

○　オーストラリアからの来客時の通訳
○　イングリッシュコンテストに向けてのスピーチ練習支援【６年生】
○　低学年の学習支援
○　音楽のリコーダー支援【６年生】
○　読み聞かせボランティア【全校】
○　図書ボランティア「ポケットさん」による図書室の環境整備、読書支援
○　彦根ユネスコ協会の子どもにほんご教室「ＪＵＭＰ」による外国人児童の支援



【　階段踊り場
“ポケットさんおすすめの本コーナー”】

■　実施に当たっての工夫

年度初め、ボランティアとして協力をお願いしたい学校行事や学習活動を書き出して、ボランティアの依頼時に活動項目を挙げて返事をいただくことにした。ボランティアバンク『佐和山応援隊』として、学校行事等で協力をお願いしたいときには、地域コーディネーターを通じて応援隊の方へ依頼をしていただいた。

■　事業の成果

年度当初に、協力内容を具体的に挙げたことで、学習活動で必要な支援や協力を得やすくなった。ボランティアで支援いただく場も広がり、来てくださる方の得意分野や専門知識を生かした支援の機会も多くなった。依頼の窓口を地域コーディネーターにまとめたことで、支援の体制が分かりやすくなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの依頼については、文書での案内のほかに、個人携帯で連絡を取り合って調整をしていただいている。地域コーディネーターとしての公の連絡手段がないので、今後、『佐和山応援隊』が様々な教育活動に協力してくださることを考えると、連絡手段を検討する必要がある。

今年度は、地域コーディネーターを中心に、学校行事や学習活動等への協力を依頼する体制を整えることができた。今年度の成果と反省を踏まえて、地域や保護者の方に協力いただける活動の見直しや検討を行い、次年度に生かしていきたい。また、『佐和山応援隊』を地域や保護者の方に広く知っていただいて、本校の子どもたちのために気軽に学校へ足を運んでもらえるような学校にしていきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

人・地域とのつながりを密にした旭森教育の推進

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：41 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○マーチング活動の演技・演奏指導ボランティア

本校の伝統的な教育活動の一つにマーチング活動がある。「運動会での団体演技」「お城まつりパレード」「卒業式での門出送り」を活動の節目として、５・６年生がマーチング活動に取り組んでいる。「お城まつりパレード」の取組後に、マーチング活動引き継ぎ式を行い、マーチング活動の伝統のバトンが６年生から５年生に渡される。３学期からは、５年生が主体となってマーチング活動に取り組み、卒業式には、マーチングの演技・演奏による門出送りを行う。マーチング活動の指導は、全教員が指導に当たっているが、楽器演奏という専門的な指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導のご協力をいただいているところである。



【ボランティアの方による楽器指導】

○学校図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動をしていただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施している。学年の発達段階に応じた本や、季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、休み時間を利用して「お話会」を実施している。低学年、中学年、高学年という学年別に本の読み聞かせをしていただいているのも、子どもたちが本に親しむよい機会となっている。また、火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。今後も「すまいる」さんとの連携を密にしながら、子どもたちの心を一層豊かにするために、読書活動を充実させていきたい。



【６年生　マイドリーム・プロジェクト】

○本物に触れ、子どもたちの心を耕すためのゲストティーチャーの招聘

「本物に触れることによって、子どもたちの心を耕す」ことを目指して、多くの学年で　ゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んでいる。１年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校していただき、昔からの遊びを教えてもらい、いっしょに遊ぶ楽しい時間を作っている。３年生では、地域の歴史や文化など様々な疑問に答える講師としてご協力をいただいている。また、６年生では、キャリア教育との関連を図りながら、総合的な学習の時間「マイドリーム・プロジェクト」の学習で、様々な職業に携わっておられる方をゲストティーチャーとして招いた。そして、それぞれの話を聞く中で、子どもたちは自分の将来としっかり向き合うことができた。

■　実施に当たっての工夫

○４月職員会議等の場に、地域コーディネーターと地域学校協働本部の方に来ていただき、事業内容について説明をしていただいた。どんな協力ができるのか、また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、各教員が本事業を知ることができた。また、今年度から、保護者ボランティアの募集も行い、何名かの方に支援をしていただいた。

○ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや１時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打ち合わせをして実施している。

■　事業の成果

○本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。

○様々な教育活動の様子を学校ホームページを通じて、積極的に発信することができた。学校の様子を保護者や地域の方に知ってもらうことは、保護者や地域の方との信頼関係を高める上でも重要なことであると考える。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がってきている。今年度、何名かの保護者ボランティアを確保できたが、学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて、さらに発信し、協力を呼びかけていきたいと考える。

○今後も学校のホームページ等を通じて、多くの情報を保護者や地域の方に発信し、次年度より全面実施となる新学習指導要領の重要なキーワードの一つである「社会に開かれた教育課程」の実現を目指していきたい。

■　旭森小学校ホームページＵＲＬ　https://www.fureai-cloud.jp/asahinomori-hikone/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）　報告書記入者　（　地域連携担当教職員　）

地域とともに創る「瞳輝く　明るい　楽校」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校　　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　　地域学校協働活動推進員等数： １人（兼務１人）　　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）
・中学校の管理職や地域連携担当教員が地域コーディネーターとしっかりと連携して方針の策定、年間計画の作成を行っている。

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・学習環境を整備するための活動
・読み聞かせによる読書活動の支援
・学校行事への支援
・地域の諸団体とともに行う地域貢献活動
・地域の農家の方と農業体験
・登下校の安全を確保するマニュアルの作成



【　飛び出せ西中！（地域清掃活動）　】

■　実施に当たっての工夫
・地域コーディネーターと管理職や地域連携担当教員との綿密な打ち合わせを行う。
・昨年度の実施内容を振り返り、改善点や変更点の確認を行う。
・積極的に学校の状況や情報を伝え、取組の事前打ち合わせに活かす。
・活動後に振り返りを行い、反省と課題を明らかにする。

■　事業の成果
・地域の方から率直な意見や感想を聞くことにより、今後の活動に反映することができる。
・地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。また、地域の方にとっても生徒との活動にやりがいを感じていただいている。
・地域の専門的な知識・技能をもった方と連携協働をすることにより、学校運営が円滑に進んだ。


【　地域の方と一緒に農業体験　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・校区内の小中の連携をさらに進め、系統的な取組ができないか、人材をうまく活用できないか等を検討していく必要がある。
・情報のネットワークを広げ、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
・活動について外部から評価をしていただき、取組の改善に活かしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・次年度の学校運営協議会の立ち上げについて準備をしているところである。地域の方にも取組の趣旨を理解してもらえるよう、また、協力してもらえるようしっかりと情報を伝えることが重要である。今後は、地域と学校でどのような子どもを育てていくかというビジョンや目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができるようにしていきたいと考えている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

豊かな学びを目指して、地域とともに

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）



（１）世代間交流の充実

１、２年生を中心に地域の高齢者が会員の「子どもらと楽しもう会」との交流に取り組んだ。１年生には交通安全の意識を高めるための「キューピー人形」を渡していただき、１、２年生合同の「七夕集会」 では、ゲストティーチャーとして伝統的な行事と伝承遊びについて、指導や講話をしていただいた。

（２）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

・３年生：地域の消防団の方と一緒に町探検をし、防災の視点から積極的に町のよさや課題を見つけ、 安全マップに表すことができた。
・４年生：「彦根城」を題材に、彦根城の特徴を調べ、ボランティアガイドのみなさんからよりよいガイドの仕方についてアドバイスを聞き、実際に観光客をガイドしたり、城下町である校区のよさを追究したりできた。
・５年生：琵琶湖の環境学習に取り組み環境問題に詳しい方にゲストティーチャーとして来ていただき、学びを深めた。
・６年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通しながら学びを深めた。

（３）学びを豊かにする学習支援の充実

５年生の家庭科の学習では､地域コーディネーターのコーディネートによりミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

■　実施に当たっての工夫

地域コーディネーターにコーディネートしていただきやすいように、担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打ち合わせ時期を調整したりした。

■　事業の成果

地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学校ブロック内の地域コーディネーターや学校と地域を結ぶコーディネート担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換する。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

中学校ブロック全体に「地域・学校協働だより」を発行することにより活動内容の発信や今後の学校運営協議会発足に向けた情報の提供に努めた。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域から学び、地域の人、もの、ことへの愛着心を育てる『ふるさと探訪オリエンテーリング』

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：40 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
８：50～９：00　出発式
９：00～　オリエンテーリング（各班並んで５分ごとに出発）
（埋木舎→馬屋→天秤櫓→天守閣広場→黒門）
※半分のグループは逆コース
12：10～　終わりの式（体育館）
児童会の縦割りグループ毎に、地図を参考にして訪ね、６年生や地域・施設の方から説明を受けて学習する。その交通見守りや安全のサポートを行う。


【　縦割り班に説明する６年生　】

■　実施に当たっての工夫
事前に教師で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、地域学校協働本部のリーダーに伝えた。当日は、地域学校協働本部のリーダーから、子どもの活動内容と注意事項をスタート前に説明していただき、教師とボランティアが連携して安全確保ができるようにした。
また、地域コーディネーターと年度当初に打ち合わせを行い、ボランティアの方や諸団体に協力をしていただく事業の確認を行い、１年間の見通しをもてるようにしている。加えて、青少年育成協議会等と連絡を密に取り合い、協働的に取組を進めている。

■　事業の成果
20 名以上の方々に参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での児童の説明にボランティアの方も頷いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。
学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアの人数がしっかり確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。


【　参加者一同による出発式　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間等に大きな幅が生じてしまう。引き継がれている注意点を生かし、コースを反対からまわるグループを設定することで、ほぼ予定通り進めることができた。しかし、ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、待ち時間が発生した。ガイドポイントの時間の目安はあるが、遅れた場合次のガイドポイントへの移動を早めたり、ガイドの時間を少し短くしたり、終わりの時間をはっきりさせることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。
また、ボランティアには、各班についてサポートをしていただいたが、道路横断時の安全確保などの役割ややり方を明確に伝えておくことも必要である。加えて、近年熱中症対策を行う必要が出てきて、実施時期についても検討課題であると考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
地域コーディネーターを中心として、参加可能なボランティアを募集したり、日程調整を行ったりするに当たり、事前に学校から計画書を提示し、内容面について説明する機会を設けた。これにより、取組の意図や、安全面の配慮について十分に検討を重ねた上で人員の配置等を決めることができた。例年行っている伝統的かつ文化的行事として地域に根ざしていることもあり、学校からの発信ではなく、地域コーディネーターが進んで学校に働きかけて話し合いの機会をもつことができた。地域に開かれた双方向な教育課程として位置づけられていると言える。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（学級担任）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

学校と地域を結ぶSCHOOL　SUPPORT

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：14人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）ＰＴＡ行事である学校清掃作業に協力を依頼し、数台のトラックで伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。


【ＰＴＡ学校清掃作業での協働活動】

（２）特別支援学級の授業で、中庭での野菜作りを行っており、一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興にも取り組みながら、様々な野菜作りの補助を行っていただいている。

（３）校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備、美術部の作品用額縁の制作と修繕に生徒と作業を分担して取り組んでいただいた。

（４）「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの作品を、地域の公民館に１週間展示する取組の中で、その設営や後片付け等で支援していただいている。


【中央中博覧会片付けでの協働活動】

■　実施に当たっての工夫
〇生徒が夏祭りや文化祭などの地域活動へボランティアで参加することにより、連携を積極的に行い、地域とのつながりを深めようとしている。

〇今年度から地域コーディネーターが交代したこともあり、年度当初に重点的に取り組む年間の活動を整理して見通しを持った活動ができるようにした。

■　事業の成果
〇毎年行っている活動については、支援の方々も要領をよく理解していただいており、手際の良いスムーズな協働活動ができるようになってきている。

〇地域コーディネーターの協力による活動の他にも、総合的な学習の時間の茶道体験、美術科の作陶体験、家庭科の浴衣着付け体験、調理実習、保健体育科の性教育講座、朝読書でお話を語る会などを実施し、地域の人材を授業の中で活用している。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、放課後学習や図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。

〇本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事、生徒活動への計画的な導入を図っていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
活動の様子は本校ホームページに掲載　https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教頭　）

心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成23年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：34人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）豊かな言語活動の育成を目指した「読み聞かせ活動」
・本校では、豊かな言語活動を育成するために、朝学習の時間を活用している。年間を見通しながら各単元の言語事項を週に３回の朝学習の時間に学習している。その学習を補足する形で、各月の第１水曜を読み聞かせの時間とし、地域ボランティアの方に絵本などを読み聞かせをしていただいている。
（２）学習環境の整備（教材園の整備、敷地内樹木の整備）
・１・２年生の学年花壇や特別支援学級の花壇では、生活科や生活単元の学習で野菜の栽培を行った。畑を耕したり、除草をしたり、支柱を立てたりとそのお世話の方法を教えてもらいながら、一緒に活動を進めた。１学期の終わりには、たくさんの野菜が実を付け、収穫の喜びを感じ取ることができた。



【　野菜作りを一緒に　】

（３）「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア
・本校伝統行事である「全校ふれあい遠足」において、彦根城までの行程の安全指導ボランティアをしていただいた。広く保護者ボランティアも募り、各たてわり班に２名以上の大人が帯同することができた。途中、交通量の多い交差点や、観光客の集まる場所を通るため、各たてわり班と共に行動することで安全面をしっかりとカバーすることができた。

■　実施に当たっての工夫
◯例年、年度当初に「平田小学校地域学校協働本部事業総会」を開催し、１年間を見通した活動計画を立てている。本年度は４月24日に平田小にて総会を開いた。前年度からの事業の引継や、学校からの要望、ボランティアからのアドバイスなどをもとに年間の計画を立て、共通理解を図った。
◯ボランティアからの要望の多かった「直接子どもたちとかかわる活動を」との意見を生かし、今年度も全校遠足の引率ボランティアの活動をお願いした。また、今年度は２学期末の「校内クリーン作戦」にお掃除ボランティアを募集し、子どもたちと一緒に年末の大掃除に取り組んでいただいた。延べ10名の参加をいただき、子どもたちと一緒に掃除をしながら交流を楽しんだ。その他、１年生の生活科「昔遊びをしよう」の学習で、遊びを教えてくれたり、一緒に遊んでくれるボランティアを募り、楽しい時間を過ごしたりすることができた。

■　事業の成果
◯低学年や特別支援学級の野菜作りでは、普段から野菜作りをしておられる方がボランティアとしてお手伝いに来ていただいた。畑を耕したり、畝をつくったり、支柱を立てたりとポイントを教えていただいた。おかげで立派な野菜がたくさん実を付け、家庭に持ち帰り、ボランティアとの活動を保護者の方たちに知ってもらうよい機会になった。担任からは、「力仕事や除草作業等、これまで放課後等の時間を使ってしていた作業をボランティアの方が行っていただけるので、効率的に時間を使うことができ、教員の働き方改革にもつながる。」という声が出ている。


【　全校ふれあい遠足での出発式　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
◯この数年来事業実施上の課題は同様で、ボランティアの高齢化と固定化である。実質毎月来校いただいている方々は、もう何年も本校をお支え頂いている方ばかりである。なかなか新規のメンバーが増えない。逆に、近年は健康上の理由から退会を申し出る方の方が多く、この事業の維持が大きな課題となっている。今後は、地域コーディネーターと連携を密に図りながら、人材の発掘にどのように取り組んで行くか、共に考えていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
◯ボランティアとの活動の様子を、学校の子どもたちの様子やお知らせとともにホームページで紹介している。
（　https://www.fureai-cloud.jp/hirata-hikone　）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域の力でつくる子どもたちの豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：117 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）登下校の安全パトロールと挨拶
・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち安全を見守りながら、挨拶の声かけをしてくださっている。

（２）体験活動支援
・特別支援学級のさつまいも栽培、１年生活科の「昔遊び」や３年社会科の「昔のくらし」、総合的な学習の時間「昔のあそび名人になろう」の学習活動にゲストティーチャーを、５年家庭科ミシン操作を伴う学習活動に補助をお願いしている。


【　校舎周辺の樹木の剪定　】

（３）読みきかせ・影絵
・朝読書の時間に読みきかせをしていただいたり、全校集会で影絵を行っていただいている。

（４）学習環境の整備
・校舎周辺の樹木の剪定やかまどベンチの板の張り替えとペンキ塗り作業などを実施していただいている。

■　実施に当たっての工夫
〇ボランティアの方々には、単位ＰＴＡ大会時に５、６年児童が書いた感謝のメッセージを掲示し、気持ちを伝えている。また、音楽会やＰＴＡ主催行事には、ＰＴＡから招待し、交流を図っている。

■　事業の成果
〇学習や生活がしやすい学校環境の整備ができた。
〇通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子などを適宜伝えていただくことで学校だけでは気づかない実態を把握することができた。
〇ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
〇地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じ取ることができた。


【　昔あそび名人になろう　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと。
〇子どもたちが、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会をより充実させること。
〇ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなってきたこと。また、ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

彦根南サポートオフィス９年目の取組　　～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校　　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）　　ボランティア登録数：30 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）グリーンカーテンづくり（５～９月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで５年目。地域のボランティアや生徒の手により、今年は「緑のカーテンコンテスト」公共施設部門で入選するグリーンカーテンができた。

（２）図書室環境整備（毎週木曜日）

蔵書数の多い図書室の本の整理やブックカバーかけに、読書活動支援員と共に毎週木曜日に取り組み、生徒が読書に親しむ環境づくりに努めている。

（３）環境整備作業（11 月に３日間）

学校周辺のフェンス際の草刈りを、地域貢献活動として参加した生徒、保護者・地域の方々が協力して行い、刈った草は軽トラック一杯分にもなった。

（４）地域貢献活動（年間）

年度初めに地域の自治会長に中学生が参加できる活動を紹介していただき、活動を通して地域の一員として自覚を育み、地域と中学生のつながりをより深めることができた。



【 図書室環境整備 】



【 環境整備作業 】

■　実施に当たっての工夫

〇地域と学校が連携した活動を推進するために、保護者や地域のボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを作成し、地域への啓発を行った。

〇校区の小学校の地域コーディネーターと担当の教員が定期的に中学校で会議を持って、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。

〇自治会や公民館などの地域の関係団体と連携しながら、地域貢献活動の充実を図っている。

■　事業の成果

〇ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている事業が地域や保護者の方に定着してきていて、環境整備作業は中学生の地域貢献活動と合わせて実施しているため、多くの親子での参加があった。

〇地域コーディネーターが校区の小学校の活動を取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結びつきが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。

〇生徒の地域行事への参加により地域の中学生への見方が変わり、中学生のがんばる姿を肯定的に見ていただけるようになった。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がってきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだで、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。今後は地域の団体や校区にある大学と連携・協働して事業を推進していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校ホームページ　https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域と学校のつながりが生み出す豊かな学び

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ：□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：85 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校では、主に学習支援、読書ボランティア、子ども見守りを中心に地域の方々の協力を受け、学校生活、学習活動の充実を図っている。

〇学習支援

２年生の生活科の学習では、サツマイモの苗の植え方や世話の仕方、収穫の仕方を指導していただいたり、収穫したサツマイモを調理して一緒に食べるパーティーに招待したりして、知識や技能をもつ地域の方々に、学習の充実につながる支援をしていただいた。

総合的な学習の時間には、ゲストティーチャーとしてお話を聞かせていただいたり、直接ご指導いただいたりして、子どもたちの主体的な学びを後押ししていただいた。

３年生では、「地域の伝統文化を未来に伝えよう」の学習で、彦根の無形文化財に指定されている「幌踊り」を体験している。由来や伝統を守っていくことの大切さ、大変さ、今後も地域に生きる子どもたちへの思いや願いなどを語っていただいた。



【はたけの先生といっしょに】

〇読書ボランティア

朝のさわやかタイムの週２回、各教室で読み語りをしていただいた。絵本や紙芝居、動作を交えた語りなど、発達段階に合わせ内容を選んで実施していただき、子どもたちも毎回楽しみにしている。

また、図書室の季節に合わせたレイアウトや掲示も工夫してもらっている。

〇下校時安全確保の取組

安全安心な学校生活を送ることができるよう、青少年育成協議会と推進員、地域住民が協働して自転車での下校時パトロールを行っている。パトロール中のプレートと全方位カメラを装着したヘルメットを身に付けて下校時刻に合わせて巡回していただいている。



【保存会の方に幌踊りを教わる】

■　実施に当たっての工夫

学習については、指導のねらいを明確にして、事前に十分な打ち合わせを行っている。継続的な協働を目指して、中核となる地域の人々との円滑な関係作りを行っている。学習の成果や互いの思いや考えを共有できるよう、対話を大切にしている。実施の詳細については、担当者および学年で記録、評価を行い、次年度につなげていくようにしている。

■　事業の成果

・本物に触れ、体験的に学べる活動が充実したことにより、子どもたちの学びに対する主体性が高まった。
・地域の方とふれあう経験がきっかけとなり、地域においても交流が生まれ、地域への愛着心を育むことにつながっている。
・読み語りで読んでいただいた図書室の本を、自分でもう一度手に取って読む児童も多く、読書の推進につながっている。
・不審者情報の増加で、不安感を抱く児童がいる中、パトロールをしていただくことにより、保護者も含め、大きな安心となっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

新たな学力観、生きる力を育むという観点から、より効果的な新しい取組・事業を模索しているが、人材発掘、確保等、地域の実情によって難しい。自治会・子ども会等と学校の連携を図り、より明確な組織運営ができるようにしていきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者　（　地域連携担当教職員　）

つなげよう　子どもを育む地域の力　　～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：南中学校地域学校協働本部	城陽小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：75 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

第３学年　総合的な学習の時間

「めざせ！城陽はかせ」～今につながる昔のくらし～

子どもたちが昔の生活の様子について知っていることは、祖父母等から聞く、めんこやビー玉などの遊びについてがほとんどであり、本単元の目標「昔の道具やそれらを使っていた頃の暮らしの様子について調べ、人々の生活の移り変わりについて考える」を達成することは難しい。指導計画の作成にあたっては、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うことについても配慮事項となっていることから、３年生児童の祖父母を中心に、地域のことをよくご存知の方にゲストティーチャーとしてご来校いただき、各々の課題解決につなげることができた。教室やオープンスペース等に、テーマごとにコーナーを設定し、ゲストティーチャーに質問をしたり、話を聞いたりして学習を進めた。今の暮らしの便利さだけに焦点をあてるのではなく、時代の背景やその変化と人々の暮らしは密接にかかわりあってきたことを改めて見つめ直したり、昔の生活の様子に思いを馳せながらその時代の人々のかかわりやそれぞれの果たす役割、立場などについて深く考えたりする有意義な機会となった。また、「城陽子どもまつり」では、地域の方を招いて自分たちの学習の成果を発表し、さらに学びを深めることができた。



【地域の方からお話を聞く様子】

全学年　読書活動

地域の方に図書ボランティアをお願いし、図書室の本の整理や、新刊図書が入ったときの本の登録、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどをお願いしている。また、毎週火曜日８：30～８：40、学級毎に読み聞かせをお願いしている。今年度は地域ボランティアの方も増え、毎週７～８人来ていただいている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。さらに、春と秋にお話会を行い、ひこね市児童図書研究グループの方に読み聞かせをしていただいた。様々な工夫でお話の世界に浸ることができ、想像力を掻き立て豊かな心の育成につながった。



【ひこね市児童図書研究グループによるお話会】

１年生の給食指導ボランティア

滋賀県立大学の学生に、年間を通じて週に１回程度、事前の準備の手伝い、給食の食べ方、食育指導等、１年生の給食指導に来ていただいた。

■　実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。また、「学校だより」やホームページを通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

■　事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話しいただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで、学校とのつながりをより深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　［地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

We Love かめやま

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援をしていただいている。植え方を丁寧に指導いただいたおかげで、今年も豊作となった。また、学校花壇の花の育苗も手伝っていただいた。育った苗を近隣の施設や地域の独居老人に届ける活動は、本校の伝統となっている。配達は子ども達が行うが、配達先の多い町はその町のボランティアにお手伝いをお願いした。

（２）家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、満足のいく活動となっている。


【　家庭科　ミシン学習　】

（３）学力向上への支援

夏休みに、全校児童対象に学力補充教室（算数・国語教室）を開催している。今年度は、地域の教員ＯＢ８名に入っていただき、個別指導に当たっていただいた。

（４）ふるさと学習への支援

３年の地域学習や２年の生活科などでも、地域のことをボランティアの方々から詳しくお話をお聞きし、ふるさとへの思いを深めることができている。年度末には、亀山っこ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、１年間のふるさと学習の成果を披露している。

■　実施に当たっての工夫

〇地域コーディネーターは、長年安全ボランティアとして尽力いただいた方にお願いし、学校の事情や子どもの実態について理解していただいている。前コーディネーターとの連携を密にとり、栽培活動時などは、お二人で学校に出向いてくださっている。

〇担当教職員とコーディネーターが打ち合わせを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。


【　地域学習　校区探訪　】

〇校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの活動の様子を子どもや保護者、地域に発信している。

■　事業の成果

〇コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。

〇ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。

〇支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声を掛け、助言をしてくださっている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。

〇さまざまな活動場面でボランティアの支援がほしいところであるが、限られた補助金の中、多くの方に来ていただくことは難しいのが現状である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ　：　https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人　ボランティア登録数：25 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）


【　緑のカーテンの設置　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）地域貢献活動への参加協力
・年度初めに自治会長さんに学校年間行事やボランティア活動を紹介し、各地域で中学生が参加できる活動を募った。地域や校園、各種団体から依頼された活動を生徒に紹介し、ボランティアを募り、参加者を報告した。生徒には参加後に報告書を学校へ提出し、参加率の高い生徒は年度末に表彰した。

（2）学校行事などへの参加協力
・長距離遠足の交通指導、合唱コンクールなどの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備（葉刈り、除草作業等）などの活動を行い、地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集した。
・今年度は新たに、秋に中庭の葉刈り・除草作業を行った。
・年間を通して、校長室および正面玄関に、観賞用の花を設置してもらった。

（3）緑のカーテンプロジェクト(取組６年目)
・４月中旬に３年生の学年集会で取組の説明。５月上旬に支柱作り、ネット張り、プランターに移植。
移植後から、環境委員会や各部活動およびボランティア部による水やり。９月下旬に支柱の撤去作業。
・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

（4）ゲストティーチャーによる特別講義や支援員の協力
・ゴーヤグリーンカーテン講座（３年）　・助産師による性教育（１年・３年）　・職場体験前のマナー講座（２年）

■　実施に当たっての工夫
・学期に１回の地域コーディネーター担当者会議を開き、活動の反省と今後の予定について協議してきた。
・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
・学区内の小学校とも連携をとりながら、進めることができた。
・地域コーディネーターの顔写真を入れたポスターを作成し、活動を紹介するよう校内に掲示した。

■　事業の成果
・生徒が地域の一員として地域貢献活動のボランティアに参加する中で、感謝の心を持ち、地域の良さを知る機会となった。
・緑のカーテンプロジェクトは取組６年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちでよくしていく意識づけになった。
・長距離遠足では、水分補給、交通指導、同一歩行等、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、生徒たちも地域に守られていることを実感できた。


【　中庭除草作業　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・活動の様子を、学校通信と本校ホームページにて紹介している。
https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

地域の方に見守られ、支えられて育つ「かわせっ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：65 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）「食べ物はかせになろう」（３年）

総合的な学習の時間には、年間を通して「食べ物はかせになろう」というテーマで、食育に取り組んでいる。大豆に焦点を当てて、丁寧に探求的な学習を進めている。本校には地域に大豆畑があり、豆腐作りやずんだ餅作りに協力してくださる方がおられるので、充実した活動ができている。



【　ずんだ餅作り　】

（２）「町探検」（２・３年）

２年生の生活科、３年生の社会科で町探検に出かけている。東西南北、それぞれの地域を訪ねて行き、地域の方にその施設の役割や歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。



【　大豆畑の見学と収穫　】

■　実施に当たっての工夫

〇年に３回、中学校ブロックでコーディネーターの方との話し合いをもち、ＰＤＣＡサイクルで活動を進めることができている。年度当初の話し合いでは、昨年度の実践を元に今年度の計画を話し合った。年度途中の話し合いでは、他校の実践を聞く機会があり、活動の参考となっている。

〇「学校だより」を通して、学区全体にボランティアの募集の呼びかけをしている。本年度は新たに、安全ボランティアやエプロン製作の支援を申し出てくださる方があり、ボランティアとして登録してくださる方が広がっている。

■　事業の成果

「食べ物はかせになろう」

〇学習過程の中で、体験活動を多く位置づけることにより、子どもたちの興味が深まり、学びが深いものになっている。
〇大豆という教材を通して人と関わるとてもよい機会になっている。地域の方とのつながりが深まり、普段の生活の中でも、自然にあいさつを交わすなどあたたかい関わりができている。

「町探検」

〇地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を自慢や誇りに思う気持ちが育っている。
〇あたたかく見守っていただくことで、子どもたちが安心して活動に取り組め、感謝の気持ちが育ってきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇年度当初に、コーディネーターの方を紹介し、その役割について本校職員が理解をする場を設けることが大切である。
〇できるだけ早めに、お願いしたい内容と日時をコーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただけ、よりよい「連携･協働」に向けての準備ができる。
〇ＰＤＣＡサイクルを大切に、よりよい活動になるよう、双方向での意見の交流を大切にしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、その都度、学校行事の案内を届けることによって、参観に来ていただき、子どもの様子を見ていただいている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域の力を学校に～地域、保護者、学校が一体となって取り組む学ぶ力の育成～

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：80 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【伝統的踊り「カボチャ踊り」】

主に、２年生を対象にした活動である。町探検で地域の文化センターを訪問した際に保存会の方に踊りを見せていただくところから始まった。その後も学校へ数回出向いていただいたり、週末や夏季休業中に地域で行われている練習に子どもたちが自主的に参加したりして、保存会の方や地域の皆さんと一緒に踊りを教えてもらい楽しんだ。また、今年は雨天のため中止となったが、踊りを運動会で保存会の皆さんとともに披露し、全校、保護者、地域への発表の場とする予定だった。



【保存会によるかぼちゃ踊り】

【中山道の探検】

３年生は社会科の学習でスーパーマーケットの見学に出かける。地域のスーパーマーケットであるフタバヤへ安全に行き来するため、ボランティアの方々に見守りをお願いした。店内でも周りのお客さんに迷惑にならないよう、見守っていただいた。そのおかげで安全に見学を行うことができた。

【狂言の出前授業】

６年生の国語科「伝えられてきたもの」の学習で、狂言「柿山伏」について知ることと関連して、地域コーディネーターの方を通して、狂言を演じておられる「おとせ会」の方に来ていただいた。実際に演じられる柿山伏を、子どもたちはとても興味深く熱心に見ていた。そして、その後の授業で特徴的な動きを真似して自ら柿山伏を演じるなど、事後の学習に生かすことができた。



【狂言「柿山伏」の実演】

■　実施に当たっての工夫

・事前の打ち合わせの中で指導者の願いはもちろん、支援者の思いも受け入れつつ、「地域のよさを学ばせたい」という学習のねらいを明確にすることで、活動がいっそう充実したものになるようにした。

・家族以外の地域の方とのふれあいを通して、自分たちが多くの人に支えられ、見守られ、大切にされているということに気付けるようにした。

■　事業の成果

【伝統的踊り「カボチャ踊り」】

高宮学区は近年、新興住宅地が増え、保護者や地域には「『かぼちゃ踊り』を知らない」という方も数多い。そのため、子どもたちが地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする態度を養う上で、大切な活動であると考える。子どもたちも高宮の伝統文化を感じることができ、楽しんで活動する姿が見られた。

【狂言の出前授業】

６年生では、国語科や音楽科などで伝統芸能を学び、古き良き日本の文化を知る学習が設定されている。教科書や音声だけでは、知識として理解したり想像したりすることしかできないが、実際に観劇させていただくことで自分に身近なものとして日本の伝統芸能を感じることができた。観劇後の子どもたちの様子からもそのことが感じられた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちや教員は、直接支援いただいた方の顔は分かるが、コーディネーターや他学年の活動支援者は知らないことが多い。コーディネーターの方と年度当初の顔合わせ会、年度終わりに感謝の気持ちを伝える場が設定できるとよい。昨年度は、活動が継続できるように支援者バンクの確立をしており、子どもたちの学習への関心を高める体験的活動等を地域学校協働本部事業が支える基盤を作ることができた。今後もこの支援者バンクをさらに拡大していき、地域と学校が協働して子どもたちの学習活動を支えていきたい。また、来年度に向けて年度末に地域学校協働本部事業の年間計画を作成し、保護者（PTA）や職員が入れ替わっていくことで危惧される本事業の継続的な取組に備えたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

彦根市立高宮小学校ＨＰ→https://www.fureai-cloud.jp/takamiya-hikone/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（各学年主任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人　ボランティア登録数：200 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）


【男鬼森林学習：伐採】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）男鬼森林学習

学区有林（財産区共有山林）の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

☆１年・・・植樹　２年・・・伐採　３年・・・活用する

（2）地域との連携

☆宿場祭り　・・・鳥中ソーランの披露、木材加工品の販売、さんあかグッズの販売
☆学区運動会・・・吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏、中学生が役員として活動
☆学区文化祭・・・３年生卒業研究の発表、吹奏楽の演奏、３年生合唱の発表

（3）さんあかレンジャー

あいさつ運動で小学校に行って活躍している。10 月に１年生より新メンバーを選出し、認証式を実施した。

■　実施に当たっての工夫

〇鳥居本学園地域学校協働本部協議会を年３回もち、１学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をしている。２学期は中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。３学期は年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■　事業の成果

〇地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生（中学校）がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感をもたれている。さんあかレンジャーの活躍や地区運動会、宿場まつり、学区文化祭での活動に特に表れている。

〇地域学校協働本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老壮会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、３学期には、１年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇１小学校・１中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。今年度は、体育大会を小中合同で開催した。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員
□その他（　　）


【宿場祭り　鳥中ソーラン】

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

「ふるさとと共に生きる喜びを」　地域とつながる体験活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成21年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：約100人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇全校　「たてわりウォークラリー」

鳥居本の新たなよさを発見し、ふるさとを大切にしようとする心情を育てることを目的とし、今年度は佐和山城跡遺跡、鳥居本映画撮影所を見学して回る活動を行った。滋賀県文化財保護協会、鳥居本オープン、ＪＡ鳥居本支店、旧鳥自治会、地域ボランティアの協力を得て、たてわりのメンバーで地域を歩き、自分の目で見て、本物に触れ、地域の歴史やよさを学ぶ機会となった。また、最後は自分たちで苗植えから収穫まで行ったサツマイモをＪＡさんが焼き芋にして振る舞ってくださった。


【　たてわりウォークラリー　】

〇４年　総合　「矢倉川調査隊」

６月に鳥居本在住の彦根市環境保全員さんの協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物や水質調査を行った。きれいな川にすむ指標生物が数多く見つかった。また、学校では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質もきれいであることを発見した。子どもたちはこうした地域の川を、これからも大切にしていかなければいけないという思いをもった。


【　矢倉川調査隊　】

■　実施に当たっての工夫

学校側のねらいを、地域コーディネーターに伝え、打ち合わせを十分に行った。その結果、活動に必要な情報や人材をコーディネーターから紹介していただいたり、新たな活動に発展させたりできた。

■　事業の成果

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、活動への支援や参加数も徐々に増えている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の豊かな教育力や教材を学校教育に生かせるよう、今後も地域との連携を密にして活動を行っていきたい。また、地域への発信を充実し、児童のより主体的な学びを後押ししたい。

今後は、地域にある主幹団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、体育振興会など）と学校とがさらに連携を深めて活動を行っていくことが望ましい。組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ　https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/　小中学校の様子をお知らせしています。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域への貢献活動を主とした地域協働活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合→学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：10 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　■その他（青少年育成協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
地域の諸団体と共に行う地域貢献活動（サマーフェスタ・稲枝地区文化祭）
・夏のイルミネーション（稲枝ルミネ）の準備・飾り付け・後始末
バスケットボール部(男子)　バレーボール部(女子)
・サマーフェスタや地域文化祭におけるブラスバンド部の演奏
・稲枝駅前環境美化活動
バスケットボール部(男子)　ソフトテニス部(女子)　個人参加４人


【稲枝ルミネ看板の電気配線作業】

上記の３点の活動は、稲枝地区の諸団体（連合自治会、稲枝地区公民館、青少年育成協議会、青少年指導委員会、稲枝地区福祉協議会等）の協働事業であり、それぞれが補完し合いながら進めている伝統的な毎年の行事である。これらの活動に中学生が、地域の大人の中に入り一緒に汗を流す活動となっている。この活動に対し、稲枝地区青少年育成協議会会長の松宮さんから次のようなメッセージが届いている。地域の方から感謝され、やりがいのある活動となっている。

「地域に貢献する稲枝中学生」

稲枝地区青少年育成協議会会長　松宮幸彦

６月８日に中学生二十数名と一緒に駅前環境美化活動のフラワーポットにベゴニアの植えつけをしました。途中、雨が降ってきましたが、中学生のみんなは軒下で雨宿りすることもなく、全てのポットに苗を植えてくれました。そして、水やりを駅近郊の中学生等有志五名が昨年に引き続き担当してくれました。とてもありがたいです。その様子を見られたら声をかけてあげてください。

夏休み、イルミネーションの準備に、中学生二十数名が来てくれました。暑い中、汗をかきながらフェンスに大きなパネルを張り、電球を一つ一つ差し込み、「稲枝ルミネ」の一部を飾ってくれました。当日はきれいに点灯しました。また、後片付けにも別の中学生二十数名が参加してくれました。この他にも、いろいろな行事に参加し、地域の一員として、地域のために貢献している姿をよく見られます。稲中生なしに「稲枝ルミネ」は実現しません。本当にありがたいことです。

■　実施に当たっての工夫
〇地域の行事や学校の行事は、あらかじめ期日が決まっているので、ボランティアの依頼や、各種団体との連絡調整は早めに行っている。

■　事業の成果
〇地域貢献活動に参加することによって、地域へのアイデンティティを感じたり、自分たちも地域づくりに参画しているんだという意識が育ってきている。今年度実施した生徒対象アンケート「あなたのふるさと稲枝に愛着を感じていますか（ふるさと稲枝が好きですか）」の問いには、「はい」と 92%の生徒が回答している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動の工夫や展望
〇活動が分業分担制になっているので、中学生と地域の人が同じ場で声をかけ合って活動できる場をもっと多く設けると、中学生にとって実りある社会体験活動となる。
〇稲枝中学校では、学校評価委員会において、学校の取組を点検してもらっているが、その場で、各種団体が稲枝中学校の未来志向として、どんな連携･協働活動できるのかを模索し、計画実行していくとよりよい稲枝中学校がイメージできる。

■　その他
稲枝中学校ホームページ https://www.fureai-cloud.jp/inae-jh-hikone/　活動は、写真等で紹介している。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（部活担当顧問）

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：28 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）



【焼きいもを受け取る児童】

２年生は、生活科の学習でボランティアの支援をいただいている。学級園で栽培していたサツマイモの収穫を祝う「焼きいもパーティー」では、石焼きいも作りを行ったが、その際、４名のボランティアに協力していただいた。これまでにも、一人一人が育てたピーマンやきゅうりなどの夏野菜を収穫しているので、サツマイモの収穫にも喜んで取り組む姿が見られた。

ボランティアの方々は、２年生の子どもたちに分かるように、火起こしの大事な点や、アルミホイルで包んだサツマイモの並べ方などを話してくださり、子どもとともに活動に入ってくださった。子どもたちは、ボランティアの方々とのふれあいを通して、人との関わり方を学ぶことができた。また、地域の方の温かいまなざしに触れることで「わたしたちのために来てくださっている」という感謝の気持ちや「楽しく過ごせる学校を大切にしたい」という愛校心を育てることにもつながっている。

■　実施に当たっての工夫

・隣接する稲枝東幼稚園が焼きいもを作るための道具を保管されていること。また、近隣の保育園や幼稚園、小学校が焼きいもパーティーを開催する際には、道具の移動も考慮に入れながら日程調整をしてくださっていること。こういった支援体制が中学校区として整っている。
・継続的に支援活動を依頼することにより、人材の確保と実施機会の確保ができ、支援体制の確立につながっている。
・活動の実施にあたっては、ボランティアの方からアイデアをいただくことも多く、日々のコミュニケーションを豊かにし、学校とボランティアの方との風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく上で重要であると考える。

■　事業の成果

・ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることもあり、学校支援への熱い思いがボランティアの方々の間で引き継がれている。
・従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。
・年間を通して関わってくださる活動もあり、子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えてくださるので、児童理解や指導にも役立っている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学習支援・栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、さらなる活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介しています。
(https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/)

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

「ALL　はえみ」：地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：46 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［クラブ活動］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

特色ある学校作りとして、本校では「花作り」に伝統的に取り組んでいる。『メイン花壇』は、我が校のシンボルであるが、花作りの目的は「子どもたちの優しい心、思いやりの心を育みたい」という地域と学校の共通の願いの実現である。

メイン花壇の中心的な担い手であるフラワー委員や６年生の子どもたちは、地域の方々と共に、土作りや種まき、苗の植え替え、除草、水遣り等の活動に取り組んだ。小さな小さな種を１つ１つピートバンに植える、苗が根付くように黒ポットや花壇に植え替える作業は、根気の要る地道な作業の繰返しである。地域の方の黙々と作業に取り組まれる姿、惜しみないサポート、「上手くできたな」とほめてくださる心のこもった言葉から、汗を流して働くことの気持ちよさや協力して活動することの大切さや、心地よさを感じ取って欲しいと願い、活動を行った。



【メイン花壇の植え付け】

■　実施に当たっての工夫

今年度は、フラワーサポーターを地域から広く募集し協力を得た。また、「フラワーサポーター便り」を発行し、花作りの目指しているもの・取組の様子や子どもたちの姿等を発信した。子どもたちの「生の姿」をたくさん見ていただきたいと思い、毎週火曜日に実施している「フラワータイム」への誘いかけも行った。

■　事業の成果

地域の人と一緒の作業には自然と笑みがこぼれた。子どもの活動を見守り、温かく話を聞いてくださる地域の方々から多くを学び、日々成長していると感じる。毎週火曜日の朝（８：20～８：35）は、『フラワータイム』として、全校栽培活動の時間を位置づけ、花作りに関わる活動と学級園の野菜作りに取り組んでいる。「今日は、フラワーや！」と、元気よく外に飛び出し、15 分間の活動に惜しみなく汗を流す姿に成果を感じる。

長期休業中の水遣りは例年、教職員が交代で１日２回行っているが、フラワーサポーターの皆さんからお声がけをいただき、ご支援いただいた。学校の花壇から学校と地域の大切な花壇へと広がった。



【　地域の人と一緒に作業　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

「きれいな花が咲けばうれしいが、それが最終目的ではない」と「フラワーサポーター便り」に載せると、「何を意図して花作りに学校が取り組んでいるのかが、よく理解できました。一緒にできること、手伝えることがあれば、いつでも言ってください」と返事をもらうことがあった。また、「学校のために何かやりたいと思っている人は、たくさんいると思う」と話してくださった方もおられる。地域の方の思いを受け止める場や気持ちを発信していただく場を設定する仕掛けが要ると感じる。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（担当教諭）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校地域学校協働本部	稲枝北小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

＊「稲村かるたオリエンテーリング」（令和元年５月 24 日実施）

今年度で 30 年目の本校恒例の行事。豊かな自然の中、文化財を巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心を育むことをねらいとしている。

縦割り班グループでオリエンテーリングを行うことで、異学年の児童間の協力と信頼の気持ちを育てることができる。今年度は薩摩･柳川方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を巡った。各班には、支援ボランティアの方が複数名ついてくださり、安全も確保できた。各ポイントでは、現地で歴史遺産を見学したり、地域の学習支援ボランティアの方による説明を熱心に聞き、問題に答えたりと有意義な活動となった。地域の方は、地域の歴史や文化を継承するため、自ら資料等を調べ、子ども向けに分かりやすく資料を作ったり、引き継いで話をしてくださる方を探したりと、この活動が持続発展できるよう協力してくださっている。



【　稲村かるたオリエンテーリング　】

■　実施に当たっての工夫

・「甲崎、薩摩、柳川方面」「下岡部、上石寺、下石寺方面」「上岡部、田原、出路方面」の３コースを、３年間で１回ずつ体験することにより、４年生以上は、２回目のコースとなり、学びもさらに深くなるようにしている。
・夏季休業中に、次年度のコースの現地研修を行い、教員自身が地域を知り、また、地域の方とつながるようにしている。
・各ポイントの担当教員が話をしてくださる方と打合せを行い、子ども達に伝わるような言葉で説明をお願いしたり、時間配分などを確認したりし、スムーズに進むよう工夫している。
・事前に各ポイントを下見し、安全が確保できるようにしている。危険な箇所は、ボランティアの方にも伝え、気をつけていただくようにしている。

■　事業の成果

・地域の方から地域について学ぶことを通して、地域の人や遺産のよさも同時に感じ、地域に誇りを持つ児童が増えることにつながった。
・児童数の減少に伴い、なかなか行き届かない環境整備を支援していただくことで、気持ちのよい環境で学習させていただいており、感謝の気持ちも育ってきている。
・児童とボランティアとのつながりが深くなり、町で出会ったときにも挨拶をすることができる。
・学力補充では、苦手な部分をしっかり指導してもらうことができ、児童も分かるうれしさを感じながら取り組んでいる。学習支援員も、指導後に担任と密に連絡を取り、次の指導に生かすことができている。
・木曜日の読み聞かせを児童はとても楽しみにしており、ボランティアの方も、学年に応じた本を熱心に選び、互いに楽しみながら継続できている。毎学期の終わりにはお話ボランティアの交流会をもち、本選びのコツ、児童の様子などを交流することでさらに充実してきている。



【　お話ボランティア交流会　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

高齢化が進み、新たな人材発掘が難しく、ボランティアのなり手が減少してきている。また、担当教員の異動等により、地域の方との連携の継続が難しいことがある。ボランティアバンクを毎年見直し、全教職員が協働活動の仕組みやよさを理解し生かすことが大切である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

「子どもたちの笑顔のために」　チームわかバンク５年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：６人　ボランティア登録数：60 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［　畑の活動　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）畑の活動から地域とつながりを深める「収穫感謝祭」の取組

一昨年度から実施している夏の「収穫感謝祭」。今年度は収穫感謝祭に活用できるように、学年ごとに育てる夏野菜を決め、苗植えから水やり、草取り等、育てる過程を大切にしながら、野菜の成長を直に見ることを通して、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるように配慮した。収穫感謝祭の内容については、学校とわかバンク（若葉小学校の地域ボランティア）の皆さんで、過去２回の成果や課題を話し合い、児童の参加の仕方やＰＴＡとの連携、暑さ対策等について話し合った。


【収穫感謝祭・夏野菜カレー】

７月 24 日に児童が畑で夏野菜を収穫し、翌 25 日に第３回収穫感謝祭を実施した。当日、参加児童は学校教員による「若葉の森○×ゲーム」や「野菜ビンゴゲーム」で楽しい時間を過ごした。その間にわかバンクの皆さんや教職員、地域の中学生、ＰＴＡの方々で夏野菜カレーを作り、食事タイムでは和やかな雰囲気でカレーを食べることができた。食の大切さや収穫の喜びを感じるとともにみんなで集い子どもたちの笑顔を真ん中に、地域、保護者、そして教職員が「一つの輪」を作ることができた。

（２）校外学習引率

３年生の社会科学習では、近くの大型量販店に出かけ、自分の生活と販売の仕事との関わりを考えるため、校区内の平和堂見学を行った。店内で班ごとに分かれて調査活動を行う際に、児童だけの活動では周りのお客さん等に迷惑をかけてしまうことがあるが、わかバンクの皆さんに店内各ポイントにて見守っていただくことで、安心してグループで調査活動を行うことができた。また、このような児童とわかバンクの方とのつながりを作ることで、別の学習では、わかバンクの皆さんを招待して学びをまとめた発表会を行った。見学に同行していただいた方だけでなく、普段、登下校や読み聞かせ等でもお世話になっている方もお越しいただき、子どもたちは相手意識・目的意識をもって、張り切って発表することができた。２年生の町探検も、５班編制で地域へ調べ学習に出かけたが、その際にもわかバンクの方に同行していただき、昨年同様、意義ある活動になった。


【３年生平和堂見学　】

■　実施に当たっての工夫

○「収穫感謝祭」では、地域コーディネーターが中心になって、収穫感謝祭の実施について、その意義等を地域の各種団体長や自治会長へ話をしていただき、地域からのご理解のもと、賛助金をもとに収穫感謝祭をより充実させることができた。夏の暑い時期での活動でもあることから、暑さ対策として散水ミストの効果的な活用や冷房の効いた室内での活動もよかった。事後に運営協議会にて振り返りを行い、無理なくいつまでも続く活動をしていきたい思いを共有することができた。

○「２年生の町探検」や「３年生の平和堂見学」では、事前に学習のねらいをわかバンクの方と共有し、学習のねらいが達成できるように、児童が困っている際には的確に声をかけていただき、児童が自分たちで見学し学習を深めたという達成感をもつことができた。

■　事業の成果

○地域コーディネーターを中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」の４つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

○「子どもたちの笑顔のために」という熱い思いで、学校の様々な活動へ協力していただき、「地域の方」から「わかバンクの方」へと、児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。また、英語科学習や防災学習では、地域の中学校、高等学校とも連携を図り、地域とのつながりを広げることができつつある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTA をはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。

○学校運営協議会との効果的な協働を図るため、学校評議員と運営協議会、わかバンクの組織を見直す必要がある。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域の宝を学校に！

近江八幡市	活動名：八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：123 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今年度、新たにボランティア登録をしていただいた方が 11 名あり、８年目の本年度は 123 名となった。活動は大きく分けて次の６分野にわたっている。

①環境整備･･･花壇整備、花の植え替え、樹木剪定、剪定後の枝葉処理、生け花、図書事務、運動会テント設営・撤収

②絵本の読み聞かせ･･･１・２年は毎週、３・４年は隔週、５・６年は１ヶ月に１回、朝 10 分間

③学習支援･･･水泳指導補助、合唱伴奏、ミシン補助、ソーイング補助、ヨモギ団子作り、ピザ作り補助、さつまいも調理補助、おでん作り補助、八幡堀学習、組体操補助、九九聞き取り、英語ボランティアなど

④児童引率補助･･･校区たんけん、町巡り、八幡山、校外学習引率など

⑤クラブ活動支援･･･家庭科クラブ、日本伝統文化クラブ、卓球クラブなど

⑥栽培活動支援･･･さつまいも栽培、夏野菜作り、へちまの棚作り、大根作り、北之庄菜作り等



【　家庭科ミシン指導補助　】

■　実施に当たっての工夫

１階に設置しているボランティアルームにおいて、打合せをしたり、活動前後にボランティアの方々に休憩をしたりしていただいている。ボランティア活動を通して地域の方々自身がお互いにつながりを深めたり、ボランティアの方同士で情報交換・調整をしたりしていただいている。また、活動内容を幅広く知ってもらうため、校内の掲示板を活用して実施内容を紹介している。ボランティアの方々と教職員には「ボランティア通信」を発行することで、他学年の実施内容を互いに知ったり、ボランティアの輪が広がったりすることを目指した。自治会へは、年度の終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。

年度末にはボランティア交流会をもち、６年生を送る会を参観するとともに１年を振り返って成果や課題を確認し合っている。

■　事業の成果

・ボランティアの方々は支援してくださる中で、子どもとかかわる楽しさを味わい、得意なことが発揮できた達成感を感じるなど、充実した時間を持つことができた。

・子どもたちは、地域のボランティアの方々から学んだり、支えていただいたりする中で様々な人とのふれあいやつながりを感じ、地域に生活する一人としての自覚が芽生え、地域への愛着が深まった。

・ボランティアの方々に学習支援をしていただく中で、教員が豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習を創り出すことができ、学習内容も充実した。

・協働活動推進員がきめ細かく動いてくださることで、教員が打ち合わせにかける時間を短縮できた。

・事業開始からの年数を重ねることで、学習支援活動にますます広がりが出てきた。



【　夏野菜を食材にしたピザ作り　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学習や取組の中には、前年度までの計画をそのまま取り入れてしまい、担任が十分にねらいを把握できずにコーディネーターやボランティアの方に頼ってしまうことがあった。事前・事後学習も合わせて「子どもたちにどのような力をつけさせたいか」等の目標を定かにしてボランティアを依頼していきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

「ふるさとを愛し　瞳輝く島っ子」を　地域と手を取り合って育てよう！

近江八幡市	活動名：島小学校地域学校協働本部	島小学校　学校運営協議会 ：■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：340 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（島学区まちづくり協議会）



【　船に乗って権座へ　いもほりに　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）郷土学習、食育・環境学習、各教科等の学習支援

〇ふるさと学習　環境学習　（まち探検　むべ園見学　西ノ湖学習等）

・３～５年「ふるさと島を味わおう」

３年「ヨシ・菜の花学習」

（ヨシちまきづくり　ヨシの働き　ヨシとくらし　ヨシ原の保全　ヨシ刈り　ヨシ工作　地域の祭り　菜種栽培等）

・４年「ヨシ・菜の花学習」

（菜種栽培　菜種収穫　菜種油を使ったクッキング　松明づくり【地域の伝統の技を学ぶ　ヨシと菜種で松明を作成】）

・５年「ヨシ・菜の花学習」（松明奉納　【祭の際に点火】）

〇授業支援（昔遊び 昔体験 防災教育 ミシンボランティア 雅楽体験 米づくり 等）

〇エディブル・スクールヤード活動への支援（栽培　調理　食育　農業体験）

〇行事支援　（島アドベンチャー【全校登山】　持久走大会等）

（２）見守り活動

・保護者による下校時の巡回パトロール「見守り車パトロール」

・地域の方による登校、下校時の見守り「見守り隊」

・地域の方、保護者による朝の見守り　「行ってらっしゃい運動」



【　消防団による防災教室　】

■　実施に当たっての工夫

〇ふるさと学習の年間計画を見直し、教員も地域研修をすることで子どもたちに必要な活動の精選と充実を図ることができた。

〇推進員と担任の打合せの時間の確保が難しい現状があるため、教務や教頭が学習の内容や流れを担任と相談して把握し、推進員や地域ボランティア、島学区まちづくり協議会等との連絡調整を心がけた。

〇地域の方に支援いただいた活動内容や学習の様子を、学校だよりやまちづくり協議会だより、学校ホームページなどで発信し、子どもの様子や感謝の気持ちを伝えるよう努めた。

〇まちづくり協議会との連携を密にし、お互いの活動に協力し合える体制を作った。

■　事業の成果

〇毎年、活動を積み重ねていくことで、ボランティアの人数も増え、地域の方が来校される機会が増えた。

〇地域の自然や、伝統文化について地域の方とともに学ぶことで、大切に受け継いだ思いや生き方にふれることができた。

〇地域の方の支援を受け、見守られることで子どもたちに安心感を持たせることができるとともに働き方改革の一助ともなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇推進員や地域ボランティアは経験が豊富であり、十分な支援をしていただけるが、担任が単元全体を見通し授業を組み立てて取り組まなければ活動ありきになり学習が深まらない。

〇担任教員が地域に愛着をもち学習を進められるよう、教材研究、地域の方との交流を進めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇協議会では、地域と協働して子どもを育成するという視点から、学校や児童の課題についても伝え地域の支援をお願いしている。委員の方々からも、学校の課題を受け支援の充実を目指す取組が話し合われた。委員の皆さんが所属されている団体との連携も進んだ。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

沖島の自然や文化、地域から学び、豊かでたくましい子どもの育成を目指して

近江八幡市	活動名　：沖島小学校地域学校協働本部	沖島小学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○ ふなずし作り

地元の漁師の方にニゴロブナを調達していただき、うろこや内臓を取り、塩漬けするところから、塩切り、本漬けまで年間３回、丁寧に指導していただいた。

○ サツマイモの苗植え～水やり～収穫と調理

ボランティアの方の協力を得て、沖島のやさしいアイスの材料であるサツマイモの苗を植え、当番で水やりを行い、収穫した。

収穫したサツマイモの一部を全校で調理して、食べた。

○ おきしま通船での避難訓練

通学や島外への移動に使うおきしま通船で、消防署の方を講師に招いて避難訓練を行っている。着衣に通船のライフジャケットを装着して、実際に浮く体験もプールで行った。

○ 沖島太鼓の練習

クラブ活動の時間に全校で沖島太鼓の練習に取り組んでいる。年間数回、専門の先生に指導を受けている。地域の行事に参加して演奏し、練習の成果を披露している。

○ 島民災害避難・水難救助訓練

沖島町自治会と近江八幡警察署、東近江行政組合消防本部主催の訓練に全校で参加した。大規模地震が発生したとの想定で消防艇・警備艇・おきしま通船にて避難した。



【　ふなずし作り　】



【　おきしま通船での避難訓練　】

■　実施に当たっての工夫

○ 沖島のよさを感じられ、地元の方々の願いに触れられるような体験になるように心がけている。

○ プロの方の指導を受けられる機会を作っている。

■　事業の成果

○ 地域の方から指導を受けたり、話を聞いたりすることにより、沖島をより身近に感じることができた。

○ プロの方に指導を受けることにより、学校だけでは教えられない体験をすることができ、子どもたちが意欲的に活動に取り組んだ。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○ 沖島の文化・産業に携わる方が高齢化しているため、若い世代の方と連携を取りながら、講師の発掘を進めていかなければならない。

○ 沖島の活性化につながるような活動に取り組んでいきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○ 活動の様子を学校 HP（http://www.fureai-cloud.jp/okishima-es/）や学校だよりで保護者や島民に広く周知している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

～『学校と地域の両輪で』地域と協働した学びを～

近江八幡市	活動名：岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合→学校運営協議会との協働： □有 □無

地域学校協働活動概要

開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：180 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体

■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇５年生は、営農組合や農業委員さん、ＪＡの方の支援・協力を得ながら田植え、稲刈りの体験活動をした。また、低学年は、畑や個人の鉢で野菜づくりに取り組んだ。地域の「野菜の先生」に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、いろいろな野菜を育て収穫することができた。収穫祭では、お世話になった方々を招待し、地域の方とふれあう機会とすることができた。

〇４年生は、「琵琶湖一周鉄道の旅」の学習で、各クラスが調べたい市町を考え、班ごとに湖北・湖南に別れ、活動を行った。その際、各班に地域ボランティアが付き添い、児童が安全に活動できるように支援をしていただいた。実施に見学することで、自分たちの住んでいる地域との違いに気づき、より深く考える体験型の学習となった。

〇２、３年生のまち探検等、校区内を移動する際、交通量が多い場所や交差点などに立ち、児童の安全確保に協力いただいた。２年生の校外学習では、JR や施設等の利用時に児童の引率補助に協力いただいた。



【　５年生　田植え　】



【　１年生　さつまいもの調理　】

■　実施に当たっての工夫

〇地域学校協働活動推進員は、主に地域のボランティアさんとの調整を行い、学校は外部講師の依頼をしている。

〇図書ボランティアさんとは、年度当初と年度末に打合せや総括の会議を行い、学期ごとに計画の作成をしている。

〇学校だよりを学区全戸に配布し、支援活動等を適時掲載して地域に発信している。

■　事業の成果

〇地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。

〇子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。また、ボランティアさんに礼状を渡したり、収穫祭などに招待したりして、感謝の気持ちを表す取組などを通して、社会性や感謝の心を育むことができた。

〇教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動を推進している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学年の児童数が増加しているため、校外学習等を実施する場合に引率ボランティアに協力いただいているが、配慮や支援が必要な児童にどのように対応してよいか困惑されることがあった。事前に担任と打ち合わせを行っているが、ボランティアさんに負担をかけないよう計画の見直しや体制の工夫などが必要である。

〇地域のよさや伝統を伝えていただく方の高齢化に伴い、支援していただくことが年々困難になってきている。地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を学校だよりやホームページ等で広く発信するとともに、地域の情報収集に努める必要がある。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

URL:http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~okasyo/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（学年主任）

報告書記入者（　教　頭　）

地域への愛着と誇りを胸に！未来を拓く金田っこ

近江八幡市	活動名：金田小学校地域学校協働本部	金田小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合→学校運営協議会との協働： ■有　□無

地域学校協働活動概要

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：70 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［伝統芸能鑑賞、防災学習］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　□地域学校協働活動推進員　□行政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）１年「昔遊び・お正月遊び」「おいもを調理しよう」・・・地域の方やおじいさん、おばあさんとふれあう。

（２）２年「大根を調理しよう」「ブラジル・フィリピンについて知ろう」・・・地域の方や外国の方とふれあう。

（３）３年「金田のステキ発見」「畑ではたらく人々」「昔のくらし」・・・地域ではたらく人々とふれあう。

〇金田学区のいいところ・金田のステキとして

①篠田神社の花火祭り　②スクールガードの皆さん　③祭りの松明づくり

④浅小井町の祭り　⑤浅小井トマト　を取り上げて、それぞれの人や物に触れ、その魅力を探った。

（４）４年「地域を守る消防団」「蛇砂川の歴史と現地見学」「福祉体験」「寺子屋」・・・地域を守る人々とふれあう。

（５）５年「田んぼではたらく人々」「環境学習」「手縫い名人になろう」・・・地域の環境について考える。

（６）６年「ミシン名人になろう」「平和学習」「伝統文化に親しもう（詩吟体験）」「芸術に触れる（オペラ鑑賞会）」「戦争中に金田学区の様子を知ろう」・・・地域の平和について考える。



【１年生　地域の方とのふれあい】



【５年生　地域の環境について考える】

■　実施に当たっての工夫

〇講話だけでなく、本物・実物に触れたり体験したりできる場づくりに努め、発見や感動のある学習を目指した。

〇担当学年の主任と地域学校協働活動推進員との連携を密にし、打合せ時間を確保した。

〇地域学校協働活動推進員と協力して、学年のニーズに合った講師やボランティアの確保に努めた。

■　事業の成果

〇実際に仕事をされている方々の話を聞いたり仕事の様子を見学したりすることで、教室ではできない学習、体験ができた。

〇金田学区にお住まいの講師、ボランティアに来ていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。

〇地域の安全を守る活動（スクールガード、地域の消防、地域の川の整備等）を日常的に目にしたり、体験したりする中で、防災や安全に対する意識の高まりが見られた。

〇放課後子ども学習「寺子屋」では、コミュニティセンターを学習の場として、学力補充に加えてニュースポーツの体験、防災に関わる学習等も取り入れた工夫あるプログラムで、参加した児童にもその保護者にも大変好評だった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇大規模校で、どの学年も人数が多い。（140 名～180 名）その分、講師・ボランティアの方も多数お願いする必要がある。人数確保や日程調整が難しい。学級単位で講話・体験をお願いすると、１日に４～５回お話をしていただくことになり、負担が大きい。

〇講師・ボランティアの方々の高齢化が進んでいる。新たな人材確保が急務である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学期に１度集まっていただき、協議会を開催している。地域と学校が協働で活動した取組について紹介し、理解と協力を求めている。協議会では概ね好意的、建設的な意見が聞かれる。

〇高齢化に伴う新たな講師・ボランティアの確保については、協議会でも懸案事項とされている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長　■教頭　□地域連携担当教職員　■その他(学年主任)

報告書記入者　（　教頭　）

学校を通して、地域ぐるみで健やかな子どもたちを育むために

近江八幡市	活動名：桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働活動概要

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数：117 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○　４年　フィールドワーク　「地域ふるさと学習：桐原・日野川のお宝発見」
日野川の恵みとともに人々の暮らしがあったが、時には洪水等の水害にも見舞われてきた。その中で先人の暮らしやまちづくりにおける知恵も育まれ伝えられてきた。そのことを詳しく知っている地域の方から事前学習をしていただいたのち、県の流域政策局の職員の方、地域ボランティアの方とともに、フィールドワークを行い、学びを深めた。


【地域ふるさと学習：桐原・日野川のお宝発見】

■　実施に当たっての工夫
○　地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニセンターだよりに活動の様子を紹介するとともに、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。
○　学校支援ボランティアさんの活動予定を示したボードを活用することで、教職員全体に周知するとともに計画的に進められるよう配慮した。
○　日頃お世話になっているボランティアの皆さんへ、子どもたちより年賀状と暑中見舞いのご挨拶の取組を始めた。

■　事業の成果
○　ボランティアの方々が日常的に学校に来ていただいていることから、子どもたちの様子を複数の目で観察することができ、安全な学校生活を送ることにつながっている。
○　地域の方々が朝や休み時間を利用して、さまざまなメニューを用意して子どもたちと関わってくださっている。このことは、子どもの居場所づくりや居心地のよい空間づくりにつながっている。
○　家庭科やクラブ活動等、子どもたちの活動を支援していただいている。ボランティアさんとのふれあいの中で、子どもたちの健やかな成長が育まれている。
○　スクールガードの方々の登下校時の見守り活動により、子どもたちは安心して登下校できている。
○　校外学習では、教員だけでは子どもたちの様子を把握できないこともあるが、ボランティアの方々のおかげで、安全に注意を払って取り組むことができている。
○　ボランティアの方々による図書館の環境整備や、おはなし会の開催などを通して、本を身近に感じ、本に親しむ子どもたちが増えてきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
校外学習や授業での支援活動において、ボランティアさんの存在は大変大きく、学校ボランティアとして定着してきているが、高齢化が進むことによる課題もみられる。今後、この活動が継続していけるためにも、コミセン・地域との連携がより大事であり、新規募集を含めた組織面の見直しも必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
来年度から始まる学校運営協議会を前に、「支援」から「連携・協働」に向け、さらに地域人材を確保し、地域住民による学校との連携・協働を充実させ、地域と学校が子どもの実態や課題を共有しビジョンをもって進めていくことが大切である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域とともに体験学習を・ボランティアさんはできるときにできることを

近江八幡市	活動名：桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数：150 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校支援グループの活動

地域の方が学校を支え共に活動していくために、各種ボランティアさんの代表者 10 名がメンバーとなって月１回の代表者会議を開催している。そこでは、学校が必要としているボランティア活動の内容の検討や活動後の反省などが行われ、より良い協働活動が推進できるような話し合いとなっている。



【白鳥川生物調べ】

（２）白鳥川体験学習

地域には人々に愛されている白鳥川が流れている。近年その景観が乱れつつあることを懸念して、「白鳥川の景観を良くする会（略称　景観隊）」が設立されている。総勢 100 名を超える方が加入されており、河川周辺の清掃はもとより河川の水質や動植物の様子を観察できる体験学習を開いておられる。本校では、毎年５年生が総合的な学習の時間に「白鳥川の学習」を進めている。事前学習から現地体験学習、事後の学習発表会まで「景観隊」の方々と共に学習をしていくことが定着している。

（３）防災学習

６年生は突然の災害に備えるために地域の方とともに防災についての学習を行っている。まずグループに分かれて地域をフィールドワークして危険な個所や災害への備えを見つけ出す。この時にはグループ毎に地域のボランティアさんと一緒に回り学習を深めていく。そしてハザードマップを作成しより地域のことを知る。次に避難所体験ということで段ボールを組み立てて避難所を作りその中で非常食を食べる体験である。この時も民生委員さん等の地域で活動しておられる方と共に作業を行い、防災に対する意識を高めるとともに地域の方と触れ合う場ともなっている。

■　実施に当たっての工夫

○活動を計画した学年の担当教員とボランティアの方とで短時間でも打ち合わせを行うようにしている。また、依頼は必ず活動推進員さんを通して行い、年度が変わっても毎年の活動が定着していくよう地域と学校をつないでもらっている。

○「できるときにできることを」の合言葉のもと、ボランティアさんには無理してしんどい思いをされないよう気軽に参加していただけるように呼びかけを行っている。

■　事業の成果

○地域の人材や自然、今まで知らなかったことに触れ、郷土の良さを実感することができた。

○学校行事の支援や見守り活動を行っていただき、教員の負担が減り児童によりきめ細かな支援ができることにつながった。

○児童と地域の方々とのつながりができ、児童が地域であいさつができ地域の方々に学校行事を参観に来ていただいたりして学校生活の充実につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○協働活動推進員さんと打ち合わせを行う時間の確保。

○ボランティアさんの高齢化が進み、一般に言う後継ぎがなく、次の世代の方に活動を広げ人材を確保することが必要である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　各教員　）

報告書記入者（　　教　頭　　）

地域でともに育てる馬淵の子

近江八幡市	活動名：馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・クラブ活動支援…昔遊び、囲碁、家庭科
・日頃の授業支援…家庭科（ミシン、調理実習）
・農業・栽培に関する活動…ペア学年での米作り体験、ひょうたん栽培、野菜栽培
・歴史・伝統文化に関する活動…茶道体験、しめ縄作り
・人権・福祉学習に関する活動…盲導犬体験、地域の老人福祉施設交流
・平和学習に関する活動…戦争体験・校区への疎開体験の聞き取り
・地域防災に関する活動…校区内河川の自然観察と水害被害の聞き取り、通学路危険個所調査とハザードマップ作り・校区内への発信



【　ペア学年での農業米作り体験　】

■　実施に当たっての工夫

・ボランティアの世代交代を考えて新規ボランティアの発掘に努めた。そのためボランティア相互の横の繋がりを広げるように考えながら活動を進めた。
・授業者と支援者のマッチングや打ち合わせの調整について、推進委員が授業者の要望を十分に聞き取って仲立ちをした。具体的な活動内容や支援内容については、授業者、支援者、推進委員が事前の打合せを行って決定した。
・空き教室を活用して校内にボランティア室を設けて、常時打合せや休憩、待機の場所として利用できるようにした。また、年間の活動の経過がわかる掲示等を行った。



【　危険個所点検・ハザードマップ作り　】

■　事業の成果

・推進委員の役割についての教員の理解が深まったことと、事業に対する地域の理解が進んだことによって、学習活動に対してより効果の高い支援が得られるようになった。自宅で教室を開いている人や、現職を退いたばかりの人などから専門的な知識や技能を生かした支援を得ることができるようになり、授業者自身も知識を深めることができた。
・継続した活動を行うことによって、児童は顔馴染みとなった支援者の来校を楽しみにするようになり、支援者は児童への理解が深まって効果的に支援を行え、継続することにやりがいを感じるという好循環が生まれている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域との連携の効果を高めるには、事前の授業者と支援者の打合せが重要であり、推進委員の限られた勤務時間内で効率的に行うよう工夫する必要がある。
・一人の支援者が複数の分野の活動に関わる場合も多いため、各学年の活動の日程を早期に調整する必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・次年度から導入する学校運営協議会の下での地域学校協働本部の位置づけと推進委員の役割を明確にして、事業のより効果的な活用を行っていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　各担任　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域とともに歩むCSをめざして　～One　Team北里　～

近江八幡市	活動名：北里小学校地域学校協働本部	北里小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成21年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：110人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）メダカシンポジウム

メダカの学校小田分校の方と一緒に田んぼでの田植え、観察・肥料まき・草刈り稲刈りという米作りの一連の作業を体験させていただくとともに、11月９日の祖父母参観日には、『田んぼの向こうに世界が見える』というテーマで田んぼの学校で体験したことや『米作り』や『田んぼにいる生き物』など５年生児童が総合的な学習の時間に調べた内容をまとめて発表した。また、メダカの学校の方からは、これまでの活動のパネル展示をしていただき、５年生の児童や保護者対象に環境にかかわる講演をしていただいた。



【メダカシンポジウムの様子】

（２）読み語り

〇活動の概要と目的

毎週木曜日の朝学習の時間に、地域の方に各クラスで読み語りをしていただくことによって、子どもたちの豊かな心を養い、本好きの子どもを増やすことを目的に実施している。

〇支援員数：約20名

〇支援員の属性：読み語りグループ『ほんわか』さんをはじめとする地域のさまざまな方

〇学習形態：読み語り

〇教室のもち方と実施日数：毎週木曜日の約10分間

〇子どもの平均参加人数：各クラス全員

■　実施に当たっての工夫・・・（２）について

〇地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐ重要な役割を担っており、学校の思いを地域に、地域の思いを学校に伝えることで双方向にメリットがあるような活動を実施するように心がけている。

■　事業の成果

〇事業開始から11年になる。本活動が年間計画の中に位置づけられていることにより、かなり定着している。毎年、実施時期活動内容について、地域学校協働活動推進員と一緒に各学年の担任が見直しをすることにより、より精査しながら本事業が実施できている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇平成21年度の本事業を開始してから、同じ地域学校協働活動推進員が一人で地域と学校を繋ぐ役割を担ってきているが、今後後継者の育成や選任に困難さがある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇本年度、コミュニティ―・スクールとして立ち上げた。今までの「教育評議会」と「地域教育協議会」を統合して学校運営協議会として発足した。10名の運営協議会委員には、学校の教育活動を知っていただくため、給食試食会や学習参観、引き渡し訓練等には案内文を送付した。来ていただいた委員さんには、様々な意見を出していただき、学校との情報を共有してきた。次年度に向けてともに歩む学校運営をめざしていく。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■　校　長　■　教　頭　■　地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　　教　頭　　）

力を合わせて、地域を愛する子どもたちの育成を

近江八幡市	活動名：武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数：73 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　）



【３年　むしゃりんどう展見学】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
〇地域の特徴、文化遺産の紹介や歴史等について、現地を案内してもらったり、学校で話を聞かせてもらったりする。
〇交番やコミュニティセンター等の官公庁や地元の商店等で、学校に協力をしていただける所を探し、学習に活用する。
〇畑づくりや花壇の整備等の学校環境づくりに協力いただく。

■　実施に当たっての工夫

〇学年や学級の実態に合った支援になるように、先生の思いをじっくりと聞き取る。
〇ボランティアさんの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、自宅を訪問して打合せを行ったり、学校に来られたときには顔を合わせたりするようにしている。
〇ボランティアさんどうしもお互いに話ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
〇ボランティア便りを作成し、活動の様子を伝え理解が得られるように、ボランティアさんに送っている。

■　事業の成果

〇地域のボランティアの方に学校に来て、児童の支援を行っていただくことで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
〇地域のボランティアの方と児童が顔見知りや仲良くなることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加しやすくなるなど関わりが増えた。
〇授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアの方が支援に入っていただけるので、児童一人ひとりによりきめ細やかな支援ができた。
〇教室内の教科書を中心とした授業だけにならずに、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇たくさんの方にボランティア登録していただいているのも関わらず、企業やボランティアさんのできることと学校の要望が合わないことや時間調整がうまくいかないことで、活用しきれていないことがある。
〇コーディネーターの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや先生との打合せや聞き取りが不十分になることがある。



【４年　蛇砂川の学習　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動

近江八幡市	活動名：安土学区地域学校協働本部	安土小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：135 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）全校児童対象の活動

学年	項　目	具体的な取組内容
全校児童	朝の読み聞かせ	読書ボランティア「にょきにょき」さんに、毎週木曜日、朝読書の時間に、２学年ずつ各学級で読み聞かせをしていただく。子どもたちは、毎学期１，２回、昼休みに開催してくださるお話会を楽しみにしている。
	見守り あいさつ運動	日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしていただいた。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに，６年生の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動を実施した。

（２）学年の活動と連携・協働した活動

学年	項　目	具体的な取組内容
３年生	ふるさと体験学習	・信長ねぎの収穫、ちまきや野菜せんべい作りの各体験をする地域学習を行った。
４年生	西の湖学習	・地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
５年生	米作り体験	・米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
６年生	茶道体験	・地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶道体験をさせてもらった。

■　実施に当たっての工夫

〇教職員が地域学校協働活動推進員と日常的に連絡を取り合い、学年が必要とする地域人材の情報を共有することに努めている。また、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域学校協働活動推進員から、多くの有益な情報を得ている。

〇あいさつ運動には、大人だけでなく、６年生を中心に児童会の子どもたちが参加して、朝のあいさつが気持ちよくできるように活動を盛り上げている。

〇読書ボランティア「にょきにょきさん」と教職員や地域学校協働活動推進員が、日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。



【　１年生昔遊びの会　】

■　事業の成果

〇地域学校協働活動推進員が教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々を講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。

〇地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。

〇子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、体験を通して子どもたちと関わることで、やりがいや生きがいを感じていただいている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方の高齢化に伴い、支援者がだんだん減ってきている。地域の新しい人材を発掘し、いかにボランティアの登録者を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で広く発信するとともに、情報収集に努める必要がある。

〇コミュニティセンターやＰＴＡとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

もっと老蘇を好きになる老蘇っ子の「ふるさと学習」

近江八幡市	活動名：老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合→学校運営協議会との協働： ■有　□無

地域学校協働活動概要
開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校　■地域学校協働活動推進員　□行政　□その他（　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（１）豊かな自然から学ぶ
（全学年）・ビオトープでの体験活動　（２年）・タケノコ掘り　（４年）・西の湖学習　・ヨシ灯り作品作り
（５年）・田んぼへの稚魚の放流　・田んぼでの生き物調べ
（２）働く人から学ぶ
（２年）・野菜の栽培・ハチミツ採取体験・まち探検
（３年）・ネギ農家見学・イチゴ農家見学・スーパーの見学・食品工場の見学
（５年）・自動車部品工場見学・米作り体験・揚水機場見学
（３）歴史や伝統から学ぶ
（１年）・昔の遊び体験　（２年）・ふるさとの偉人から学ぶ
（３年）・昔の暮らしについての聞き取り　（４年）・ゴミ処理についての学習
・老蘇消防団の方のお話・ふるさと絵屏風の話　（５年）・シーサー作り
（６年）・お茶碗製作・お茶たて体験・戦争体験の聞き取り
（４）支えのもと学ぶ
（全校）・登下校の見守り・絵本の読み聞かせ・持久走記録会立哨
（５年）・米作り体験　（５年・６年）・家庭科ボランティア


【ネギ農家の見学】

■　実施に当たっての工夫
・以前から引き続き行われている活動が多いので、“活動ありき”にならないよう、活動の意義やねらいを明確にすることを意識して取り組むよう心がけている。
・教科の学習や領域とも関連付けながら活動を進められるように、カリキュラムを構成している。
・活動の様子を「地域支援だより」「校長通信」「学校だより」やホームページ上で発信し、指導者や協力者にお礼の気持ちを伝えるとともに、地域や保護者に対して、活動内容や活動意図への理解が進むようにしている。

■　事業の成果
・多くの人と出会い、様々な体験をすることで、いろいろな考え方、生き方に出会うことができた。自分の生き方を見つめ直し、将来の夢などについて考える機会が増え、夢や展望を持つ児童が増えた。
・ふるさとの自然や歴史、文化、人などについて知ることで、“老蘇”のよさを再発見することにつながり、そこに住んでいる自分にも自信が持てるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・子どもの活動や思考の流れにそって体験活動を組み入れることで、それぞれの体験活動の効果が出るので、単元全体の構成を熟考する必要がある。
・体験活動の多くは、講師を招いて指導いただく方法を取るので、児童の主体性を生かす工夫が必要である。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、課題作りの段階で、児童の課題意識をどれだけ高められるかが重要である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）
・学校運営協議会では、地域の文化、歴史、人材などについての話題がよく上がる。学校と学校運営協議会が密に連携することで、地域の思いを反映した教育ができ、また、学校が要望する支援を地域から受けられるようになる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校長　■教頭　■地域連携担当教職員　■その他（教務主任、各担任）

報告書記入者（　教　頭　）

「地域の方は学校へ、八中生は地域へ」の相互関係を大切に

近江八幡市	活動名：八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合→学校運営協議会との協働： ■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：100 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）授業支援ボランティア
１年被服実習支援（７月）　全学年水泳実習支援（６月～７月）
全学年書道（毛筆）実習支援（10 月）
全学年剣道実習支援（10 月～11 月）
（２）総合学習支援ボランティア
１年八幡フィールドワーク支援（10 月）
２年職場体験学習交通安全指導支援（11 月）
特別支援学級茶道体験支援（３月）


【家庭科実習　浴衣着付け】

■　実施に当たっての工夫
〇各コミュニティーセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募っている。
〇職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に交流が持てるようにしている。
〇実技教科の実習では授業中の活動なのでボランティアの方が何を、どこまで生徒に接していけばよいのか等話し合う直前の打ち合わせを重視している。


【書道実習　ボランティア紹介】

■　事業の成果
〇実技教科の実習では、教師一人では目が届きにくい場面が多々ある。各授業に平均３～４名の支援ボランティアの方が来て下さり、生徒にとって有益であった。
〇例年同じ活動を積み重ねている中で、新たなボランティアの方も来てくださるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇ボランティアの方の専用の部屋を確保できず、休憩時間など車の中で休んでもらっていることもある。また、猛暑の中での水泳実習では、くれぐれも無理のないようお伝えしているが、ボランティアの方の熱中症等の心配もしている。
〇例年の積み重ねもあり、年々スムーズに支援活動が進むようになってきた。生徒の実際の様子を地域に発信していってもらう役割も今後期待していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
めざす地域連携の形として【学校を支援する地域】⇔【地域に貢献する学校】を目指している。八中太鼓の地域での演奏や生徒個々も各学区のイベントにボランティアとして積極的に参加している。また、職員も一人５回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど「地域に貢献する学校づくり」を目指している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　当該授業担当者　）

報告書記入者（　主幹教諭　）

開巻有益　～心ときめく図書館の充実を目指して～

近江八幡市	活動名：八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合→学校運営協議会との協働：□有 ■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数： 1 人　ボランティア登録数：10 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
〇学校司書、地域コーディネーターとの連携した活動。
〇行事や学習内容に合わせた特設コーナーの設置。
〇季節や時期に応じた図書館内、図書館前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫。
〇ＰＴＡによる学級文庫の蔵書充実のための支援・協力。
〇図書ボランティアによる書架整理、学級文庫書架の製作。
〇近江八幡市教育大綱の目標にある「読書環境の充実」をめざす。


【　図書ボランティアによる活動　】

■　実施に当たっての工夫
〇学校行事や授業での学習内容を把握し、教員、学校司書、地域学校協働活動推進員、ボランティアが連携し、特設コーナーを設置するなどして生徒の興味や関心に応じた図書館運営を行う。
〇生徒が主体となって図書館運営をするために、生徒会図書委員会や放送委員会などと連携し、ボランティアだけの取組にならないように配慮する。
〇季節や時期に応じた図書室内、図書室前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫をする。

■　事業の成果
〇図書館の雰囲気の向上により、生徒会図書委員会の活動が活発になり、開館日の当番活動や、本の紹介文（ＰＯＰ）の製作など様々な活動を精力的に行うようになった。
〇ボランティア任せにならないよう、協働の視点を大切にすることで、教職員、生徒、地域の方に自分たちの学校という意識が芽生えているように感じる。
〇図書館の充実に特に力を入れており、継続的に取り組むことで、生徒の図書館利用者が増えており、落ち着いた学校づくりに結びついている。



【　図書館入り口掲示物　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇図書ボランティアと教職員だけの取組ではなく、本事業として地域コーディネーターを配置されたことと、市から週２回学校司書を配置されたことにより、より組織的に図書館運営が行えるようになった。しかしまだ定着とまでは至っていないため、事業の継続を望む。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
※開巻有益…読書はためになるということ。読書を奨励する語。「開巻」は書物を開く意。転じて読書。「有益」は役に立つこと。「八幡東中学校図書だより」のタイトル。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域とともに子供を育てる地域学校協働本部事業

近江八幡市	活動名：八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校を支援していただく一方的な取組だけでなく、技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「地域花いっぱい運動」の予算をいただき、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、コミュニティセンターや子どもセンターなどの施設へお裾分けを行っている。

（２）本校は、地域行事への生徒の参加を推進しているが、特に学区の運動会の日は部活動を中止して参加を呼びかけている。部活単位で運動会の役員も担っている。
また、吹奏楽部の発表の場として、または、生徒会のボランティア活動の場として地域の文化祭等の行事にも参加している。


【地域文化祭の模擬店の運営協力】

（３）地域学校協働活動推進員のネットワークを生かして、学生ボランティアを募集し、テスト前の質問教室に講師として教えに来てもらったり、定期的に華道の先生に来校してもらったりして、お花を生けてもらうとともに、華道の世界の魅力を紹介してもらうなど、学校環境作りに地域の方に協力していただくことができた。またお正月リースづくりの講師として指導していただいた。

（４）人権学習ではそれぞれの学年で、自らの体験や活動を語っていただく講師としてボランティアにお世話になった。さらに、定期テスト前に本校の卒業生で教師を目指している大学生を中心に質問教室の学習支援をしていただいた。


【質問教室に学生ボランティア】

（５）部活動については、毎年、地域から大きな支援をいただいている。現在、テニス部、吹奏楽部、野球部では、ほぼ１年を通してお世話になっている。これらの部活動のボランティアは毎日の部活動だけでなく、練習試合、公式試合でも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

■　実施に当たっての工夫

〇学習支援や部活支援など生徒に直接関わることで支援していただく場合、生徒の学力や性格などを理解し行う必要がある。個人情報の取り扱いについては十分配慮を行い、ボランティアにも十分説明をしたうえで実施をしている。さらに、必要に応じて担当教員とボランティアが話すようにしている。

〇地域の支援をいただくという一方向だけの取組だけでなく、地域コミュニティセンターと連携して、生徒が地域で活動したり教職員が地域に出向いたりする機会を増やすよう取り組み、学校と地域が共に子どもを育てる実践を行った。

■　事業の成果

〇保護者や地域の学校への関心が高まり、理解と協力が増え、学校としての評価が高まった。

〇生徒が地域で活躍する行事や機会を自治会や町づくり協議会で作っていただき、生徒が地域で活動することも増え、中学生の地域での活躍を評価して認めていただくことで自信を持つことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域には子どもの健全育成に対して熱心に取り組んでこられた方もたくさんおられる。学校教育に協力の意思を示してくださっている方もあるが、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという実態がある。

〇地域との連携・協働を進めるには、教員も地域に出向き地域の方と話したり、地域で活動したりすることが必要になる。そのための時間確保や時間外勤務、土・日の出勤等が新たな課題となる。

〇事業予算を増額していただくことで、もっといろんな活動が考えられる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

ふるさとに愛着と誇りを　～地域の人材を活用したふるさと学習の推進～

近江八幡市	活動名：安土中学校地域学校協働本部	安土中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数：50 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（　まちづくり協議会　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）総合的な学習の時間「ふるさと学習」

地域を知るため、地域ボランティアを依頼して「安土城趾」「観音寺城趾」をめぐって、フィールドワークを行う。

（２）地域行事への中学生の参画

中学生を地域の行事（体育大会、文化祭、福祉フェスティバル等）に参画させることで、地域の一員としての自覚を持ち、ふるさとを愛する心を育てる。２年生の中学生チャレンジウィークで、安土まちづくり協議会で街づくりについて学び、それを生かして、夏祭りのイベントを企画、運営を行う。地域としても、行事に参加することで関心を持ってもらい、活性化させる。

（３）茶道体験学習

安土において織田信長が盛んにしたと言われる茶道について、地域の茶道の先生を招き、茶室や和室を会場として１年生全員が茶道を体験する。茶道のお点前だけでなく、その歴史と精神にも触れたお話を聞く。

（４）浴衣の着付け、地元食材を活かした調理実習

家庭科の授業で、地域の方をコーディネートし、指導していただく。

（５）読み聞かせ、図書館ボランティア

地域の読み聞かせボランティアに朝の会で読み聞かせをしてもらう。また、図書館ボランティアとして昼休みの図書室の開館をお願いし、毎日図書室を開館するとともに、地域の方と中学生が接する機会とする。



【お茶の先生を招いての茶道体験学習】



【浴衣の着付け教室】

■　実施に当たっての工夫

〇学校と地域のニーズを結びつけることを、地域コーディネーターと連携して考え、具体化するようにしている。

〇学校の教育課程に「ふるさと教育」として年間計画に位置づけて取組を行う。

■　事業の成果

〇中学生の活動を紹介することで、地域からも評価を受け、活動の場が広がってきた。

〇地域の方に、得意分野を活かした授業や環境整備にボランティアとして参画してもらうことにより、教育活動が深まった。

〇「ふるさと教育」を通して、地域のことや地域の人々を知り、ふるさとに関心を持ち、愛着を持たせることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域ボランティアのリストを充実させること

〇地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討すること

■　その他（学校運営協議会との協働等）

安土中学校 HP　https://www.fureai-cloud.jp/azuchi-jh/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

“にこにこ、きらきら、武佐っ子”を育む　あったか支援の力

近江八幡市	活動名：武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：21 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①えほんタイム

毎月２回、各クラスに絵本の読み聞かせをしていただく。手遊びなどを交えながら、たくさんのお話にふれることで、ボランティアの方との交流も深まり、子どもたちは毎回楽しみにしている。夏季の貸し出しのない時期に、絵本の修理を行っている。

②栽培活動

夏野菜や、さつまいもの植え付けなど、季節に応じた野菜や花の栽培を園児と一緒に行う。園児は、苗の植え付けや種の蒔き方などを教えてもらったりすることで、栽培に興味をもち、世話をしたり、成長の様子を見ることも楽しんでいる。

収穫した野菜を使って、秋にはやきいも、冬にはポトフパーティーをし、一緒に味わい共に収穫を喜ぶことができた。

③行事支援

食育活動をはじめ、やきいもや餅つきなどの行事の補助をしていただく。食育教室では、豆腐の切り方や米のとぎ方などを丁寧に教えてもらい、作る楽しさや食べる喜びを一緒に感じられるように調理補助をしていただいた。

④保育教材作り（布製おもちゃ）

布のおもちゃ作りを中心に、人形の服の修理や作成などを行う。また、出来上がったおもちゃを使って一緒に遊ぶ『ふれあいタイム』では、子どもが喜んで遊ぶ様子を見ていただいたり、ふれあったりすることで次の制作への計画につながっている。

⑤あいさつ運動

毎月１日、15 日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶をしながら迎える。保護者会役員や５歳児もあいさつ運動に参加することで、他の保護者への啓発になっている。

■　実施に当たっての工夫

・ボランティア活動を知ってもらうために、活動の様子を掲載した通信を保護者向けに発行し、情報発信をしている。
・未就園児の子どもを連れての保護者も参加しやすいように、職員でサポートし合っている。
・保育教材作りは園児と直接ふれあう機会が少ないので、出来上がった教材をボランティアさんに保育室に届けてもらい、一緒に遊んだり園児が感謝の気持ちを伝えたりするようにしている。

■　事業の成果

・毎月定期的に行っている『絵本タイム』では、「今日は、どんな絵本かな？」と園児が心待ちにしたり、様々な人とのふれあいや、お話を楽しんだりする姿が見られ、継続した取組の良さを感じる。
・行事支援や栽培活動などを通して、職員も知識や方法などを経験豊かな方から教えてもらうことができ、保育の中に取り入れていくことで、子どもたちの興味・関心を高めることにつながっている。
・おもちゃ作りや栽培活動など、職員だけではなかなか出来ないことを協力していただき、保育環境や園児の活動がより充実した。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアに新しい保護者の参加が増え、保護者同士の交流にもつながっている。今後も誘いかけ、関心を広げていきたい。
・行事支援については事前の打ち合わせと段取りを行うことで活動がスムーズに行えるので、大切にしていきたい。
・地域の行事等に参加し、園と地域の交流を広げるなかで、地域の人材から新たにボランティアに参加してもらえるよう働きかけていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員　■その他（　主幹保育教諭　）



【　みそ汁作り　】



【　やきいもパーティー　】

報告書記入者（　主幹保育教諭　）

子どもは地域の宝！地域のみんなで育てよう！

近江八幡市	活動名：八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：８人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と幼稚園が協働した活動（特徴的な活動）

〇保育サポーター　地域と連携し、入園後間もない３歳児の遊び相手になってもらったり、排泄や手洗いの補助をしてもらったりした。

〇歌指導　月に１回５歳児が歌指導をしてもらい、歌う時の基本的な姿勢や声の出し方、心を込めて歌うことなどを教えてもらった。また、学区の行事で歌の発表をして、地域の方にも聴いていただくことができた。

〇江州音頭指導　ゲストティーチャーを迎え、祖父母参観に子どもたちと祖父母を対象に指導していただいた。初めて江州音頭を踊る方や懐かしさを感じる方もいた。歌詞や振付に込められた意味を教えてもらいながら、地域の伝統文化に親しむ機会となった。



【　歌指導　】



【　江州音頭指導】

■　実施に当たっての工夫

〇園の取組の様子を知ってもらえるよう、園情報紙「あっぷるつうしん」を地域にも発信し、関心をもってもらえるようにした。

〇保護者ボランティアについては、活動の時間を登園時や降園の１時間前に設定し、気軽に無理なく参加できるようにした。今年度発足した「絵本ボランティア」は、毎週金曜日の給食後におこない、幼児が気軽に「絵本の部屋」にやってきて、お話に親しむ良い機会となった。

〇「こま回し指導」では、５日間、給食後の時間を利用することで、子どもたちの気持ちも満たされ、リラックスした中で楽しみながら取り組むことができた。

■　事業の成果

〇初めての集団生活を送る３歳児にとって、地域の人たちに関わってもらうことで安心して幼稚園生活を送ることができた。

〇地域の行事に参加することで、子どもたちが自分の住んでいる地域に関心や親しみをもつことができた。（左義長見学、八幡学区散策、文化の日のつどい参加等）

〇地域の方との関わりの中で、子どもたちは、「こんにちは」「ありがとう」等の言葉を自然に交わしている。感謝の気持ちや社会のマナーが身に付き、育つ機会になっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇今年度は、「絵本の読み聞かせ」が子どもたちの中に定着してきた。よりボランティアを増やしていくため、園だよりやあっぷるつうしんで様子を掲載したり、チラシ配布をおこなったりしながら、事業を広げていきたい。

〇園の行事と支援していただける事業をうまくかみ合わせ、有効な人材活用ができるようにする。

〇継続的な地域の方々との関わりにより、優しく関わってもらった経験を積み重ね、感謝する気持ちがもてるよう子どもの心を育てていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校運営協議会において、「より良い子どもの育ち」について共に考え、八幡幼稚園の子どもを地域で育てていくという同じ目線での話し合いを進めていくことができた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　副園長　）

～　地域のみんなで岡山っ子を育てよう　～

近江八幡市	活動名：岡山幼稚園地域学校協働本部	岡山幼稚園　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：35 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　■その他［　保育支援　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　□地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・３歳児の入園当初の見守りや生活支援、プール遊びの見守りや着替えの支援、給食の見守りや支援
・保育参観日等の託児
・葉刈り、花苗植え、畑作業
・折り紙、手品、コマ回し、お茶席体験、歌唱指導、フラワーアレンジメント教室、ハーモニカ鑑賞など



【　給食支援　】

■　実施に当たっての工夫

・実施に当たって、園と推進員の方、関係者とでどのような支援や活動をしていただきたいのか打合せをし、その都度ボランティアの方に依頼をした。

■　事業の成果

・ボランティアの方は幼稚園事業に理解を示し、とても協力的に活動してくださっている。
・体験活動では、地域に人材が豊富で毎年恒例になっている活動がたくさんあり、子ども達との関わりも深まっている。また、ゲストティーチャーに憧れたり、より親しみを感じたり、活動への意欲を持つことにつながっている。
・地域の方に園に来ていただくことで、園のことや園児のことを知っていただく機会になり、園教育の理解につながっている。
・地域の方との自然なふれ合いの中で人と関わる喜びを感じたり、自分達のために活動してくださっていることに感謝の気持ちを持ったりすることができた。
・今年度で閉園になるため、年度末にボランティアの方やお世話になった地域の方と一緒に給食を食べたり、食後に一緒に遊んだり、手作りのプレゼントを渡したりすることで交流が深まり、今までの感謝の気持ちを伝えることができた。
・色々な機会に“ありがとう”の会を計画し、地域の方との思い出づくりができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアの方々が活動の中で感じておられることなどを毎回聞かせていただくことはできなかったが、時々話をする機会を持つようにしたり、推進委員の方が聞いたことを伝えてくださったりした。
・毎年恒例になっている活動が多く、交流が深まった。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・情報誌“ふれあいひろばだより”を作成し、地域住民に回覧したり、園のＨＰでアップしたりして地域や市民に活動内容を発信している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員

□その他（　　）



【　お茶席体験　】

報告書記入者（　副園長　）

地域とともに、子どもたちに豊かな経験を　自分が好き友だちが好き心をつなぐ桐原幼稚園

近江八幡市	活動名：桐原幼稚園地域学校協働本部	桐原幼稚園　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：35 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）



【　六四喜の説明を聞く　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）絵本の読み聞かせは、３歳児は午前中、４・５歳児は給食が終わって一息ついた時間に来て読んでくださる。ボランティアの方が読んでくださる間、目をキラキラさせて絵本に集中する子どもたちに、次はどの絵本を読んであげようかとボランティアの方々も楽しみに来てくださる。昔から読み継がれた絵本や科学の絵本、季節にそった絵本、子どもたちとの掛け合いをしながら楽しむ絵本など、様々な絵本を保護者や先生以外の方に読んでもらうのは子どもたちにとって良い経験になる。

（２）園庭の下準備作業に参加してくださる地域の方は、農業をやっておられるので肥料の種類や量、土作りの仕方などを教えてもらいながら作業している。

（３）運動遊びは園全体で取り組んでいる活動の１つである。運動クラブボランティアの方に子どもたちの運動時の援助の方法などについて学ぶ時間を設け、学んだことを子どもの活動の時に活かしてもらった。

（４）今年度はふるさと学習として、園外保育の際に地域で作られたモニュメント《六四喜》についてのお話を聞かせてもらった。園の近くにあるのに先生や保護者も知らなかった事もあり、大変勉強になった。

■　実施に当たっての工夫

事業の活動内容や成果をお便りにまとめ配布する。活動の中で興味のあることから参加してもらえるようにした。来てくださるボランティアの負担にならないように気を付ける。

■　事業の成果

〇畑の下準備作業は耕うん機での作業もあり、子どもたちは見たことのない機械を見て喜んでいた。園庭の砂場も耕してくださり、子どもたちがふかふかの砂場で楽しく遊ぶ姿が見られた。

〇地域の方が畑の作業をしてくださる様子を子どもたちが見て、その畑に子どもたちが種を蒔く・苗を植える、水をあげるなどお世話することにより植物が生長するのを体験し、それを収穫し食べることの喜びを感じることが出来た。

〇PTA 総会や講演会の未就園児の託児支援は、普段ゆっくり話を聴けない保護者も集中して聴くことが出来た。

〇地域のモニュメントの話を聞いたふるさと学習の際は、職場体験で来ていた中学生とお母さん先生として参加していた保護者も話を聞くことが出来た。

〇初めて運動クラブボランティアに参加した方も、指導の時間を設けたことで、スムーズに子どもたちへの声かけやサポートが出来た。子どもたちもマット運動や鉄棒、トランポリンなど楽しく参加する姿が見られた。



【　絵本の読み聞かせ　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアが固定化している。参加してくださる方が偏ってしまうので、ボランティアの負担にならないように支援ボランティアをどうやって増やしていくかが課題である。より地域や保護者に活動状況を発信していければと思う。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副園長　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域の人とのふれあいから　自分が好き、人が好き、馬淵が好きな馬淵っこ

近江八幡市	活動名：馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵幼稚園　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：27 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　□地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）絵本活動

・毎月２回、２名の地域の絵本ボランティアの方に、各クラスに絵本の読み聞かせに来ていただいている。ボランティアの方々が、子ども達に“聞いてほしい”季節や遊び、発達に応じた選りすぐりの絵本は、子ども達にとって心が温まり絵本の世界に浸るひと時でもある。また、地域の方のぬくもりを感じられる大切な時間にもなっている。

・未就園児対象の絵本貸し出しも行っており、園や地域の方に親しみを持ちながら話しかける姿も見られている。子育てについての悩みや心配、成長の喜びなど気さくに話しながら、地域の方との関わりを自然な流れのなかで構築している。

（２）野菜作り

・地域の野菜作りの名人から野菜の育て方について教えてもらっている。野菜の育て方について知らないことがたくさんある子ども達にとって、畑の耕しや種蒔き、苗植え、野菜の世話の仕方や収穫といった体験はとても貴重なものとなっている。収穫した野菜を使って調理したり、食事を共にしたりして心も体も地域の方々と一緒に満たされている。子ども達も“なんでも知っている”ボランティアの方々に尊敬の気持ちを抱いている。

（３）制作遊び・伝承遊び

・子ども達一人一人と関わりながらの遊びや活動に選んで来ていただき、一緒に折り紙を折ったり、コマまわしや凧揚げに挑戦したりしていただいた。思うようにできないもどかしさがある子ども達に、やり方やコツを丁寧に教えていただいたり、できた時は一緒に喜んだり、子ども達の思いに寄り添い共有しながら楽しく過ごしていただいた。

・子ども達の大好きな、ままごと遊びで使うエプロンや人形の布団、また、お手玉など作っていただいた。

■　実施に当たっての工夫

○地域学校協働活動推進員の方の地域の方とのつながりや声かけがきっかけで、ボランティアに来ていただける方々の輪が広がり、いろいろな方に来ていただくことができた。それぞれの方の特技や経験、子ども達や園との関わりの中で、伝えたいこと感じてほしいことを教えていただき、地域の方々との関わりの楽しさや子ども達自身が大切に思われていることを感じられるような機会を大切に作っていった。

■　事業の成果

○単学級で園児数も少なく人との関わりにおいて課題のある環境の中で、いろいろな人と関わることのできる機会となった。

○ボランティアの方が少しずつ増えて、子ども達の遊びや活動など様々な場面で関わっていただいたことで、遊びや活動の充実感や満足感が満たされた。

○子ども達が知らないことを、ボランティアの方に教えていただくことで、尊敬の気持ちをもったり親しみを感じたりすることができた。

○園畑では、当日の栽培支援だけでなく、生長のコツや肥料のあげ時などのアドバイスをいただいたり、様子をこまめに見てくださったりして、園や子ども達との関係性が続いた。

○未就園児の絵本貸し出しでは、ブックスタートの良い機会になった。また、ボランティアの方と話せる場があることで、育児に対して前向きになったり園に対して親しみを持ったりすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○ボランティアの方との活動の場を継続することで、地域の方との関わりの楽しさや温かさ、大切に思われていることを感じる心や、地域を大切に思う子ども達の育成につなげていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　　■主　任

□地域連携担当教職員　□その他（　　）



【ボランティアの方と野菜作り】



【ボランティアの方の絵本読み聞かせ】

報告書記入者（　主　任　）

保護者・地域の方のキラッとを保育の中に・・

近江八幡市	活動名：金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：15 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・週１回の読み聞かせ活動は、継続している活動で毎年新たな方にボランティア登録をしていただいている。活動が定着しているので子どもたちは、ボランティアの方と親しくなり、いろいろな絵本との出会いを楽しみにしている。

・以前にいただいた段ボール製の滑り台、ままごと用キッチンは、特別支援教育のキラッとルームで子どもたちが喜んで遊んでいる。今年度は、段ボール製のブランコも紹介していただいた。手作りの鍋やフライパン、掃除機も各クラスに毎年いただき、子どもたちも楽しんで遊んでいる。

・地域にある篠田神社に５歳児が出かけて、伝統ある篠田の花火の話を聞かせていただき、地域の文化にふれる機会となった。

・地域の方から毎年栗畑での栗拾いに招待していただいている。20 年以上続く秋の行事となっている。手作り紙芝居で、お世話をして下さっている方がいてくださるから栗拾いができるということを分かりやすく伝えている。

・学区内の保育園、高校生との交流やコミセン（文化祭・独居高齢者との触れ合い）との交流も継続している。

・栽培活動では、種まき(苗植え)から教えていただき、子どもたちも一緒に収穫の喜びを感じることができた。収穫した野菜を子どもたちと一緒に味わっていただけるように招待し、地域の方と触れ合う時間を持つことができた。

■　実施に当たっての工夫

・園が必要としている支援にボランティアの方の得意分野を生かしていただけるように連携をしている。

・園畑や園周辺の除草や葉刈り、芝刈りは、園児には直接見えない時間に活動してくださることが多い。また、以前から配膳台カバーを毎年作成していていただいている。色々な面でお世話になっていることに、感謝の気持ちを持てるように年度末には、“ありがとうの会”を開いている。直接園児がボランティアの方と触れ合う機会を持つようにしている。

■　事業の成果

・園から地域に出かけたことで家庭からも出かけるきっかけとなり、地域行事に関心を持つことができた。

・絵本の読み聞かせや手芸等の継続している活動では、新たなボランティア登録をいただいている。この活動が地域の方の得意分野を生かす場となっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域の方からは、積極的に声かけをしていただいているが、負担感があるのではと危惧している。

・園児の保護者がもっと参加できるようにボランティアの登録を呼びかけてはいるが、登録が進んでいない。活動内容を考えたり、人材発掘の方法を工夫したりする必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副園長　■地域連携担当教職員　□その他（　　）



【　大きな松明！すごいなあ～　】



【　いがを踏むと上手に栗が出るんだよ！　】

報告書記入者（　副園長　）

“心わくわく　みんなが輝く　ボランティア活動”

近江八幡市	活動名：北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：14 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

近隣の町の高齢者の方と交流会を持ったり、地域の畑で栽培した農作物を収穫させていただいたりしている。また、お茶会や絵本・紙芝居の読み聞かせなど地域のボランティアの方が長年継続して活動されている。やきいもやカレー、おでんづくりなどではボランティアと一緒に地域のお店に出かけたり調理をしたりしている。



【　お茶会　】

■　実施に当たっての工夫

いろいろな活動の内容を地域向けのおたよりとして発行して園児やボランティアの活動の様子を知らせている。また、活動後は子どもの様子などを振り返りながら意見交流をして次回の活動に活かせるようにしている。

■　事業の成果

自分たちの住んでいる地域に親しみを持つことができ、地域のいろいろな方と関わるなかで子どもたち自身がさまざまな体験をして学べる機会となっている。



【　絵本の読み聞かせ　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアを継続してくださる方が少人数なので、今後はさらにいろいろな方に参加していただくようにしたい。また子どもの姿や保育内容とも絡めてよりよい事業内容を考えていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　□副園長　■地域連携担当教職員　□その他（　主任　）

報告書記入者（　　主　任　　）

げんき・いきいき・あづちっ子　～つながる・ひろがる・ボランティアの輪～

近江八幡市	活動名：安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数： 1 人　ボランティア登録数： 56 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■園　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）託児

託児ボランティアの方々に、保護者が参加する参観等の園行事の際、就園前の弟妹の託児をしていただいている。参観日に託児をすることで、親子でゆっくり関わることができ活動を楽しむことができた。託児では、ボランティアの方々は、やりがいを感じながら自分の持ち味を生かし子どもと関わってくださっており、子どもたちにとっても、家庭とは違う大人と接する時間となっている。



【　託児の様子　】

（2）おはなし会・図書ボランティア

おはなしボランティア『まんまるさん』が月 1 回おはなし会をしてくださっている。園児の興味・関心に合ったものや季節を感じられるおはなしを読み聞かせていただき、楽しみな時間となっている。園行事の「なつまつり」では、おはなしコーナーを設けて親子でおはなしを楽しんでもらえた。

また、図書ボランティアの方々には、絵本の修理や絵本棚の整理、絵本室の環境構成等をしていただいており、園児がより絵本に親しめる環境となっている。

（3）環境整備

環境ボランティアの方は、園児とともに、園庭の花壇に季節の花を植えていただいている。苗の扱い方や植え方などを一人一人に丁寧に関わってくださり、園児が興味をもって取り組むことができている。

また、園庭の芝刈りや樹木の剪定、落ち葉拾い等をしていただいている。美しく整えていただいた環境の中、園児がのびのびと活動できている。



【　園庭の落ち葉拾い　】

■　実施に当たっての工夫

〇地域学校協働活動推進員とボランティアの方々で、幼児の姿を理解し、保育内容について見通しをもちながら、活動を工夫している。また、園児のためにご尽力くださっていることに職員が感謝の気持ちをもち、このことを園児にも感じられるようにしている。

〇誰もができる時に参加するボランティア活動ということを基本に、一人一人がキラリと輝く持ち味や特技を生かせる場を模索していった。そうすることで、ボランティア自身がよりやりがいを感じて活動できるようになった。

■　事業の成果

〇園、地域学校協働活動推進員、ボランティアそれぞれが、“幼稚園をよくしたい”“子どもたちのために”という思いをもっており、その思いが幼稚園を支え、子どもたちの成長や安心・安全な幼稚園生活へとつながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域学校協働活動推進員が活動をコーディネートするため、ボランティアの方々と蜜に連携する必要があり時間の確保が難しい。

〇活動の内容を広く知っていただき、新たにボランティア登録をしてくださる方を見つけていくとともに、現在位置づけられている活動内容だけでなく、新たな活動を見出していく。また、地域の人材を発掘し、どのように保育につなげていけるか探っていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園　長　■副　園　長　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　副園長　）

は・あ・と・がだいじ～地域の方と心でつながる園教育を～

近江八幡市	活動名：老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：31 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■ 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■ 学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■ 地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■ 郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■園　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）


【絵本の読み聞かせの様子】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○栽培活動→畑作りや苗植え、収穫を一緒に行ったり、プランターの土作りや栽培のアドバイス・花苗植えの作業をしていただいたりしている。
○環境→ビオトープまつりや運動会に向けて地域ボランティアの方、保護者、職員が協力しあい園庭整備をおこなっている。
○絵本→月１回のペースで絵本ボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。ポルトガル語を母国語にされるボランティアの方にも来ていただき、多文化に触れる機会となっている。
○園外保育付き添いおよび郷土文化の伝承→奥石神社（老蘇の杜）や、十三仏等に同行していただき、地域の歴史やいわれ等、郷土についての話を聞かせていただいている。
○おいそビオトープまつり→老蘇まちづくり協議会・老蘇小学校ビオトープ委員会・老蘇こども園が共催して本園の園庭を会場として開催。地域の方、児童、園児が参加し地域交流の場となっている。
○避難訓練：老蘇コミュニティセンターへ、２次避難→避難訓練時に老蘇コミュニティセンターと連携し第２次避難所としてコミュニティセンターに避難し、防災についての話や施設の見学を行っている。

■　実施に当たっての工夫
○地域の集会や会議の折に地域ボランティアの説明をし、協力していただけるように発信している。加えて保護者が集う場で協力・協働を働きかけ、地域の方と保護者・園が一緒に活動できるように進めている。
○年度末にボランティアの方との交流会を実施し、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝える中で、園に対する理解を得られる機会を設けている。
○卒園児の保護者に声をかけ、継続してつながっていただけるように、ボランティアの登録をお願いしている。

■　事業の成果
○保護者だけでなく、祖父母の方も園行事に理解を示していただき、協力的、自主的に参加してくださっている。
○ボランティア活動を通して、園に親しみを持っていただくことができ、地域の方が来園しやすくなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○ボランティアの方が地域や多方面でも活躍されているので、支援を募った日に先約があることがある。また、ボランティア登録をされている方の高齢化に伴い、行事の内容によっては、体力的に難しいこともある。今後新たな人材確保に努める必要がある。


【花の苗植えの様子】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■園　長　■副　園　長
■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　副園長　）

地域の人に学び、地域に生きる私たち （志津小学校）

草津市	活動名：志津小学校地域協働合校	志津小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ：■有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：200 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

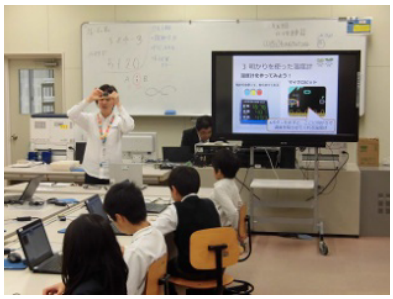
■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）子どもの活動支援の後は高齢者サロン
各字の老人会の協力を得て次のような体験活動を実施。子どもたちは、高齢者の生活実体験をとおして様々な知恵や工夫を知る。
１年生：さつまいもの苗植えと秋の収穫、昔ながらのあそびの伝承
３年生：昔のくらしや道具について
※学区に老人会連合会が組織されていないことから、授業の後は学校内の一室が高齢者サロンとなり、楽しみや生きがい、また情報交流の場となっている。


【　昔ながらのあそび　】

（２）地元企業との連携
地元企業であるパナソニックとの連携により「エコ体験学習」を活用している。
１年生：「どんぐりのひみつをさがそう」生き物とのつながり
３年生：「プログラミングでさぐろう」タブレットとマイクロビットを使った温度計づくり
５年生：「米パンで学ぼう、食エコ体験」食料自給率の理解と地産地消の大切さを実感
６年生：「電気の不思議実験室」発電の仕組みと環境にやさしいエネルギーについての学習


【　プログラミング　】

（３）けん玉活動の広がり
学校運営協議会は、けん玉活動を特色とする学校づくりを推奨しており、全校児童がけん玉活動を通して集中力や自己肯定感を高めている。また、小学校を会場として開催される地域行事“ふれあい広場”の１コーナーで、学校運営協議会委員の一人である地域学校協働活動推進員のコーディネートにより「けん玉広場」を開いた。

■　実施に当たっての工夫
〇学校運営協議会での意見をもとに子どもが輝ける協働活動を展開しようとしている。
〇地域ボランティアには、学習活動の趣旨を理解していただくために事前に直接お出会いして、詳細な打ち合わせをしている。
〇活動後には、子どもたちが書いたお礼状や感想文をお渡しして、今後も支援や交流が持続していけるようにしている。

■　事業の成果
〇「ふれあい広場」における「けん玉広場」の開催は、地域の人々に子どもスタッフがけん玉の技を教えることを目的としていたが、同時に地域の人々との交流を広げる一翼を担った。
〇地域の方々との交流を通じて子どもたちは、地域のことを知りいろいろな発見をすることができた。これらを通して、地域の自然や人々に関心を持つと共に感謝の気持ちが育ってきている。
〇地域や企業の方々から教えていただく中で、より専門的な知識や技能が学べるとともに子どもたちが自分たちでできることを見つけ、さらに探究しようとする意欲を持つきっかけとなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへの改革を考えていきたい。多くのボランティアが子どもたちのために様々な活動をとおして学校を支援いただいているが、今後、授業の中で、学校の教育活動をとおして大人も子どももともに学ぶ環境やシステムを構築したい。
〇地域行事の企画段階から、子どもが大人とともに参画できるシステムを構築したい。
〇体験的な活動が消化事業活動になる危険性があるので、学習活動のねらいをしっかり持ち、「つながりと持続可能」を大切にしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇学校だよりや志津小学校のホームページ(http://www.shizu-p.skc.ed.jp/tiiki.html)で、地域協働合校事業の取り組みについて紹介している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

子どもと大人の共育ちをめざして　（志津南小学校）

草津市	活動名：志津南小学校地域協働合校	志津南小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：1 人ボランティア登録数：125 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）「さつまいもを育てよう」（２年生）
地域の方が整備した畑で、さつまいもの植え方や世話の仕方、収穫の仕方を教えていただいた。収穫祭には地域の方を招待し、共に収穫を喜んだ。

（2）「伯母川たんけん」（３年生）
学校の近くの伯母川に行き、たくさんの生き物に触れた。地域を流れている伯母川の良さを再発見した。

（3）「りょうぶの道たんけん」（３年生）
地域にある「りょうぶの道」を、地域の方と共に歩き、道のいわれを聞いたり、草木の名前を教えていただいたりした。

（4）「芝桜プロジェクト」（６年生）
地域の方から調整池の設置目的や治水の現状などを教えていただき、志津南環境美化ボランティアの方々と一緒に、若草町内にある伯母川防災調整池で芝桜の植え付けを行った。自分たちの住む町のために、小学生の自分にもできることがあることに気付いたり、自分たちの住む町を愛する気持ちを育んだりする機会となった。

（5）「立命館大学　学生サークル連携 6DAYS！」（全学年）
学年ごとに、学生ボランティアの企画による紙飛行機作りや化学実験、手作りプラネタリウムを使った星の学習などを楽しんだ。将来の夢や自分の進路を考えるきっかけとなった。



【　伯母川たんけん（３年生）　】



【　芝桜プロジェクト（６年生）　】

■　実施に当たっての工夫
〇事前に地域コーディネーターとの打ち合わせを実施した。また、活動後もできるだけ懇談の時間を持ち、来ていただいた感想を話し合うなどボランティアの方の充実感や達成感、子どもたちとのつながりが深まるようにした。どの活動も、数年来継続して行っており、活動内容を充実させるため資料等を残すように心がけている。そして資料を基に毎年子どもの実態に合わせて活動内容を工夫している。

■　事業の成果
〇地域の自然に触れる機会を持ったことで、自分たちの町について、もっと知りたい、大切にしていきたいという思いが積み上がっている。近隣の立命館大学との活動も何年も継続して行われ、学生ボランティアに憧れを持つ児童も増えている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇子どもと地域とのつながりを大切にした学習を進めていくために、子どもたちの学習が受け身になるだけでなく、共に育ちゆく学びの環境づくりが大切である。また多様な学習を行っているが、地域における人材や資源の有効的活用を考え、地域の風土、環境、文化とともに安全、防災、ＩＣＴ、情報、英語などの専門的知識を持つ方また経験のある方等、地域コーディネーターを中心に確保するとともに、教育資源を活用し、学習教材を深め広げていき地域の活性化の一端を担うことが必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇年に４回、学校運営協議会において、地域協働合校の事業計画や実施状況を報告している。会議で出た意見や助言等を次の活動に活かしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

ふれあい　学び合い　心をひびかせる　草津っ子　（草津小学校）

草津市	活動名　草津小学校地域協働合校	草津市立草津小学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：120 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

□学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「なでしこの花を育てよう」

「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、子どもたちにより愛着を感じさせながら愛校心を育てる活動を実施している。全校的に総合的な学習の時間等を活用し、環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、全校的になでしこの苗を活用し植え育て、水やりや草引き作業等、日々の世話をしている。また、本校児童のエコ委員会が中心となり、なでしこの花を大切にする運動を進めている。

（２）「水のめぐみ“米づくり”」５年「野菜作り」２年「サツマイモ作り」１年

第５学年の総合的な学習では、敷地内にある学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで、環境ボランティアが子ども一人ひとりを丁寧に指導しており、草ひきなどの世話も子どもたちと共に実施している。サツマイモづくりや野菜作りも実施しており、収穫後の「お米パーティー」や「サツマイモパーティー」では、学んだことの発表会や収穫したお米やサツマイモをともにいただきながら交流を深めている。参加された地域の方々も子どもたちの姿に感動され、交流の場を楽しみにされている。



【　サツマイモパーティ　】

■　実施に当たっての工夫

〇事前のミーティングでは、ボランティアの想いや活動の工夫などを伺い、活動学年の担任や関わる児童に伝えることで、学校とボランティアがともに活動をつくっていけるように心がけた。事後のミーティングでは、活動の良かった点や改善点を確認することで、次回も見据え、継続的な取り組みになるように話し合った。

〇活動中だけでなく、活動後にもボランティアの方が「来てよかった、続けていきたい」と考えていただける活動を目指した。

〇子どもたちとの交流がその時限りではなく、学習後の発表会などでふれあうことで関わりを深め、感謝の気持ちを感想文やお礼状としてお渡しすることでボランティアの方々のやりがいにつながるように取り組んだ。

■　事業の成果

〇何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多いので、活動の流れや学校の様子をよく知っていただいていることから、スムーズに活動を行うことができている。

〇継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。

〇学習のまとめである「お米パーティー」や「おいもパーティー」、運動会や歌声集会等の学校行事にも積極的に参加していただくことで、交流の機会も増え、関わりが深まることで、子どもたちは「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校環境の整備など活動を問わず、共に考える場をさらに設け、各学校職員に伝えることで、よりよい関係を目指したい。

〇ボランティアの方が熱心に、一人ひとりの子どもを指導していただいているおかげで、学習は予定通りに進んでいるが、一方で、「子どもたちが試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指すことも必要である。そのためにも、学習のねらい分担について、ボランティアと学校が十分に共通理解しておくことが大切である。

〇ボランティアの方々の高齢化が目立ちはじめてきたこともあり、ＰＴＡや地域の方々への参加協力を得られるよう学校から地域へ発信していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇年３回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（地域コーディネーター）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！　（草津第二小学校）

草津市	活動名：草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：令和元年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：36 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）商店街との連携（１年生活科「サツマイモをそだてよう」、２年生活科「ミニトマトを育てよう」、３年社会科「ふれあいお店体験」）

学区内に草津駅前商店街がある地の利を活かし、商店会の皆様と連携した教育活動を行っている。１年生では、種苗店にご協力いただいて、サツマイモの苗植えを学校の畑でご指導いただいている。２年生では、ミニトマトの苗植えや育て方をご指導いただいている。３年生では、駅前の立地条件を生かし、児童が商店街のさまざまな商店でお店体験をすることにより、地域の方々と積極的に関わり、交流しようとする態度を育て、地域への愛着を高めている。また、体験を通して、地域の方々がどのような思いや願いをもって働いておられるかに気づき、働くことの大切さについて学んでいる。



【　駅前商店街でのふれあいお店体験　】

（２）１年生　昔あそび

１年生の生活科「むかしあそびをたのしもう」の学習では、地域の小汐井シニアーズや更生保護女性会の皆様のご協力を得て教育活動を行っている。地域の方々から昔の遊びについての話を聞きながら、いろいろな道具を使って、コマ回し・めんこ・はねつき・まりつき・おはじき・あやとりなど８つのコーナーに分かれて遊びを楽しむことができている。

子どもたちは、地域の方々との触れ合いの中で、遊びがうまくできるように教えてもらったり、うまくできたことをほめてもらったりして、喜びながら積極的に活動する姿がみられた。

また参観日の機会に、保護者と子どもが昔あそびを一緒に楽しむ活動を行っている。この活動を通して、人とのふれあいの良さと、昔あそびの楽しさに気づくことができた。



【　むかしあそびをたのしもう　】

■　実施に当たっての工夫

・各学年の担任団が地域コーディネーターと連携して、地域の方々へ早めに連絡を取りスムーズに実施できるようにした。

・３年生の「ふれ合いお店体験」では、地域のパイプ役となる方と、学年担任、地域コーディネーターが連携して、受け入れ先の協力をしてくださった店舗に、早めに活動内容の協力とお願いを行っている。

■　事業の成果

・地域の方々とふれあうことで、地域への愛着がわき、自分たちの生活に関わる人々の働きを知ることができた。

・核家族が多いため、祖父母の年代の方々から昔の遊びなどを教わる良い体験ができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアの方の年齢層や分野が多岐にわたるように、活動を広げていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・協議をする中で学校の活動と連携できる内容を進めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各学年担当教員　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

いいな　いいな　ともに学んでふれ合うまち　渋川　（草津市立渋川小学校）

草津市	活動名：渋川小学校地域協働合校	渋川小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：250 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。

〇５年生は、びわ湖フローティングスクールを核に、多方面で活躍されている方々を講師に招き「びわ湖環境学習」を実施し、森・川・田・湖のつながりについて考えた。琵琶湖の学習では、シジミ漁やえり漁の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理を作って味わった。琵琶湖の水質と関係が深い森や田の環境については、農家や森林に詳しい専門家を学校に招いたり、離れたところからテレビ会議システムを使って遠隔授業を行ったりしながら、人とのつながりを大切にした学習活動を展開した。さらに学習の成果を地域の人々に発信するために、「渋川Ｅ（いいまち）Ｓ（しぶかわ）Ｄ（だいすき）ミュージアム」を開館したり、地域の人々と協働で栽培したお米の試食交流会を開催した。

〇６年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」「果樹」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。学習のまとめでは、滋賀の農産物やそれらを使った郷土料理の魅力を紹介する「滋賀の郷土料理博物館」を開館させた。学校内だけでは見ていただける方が限定されるため、県庁や市役所、地元ショッピングモールなどで巡回展を実施して、数千人に成果を発表することができた。



【　滋賀の郷土料理博物館を開館する　】

■　実施に当たっての工夫

〇ゲスト講師に学校へ来ていただけない場合でも、現場からテレビ会議システムを使った遠隔授業を行ってきた。校外学習などで子どもたちが学校から出かけていく機会は限られるため、現地の様子がライブで伝えられる遠隔授業を活用してきた。５年生では、琵琶湖船上から漁業の様子を伝えたり、森林の中から森のはたらきを解説したりした。６年生では、農園から生中継して、野菜や米やお茶の栽培方法の解説を聞きながら学習した。また、事前に食材を入手しておいて、漁師や農家の方々と生中継で結び、現地からの指導を受けながら学校の家庭科室で調理実習を行うこともあった。さらに県外の農業遺産認定地域である宮崎県・徳島県・静岡県・埼玉県とも交流することができた。人との出会いのツールとしてテレビ会議システムを積極的に活用することができた。



【　宮崎県との遠隔授業　】

■　事業の成果

〇本報告では、２事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかり意識して取り組みたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）　報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域の先生に学び、地域に誇りを持てる子に！　（矢倉小学校）

草津市	活動名：矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　■その他（ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクト）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）矢倉のすてきを見つけよう（３年生）

３年生の総合的な学習では、１学期に社会科の発展学習として、自分たちの住む地域について学んだ。地域を回る時には、テーマ別に子どもたちが分かれて探検し、それぞれのグループにボランティアがついてくださり、言葉や絵などがかかれた自作のフリップを使って分かりやすく説明をしてくださった。

探検の中で、矢倉学区には矢倉道標（東海道と矢橋道の分かれ道の標）があり、そこから「急がば回れ」ということわざができたことや、地域の神社で行われる祭りや珍しい瓢箪屋（ひょうたんや）があることを知ることにより、地域に興味を持つきっかけとなった。



【　地域の神社について解説　】

（２）昔のくらし～知えと工ふうを学ぼう～（３年生）

３学期には、地域で使われていた昔の道具を学校に持ってきてもらい、実際に体験する学習を行っている。洗濯板を使ってみる、ふろしきで物を包む、着物や下駄を身に着ける、蚊帳の中に入るなどの体験を通して、昔の道具のよさや工夫を知ることができた。また、藁・木・土・鉄で作られている物が多いことを実感したり、直して使うことができる良さを学んだりすることができた。



【　昔の道具をさわってみよう　】

■　実施に当たっての工夫
〇活動を通して、学習のねらいが達成できるように、また地域の方々の思いが子どもたちにしっかり伝わるように、担任を交えた事前の打ち合わせをしっかりと行うように心がけている。
〇活動が単発で終わらないように、事後の感想やお礼の手紙をお渡ししたり、子どもたちの発表会を見に来ていただいたりする機会をもち、地域の方とのつながりを大切にした。

■　事業の成果
〇地域の方々との交流を通じて子どもたちは、地域のことを違う視点で見るきっかけとなり、お祭りや昔の建物に興味をもつ子たちもたくさんできた。さらに、大事にしていきたいや、守っていきたいという気持ちも生まれた。
〇担任の思いと地域の思いを打ち合わせで話し合うことにより、子どもたちに「地域を好きになってほしい」という共通の思いをもって、学習を進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇ボランティアの方と学校の都合等により、日程調整が難しく、学校や学年の担当者との早めの打ち合わせが必要。
〇ボランティアの方々の高齢化が進み、活動の存続が危ぶまれるものもある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇学校運営協議会に、まちづくり協議会会長や、地域コーディネーターにも参画していただいている。会議の中で、地域協働合校の取り組みについても紹介し、よりよい活動になるよう、助言などをいただいている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（各学年の教員）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

手をつなぎ、心通わす　誘（ゆう）・融（ゆう）（融け合う）老上　（老上小学校）

草津市	活動名　：　老上小学校地域協働合校	老上小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：185 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇ふれあい老上まつり
第１日は小学校での学習発表、第２日は小学校区挙げての「まつり」となり、子どもたちを中心に地域全体の「ふれあい」の場となった。また、地域の方々が学習発表会の会場準備なども担ってくださり、華やかな会場で大勢の保護者・地域の方に来校いただいての「まつり」となっている。

〇お茶会
６年生児童が日本の伝統文化である茶道を、作法や礼儀などを学びながら体験し、地域の方との触れ合いが増す取組となっている。



【　ふれあい老上まつり　】

■　実施に当たっての工夫

〇サポーターバンクを活用して、お茶会や家庭科の学習など実習を伴う場面でのサポートをはじめ、校内外の体験活動など様々な場面で支援していただけるように今後も工夫していきたい。

〇ボランティア同士の交流が図れるよう、図書室サポーターと読み聞かせボランティアで合同懇談会を開催している。



【　お茶会　】

■　事業の成果

〇お茶会ボランティアやサポーターバンクのように、学校に関心を持ち「できる範囲で少しずつサポートしていこう」という形で、関わってくださる支援の輪が広がっている。

〇子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増え、地域の方やふるさとへの愛着を感じ、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇取組を充実させるため、入念な打ち合わせや準備等が必要となる。学校・地域双方の負担を軽減するため、地域コーディネーターの果たす役割が必要不可欠となっている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校ホームページ　　http://www.oikami-p.skc.ed.jp

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

やってみよう2019！　～地域とともに協同（協働）する学校～　（老上西小学校）

草津市	活動名 ：老上西小学校地域協働合校	草津市立老上西小学校 学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成28年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：80人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験活動

さつまいも（１年）、大根（２年）、米（５年）などの作物を農業合校の方やサポーターの方の協力を得ながら栽培している。栽培し収穫したものは、籾殻を使って焼いもにしたり、大根持ち、大根葉のふりかけにしたり、塩おにぎりにしたりして栽培から調理までつながりのある学習を行っている。



【　２年　大根収穫　】

（２）学習支援

２、３年生の町たんけんや５、６年生の家庭科学習のサポートにたくさんの方に参加いただいた。たくさんのサポーターの方に来ていただくことで、よりきめ細やかに子どもを見ていただくことができた。

（３）読書活動の推進

読み聞かせや図書ボランティアにたくさんの方が登録いただいている。読み聞かせの方には、毎週火曜日の朝に低学年を中心に読み聞かせをしていただいている。図書ボランティアの方には、本の整理や貸出しの手伝い等、子どもたちが本に親しみやすくなるような環境づくりにご協力いただいている。



【　５年　はじめての裁縫　】

■　実施に当たっての工夫

○年間の見通しを持つ

年度当初に年間の活動計画を作成し、保護者や地域に配布・回覧している。

○「できるときに、できることを」

「できるときに、できることを」を合言葉に、協力いただける方に可能な範囲で幅広くサポーター募集を行っている。

○取組の発信

「こみゅにてぃ・すくーる通信」を発行したり、活動の様子を模造紙にまとめて提示したり、ホームページに掲載したりするなどして本校の取組を発信している。

■　事業の成果

○地域コーディネーターを中心に見通しを持って活動することで、地域とのつながりもできてきている。

○これまでは我が子の所属学年のサポーターとしてのみ参加されている保護者が多かったが、昨年度から我が子の所属学年をこえて参加いただける保護者の方が増えてきている。

○サポーター同士のつながりが広がり、新たなサポーターとして参加していただける方が増えた。

○子どもたちが地域や保護者など様々な方々と関わり、触れ合うことができている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○積極的に活動の周知・発信を行うことで、さらなるサポーターの増加をはかる。

○学習支援だけではなく、各専門分野の人材発掘を行う。

○休み時間の活動やその他ボランティア活動など、授業時間以外での活動を開発していきたい。

○サポーターが主体となって行う活動を充実していきたい。

○活動の広がりとともに、地域コーディネーターの負担が大きくなっている。地域コーディネーターの人員を増やすことで、負担の軽減に努めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○年間４回の学校運営協議会を開催している。学校の取組や子どもの様子を伝えて、話し合う中で学校の課題や目標を共有することができた。今後も引き続き協議を重ね、「地域とともにある学校づくり」を進めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

すきです玉川　　わたしも参加　　つくるよろこび　　（玉川小学校）

草津市	活動名　：　玉川小学校地域協働合校	草津市立玉川小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：130 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　　□地域学校協働活動推進員
□行　政　　■その他（萩まつり実行委員会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

学区には立命館大学びわこ・くさつキャンパス（ＢＫＣ）があり、パナソニック草津工場を始め多くの企業が点在する地域である。ここ数年では、駅前開発でマンション群が建ち並び、また、京滋バイパス沿いに住宅地が造成されるなど新興地区と旧地区が混在した地域でもある。本学区の方々はそれぞれが連携を取りながら、小学校の活動に対して非常に協力的であり、環境を整えていただいたり、子どもたちの学習を助けていただいたりしている。地域の特性を生かした活動は、地域の方にとっても、子どもたちにとっても有意義な取組となるように仕組んでいる。



【　５年生：田植え　】

（１）学校近くの田（学習田）をお借りして、５年生が「田植え」を体験している。農作業の機械化は進んでいるが、「しろかき」された（ぬかるんだ）田んぼの土の中に、素足で入るという子どもたちの経験の中になかった感触を実際に感じることで記憶に残る体験となっている。今後は、収穫した「米」だけに目を向けるのではなく「わら・もみがら・ぬか」など、稲のすべてを活用してきた「日本人の知恵」を学ぶ活動につなげたい。

（２）１年生はプールの西側の畑に「さつまいもの苗植え」を体験している。さつまいもの苗の植え方やでき方などを詳しく教えていただき、枯れた苗を数日後に植え直していただいた所もある。水やりや草引きを計画的に分担し、秋の収穫につなげたい。収穫した後は、さつまいもの調理の仕方を子どもたちと相談し、「収穫を祝う会」など、子どもたちの新たな学習活動へと広がるように計画していく。



【　１年生：さつまいもの苗植え　】

■　実施に当たっての工夫

玉川小学校の地域協働合校の伝統として行われている活動を大事にしている。行事が終わった後に地域のみなさんと反省会をもち、来ていただいた方とその日のうちに話し合って次年度に生かすようにしてきた。地域コーディネーターや実施団体の担当が代わっても、次年度スムーズな取組ができるよう引き継ぎを大事にし、毎年行事を見直し、より良い取組になるようにしている。

■　事業の成果

子どもたちは地域の中で生活している。地域の中にはいろいろな技能を持った方がたくさんいるということを地域協働合校の行事を通して学んできた。地域の方とのつながりを持つよいきっかけになっており、登下校時には、挨拶を交わす姿も見られるようになった。それぞれの事業の終わりには、子ども達の方からお世話になった地域の方々に感謝の気持ちを直接伝えている姿が見られた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

小学生と地域のみなさんとをつないで一緒に活動することで、玉川学区の良さや特徴を知り、玉川を愛する子どもたちが増えてほしいと願っている。玉川のことが大好きといえる子どもになるように今まで続いてきた伝統的な活動を継承しながら、新たな取組を取り入れていきたいと考えている。ただ、現在教えていただいている方たちの高齢化や宅地開発が進む現状を鑑み、併せて、事業についても見直しをした。今後も学校と地域を結ぶ力をもっと高められるようにコーディネートをしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会については、学期に一度話し合いの会議を持っている。学校の取組の現状報告やそれに対するアドバイス、課題解決に向けて貴重なご意見をいただいている。今年度も、２学期当初の暑さ対策を相談し、昨年度のように自治会の方から体育館にスポットクーラーを６台入れていただいた。おかげで、運動会の練習は充実したものになり、本番ではその成果がみられた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

素敵な出会い　みんなで創るまち　南笠東　～つながろう～　　（南笠東小学校）

草津市	活動名　：　南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　■その他［地域公開講座］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　　□地域学校協働活動推進員
□行　政　　■その他（学校運営協議会議員）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）老人クラブの方と１年生の、年間を通して行う活動

５月の「さつまいもの苗を植えよう」から始まり、10 月には「おいもほり」と「いもパーティー」、１月には「昔遊び」で老人クラブの方と１年生が交流する活動を行った。

「さつまいもの苗を植えよう」では、１年生が全員で苗植えを行った。老人クラブの方が隣についてくださり、植え方を教わりながら一緒に活動した。



【　いもパーティー　】

「おいもほり」は１日参観の日に、１クラスずつ行った。お家の方は参加する形ではなく、子どもたちが老人クラブの方と一緒に活動している姿を見ていただいた。また、事前に作成しておいた「いもパーティー」の招待状を、子どもたちが老人クラブの方に直接手渡す時間も作った。

「いもパーティー」は１年生全員で行った。子どもたちは司会進行、プログラムを書く、席札や飾りを作るなど、役割分担して準備を進め、当日を迎えた。発表を見ていただいたり、収穫したさつまいもで予め作っておいた「茶巾絞り」を食べながらおしゃべりしたりして、老人クラブの方と交流した。

「昔遊び」は、３回の活動で顔見知りになった老人クラブの方と一緒に昔遊びを楽しみ、さらに交流が深まることもねらう。

（２）地域の行事「地域で彩るコラボレーション」に参加

まちづくり協議会の事業で、12 月に行われた「地域で彩るコラボレーション」に毎年参加している。今年度は、ダンスクラブの子どもたちが日ごろの練習の成果を発揮した。

（３）オープンスクール

夏期休業期間中と冬期休業期間中のそれぞれ３日間、「オープンスクール」と題して本校児童や卒業生、未就学児、保護者、地域住民に学校図書館と図工室を開放した。図書ボランティアに読み聞かせをしていただいたり、学生のボランティアや地域のボランティアに、休業期間中の課題に取り組む子どもたちを支援していただいたりした。



【　オープンスクール～読み聞かせ　】

■　実施に当たっての工夫

回数を重ねることで、関わりが深まるようにした。

■　事業の成果

・教師以外の様々な人と関わることができた。子どもたちは、活動内容はもちろん、それ以外にも人から学ぶことは多い。
・活動以外の場でも、子どもたちが関わりを持った人たちに声をかける姿が見られた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校に来ていただく方を増やす。そのために、ボランティアの内容や募集方法を見直す。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

HP にて、活動を紹介しています。http://www.minamigasa-p.skc.ed.jp/

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　担任　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　　）

出会い・ふれあい・学び合い　～みんなで育てる山田の子～　（山田小学校）

草津市	活動名　：　山田小学校地域協働合校	山田小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度（地域協働合校事業は平成 10 年度）　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）ニゴロブナ稚魚の放流

山田漁業共同組合の皆さんの協力のもと、びわ湖にニゴロブナを放流する活動を続けている。初めて魚に触れた子、初めて船からびわ湖を見た子もいる。この活動を通してびわ湖の環境を考えるきっかけとしたい。



【　ニゴロブナ稚魚の放流　】

（２）室戸台風殉難慰霊式

本校では、今から 85 年前の室戸台風で大勢の被害者が出た。被害にあわれた方の記録をもとに話を聞き、亡くなられた方々を追悼するため、地域の方々とともに、全校で持ち寄った花で献花をし、歌い継がれた「学友の霊に捧げる歌」を歌うことで、自然の偉大さについて考えさせるきっかけとなっている。



【　室戸台風殉難慰霊式　】

（３）その他

読書サークル「トトロ」の皆さんによる読み聞かせ、ビニールハウスでのネギ植えと収穫、消防団の取組の見学など。

■　実施に当たっての工夫

〇地域との窓口を担任から、地域コーディネーターに移行していくことで、スムーズに調整が進み、より有意義な活動になるようにしている。

〇校内の掲示板に『地域協働合校コーナー』を設け、それぞれの学年の取組について広め、見通しが持てるようにしている。また、地域のボランティアさんの顔写真を掲示し、様々な場面でお世話になっている地域の方々の顔と名前がわかるようにしている。

■　事業の成果

〇掲示板を見つめる子どもの姿がよく見られる。「この人、知ってる！」「〇年になったらこんなことができる！」という歓声もあり、地域の方とのふれあいを楽しみにしている姿が見られた。

〇歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあり、様々な体験ができる環境にあるため、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。そのため、アンケート等で「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域の高齢化が進み、恒例の学習も実施が困難なケースがでてきている。学習自体は続けていくため、地域コーディネーターを中心に人材発掘を進めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校運営協議会に地域コーディネーターと担当教諭も参画し、連絡調整を年間３回実施。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

協力して育つ　共に育つ　響いて育つ　子どもの夢育て　（笠縫小学校）

草津市	活動名　：　笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）　　ボランティア登録数：85 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験合校

３年生の総合的な学習の時間では、学区にお住いの「アオバナの先生」を招き、苗の植え方や世話の仕方を、実演を交えながら教えていただいた。子どもたちは先生の教えをしっかり守って熱心に世話を続けた。その甲斐があって７月には多くの花が咲き、摘んだ花でハンカチを染める活動を行うことができた。



【　アオバナについての話　】

（２）地域の人と学ぶ合校

６年生の総合的な学習の時間では、学区の伝統である「サンヤレ踊り」、「講踊り」、地域で生まれた日本画家の野添平米さんや横井金谷さんについて学ぶ機会を設けている。子どもたちを６つのグループに分け、実際に地域に出向いて地域の方より話を聞いたり実演を通したりして学んでいる。その後、学んだことをタブレットパソコンや画用紙などにまとめ、低学年の子どもたちに自分たちの学びを伝えている。

たんぽぽ学級（特別支援学級）の子どもたちは、年に１回、学区の民生委員児童委員さんと製作や調理などの交流を行っている。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要な物を準備していただいたりと、積極的に関わってもらっている。



【　地域の偉人を調べる　】

（３）読書推進合校

ＰＴＡで組織する読書ボランティア「お話の森」のみなさんによる読み聞かせを２～３週間に一度、朝学びの時間（15 分間）に各学級の教室で行っている。

（４）地域安全・学校安全合校

子ども見守り隊の方々による登下校の見守りを行っている。長年続けていただいている方も多く、見守るだけでなく指導もしていただいている。１年間の感謝とお礼を伝える場として、３学期末の修了式に見守り隊の方をお招きしている。

■　実施に当たっての工夫

〇地域のよさを感じたり学校や校区のことを詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かさに触れたりするような活動を大切にしていきたいと考え、教科等との関連をふまえ、活動を仕組んでいる。

■　事業の成果

〇コーディネーターの方をはじめ、継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、教員以上に活動を把握されており、主だった活動にスムースに取り組むことができている。民生委員児童委員さんのように、進んでアイデアを出していただくこともあり、地域の子どもたちの育ちに自分たちも積極的に関わっていこうとされる姿は、学校にとっても本当にありがたいことである。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇継続してボランティア活動に取り組んでいただく方が多いものの、一方で新たな人材を見出していくことが課題である。その上で、コーディネーターとの連携は大変重要であるが、コーディネーターに任せきりになっている状況である。今後は、連携を密にして人材の発掘につとめていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会に地域コーディネーターも入っていてくださる。地域との連携はコーディネーターが非常にこまめにとっていただいている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域協働合校推進教員　）

ふるさとの「いのち」とふれ合う東っ子　（笠縫東小学校）

草津市	活動名　：　笠縫東小学校地域協働合校	草津市立笠縫東小学校　学校運営協議会：■有　□無 学校運営協議会との協働：■有　□無

地域学校協働本部概要　　※実施した活動すべてに■印

開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：85 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）



【　葉山川土手のごみ拾い　】



【　ごみを分別する様子　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇地域の環境を守るエコロジー委員会　（５・６年生児童会活動）

５・６年生が所属する児童会の委員会活動「エコロジー委員会」では、17 人の子どもたちが、学校や地域の環境保全とその啓発のための活動をしている。

学校のビオトープの周りに、市の花であるアオバナを植えたり、校庭のごみ拾いをしたりしてきた。学校のシンボルだったポプラの大木が台風で倒れた年には、ごみになりがちなペットボトルのキャップを集めて、ポプラの木を壁面アートにして表現したこともある。

例年１月頃には、地域の環境を守る活動をしている「草津塾」の方々と、学校近くの葉山川の土手のごみ拾いをする活動を続けている。今年度は、１月 20 日の午後に葉山川土手のごみ拾いを実施し、約 10 名の「草津塾」のメンバーと合流した。子どもたちは、わずか 10 分ほどの時間で、持ってきたごみ袋やバケツがいっぱいになるほどのごみを見つけ、改めてごみを捨てる人の多さに驚いていた。その後、分別作業を通して、プラスティックごみの多さを確認することができた。

この結果を受けて、「草津塾」の方からこれらのごみが海洋プラスティックごみにつながるという話を聞き、地球環境の問題が身近なところに端を発することに気づくことが出来た。

■　実施に当たっての工夫

〇上記の事例のように、本校近くを流れる葉山川やその周辺をフィールドにした学習や活動を仕組むことで、地域への愛着を育みながら教育的効果を上げている。

例：自然観察、昆虫採集、川の生き物調査、俳句作り、マラソンコース

〇 野外で活動する際の安全を確保するために、地域の方に事前に活動場所の草刈りや危険箇所のチェックをしておいてもらうことで、安心して活動ができる。

■　事業の成果

〇地域のフィールドで地域の方と活動することで、地元を愛し、その環境を大切にする人々の思いにふれることができる。子どもたちも今まで以上に、地域や地域の大人への親しみを感じ、自分のふるさとに誇りを感じて、進んで地域の行事などに参加する子どもが増えている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇新学習指導要領により、教科の時数や指導内容が増える中、従来のままの地域学校協働活動を継続していくことは難しく、その趣旨や活動のねらいを確認しながら、行事や活動の精選を行っていく予定である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇学校運営協議会のメンバーの一人は「地域協働合校推進協議会」の会長も務めており、子どもと地域との協働学習の様子も話題に上り、学習効果や懸念事項など把握してもらっている。来年度は、稲刈りの時期に熱中症の心配がないように、時期や方法などの見直しに着手していきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長　■教頭　■地域連携担当教職員　■その他（　該当学年教員　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

ふるさと常盤から豊かな生き方を学ぼう　（常盤小学校）

草津市	活動名：常盤小学校地域協働合校	常盤小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：200 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員
□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）２年生　「ザリガニ取り」学習会
「志那中環境を守る会」の方の全面協力のもと、学校近くの用水路で網を使ってザリガニを捕まえる。普段、網を持ったことがない子どもも意欲的に取り組み、苦労して捕まえることで、ザリガニを大切に育てることができた。


【　ザリガニ取り　】

（２）４年生　「魚のゆりかご水田」体験学習
「志那中環境を守る会」の方にお世話になり、「魚のゆりかご水田」について話を聞き、実際に地域の田んぼの溝でバケツとタモ網を使って魚や生き物を捕まえる。捕まえた生き物について、琵琶湖博物館の方から説明を受ける。その後、放流する。


【　魚のゆりかご水田　】

（３）５年生　「環境にやさしいお米づくり」
地域の方の田んぼをお借りして、地域の方や、JA の協力のもと、子どもたちが田植えを体験する。さらに、ふなの稚魚を放流・救出し、秋に収穫する。収穫したもち米を使い、老人クラブ、健康推進委員の方の協力のもと、もちつきを行い、お世話になった方々と共に感謝の気持ちを込めて収穫祭を行う。
※どの学習も単発で行っているのではなく、ときわっ子が６年間育っていく中で「ときわ」（ふるさと）のよさを学んでいる。

■　実施に当たっての工夫
〇地域の方々の「ふるさと常盤」を愛する気持ちや、後世に残し伝えていきたいという思いが子どもに伝わるよう、そして、目の前の子どもの実態にあった内容になるよう地域コーディネーターや学校担当者、担任を交えて事前の打ち合わせを行ってきた。
〇正面玄関や会議室壁面に「地域協働合校コーナー」を設け、日々お世話になっている地域の方の姿を写真で掲示し、感謝の気持ちを忘れないようにしている。また、常盤小学校に来てくださる方にも、「常盤のよさ」を知っていただく一助になっている。

■　事業の成果
〇地域の方がたくさん協力してくださるおかげで、子どもたちも「あー、〇〇さんや。」と声をかけたり、挨拶したりする姿が増えつつある。また、知っている方に教えていただくことで、質問しやすく、さらに学習が深まった。また、そこから、地域の行事に参加する子どもも増えつつある。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
〇昨年度の反省をふまえ、保護者の方を少しずつ巻き込みながら、学年通信・学級通信等で発信することにより、親子で「常盤のよさ」を語り合う機会が増えたのではないかと思われるため、引き続き行っていきたい。また、子どもたちがまとめたものを他の学年に知らせたり、地域に発信したりもできると考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
〇年４回学校運営協議会にて連絡調整を行っている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　□教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域事業本部「栗中サポーターズクラブ」　（栗東中学校）

栗東市	活動名　：　栗東中学校支援地域本部 「栗中サポーターズクラブ」	栗東市立栗東学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：39 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）**学習環境支援**　：　美化活動を実施。ねながら廊下から授業を見守る支援（月１，２回程度）玄関前生け花支援
（２）**図書室支援**　：　本の整理、本棚の修理など環境整備（月１回程度）、図書室リニューアル支援（2 学期　ほぼ週１回）
（３）**環境整備支援**　：　破損箇所修理や植栽伐採、ＰＴＡ環境整備支援、家庭部員との協働雑巾作りなど、校舎内外の学校生活環境向上全般における支援
（４）**通学マナーアップ**　：　登下校時の危険箇所での立番活動
（５）**学校行事支援**　：　生徒との地域ゴミ拾い活動、校外学習時の立番　チャレンジウィーク起業体験支援　家庭部主催サポーターさん、保護者ボランティアさんを招いてのお茶会支援
（６）**栗中コミュニティガーデン**　：　生徒とサポーターさんとの協働運営菜園で野菜の栽培、収穫支援

■　実施に当たっての工夫
〇年度初めにサポーター会議を開き、活動計画をたてる。毎月の通信で参加してくださる方の募集をする。申し込み制。申し込み状況を把握しながら、事務局からも働きかけ人数調整する。
〇専用のユニフォームを着て、活動が一目でわかるようにする。保護者さんや地域の方にも、理解協力が得やすく、活動が浸透している。
〇サポーター通信を月１回発行。保護者や地域の役員さんにも配布し、活動の様子を伝える。近隣の生徒が通信を届け、地域とのつながりの機会とする。
〇無理のない範囲で、生徒たちと一緒に活動することを心がけ、温かで心豊かな生徒の育成、自ら取り組もうとする意欲を高める。
〇活動の様子を校長室前掲示板に掲載。来校されたお客様にも幅広く活動を知っていただく。
〇サポーター室を設け、活動時だけでなく、活動計画を立てるなど気軽にお立ち寄りいただき交流の場としても役立っている。


【　本棚の修理　】

■　事業の成果
〇規律や安全面での支援
月１回から２回程度、授業中、廊下からの見守りを実施。三者懇談会中の放課後には駐輪場やグラウンドの巡回、校外学習時には駅周辺の見守り、入学説明会に登校する小学生の見守りなど、学校行事のある時の立番の支援を実施。声掛けや安全面の強化に役立っている。
〇図書室支援による担当教員の負担軽減
図書室支援・・図書室の本の整理や本棚の背面の張替修理。図書室がきれいに、本が見やすくなった。今年度、図書館司書さん指導のもと、保護者ボランティアさんとサポーターさん、図書委員で図書室リニューアル支援に取り組む。リニューアル後、図書委員自らが、おすすめの本コーナーを設置し本の魅力を発信するなどして、生徒たちが図書室に親近感を感じてもらえる環境作りができた。サポーターさんから観賞用花の寄贈や飾りつけなどご協力いただいた。


【　家庭部主催お茶会　】

〇サポーターとの協働による生徒の心の醸成・サポーターの活躍の場の提供
種まきや苗植え、野菜の収穫など作業を通して、土に触れ、野菜を育てる喜びを実感、心の醸成につなげている。近隣の協働ゴミ清掃では、地域の人にも活動を認知してもらえるようになってきた。地域からご提供いただいた中古タオルで雑巾を作る取り組みでは、4 年目を迎え、定着し、生徒たちのミシン掛けがとてもうまくなった。また、着付け教室、畑作業、耕耘機の修理など、サポーターさんの専門知識を生かした活躍の場の提供にもなっている。
〇地域と学校をつなぐ「家庭部主催お茶会と吹奏楽によるアンサンブル演奏会」の実施
日ごろからご支援いただいているサポーターさん、ボランティアさん、先生方をお招きし、お茶の先生でもあるサポーターさんにご指導いただき家庭部が中心となってお茶会を催した。その後、吹奏楽部がアンサンブル演奏をしてくれて、交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
サポーターさん自身の高齢化が課題であり。徐々に引き継いでもらえるように取り組みたい。保護者さんも少数ながら参加いただいている。引き続き、加入の呼びかけを続ける。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
学校運営協議会は設置していないが、地域のサポーターが構成メンバー含まれる学校協議会において連携を図っている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働コーディネーター　）

「心豊かでたくましい実践力のある中主っ子」の育成を

野洲市	活動名：中主小学校地域学校協働本部	中主小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度： 令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：登録なし

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）社会科における支援（ 事業を考案する主体：■学校 □地域学校協働活動推進員 □行政 □その他 ）
５年生社会科「食料生産をささえる人々」の学習では、「たんぼのこ事業」の中で、子どもたちは、グリーンちゅうず、ＪＡ中主の方々に田植えおよび稲刈りの方法を学び、実際に体験することができた。

（２）算数科学力補充における支援（ 事業を考案する主体：■学校 □地域学校協働活動推進員 □行政 □その他 ）
算数科の学力補充「のびっこタイム」の学習では、子どもたちは、退職教員や現役大学生の方々から指導をいただき、学力の向上を図っていった。

（３）図書ボランティア整備における支援（ 事業を考案する主体：■学校 □地域学校協働活動推進員 □行政 ■その他 ）
図書ボランティアの方が、図書室の季節の飾り付けや図書のブッカーかけなど、図書室の整備を行い、子どもたちの読書環境を整えてくださった。

（４）ヨシ苗植えに関する支援
（ 事業を考案する主体：■学校 □地域学校協働活動推進員 ■行政 ■その他 ）
５年生の総合的な学習の時間では、ロータリークラブや「びわ湖の水と地域の環境を守る会」に所属する方々が子どもたちにヨシの水質浄化作用についてわかりやすく説明してくださった。その後、ヨシ苗を学校にある池へ植える活動を指導いただいた。11 月下旬には、以上の方々に加え、公益財団法人淡海環境保全財団や環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」（えこっち・やす）の所属する方々の支援で、育てた苗を児童自らが琵琶湖岸に植える活動を行った。

（５）読み語りボランティア整備における支援（ 事業を考案する主体：■学校 □地域学校協働活動推進員 □行政 ■その他 ）
読み語りボランティアが、朝学習の時間を活用した図書の読み聞かせを行った。

（６）家庭科実習支援（ 事業を考案する主体：■学校 □地域学校協働活動推進員 □行政 □その他 ）
５年生家庭科における手縫いやミシン縫いについて、実習を伴う積極的な支援を行ってくださった。

（７）学校敷地内の環境整備（ 事業を考案する主体：□学校 □地域学校協働活動推進員 □行政 ■その他 ）
西河原喜楽会の皆さんによる草引きや草取りなど、施設の環境を整えてくださった。

（８）昔遊びに関する支援（ 事業を考案する主体：■学校 □地域学校協働活動推進員 □行政 ■その他 ）
１年生生活科で、児童は老人クラブの皆さんの支援により、子どもたちは昔の遊びを体験した。

■　実施に当たっての工夫

（１）社会科の田植えや稲刈りにおける環境整備
グリーンちゅうず、ＪＡ中主の方々と事前の打ち合わせを綿密に行った。

（２）算数科学力補充における支援
支援くださる方々が支援しやすいようなわかりやすい解答用紙を準備し、児童のきめ細かな支援をしていただいた。

（３）図書ボランティア整備における支援
学校側の図書館担当と図書ボランティアの方々と学校の連絡帳を準備し、図書整備に関する情報を共有した。

（４）ヨシ苗植えに関する支援
学校と環境保全団体の橋渡しに野洲市環境課が積極的に関わってくださった。雨天による延期の際に連絡調整を丁寧に行うことで混乱なく進められた。


【ヨシ苗を琵琶湖岸に定植した場面】

（５）読み語りボランティア整備における支援
朝学習時の読み聞かせが円滑に進むよう、学校側担当者との打ち合わせを綿密に行った。

（６）家庭科実習支援
老人クラブの方々には、あらかじめどのような支援をしていただきたいのかを具体的に伝える打ち合わせを行った。

（７）学校敷地内の環境整備
児童の安全を確保するため、伐採あるいは刈り取りの植栽について打ち合わせを行った。

（８）昔遊びに関する支援
老人クラブ代表の方々と学年担当が、体育館フロアのどこで、どんな昔遊びをするのかなどの打ち合わせを行った。

■　事業の成果
以上の事業を体験した子どもたちは、地域行事に積極的に参加する姿が見られ、地域に密着しながら、心豊かでたくましい実践力のある子を育てることができたと考えられる。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域学校協働推進員を学校関係者外に設置することが望ましいと考えられる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　教務部　）

報告書記入者（　教　　頭　）

しのっこの豊かな心を育てるための活動～応援から協働へ～

野洲市	活動名：篠原小学校地域学校協働本部	篠原小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：登録なし
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
○読書推進活動
・毎週木曜日の朝に読書ボランティアさんによる読み聞かせを実施した。すべてのクラスにまわれるように週替わりのローテーションで実施した。
・定期的に図書室の環境整備を実施している。子どもたちが本に親しみを持てるように図書室のレイアウトや分類の整理をすることができた。
○環境整備活動
・夏休みにＰＴＡ、児童と共に環境整備作業の時期に学校周辺の草刈りを実施した。
・マラソン大会に向けてコースの草刈りを実施した。
○学習支援活動
・１年生が昔あそび体験の学習の時間に、地域の方に来校していただき、子どもたちに遊び方を教えていただいた。
○広報活動
・保護者、地域を対象に広報誌「つなぐ」を発行した。


【毎週木曜日の読み聞かせ活動】


【地域・学校との合同研修会】

■　実施に当たっての工夫
・関係するメンバーを集め、総会、推進委員会を開催し、活動の進め方について話し合う場を設定した。
・県のＣＳアドバイザーを講師に招き、関係役員、地域の方、学校職員等を対象に地域とともにある学校づくりを考えるための研修会を実施した。
・ボランティアさんとの連絡ノートを作成し、連絡調整に活用した。
・１年生の昔あそび体験にむけて、地域の方向けにチラシを作成し配布した。

■　事業の成果
・読書活動について、年間を通した継続的な取り組みにすることができ、子どもたちの読書への意識を高めることができた。また普段整理しきれない図書室の環境整備を学校の長期休業中に実施し、使いやすい図書室づくりを進めることができた。
・１年生の昔あそび体験に地域の方に参加してもらうことで、子どもたちの学びに繋がったと共に地域の方々にもやりがいを感じていただくことができた。
・広報誌や学校ホームページを活用して、地域学校協働本部の活動を地域や保護者の方々に広めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・地域から学校への支援で終わらないように、地域との協働の活動を探っていきたい。
・地域と学校の課題を共有し、共に篠原の子どもたちの豊かな育ちのために考えられるコミュニティを目指していきたい。
・これまで学校でやってきた活動を整理して、地域学校協働本部として活動の整理を進めたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・現在、学校運営協議会は設置されていないが、設置の時期が来た時には、地域学校協働本部と一体となって、地域とともにある学校づくりを進めていきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学校事務職員　）

報告書記入者（　教　頭　）

おらが学校　地域の学校　祇王小学校の子どもたちのために

野洲市	活動名：祇王小学校地域学校協働本部	祇王小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：54 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・５年米づくり
　学習田として田んぼを使わせていただき、田植えと稲刈りを社会科の学習および総合的な学習の時間の活動といている。農作業の工夫や思いなどを話していただくとともに田植え･稲刈りの体験学習の指導に当たっていただいている。


【　５年稲刈り体験　】

・わくわく算数教室
　夏休み明けの２学期当初にボランテイア 16 名に二日間にわたって算数学習のプリントの採点および支援を全学級で行っていただいている。
・家庭科学習支援
　初めての裁縫での玉止め、玉むすび、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いの支援をしていただいている。ミシン学習においても糸の通し方から、直線縫いまでを支援していただいている。どちらも各グループに一人ずつついていただき、学習がスムーズに進んでいる。
・１年昔遊び
生活科の学習における昔遊びを各遊びに分かれ、遊び方や上達における支援をいただいている。

■　実施に当たっての工夫
・年度当初にコーディネーターと年間計画を共通理解し、教職員およびまちづくり推進協議会においても活動を広く周知していただいている。そのため、ボランテイアの参加も毎回多く集まっていただいている。
・事前のミーティングないしはコーディネーターからの連絡を十分行っているので、学習のねらいや主旨を理解していただいた上でボランティアとして、参加していただいている。学習活動がスムーズに行えている。
・ボランテイアさんにも参加してよかったと思えるやりがいのある活動を心がけている。

■　事業の成果
・学校の教職員だけでは、十分に個別指導ができない点で、支援は助かっている。学級園や運動場整備など教職員だけではできない整備までしていただいている。
・子どもたちが地域の方々とふれあう機会が増え、地域により親しみが持てたとともに、社会性が養われ、地域のよさを学ぶことができている。
・ボランティアさんに学校の様子を知っていただく啓発活動になっていると同時におらが地域のおらが学校という地域愛を高める活動となっている。


【　わくわく算数教室　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・教育カリキュラムの変更に合わせ、来年度に向けて活動計画を修正していく必要がある。
・今年度同様、ボランティアさんが活動してよかったと思える活動となるよう常に地域の学校という意識を教職員全員が持ち取り組んでいきたい
・ボランテイアさんが高齢の方が多いということから継続可能な体制を考えていかなければならない。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校運営協議会の立ち上げ時期と関わりについて考えていかなければならない。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　校　長　）

「みんなでめざそう！３ＵＰ（やさしく、かしこく、たくましく）」＜三上っ子応援団の取組＞

野洲市	活動名：三上小学校地域学校協働本部	三上小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数： １人　ボランティア登録数：個人登録 42 人 ＳＧ登録 160 人 同窓会役員登録 12 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　□地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（本部内の各団体　例：同窓会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）天保義民の生き方に学ぶ（６年）
６年生は、総合的な学習の時間で、郷土の偉人「土川平兵衛」や天保義民の生き方について学んでいる。読本「郷土の偉人」などの資料を用いて学習を進めるとともに、地域ボランティアを講師に招いてフィールドワークを行うなど、たいへん深く学んできた。
10 月 15 日（火）、６年生全員が天保義民祭に参列した。式典には、地域の方が多く参列されていた。子どもたちは、式辞や祝辞の内容を聞きながら、今まで学習してきたことを振り返り、義民の心を感じながら黙祷や献花を行った。これらの学習や経験により、子どもたちは土川平兵衛の生き方や義民の心を学び、日々の生活や将来に生かしている。


【天保義民フィールドワーク】

（２）左義長体験（６年 ⟶ 全校）
１月９日（木）、地域学校協働本部（同窓会や学校応援団）のボランティアの協力で、左義長体験を実施した。まず、ボランティアの皆様と６年生が協力し、運動場に大きな竹組を立てた。そこに全校が集まり、各自が竹組の中に書写の作品や正月飾りなどを入れた。各学年の代表が点火すると、竹組は激しく燃え上がり、青竹が大きな音を立てて破裂した。子どもたちは、激しく燃える様子に歓声を上げ、それぞれの願いを抱きながら見守った。この体験で、地域の伝統を学ぶとともに、地域行事に親しむことができた。


【左義長の竹組体験】

（３）その他、特徴的な活動
①郷土学習（３年）「まち探検」でのフィールドワーク、「ずいき祭り」のお話など
②稲作体験（５年）田植え、稲刈り　③ひょうたんづくり体験（４年）
④マラソン大会（全校）周回場所での見守り　⑤三上山登山（３年以上）引率など

■　実施に当たっての工夫
①実施にあたっては、地域学校協働本部の関係団体との連携を図るとともに、学校だより等で広く募集を行った。
②実施後、子どもの書いた感想やお礼の手紙を全校（学年）児童分の冊子にまとめ、関わっていただいた地域の方に回覧した。

■　事業の成果
①学校目標の３ＵＰ（やさしさＵＰ、かしこさＵＰ、たくましさＵＰ）の実現に向け、豊かな地域人材を活用することができた。
②子どもたちは、郷土（三上）の自然や人々、文化のよさや素晴らしさを学ぶことができた。特色ある学校づくりの推進につながった。＜学校評価「郷土学習」に関する項目：児童アンケート肯定的評価 89%、保護者アンケート肯定的評価 92%＞

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
①学校教育目標の実現をめざして地域・家庭との連携で行う「３ＵＰ運動」を、本事業の柱（テーマ）に位置づけて進める。
②地域学校協働本部のもとに様々な地域の諸団体と連携を図るとともに、学校による企画だけでなく地域等による企画も進めていく中で、子どもが地域行事等に参画する場や機会を検討する。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
地域学校協働本部（学校応援団）の運営委員が学校評議員を兼ねている。現在、学校運営協議会は組織していないが、学校評議員会と協働した取組を意識的に行っており、将来の学校運営協議会との協働に向けた組織づくりに心がけている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　校　長　）

「できる時に・できる範囲で」温かい学校支援を！

野洲市	活動名　： 野洲小学校地域学校協働本部	野洲小学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：令和元年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇学校からの依頼支援は、コーディネーターが支援ごとに参加サポーターを調整・決定をし、学校の担当者に報告している。

☆各学年校外学習　引率補助

☆５・６年生　家庭科授業指導補助（手縫い・ミシン・調理実習）

☆３年生：昔のくらし学習支援　４年生：そろばん授業指導補助

☆特別支援学級水泳授業見守り

☆委員会活動補助



（ **３年生昔のくらし学習支援の様子**）

■　実施に当たっての工夫

〇学校からの依頼支援のほかに応援団独自の支援をしている。

☆朝の読み聞かせ　…　朝学習の時間に各クラスにおもむき、絵本の読み聞かせを実施

☆図書美化　…　図書室の整備、図書の整理、図書の修理などを実施

☆落ち葉清掃　…　11 月～12 月に校門付近・駐車場周りの落ち葉清掃を実施

☆給食エプロン修理　…　子どもたちが使っている給食エプロンを預かって、ゴム交換やボタン付けなどの修繕作業を実施

〇活動の詳細は、「応援団通信」や学校応援団の校内掲示板、学校だよりでお知らせしている。

■　事業の成果

（１）児童にとって

地域の力が学校へ入ることにより、より豊かな学習効果を得られた。

（２）教員にとって

授業中に支援が必要な児童への支援が充実した。

（３）地域住民にとって

学校や地域の子どもたちが身近に感じられ、学校での活動に生きがいなどを見いだすことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・登録されている人数は多いが、活用されているのは一部の人に偏っているので、「学校の役に立ちたい」と思っている人と学校をよりスムーズに結んでいくシステムづくりが必要である。

・「できる時に・できる範囲で」温かい支援をモットーにこれからも取り組む。

■　その他

・地域学校協働本部の代表が、学校評議員として学校評議員会に出席し、様々な意見交流をしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

「北野が好き★仲間が好き★学校が好き」わくわくのびのび北野っ子

野洲市	活動名：北野小学校地域学校協働本部	北野小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：96 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）学習支援
・生活科や総合的な学習の時間の学習支援（苗植え、昔遊び体験、森林学習、米作りや餅つき体験等）
・各教科等の学習支援（家庭科学習ミシン縫いや手縫い、音楽科器楽練習補助等）
・読書ボランティアによる読み聞かせ
（２）環境整備
・除草作業や学級園の畑整備等
（３）見守り活動
・校区探検引率
・登下校の見守り
（４）行事やイベント支援
・全校美化「グリーンタイム」、自転車安全教室、昼休みの吹奏楽演奏、学校応援団フェスタ
（５）その他
・給食エプロンの修繕、正面玄関の生け花


【　家庭科手縫いの学習支援　】


【　地域の方と一緒に『グリーンタイム』　】

■　実施に当たっての工夫
・地域学校協働活動推進員を中心とした学校とのスムーズなやりとり
①職員室入ってすぐの応援団コーナーにある「サポート依頼連絡票」に記入。
②学校の教員と目的や内容の簡単な打合せ。
・学校だよりや学校応援団通信で活動内容を保護者や地域に広く発信
・校内に活動拠点「学校応援団室」＆「学校応援団掲示板」
・いつも感謝の気持ちを伝え合うこと

■　事業の成果
・学校の教職員だけでは満たせない「名人としての関わり」や「たくさんの目できめ細やかにみること」、「安心安全面でのサポート」等により、児童の学習の充実とともに、不安感を減らし安心して学校生活が送れる気持ちを支えていただけた。
・地域ボランティアの方との触れ合いにより、様々な人の人柄にも触れ、温かい繋がりができた。
・米作りや餅つき体験など、準備や後片付けのサポートにより、教職員の負担軽減にも繋がった。
・地域学校協働活動推進員のリーダーシップ&気さくさから、必要な支援依頼がしやすく、教育活動の充実に繋がった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・年度当初と年度末に、地域協働活動推進員と学校主担当、学年主任が簡単な打合せを実施し、主旨の確認、年間の活動の見通し、振返りからの次年度への引継ぎ確認をしておくようにし、有効活用ができるようにする。
・優しく丁寧に関わってくださっている地域の方々への感謝の気持ちを常にもち、表現できる児童の育成を図っていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校評議員会や学校応援団推進委員会等を設け、年間各３回実施しているが、今後さらに、地域と学校でどのような子どもを育てていくのか、そのために双方どのような動きができそうかについて、具体的な話合いをしていく必要がある。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

ずっと住み続けたい街づくり　～地域の一員としての自覚と責任のもと、地域で活躍する生徒～

野洲市	活動名：中主中学校地域学校協働本部	中主中学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：令和元年度　　地域学校協働活動推進員等数：1人　ボランティア登録数：75人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
　■学　校　　■地域学校協働活動推進員
　□行　政　　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○「この街大好きプロジェクト」～ずっと住み続けたい街づくり～

本校では、平成24年より３年間を通してのプログラムとして総合的過学習の時間、に、ずっと住み続けたい街づくりをメインテーマとし、「この街大好きプロジェクト」を実施している。1年では、地域の活躍される老人、障害者福祉に関わっておられる福祉ボランティアの方に、２年では職場体験学習で地域の事業所の方に、3年では、地域の活性化の視点をもって活動されている方にお世話になりながら、学習を積み、中学生の視点で、どんな街づくりをしたいかという発信を行っている。

この活動の関わっていただくすべての方を学校応援団と位置付けている。



【　地域の出初式に参加　】

○幼小中連携、地域貢献活動

幼小中連携会議を持ち、小中合同あいさつ運動、吹奏楽部・ブラスバンドクラブの合同演奏、幼稚園での読み聞かせなどを実施。

平成 27 年度より主に長期休業期間を利用して生徒による地域貢献活動を実施している。生徒が自治会役員と相談して地域清掃や、地域の夏祭り、防災活動で一翼を担ったり、子ども会活動(クリスマス会、ラジオ体操など)に関わったりと、地域で頼りにされる存在となっている。

○放課後・長期休業期間学習支援教室「こつこつ教室」

地域の退職教員に関わってもらいながら、学習支援教室。

■　実施に当たっての工夫

○「この街大好きプロジェクト」～ずっと住み続けたい街づくり～

第１学年より、自分たちの街の街づくりについて３年間かけて考えていくという意識づけをしっかりし、多くの地域人材に関わってもらいながら、地域の一員であるという自覚と責任を持たせるようにした。

○幼小中連携、地域貢献活動

児童生徒の交流の機会を増やし、上学年へのあこがれを持たせるようにした。

自治連合会などの会合で、地域の行事で中学生の役割をつくってもらうことを依頼し、地域の一員であることを自覚するとともに、特に将来的に地域防災の一翼を担えるようなつながりづくりをめざした。

○放課後・長期休業期間学習支援教室「こつこつ教室」

保護者の了解のもと、生徒の自主的な参加を基本とし、年間計画のもと、開催の日を明確にし、生徒が無理なく参加できる体制・雰囲気作りをした。できるだけ多くの指導者を確保し、丁寧な支援に心がけた。

■　事業の成果

○「この街大好きプロジェクト」～ずっと住み続けたい街づくり～

幼いころから慣れ親しんだ自分の街について「再発見・再認識」する機会となり、改めて自分の住む街を好きになる生徒もいた。また、多くの地域人材に中学生に対する理解を深めてもらう機会となった。

○幼小中連携、地域貢献活動

中学生が下学年や地域で頼りになる人材として認識され、自己有用感も高まった。

○放課後・長期休業期間学習支援教室「こつこつ教室」

積極的に支援者に質問したりする姿も見られ、学習意欲の高まりが感じられた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

協働本部としての活動は始まったばかりで、組織化の過程である。教員以外のコーディネーターを中心とした支援体制の構築が急務である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会の設立を幼小中１つの組織として計画中である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　□その他（　　）

報告書記入者（　　教　　頭　　）

「地域へ発信」　そして　地域とともに学校の活力を創る

野洲市	活動名：野洲中学校地域学校協働本部	野洲中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：登録なし

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校においては、学校が「地域から支援を受ける」という形にこだわるのではなく「学校からの地域への発信」を積極的に行うことで、学校と地域との相互理解と協力体制を高めることを数年前から行っている。

地域や学区主催の運動会、地域一斉清掃等で生徒が活動する姿をもとして、地域と学校が協働することを大切にしていきたいと考えている。

また、地域の皆さんに生徒の活動の様子を見てもらう機会が少ない文化部の様子を地域に発信することを行っている。



【　地域での吹奏楽部演奏の様子　】

■　実施に当たっての工夫

中学校での教科学習指導において、地域の方々の協力を得るのは学校側、地域の双方において実施するには難しいものがある。

本校が協力していただきたい内容は、主に環境整備事業が中心となる。広いグランドの周辺部や校舎裏手の生徒駐輪場・職員駐車場などの除草作業は、なかなか手がつけられない。除草作業の実施時期に関しても、熱中症の心配もある時期に雑草が一番繁茂する時期である。

校地除草作業・・・「草刈りたい（隊）」を募集し、草刈り機械を使用するチームと鎌による除草チームに分けて、安全性を確保した上で、朝８：００～９：００までの１時間で行う。また、協力が得やすいように土曜日に開催している。

地域での文化部の活動紹介・・・小学校区単位に地域のコミュニティーセンターで行われる比較的大きなイベントに、地域住民への活動の披露により、身近に中学校を感じてもらう。

■　事業の成果

吹奏楽部や美術部などに所属する生徒の活動発表の場が増え、活動意欲の向上につながっている。地域でのイベントに参加していただいた方々からは、多くの賞賛をいただいている。

また、除草作業をしていただいたことで、屋外運動部に所属する生徒が自分たちの活動場所の整備する意識が高まり、結果として、学校全体の環境整備意識の向上になった。


【　校地内除草作業の様子　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

事業実施上の最大の課題は、協力いただける方々の確保となる。事業の内容の充実をはかるために、事業の見通しと計画性を高めることが必要である。活動の様子を学校HP や通信等で広報し、地域の方々の理解を深めるとともに、中学校での事業協力に対する意識を柔らかくしていきたい。

地域学校本部コーディネーターに適した人材の確保も大きな課題である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

地域学校本部コーディネーターを確立し、本校にあった連携をどのように深めるかも大きな課題。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域域連携担当教職員　■その他（　主幹教諭　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域と学校を結ぶ学校応援団事業の取組

野洲市	活動名：野洲北中学校地域学校協働本部	野洲北中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：令和元年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：登録なし

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・外部指導者による部活動での指導。
・平日昼休みの図書室開室における図書館ボランティア活動。
・体育祭前のグラウンドをはじめとして、前庭やテニスコートおよびその周辺の環境整備活動。



【グラウンドの除草作業】

■　実施に当たっての工夫

・夏季の屋外での活動は、早朝に活動するなど、体調面に配慮した。
・生徒たちのグループは、部活動や学級のメンバーを単位として構成しより意欲的に活動できるようにした。
・活動日や活動時間、活動内容などに配慮し、可能な限り多くの方に参加していただくようにした。

■　事業の成果

・環境整備活動は、土曜日の早朝であるにもかかわらず、多数の生徒、保護者の参加があり、和やかな雰囲気の中、日頃、使用している施設等への感謝の気持ちを新たにすることができた。
・図書館ボランティアさんのおかげで、書架はいつも整頓されており、生徒が探している本をすぐに見つけられるようになっている。
・部活動の指導に、外部指導者に来ていただくことで、生徒たちにより専門性の高い指導をすることができるだけでなく、教師もたくさんのことを学ぶことができた。



【テニスコート周辺整備】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・現在の活動は、すべて継続していく方向でよいと考える。今後は、その他の取組において、様々な角度から支援していただけるように、地域との連携をより一層密なものにしていきたい。特に、現在は校舎の大規模改修を行っているため、備品の移動等を含めて、色々な面で作業のサポートをしていただくことも考えている。今後はさらに、地域の人材を確保するため、分野別に「人材バンク」のようなものをつくり、登録していただけるような手立てを、学校応援団事業として進めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

「自分の命は自分で守る」正しく判断できる子を育てるために

湖南市	活動名 ： 石部小地域学校協働本部	石部小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合→学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

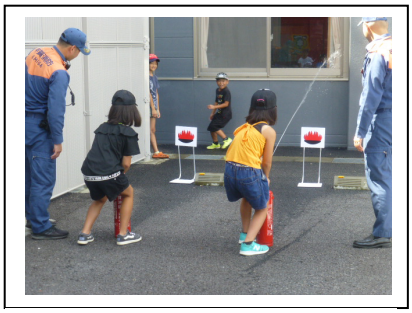
地域学校協働本部概要
開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：150 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
本校は「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標において、学校と地域と家庭が協働し、活動を展開している。今年度は、通学路安全マップの見直し、通学路の安全確認、災害時における対応を図ることとした。

○『夏休み防災教室』開催
・湖南市中央消防士を講師とし、防災について学習。
・水消火器の体験
・消防服の試着
・非常食パンの試食

○『緊急時引き渡し・引き取り訓練』実施


【　防災教室　】

■ 実施に当たっての工夫
・昨年作成した「通学路安全マップ」を見直しすることにより、常に新しい情報を把握している。
・『夏休み防災教室』では、水消火器の体験を入れることで、子どもたちが楽しく防災について学習できるように工夫した。
・『緊急時引き渡し・引き取り訓練』では、大地震が発生したことを想定し、児童の安全で確実な引き渡し、引き取りが行われるよう、保護者や地域に協力を依頼し、訓練を実施した。

■ 事業の成果
・大雨により通学路の用水路があふれ、道路が通行できなくなったため、下校時間を繰り下げ、危険箇所を確認し、職員引率のもと安全に集団下校の措置を行った。その時に、通学路安全マップが大変役にたった。
・「学校生活についてのアンケート（保護者）」において、「学校は子どもの安全・安心を守るために努力している」という項目において、肯定的回答が９５％以上であった。


【　緊急時引き渡し・引き取り訓練　】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域での見守り啓発の防犯ポスター作成を検討しており、子どもたちの安全確保の活動を続けていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「子どもと地域がひびきあう！」　　地域の行事に参加しよう！

湖南市	活動名　：　石部南小地域学校協働本部 （みなみっこ応援団）	石部南小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：175 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）



【　陶芸教室の様子　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

「近江学園の歴史を学ぼう」

近江学園の歴史を学び、木工教室、陶芸教室へ参加する。

「松明作りを体験しよう」

西寺「いもち送り」にて使用する松明を地元の方と一緒に制作する。

「地域の伝統行事いもち送りに参加しよう」

西寺地域の方と一緒に松明を持ち「いもち送り」に参加する。

「ふれあい広場に参加しよう」

ふれあい広場の運営ボランティアに自主的に参加する。

■　実施に当たっての工夫

土曜講座の内容について、高学年児童の代表と、ＣＳ理事会との話し合いを毎年行っている。

石部南小学校のまわりには多くの福祉施設があり、近江学園との交流を行っている。

近江学園の児童が参加しやすいように、活動場所は近江学園で行う。

石部南小学校区には、国宝「常楽寺」「長寿寺」が東西にあり、地域の伝統行事「いもちおくり」や「鬼走り」が今でも行われている。

その「いもちおくり」に参加する取り組みを毎年行っている。

■　事業の成果

講座ごとに、班のリーダーとなった高学年が、進んで低学年を支援する姿が多く見られた。

昨年度に引き続き参加する児童が、活動の中心となって活躍できた。

近江学園「ふれあい広場」では、子どもたちの運営による模擬店を出店して、自主的にボランティアとして参加した。

後片付けなど最後までやりきることができ、地域の方から褒められることで自信がついた。

土曜講座の日程を早く決定することで、ボランティアさんの確保がスムーズにできた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

講座によって子どもの参加が偏り、参加人数が多い講座の時は、十分な支援員を確保するのが難しい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今年度の夏休みこども教室は、保護者からの要望もあり夏休みの宿題を学校でする講座を取り入れた。

石部南まちづくり協議会で行われている「寺子屋」と連携して、お互いの開催日時が重ならないように打ち合わせを行った。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）



【　いもち送りの様子　】

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

心豊かに育て　みくもっ子～地域の皆さまのあたたかいまなざしのなかで～

湖南市	活動名　：みくもっ子地域学校協働本部	三雲小学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員等数：３人　ボランティア登録数：290 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）　スクールガード等　登下校時の危険個所の見守り、同行、あいさつ
（２）　教育環境の整備　【環境ボランティア】花壇植栽（児童とともに）、草刈り、遊具等の修繕など
【掃除ボランティア】掃除方法の指導
【図書ボランティア】図書室の整理整頓、読み語り、月例おはなし会（放送委員会と連携）
【昼休みの見守り】　折り紙教室等
（３）　学習・行事の支援　【田んぼの応援団】【町たんけん】【家庭科ミシン】【持久走大会】【ふれあい食育教室】

■　実施に当たっての工夫
○学校から一方的な支援の依頼にならないよう、各ボランティアが代表を中心に協議しながら、主体的で円滑な活動ができるように心掛けた。
○児童の委員会活動を利用して、子どもたちにボランティアの活動を紹介する。
○単純にボランティアの数を増やすのではなく、普段から子どもたちをよく知り関わっている地域の方と繋がっていくことを心掛けている。



【　環境整備作業　】

■　事業の成果
○三雲小学校でボランティアに関わった方が、引き続き甲西中学校での読み語りやミシンの指導支援に入ることで､子どもに寄り添う９か年の見守りが出来ている。
○環境ボランティアが花植えを昼休みにすると、子どもたちが喜んで集まってくる。地域の方との交流の時間になっている。（写真 下）

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
○地域と学校が双方向の活動になるよう、ボランティア代表者会、懇親会などの機会を持ち、地域の願いをすくう必要がある。
○息の長い活動継続のため、定番のスタイルで無理なく続けていく。



【花植えをする子どもとボランティア】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
○地域学校協働本部の取り組みを核にしながら、コミュニティ・スクールへの移行をめざしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

互いに感謝を伝えあい、あたたかい気持ちのあふれる地域に

湖南市	活動名：東っこ地域学校協働本部	三雲東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：130 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　■その他［　ゲストティーチャー・校外学習引率・裁縫ミシン学習支援・昔遊び支援　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

□学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

昨年から継続し拡充している活動

・ゲストティーチャー
（４年生「将来の仕事について考えよう」）
・クラブ活動支援
（工作・アートクラブ、楽しい家庭科クラブ、室内スポーツクラブ）
・朝の読み聞かせ
（図書ボランティア）
・「感謝の気持ちを伝える会」
（全校集会の場を活用）



【　裁縫ミシン学習支援　】

■　実施に当たっての工夫

・担当教諭と詳細の打ち合わせを重ね、内容に応じたボランティア・ゲストティーチャーを探し、内容や趣旨、詳細の説明、無理のない日程調整を心掛けた。
・クラブ活動支援は、地域のボランティアセンターや、継続して参加してくださる地域の方を学校ボランティアとして活用した。
・ゲストティーチャー探しは、甲西中学校区の地域学校協働活動推進員のネットワークを活用し、幅広く情報収集ができるよう努めた。
・ボランティアやゲストティーチャーとして参加いただく方へ、事前に趣旨や詳細を伝え不安材料が少しでも減るように努めた。
・地域の人材を探し、活動に関わっていただいた。

■　事業の成果

・クラブ活動支援は、地域の力を借りて幅広い活動を経験できる機会になった。指導や補助の人材も確保できるのが強みだった。
・「感謝の気持ちを伝える会」は、児童・教職員・地域ボランティアが一堂に会して顔を合わせる貴重な意味のある集いになっている。



【４年　将来の仕事について考えよう　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・二学期半ばにゲストティーチャーによる授業を実施した。本校では、運動会、校外学習などの行事が続く時期であったため、最終的に日にちを決定するまでに少々時間を要した。詳細の打ち合わせや問い合わせの対応など、最終調整に追われる形となった。もっと時間の余裕を持って、先を見通した計画を進めていきたい。
・講師として参加いただいた方々に、取り組みの趣旨を理解していただくことができたを大切に継続していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・朝の読み聞かせをしてくださる図書ボランティアと家庭科のミシンボランティアは、甲西中学校との共有が継続している。年間の参加回数も増え、充実し始めている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

子どもと地域が一緒に行う岩根のまちづくり　～地域と協働する学校づくりを目指して～

湖南市	活動名 ： 岩根小地域学校協働本部 （ 根っこ応援団 ）	岩根小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：220 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■クラブ活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［ 夏休み中の就労体験学習 ］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

■行　政　■その他（まちづくり協議会）



【　６年生のお店活動　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

開校 145 年目の本校は、コミュニティ・スクールとなって 13 年目を迎えた。長年引き継がれている合い言葉は、「しんどい子に寄り添い」「子どもをお客さんにしない」であり、「受容」することが理解や支援の前提であると考えている。教職員や学校運営協議会の理事はもちろん、ボランティアのみなさんも、「どのように寄り添うのか」、「どうすればよいのか」を考えながらそれぞれの活動に携わっていただいている。

特徴的な活動の一例は「ホタルまつり」である。もとは学校から遠く離れた会場で始まったイベントだったが、場所も運営体制も変えながら、大人も子どももホタルが飛び交う様子を愛でる鑑賞会になり、子どもたちに郷土愛と環境保護の思いを育てる活動になっている。当日は来場者に対して、６年生が「お店活動」や「ホタル学習の成果発表」のキャストとして活躍し、自分たちでまつりをやりきる達成感を味わう場となっている。

■　実施に当たっての工夫

このホタルまつりには、防災のための体験が織り込まれている。そのひとつは、日常の学校教育活動には来校されない方々もお出でになる機会を生かして、緊急避難場所である体育館の１階および２階に入る体験をしていただくことである。もうひとつは、６年生の児童と保護者が店開きをすることで、避難所を開設した際に炊き出しを運営する側に入れる候補者を積み上げることである。

また、運動会における防災種目（担架リレーとバケツリレー）は、避難場所となる運動場での救援活動のシミュレーションである。次年度は、総合防災訓練の機会を利用して、避難所となる教室を巡るような活動を計画してみたいと考えているところである。

■　事業の成果

〇長年の取組の結果として、体育館への出入りやお店および駐車場の運営を経験した人が増え続けている。特に、６年生以上の青少年および保護者世代が経験を積んでいることには大きな意味がある。

〇６年生も大人も、それぞれに実行委員会を立ち上げ、自分たちで立てた計画に従って自治的にまつりを運営していることは、地域の学校としての意識を高める機会となっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇すべての保護者および住民に、理念が理解されているとは言えないので、新たな理解者や協力者を求める取組は続けていく必要がある。

〇持続可能性を高めるためには、「人から人へのバトンタッチ」「前例に縛られない発想」「子どもが減少しないまちづくり」といった考え方を共有していく必要がある。



【親子で走る防災リレー　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇まちづくり協議会とのさらなる連携により、課題解決の取組を推進する。

〇その一例として、外国にルーツのある児童を対象にした学習支援の場をつくることや、外国にルーツのある児童と日本人の児童が同じ土俵で学べる場（例：英語教室）をつくることを検討している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長　■教頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　校長　）

菩っ子のために～地域・保護者・学校が連携・協働しあう

湖南市	活動名　：菩提寺小地域学校協働本部 （菩っこを育てる会）	菩提寺小学校　学校運営協議会　：■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：■有　□無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：220 人
□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
学校創立 40 周年記念事業のひとつ「 Let's　Paint 」、老朽化した校舎内の壁を親子でペンキ塗りし、きれいな壁にしようという活動を実施した。その際に、本校親子だけでなく、地域の方の参加協力があり事業をスムーズに実施することができた。



【　活動実施前の準備作業　】

■　実施に当たっての工夫
実施日前の準備作業時に、地域の専門職の方から助言をもらい、作業がよりスムーズにできるよう手配できた。

■　事業の成果
全校で一斉にペンキを塗る作業中は、校内のあちらこちらで賑やかな声が聞こえ、親子で一生懸命に作業する姿を見ることができました。
当日の一斉作業も進行が大変だったが、それ以上に事前準備が本当に大変だった。事前準備時に地域の専門職の方の助言がとても有効だったので、もう少し早めに事前打ち合わせを持つことができていたら、もっと効率の良い活動ができたのではと思う。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
日々の忙しさに追われ、活動実施前の打合せ等を持つ時間が限られる。
直接会うことができなくても、コーディネーターが間に入りスムーズに活動できるようより一層努めたいと思う。



【　親子でペンキ塗り作業の様子　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
現在、組織体制として、学校運営協議会の副理事長を「菩っこを育てる会」会長が務め、学校運営協議会の理事がそれぞれに「菩っこを育てる会」の各パートに分かれそのパートリーダーを務めている。学校運営協議会の計画が実働としての「菩っこを育てる会」の活動として具体化され、連動しながら、菩提寺小学校のために活動を推進している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

図書ボランティアグループ　「お話ベアー」～　季節を感じる学校図書館の壁面飾りで心わくわく～

湖南市	活動名：菩提寺北小地域学校協働本部 あすなろ応援団活動	菩提寺北小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 21 年度　　地域学校協働活動推進員等数：1 人　　ボランティア登録数：200 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　■その他（　図書ボランティアグループ「お話ベアー」　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

保護者 OB の地域のお母さんたちと保護者のお母さんたちの図書ボランティアグループ「お話ベアー」が週１，２回の活動。



【　場面：運動会　５月　】

学校図書館は子どもたちの意欲的な学習活動や読書活動を充実するのに重要な場所ですが、時には子どもたちがリラックスする居場所・憩いの場でもあると思う。

その場所を毎年様々な掲示物を貼ることにより、季節感やわくわく感を味わってもらいたいとの思いで活動をしている。

＊主な活動

・朝の読み聞かせ・・１時間目が始まる前、各教室に出向き１０分ほどの間に読み聞かせをする。

・お話会　　・・比較的休み時間の長い中休みに視聴覚教室でお話会を開催する。

・壁面飾り　　・・季節ごとに図書室前の廊下から図書室の窓・ドアにかけて手作りの季節の掲示を貼る。

■　実施に当たっての工夫

季節・行事ごとに、タイムリーに壁面飾りを貼りかえるようにしている。

入学式・ひな祭り・運動会・梅雨・夏景色・祭り・ハロウィン・クリスマス・お正月

冬景色・卒業式　等。



【　場面：冬景色　１月　】

■　事業の成果

菩提寺北小学校の学校図書館は、いつも綺麗に可愛く壁面飾りがしてある内外の方々からも言っていただけるほど、活動が定着してきた。

当然、子どもたちからも好評で、「次はどんなの？」と聞いてくる子どももいるほど楽しみにしてくれている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の方と保護者が一緒になって活動する「お話ベアー」の活発な活動に伴い、ほかのボランティアグループも、地域と学校が一体となってのボランティアグループが活動するようになった。これからの展望としてはもっともっと保護者のボランティアの数が増えればと期待する。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会・ＰＴＡが主催する「あすなろカーニバル」に、「お話ベアー」も参加し、音楽劇を披露している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

～保護者も安心できる環境づくりを ～ 新１年生保護者対象『しもしょう見学会』の実施

湖南市	活動名 ： 下田小地域学校協働本部	下田小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務２人）　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

日頃より地域と学校が協力し、学校運営協議会を中心に子どもたちにとって安心できる地域、学校づくりを心掛けているが、近年、下田小学校区にも新しい住宅地が増え、従来からの住民と新しく越してきた住民とのコミュニケーションの取り方など、地域の課題が見えてきた。そんな中、初めて下田小学校に入学する子どもがいる保護者には、入学前に情報が少なく、不安を抱くことが多いのではないかという地域の方々の声があり、毎年２学期に実施されている「参観週間」を利用し、新１年生保護者を対象にした「しもしょう見学会」を企画、実施した。

実施日時：令和元年 10 月 29 日（火）、30 日（水）９時 15 分 受付９時 30 分～11 時 30 分



【　見学前 校長のあいさつ　】

■　実施に当たっての工夫

・不審者対策にもなるということから、事前申し込み制にし、下田小学校入学予定の児童がいるこども園や保育園に、教頭の協力のもと連絡を取り、申し込みチラシを配布、後日回収した。
・仕事の都合などで参加できないということも考えられるため、なるべく参加しやすいように２日間実施した。
・１年生の授業の見学だけではなく、校内の案内も行いながら、他学年の授業も見学できるようにした。
・見学後、現役保護者や地域のボランティアと交流し、気軽に質問ができるように希望者と茶話会を実施した。
・茶話会で話した質問などを学校とも共有し、事前に不安が解消できるよう対応をした。

■　事業の成果

・小学校とこども園、保育園と連携して申し込みを募ったことで、新１年生保護者全体に告知することができた。
・校内の見学や１年生だけでなく他学年の授業も見学できたことで、下田小学校全体の雰囲気をわかってもらうことができた。
・見学後の茶話会で、現役保護者や地域のボランティアと話すことで、顔見知りになることができ、地域の行事で出会ったときにもお互いあいさつをするなど、交流が続いている。
・不安に思っていることや、疑問を話すことができる場があったことで、少しでも安心して入学準備ができるように思う。
・保護者の不安な部分や疑問を小学校と共有することで、入学前の保護者への対応に活かすことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・参加しやすいように２日間実施したが、やはり都合が合わず、茶話会に参加できないという保護者がいた。実施日数を増やせばいいのだが、対応する現役保護者や地域のボランティアの都合と合わせるとなかなか難しい。
・新１年生保護者の中には父親の参加があったが、男性のボランティアや現役保護者がいなかったので、今後は父親同士の交流の機会も考えていきたい。
・今回、茶話会には教職員の参加をお願いしなかったが、保護者の質問内容によっては、学校側からすぐに答えが欲しいこともあるため、今後どのようにしてそのような質問に答えればよいか考える必要がある。



【　茶話会の様子　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今回、新１年生保護者対象の見学会を実施し、下田小学校ではたくさんの地域のボランティアが関わっていると伝えることができた。今後も地域の行事や学校行事など折を見て、学校運営協議会の活動を報告することが必要である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

ふるさと水戸　～あいのある学校づくり～

湖南市	活動名　：　水戸小地域学校協働本部	水戸小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 22 年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数 65 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　■その他（　CS 理事会　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・３年生総合的な学習に自治会、まちづくり協議会、市民学習センター、茶釜川を美しくする会からメンバーの皆さんや民生委員、みとっこ応援団のボランティアに来てもらい活動を始めたきっかけやどのような思いで活動されているのかについて子どもたちがインタビューを行った。

・５年生田んぼの子の学習では田植え、稲刈りを地域の方と一緒に活動した。

・11 月のマラソン大会では地域の住宅街がコースとなっているので見守るポイントを決めて子どもたちが安全に走ることができるよう見守った。



【　田植え　】

■　実施に当たっての工夫

・子どもたちが全員インタビューできるよう４～５人のグループにして、理解しやすいように簡単なことばで活動を説明していただくようにし、インタビューの答えを子どもたちが用紙に記入できているかどうかを見ながら進めてもらった。

・子どもたちの活動目的を共有するため、担任、ボランティア、田んぼを貸していただいている植西さんと事前打ち合わせを行った。

・危険個所について新たな聞き取りや確認、学年で走るコースが変わるのでボランティアの負担を少なくするため試走は学年をまとめて行うこと、試走と本番のポイントが変わらないように工夫した。

■　事業の成果

・児童が地域にいろんな団体や人がいることを知る、また日頃学校に来たことがない地域の方が学校や子どもの様子を知るよい機会となった。

・活動目的を把握することでボランティアが子どもたちへの関わり方や見守り方を考慮しながら活動することができた。収穫したお米でおにぎりパーティを開きボランティアを招待し、お米ができるまでの学習を深めることができた。

・地域の方の協力体制なしにはできない行事となっており負担なのではと心配していたが、子どもが頑張る姿を応援したい、地域で応援できることが元気になるという温かい言葉をかけていただき、一体感のある活動となった。



【　水戸のヒーローをさがそう！　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・活動を通して顔見知りになることができたので今後も CS として共に学校づくりを行っていけるような関係性を築いていくため、積極的な案内をしていく。

・長年関わってくださっていたボランティアが参加できず、ボランティア任せであった事を反省し、学年の先生からの引継ぎや地域連携担当職員と推進員とのコミュニケーションをとる重要さを改めて感じた。

・推進員とボランティアが長く続けていることで活動自体はスムーズに行えるが、担任によって活動目的がこちらの思いとずれてしまうことやお互いわかっているだろうと準備について確認不足な事もあった。マラソン大会の実施日は年度初めにわかっていることなので地域の回覧板で案内したりまちづくりセンターや市民学習交流センターにポスターを掲示したりするなど、周知できるようにしていく。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・CS を導入した一年の活動をふり返り、子どもを主体として地域でできることと学校でできることを明確にしていくことや CS 活動の PR、みとっこ応援団の新たな人材発掘の方法など二年目に向けて熟議を続け、「あい」のある学校・地域・つながれ水戸っ子、を合言葉に子どもの学びを深めることと大人の自己実現の場づくりを家庭、学校、地域が協働で行えるよう進めていく。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

学校に地域の力を、地域に生徒の活力を！

湖南市	活動名　：　石部中地域学校協働本部	石部中学校　学校運営協議会　：■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 26 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：　82　　人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　■その他［入学試験面接指導等］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（コミュニティ・スクール理事会等）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

☆ 石部ふれあいまつり（R 元. 10. ５）への参画

地域の方からの「中学生に〇〇を手伝ってほしい」という声に応えるだけでなく、自分たちが地域に対して何ができるかを話し合うところからスタートし、準備物の用意（買い物を含む）、当日の準備と運営、あとかたづけまですべてを中学生が担当した。H29. 7. 18 第３回ＣＳ理事会で「現在、各地区の夏まつりスタッフとして生徒が参加しているが、当日限りのお手伝いではなく、生徒が計画・実施していけるものがあればよいと思う」との提案があった。すぐに実施するのは準備も整わないため、29 年度は中学生自身がしたいことの意見を出し合う準備期間とし、30 年度からの実施をめざした。30 年度に行った「中学生ブース」は家族連れで賑わい好評であった。生徒もやりがいを感じることができた。令和元年度は前年度の取組を生かして、生徒がアイデアをだして中学生ブースを運営した。店内は大変な賑わいを見せた。



【中学生ブース　アメつかみゲーム　】

☆ウォークラリーの実施（R 元. 10. 26）

浜大津から石部中学校まで全校で歩くウォークラリーを実施するなかで、教職員、保護者だけでは、生徒の安全確保ができない状況にある。地域より大勢のボランティアが協力していただき、交差点での安全指導などに従事していただいた。

■　実施に当たっての工夫

・地域での会議は授業が行われている時間帯や夜間に開催されるため、中学生に代わって地域コーディネーターやＣＳ理事が出席して中学生の思いを述べるようにした。

・中学生の話し合いの場に CS 理事が出席していただき、地域の期待や昨年度の様子などのアドバイスを行った。

・学校からのウォークラリーボランティアを CS 理事、保護司、民生委員、更正保護女性会などに、地域コーディネーターが中心となり募集をかけることで多くの協力者を得ることができた。

■　事業の成果

生徒、地域の方の感想

・子どもたちの笑顔が見れた時、やりがいを感じました。子どもたちが楽しそうにお菓子を選ぶ姿を見る時が一番楽しかったです。子どもたちはもちろん、その親（大人）ともふれあうことができて良かったです。準備や接客を頑張って良かったなぁと思いました。

・最初は来てくれる皆さんが楽しんでくださるか心配でした。でも、来てくださった皆さんすごく楽しそうに遊んでくださり、とっても嬉しい気持ちになりました。また、みなさんが喜んで帰って行った時や、「おもしろい‼」と言ってくださったときにとてもやりがいを感じました。



【ウォークラリー、地域の方の協力　】

・小さな子どもたちや小学生の子たちにとって、おじさん・おばさんが出店の応対をしているより、中学生のお姉さんがいてくれて接しやすかったみたいです。

・スタッフが少ないので、中学生の皆さんは大変頼りになります。・地域の中学生の名前・顔が覚えられ良かったです。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域に生徒が出て行くときに、どうしても教員の指導や引率が必要であることが多く、生徒会担当教師などの負担増につながらないようにしていく工夫は必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営協議会の中で今までと同様に、地域に生徒がでかけていく仕組みをつくっていく。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　生徒会担当教師等　）

報告書記入者（　校長　　）

Chance(チャンス)・Challenge(チャレンジ)・Change(チェンジ)　～心にぬくもりを～

湖南市	活動名　：　甲西中地域学校協働本部	甲西中学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：90 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）小学生への宿題支援（異年齢交流）・・・・・・・・・・中学生がスモールティーチャーとして地域へ

（２）文化祭体験講座（学校行事）・・・・・・・・・・・・・地域ボランティア講師が学校へ

（３）みちくさコンパス（地域行事）・・・・・・・・・・・・中学生がジュニアスタッフとして地域へ

（４）ミニ部活（体験活動）・・・・・・・・・・・地域ボランティア講師が指導・支援、ミニ部活として希望生徒が設定日に活動

■　実施に当たっての工夫

〇夏休み小学生の宿題支援を行うボランティアを募り、名称をスモールティーチャーとして参加した。

〇文化祭体験講座：講座は 20 講座を用意。希望制にし、生徒全員が体験する。体験後に成果を披露する場を設けていることで体験内容の充実を図った。10 月末の取組ではあるが、５月からボランティア講師の依頼などの準備をはじめている。

〇みちくさコンパス：生徒の自主性を重視し、「ボランティアをしてやる」という気持ちではなく、「自分磨きのためにさせていただく」という気持ちをもたせる呼びかけをした。名称もボランティアではなくジュニアスタッフ募集とし、事前に地域主催者側との打ち合わせを行いスタッフの一員だという自覚を促し意識付けをした。昨年度から生徒会が出店をしている。

〇ミニ部活：ミニ部活の内容を仕事にしておられる地域の方々の指導のもと、学校ではなかなかできないさまざまな活動や自分に興味あることなど、あらたなことにチャレンジ。また、昨年２月に地域のボランティア講師と共に HP をリニューアル、学校の様子やミニ部活の活動などをアップしている。

■　事業の成果

〇７年目を迎えるみちくさコンパスは、昨年度から１日での実施、100 名の生徒が積極的に参加、演技や演奏を披露、地域の方々と共に来客の受付けや接待などスタッフの一員として活躍した。

〇文化祭体験講座では、指導者(地域ボランティア講師 60 名参加)も受講者も楽しみながら活動し、作品完成や発表を目指して熱心に楽しく取り組めた。閉会式の中で演技や演奏をステージで披露したり、作った作品を教室に飾ったり大切にする生徒が多かった。講師が地域の方々なので、色々なところで出会うことも多く、元気にあいさつができている。

〇ミニ部活については、興味のある生徒が少しの時間を利用して活動したり作成に携わったりして、やりがいを感じている。今後さらに参加できるように工夫をし、様々な体験活動を行えるようにする。

〇朝読書時の読み語り、家庭科での授業支援では、小中連携することで、９年にわたる支援になっている。その他の活動として、図書室開設支援、書写・音楽の授業支援、本の帯コンクール作業支援、職場体験事前学習（キャリア教育支援）、まち協と中学生によるまちづくり懇談会の開催ができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇11 月に開催されるみちくさコンパスにおいては、日程的に家庭での時間や高校の体験入学や他の地域での行事とも重なり生徒に参加が制限され、自由に参加できない状況がある。

〇ミニ部活で体験したことで、将来やりたいことが見つけられる場のひとつになればよいと考えている。

〇地域の方とともに活動を重ねる中で、地域の良さに触れ、地域の人の温かさを感じ、その中で湖南市の一員であることに誇りをもってくれればと願っている。



【　みちくさコンパス：生徒会綿菓子店　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭

□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学教協働活動推進員、教頭　）

地域の皆様とともに　地域の一員として　―地域行事でスタッフとして活躍―

湖南市	活動名　：　甲西北中地域学校協働本部	甲西北中学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 26 年度　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：23 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）



【　手作りワッフルを販売　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

校区には２つの地域のまちづくり協議会があり、毎年、吹奏楽の演奏や生徒の手伝いの要請があり、ボランティアの募集を行い、数人の生徒が参加をしてきた。本校が今年度からコミュニティ・スクールを導入することを契機に、地域行事への参加の仕方の検討を考えていた。

家庭部の生徒が模擬店をしたいという希望を持っており、地域コーディネーターからまちづくり協議会に伝えてもらった。生徒の希望を実現する方向で検討をしてくださり、まちづくり協議会が主催する地域のイベント（まちづくりフェスタ）で、中学生が自分たちで企画や当日の販売を行う模擬店の出店が決定した。

当日は、中学生がメニューを構想し、「ワッフルとタピオカの店」を出店した。当日は、地域の方々の反響も良く、たくさんの方に買っていただき、地域行事に中学生が参画することを喜んでいただいた。

■　実施に当たっての工夫

生徒とまちづくり協議会の役員が事前に３回の合同の会議をもち、生徒の提案をもとにメニューを構想した。これをもとに、まちづくり協議会の役員が材料を準備（購入）し、後日、中学校で試食会を行った。試食をもとにまちづくり協議会の役員と生徒が感想や意見交換を行い、当日販売するメニューの詳細や作り方、販売数、当日の役割分担などを決定した。生徒にとっては地域の大人の方に自分たちの意見が言えることで、充実感や当日への期待感を高めることができた。

■　事業の成果

中学生が地域行事に参加し、地域の方と触れ合うことで、生徒の頑張る姿を直接目にしてもらうことができた。また、地域の方からの激励の声に活動への意欲を高まり、早い時間に売り切れとなり原材料費を十分に上回る収益があったことは自信につながった。



【　小学生の勉強を支援　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

２つのまちづくり協議会はともに、「地域行事に中学生の力を生かす」という考え方をしていただている。吹奏楽部のステージ発表や美術部への大看板の依頼をしてくださり、中学生の活躍の場を工夫していただいている。イベントだけではなく小学生対象の事業においても、中学生に積極的に依頼をしてくださり、先輩との頼もしい姿を見せる機会ともなっている。生徒がスタッフとして参画していく上で、生徒の思いや意見を聞き取ったり、地域の方とともに意見交換し合ったりする場を効果的に設定して協働活動を推進していきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今年度よりコミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会に「学び支援委員会」と「地域役立ち委員会」を設置して、地域のボランティアによる生徒の学習支援と生徒による地域貢献をめざしている。そのため、まちづくり協議会との連絡・調整は、学校運営協議会の理事や地域コーディネーターが中心となって行っている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（教科・分掌担当者等）

報告書記入者（　教頭　）

『結』『絆』全校生徒が選んだ「今年の漢字」の大書とともに新年のスタート！

湖南市	活動名 ： 日枝中地域学校協働本部	日枝中学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：4 人　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【大書】日枝中生が選ぶ今年の漢字

学習委員会の取組とともに全校生徒に１年間を通して、自分の思う漢字を投票してもらい集計し、その中の上位２点を、毎年恒例の京都清水寺で書かれている今年の漢字のように、書道の作品(大書)として仕上げました。

畳１畳程の半紙に代表の生徒２名が、地域のボランティアの方のご指導の元に取り組みました。



【　筆の動きを教わる生徒　】

■　実施に当たっての工夫

作品を書くにあたり、書写ボランティアさんのアドバイスや意見を聞き、作風について、丁寧に書くことよりもダイナミックに自分の思いのまま筆を運び、迫力のある線が出るよう全身を使って表現しました。また、生徒自身が彫刻刀を使い落款(らっかん)作成し、出来上がった作品に押印することで、仕上がりが本格的に映えました。

■　事業の成果

大書を書く活動を通して、普段できないような貴重な体験をし、生徒の自信にも繋がり、書道に対しての関心も大きくなりました。時間を忘れもっとやりたいという意欲も表れました。

２学期の終業式で、今年の漢字として大々的に発表し、全校生徒からも大きな反響がありました。そして、書への関心や意欲が高まりました。正面玄関に門松と共に飾り、来校いただいた方々の目を引きました。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

書き手の生徒の募集方法を再検討し、全校生徒にこの事業を知ってもらえるようにアピールしていきたい。また、生徒会の学習委員とも協力して生徒の意識の向上につなげていきたい。



【　学校正面玄関にて展示　】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

地域と学校でつくる学びの未来！　～地域から学校へ　、学校から地域へ～

高島市	活動名　：高島学園地域学校協働本部	高島学園(小･中学校)　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合→学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成２９年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：活動ごとに登録

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　■その他［　福祉活動　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　■その他（　公民館　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）昼休み実施の「道場」活動

３年目を迎えた、九九（３年対象）・わり算（３年対象）・昔遊び（全学年）道場。児童そして学習ボランティア共に大好評で、昼休みの短い時間も教室内は多いに盛り上がる。九九・わり算道場に参加することで、学習意欲が向上し、確認テストの結果にもその成果をみることが出来た。また、中学生の参加も倍増し学園全体の取り組みとなった。

（２）授業へのかかわり

小学校ではこれまでの家庭科ミシンサポート、町たんけんの案内活動等に加えて、新たに委員会へ地域のボランティアが加わった。特に図書ボランティアと図書委員が協力し企画・立案した事業は大成功となり、地域の皆さんとの繋がりがより深まった。

また中学校では２年続けて全校自然体験活動に多くのボランティアの参加で何事もなく事業を終えることが出来た。

（３）学校が地域へ

中学生が高島の伝統行事「大溝祭り」に曳き手として、また地元の開催の「たかしま夏まつり」にスタッフ参加するなど、年を重ねるごとに地域行事には無くてはならない存在と位置づけされるようになった。また新たな活動として福祉施設に春と冬に各１週間訪問するなどとして高齢者の皆さんと交流を深めるなど、福祉活動にも貢献した。

■　実施に当たっての工夫

協働活動の様子を地域住民に知ってもらえるよう、活動ごとに「学校だより」等に記事を掲載してもらうこと、また高島学園協働本部が作成した「活動だより」を関わりの多い団体に配布するなど情報発信することで、関心を持ってもらえるよう努力した。また、参加ボランティアの口コミも大きい。



【ボランティア＋図書委員で活動】

■　事業の成果

子ども・・ボランティアの皆さんの顔と名前を覚えることが出来るまでになった。
　　生徒会でボランティア活動を重視する等、地域に対する関心が深まった。

地　域・・協働活動が少しずつ浸透することで参加ボランティアも増え、学校に対する理解も深まった。学校に対して気軽に関われるようになった。

学　校・・授業の等への支援で教員の負担が軽減された。学校行事への参加で新たな事業も計画出来るようになった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学園内では学期ごとに担当者が話し合う機会を持ち、また推進員が参加ボランティアと意見交換を行うなどしているが、全体としての会議を今後持つようにしていきたい。従来の団体・機関・個人等のボランティアに加えて今年度は企業からの参加もあり、今後もあらゆる方面に協働活動を広めたい。



【地域のふれあいサロンで演奏】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会で、協働活動の様子を報告して、意見を聞くなどしている。加えて活動にも参加してもらう回数が増えた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　生徒会担当教員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～マキノ地域学校協働本部～

高島市	活動名　：　マキノ地域学校協働本部	マキノ東小・マキノ西小・マキノ南小・マキノ中学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員等数：1 人　ボランティア登録数：　-　　人　（随時募集）

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）地域学校協働活動ホームページの作成

地域の方が学校行事に気軽に参加できるよう、学校が地域の方に学校の情報を提供できるよう「地域学校協働活動ホームページ」をボランティアの協力で作成することができた。これにより学校の行事の呼びかけと地域の方からのボランティアへの申込みがインターネットで可能となったほか、行事については終了後に地域の方に報告できるようになった。

（2）海外の子どもとの交流

中国湖南省の小学生をマキノ東小学校で受入れてもらい交流することができた。各学年での受入れと給食試食、縦割りでの活動と言葉が通じなくても子どもたちはすぐに打ち解けて交流することができた。通訳として、地域の中国の方の協力もあり、今後協働活動への広がりにもつながった。



【地域学校協働活動ホームページ】

■　実施に当たっての工夫

本年度も地域学校協働活動推進員がそのネットワークを活かし、滋賀県等との連携に努めるとともに、引き続き関係団体の会議等に出席しＰＲ等を行った。また、学校から地域に対しできるだけ情報を提供できるよう「地域学校協働活動」のホームページを作り情報発信に努めるとともに、各小学校では学校支援ボランティアの仕組みを作れるよう募集の呼びかけを行ってもらうことが出来、地域の方に学校の行事に協力していただける機会が増えた。また、学校の教師の地域の理解につながる研修会も実施してもらうことが出来た。

■　事業の成果

○子ども　地域への理解・関心の深まり
　　異世代間の交流
　　コミュニケーション能力の向上
○学校　　新たなボランティア人材の発掘
　　円滑な学校行事の実施
　　地域への理解・関心の深まり
○地域　　地域の教育力の向上、地域の活性化
　　社会参加の提供
　　世代を超えたコミュニティの形成



【湖南省小学校との交流】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

協働に欠かせない関係者の連携について、地域では既に横のつながりのあるネットワークが少なくとも形はできている。地域では行政等からの呼び掛けで縦割りにネットワーク組織ができるが、それぞれの構成員は同じ顔ばかりになり、地域の方が他の分野の情報を共有していることになるので、行政等内部での横の連携、情報の共有が一層必要不可欠である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

協働活動を進めるにあたって、学校運営協議会のメンバーはできるだけ多様なメンバーが必要であると思われるが、まだ十分ではないと考えられる。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～今津地域学校協働本部～

高島市	活動名　：　今津地域学校協働本部	今津東小　今津北小　今津中 学校運営協議会　：■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：-　人（協働活動としての登録はなし）

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　□その他（　　）



【　地域行事への参加　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）関係団体（今津東小はなまる広場など）との連携

地域内の学校には、それぞれ学校単位で地域の方によるボランティア組織ができており、地域の人が学校で活動する姿が定着してきている。それら団体の活動も大切にしながら、連携を図り地域支援にも活動が広がるよう関係づくりに努めた。

（２）地域行事への参加

地域からボランティア要請のあった事業について、推進員が学校に働きかけ、環境整備活動や保育園児との交流活動に中学生ボランティアが参加した。今後も活動が広がるよう、関係団体への声掛けを行いたい。

（３）高齢者交流事業

総合的な学習の時間を利用して小学生と地域の高齢者サロンとの交流会を実施し、地域のお年寄りにとって、心温まるひと時となった。「字がうまいね」「上手に歌えたね」と地域の高齢者にほめられ、子どもたちの自信にもつながった。

■　実施に当たっての工夫

地域で活動をしている福祉関係やまちづくりの団体とつながりを持つことで学校行事の支援や地域活動が広がった。



【　本部組織準備委員会　】

■　事業の成果

地域の様々な団体とつながることで、共に力を貸し合い協働して事業を実施することができた。それぞれの事業の規模は決して大きなものではないが、小さな変化を少しずつ重ねることで、子どもを中心に地域・学校・家庭のつながりが自然に深まるよう、地道に活動を広げていきたい。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校支援活動が年間行事として定着しつつあるが、活動をさらに充実させるためには、多様な地域の方たちに、継続して関わっていいただく必要がある。今津地域学校協働本部を組織し、持続可能な活動となるようにしたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

現在、学校運営協議会も地域学校協働活動も学校ごとに活動しているが、学校運営協議会委員からの声掛けで今津中学校区全体でビジョンを共有していくために地域学校協働本部の設立準備会が開催された。２月に開催される本部会議では、学校だけでなく地域全体で今津の子どもたちを育もうという本活動の意義や目的を確認しあい、熟議などを通じ活動がより推進するよう組織を整備していく。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～朽木地域学校協働本部～

高島市	活動名　：　朽木地域学校協働本部	朽木東小・朽木西小・朽木中学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：15 団体　45 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 朽木西小・西地区合同運動会

へき地校である西小学校の児童４名・先生・保護者・西地区の地域の方々による合同運動会が、スポーツ少年団指導者、日赤奉仕団、地域おこし協力隊、そして、朽木東小学校・朽木中学校の児重生徒(希望者)の参加協力によりにぎやかに開催された。入場行進から各種目すべてにおいて、子どもたちや地域の方が楽しく交流しながら参加できた。

児童４名による進行、準備や招集は誰もが手伝い、和気あいあいと時には闘志をむき出しにして競技が行われた。中学生は自ら仕事を見つけて動く姿が見られ、東小学校児童は西小学校児童とふれ合いながら楽しく競技に参加することができた。また、保護者手作りの炊き込みご飯・日赤奉仕団による豚汁が昼食に振る舞われ、地域の方と話をしながら食して交流することができた。

(2)　環境整備

広い校庭の除草作業は、小学校も中学校も地域の方の助けなしでは難しい。６月の小中合同スポーツデーを前に、実態を知った地域の方が「放っておけないな」と何日も除草作業に来てくださった。おかげですっきりした校庭で安全に元気よくスポーツデーを迎えることができた。スポーツデーでは、中学校・東小学校・西小学校・就学前児がそろい、地域の人に見守られながら成長した姿を見せることができた。

「びわ湖の日」の活動では地域の方にもメール配信で連絡し、児童生徒と一緒に除草作業に取り組んだ。

秋の花、春の花の種まき・仮植・植え替え等も地域の方と中学生が一緒に活動できた。また、学区民会議の活動の一つにこの活動を入れたり、花の土を提供してくださる方もあったりして、たくさんの花を育てることができた。

(3)　朽木文化祭参加

東小学校は、音楽発表を学習参観もかねて参加した。西小学校も、太鼓演奏で参加し、中学校は総合的な学習で取り組んでいる朽木太鼓の演奏で参加した。中学校区内全小中学校が参加できたのは初めてで、地域の方はそれぞれの演奏をにこにこ・わくわく・ジーンと心を動かされ元気・勇気をもらうことができた。会場は立ち見の方も出るくらい満員だった。

■　実施に当たっての工夫
・学校行事の参観案内や活動への参画依頼などをするために「朽木地域学校協働本部『結の会』連絡メール」の登録を促進した。
・民生児童委員の定例会を小学校で行い、地区別懇談会や地区別児童会に参加してもらった。(年２回)中学校訪問(年１回)
・学期の始め・終わりに教師と、地域との関わりのある行事や学習について相談した。
・『結の会』便りを朽木地区全戸配布した。(年２回)

■　事業の成果
・子どもたちと関わることで、喜びや感動や元気を感じる地域の方々が増えた。
・自主的に行動する(手伝う)小中学生の姿と地域活動を結びつけることができた。
・地域の方が「学校の垣根が低くなった」と喜んでいる。



【　ボランティアと小学生との除草作業　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・園との連携を協働活動の一つとして取り組みたい。
・保護者や地域の人や学校(教師)の思いを大事にした協働活動にしたい。
・「学校つくりは地域つくり」という観点での協働活動を目指したい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校運営協議会で、朽木地域全体の小中学校の実情が分かり,それぞれの立場の考えが共有できるようになってきた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

つながり響き合う教育を目指して　～安曇川地域学校協働本部～

高島市	活動名　：　安曇川地域学校協働本部	安曇小　青柳小　本庄小　安曇川中 学校運営協議会　：■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 30 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：　-　人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（　住民福祉ネットワーク　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1)　地域行事への支援（ボランティアまつり開催：安曇川中学校）

生徒と安曇川住民福祉ネットワーク（地域ボランティア団体）が一緒に実施。地域行事を学校内で開催できることは珍しい。

(2)　福祉関係団体との連携（安中カフェ：安曇川中学校）

学校の空き教室を地域住民の憩いの場として開放している安中カフェを地域学校協働活動の拠点にしており、地域住民と中学生の交流が深まっている。ここを活用し、多くの生徒にボランティアの良さなどを伝えていきたい。

(3)　学習支援（家庭科　伝承料理教室：安曇川中学校）

・伝承料理実習を地域の伝承料理クラブの６名がサポート。学校支援活動を契機にクラブが復活し、人数も増えて活性化した。

・他にミシンボランティア、音楽指導、校外学習引率、九九道場（暗唱確認）、昔遊び、クラブ活動応援などがある。

(4)　環境整備（本庄小学校・安曇小学校）

花壇の整備（苗の調達、植え込み作業など）は、地域の方々で実施。運動場の除草作業も実施することができた。

(5)　伝統文化の継承（運動会での「高島音頭」復活：本庄小学校）

地元の「音頭取り」と太鼓をたたく方が来てくださり、祖父母の方も参加され踊りの輪が広がった。

■　実施に当たっての工夫

・管内小中学校事務職員との連絡会開催

・積極的な情報発信（学校メールに予定の連絡やお便りを送信、複数校を担当しており一斉配信で情報共有が進んだ。）

・中学生の地域行事参加にむけた綿密な連絡調整（行事の趣旨理解、学校・生徒との打ち合わせ、主催団体との調整）



【　安曇川中学校での伝承料理教室　】

■　事業の成果

・地域と子どもたちとの協働による行事により、相互理解が深まった。（ボランティアまつりでの中学生の力は大きい、中学生と交流することで親しみがわいた、あいさつを交わすようになった）

・教職員の負担軽減（ボランティアとの連絡調整、支援活動の事前準備など）

・地域人材や資源の活用（技術を持った人による様々な支援）

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校の支援活動を地域の中でも定着させたい。

・地域行事の参加から参画へ（中学生の意見も取り入れられるように、早い目の計画。中学生の参加のところを中学生の意見を聞きながら取り入れていきたい。

・学校、地域、保護者（ＰＴＡ）がコミュニティ・スクールについての理解を深め、共に活動を進められるといい。

・学生や教師を目指している人などと連携をして学習の補充などの紹介をしてほしい。

・地区に対しても「中学生のボランティア」を推奨し、地域で中・高生のふれあいを増やせるといい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営協議会では「もっとどのような子どもに育てたいか」を話し合い、学校と地域が共通の目標を持ち、地域学校協働活動と一体化して進められるとよい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

みんなで あたたかく 見守り育てよう 「学而事人」の人に　～新旭地域学校協働本部～

高島市	活動名 ： 新旭地域学校協働本部	新旭南小・新旭北小・湖西中学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

地域学校協働活動概要

開始年度：平成 30 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：131 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［広報紙の発行、子育て・教育相談窓口開設］

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　□その他（　　）

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）『徹底した学校支援活動』の展開（南小「夢の会：会員 46 名」、北小「希望の会：会員 46 名」を核にした活動）

「下校見守り隊の結成」「入学式の受付」「校庭の草刈り･剪定」「七夕集会の笹取り」「校内の修繕」「運動会前の除草」等々、できることなら何でも学校の要請に応える。もちろん、朝の読み聞かせ、図書ボランティア、調理･ミシン、電動糸ノコ、九九道場、夏の学力補充、校外学習の付き添い、マラソン大会の安全監視･････。毎日のように、ボランティアが学校に出入りしている。

（２）『学而事人おはようミーティング』の活動（湖西中学校：「むくげの花の会：会員 39 名」を核にした活動）

「地域の人にどんどん校内に入って、生徒の姿を見たり声かけをしたりしてほしい」との中学校の要請に応えて、昨年度から１日も欠かすことなく続けてきた。30 数名の会員が都合のよい日に、始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶・声かけをする。今年度から『学而事人おはようミーティング』と名付け、会員と生徒、教師と会員、生徒と教師、会員同士、保護者と会員などにぎやかなミーティングの場としている。新しい「支援活動」が次々とこの場で産み出される。例えば、今年の「中学校文化祭」では、地域から三味線・琴・尺八のコラボ演奏や、陶芸・写真・短歌等６クラブの作品展展示、学而事人ファーム産の芋販売などで、支援者や参観者が大幅に増え、「地域に開かれた文化祭」に一歩も、二歩も近づいた。

（３）『夏休み、宿題カフェ』の開催（社会福祉法人、南・北小学校、中学校、共同募金委員会、公民館の６者の協働活動）

「湖西中カフェ」を主宰している社会福祉法人の提案で、**「中学校のお兄さん、お姉さんに夏休みの宿題を教えてもらおう」**をキャッチフレーズに、上記６者の協働で開設した。協働本部での事前協議を受けて、小学生募集（両小学校）、中学生ボランティア募集（中学校）、ワンコインカフェと全体運営（社会福祉法人）、クレープづくり（共同募金委員会）、会場提供（公民館）等、役割を分担した。小学生は申込開始日に 30 名の定員をオーバーし、中学生も２年生だけで目標の 15 名に達した。学ぶ小学生も、教える中学生も真剣な様子、主体的に参加した両者とも貴重な体験の場であった。このような様々な団体が協働する「子どもたちを中心においた取組」を地域内に広げていきたい。

■ 実施に当たっての工夫

（１）新旭の偉人「清水安三先生」の教えである『学而事人』（学んで人に事える）をスローガンに掲げ、子どもも大人も協働本部への親しみと理解を深め、目標を共有しやすくした。

（２）３校の教職員の共通理解が大切と考え、協働本部の方針や活動状況等を情報提供するため、「学而事人室の窓」を発行した。（毎月２～３回）

（３）各校に「支援の会」を結成し、「月１回の定例世話人会を開催し、学校の支援要請への対応を協議する」システムを構築した。

（４）各「支援の会」では、学期に１回会員の集いを開催し、児童生徒・教師とのふれあいや会員同士の懇談によって、絆を深めてきた。



【『夏休み、宿題カフェ』の様子】

■ 事業の成果

（１）「学校の要請に、ほぼ 100%応えていただけた」「教師の負担が減って、子どもに関わる時間が増えた」との小学校教師の声。「学校に入りやすくなった」と地域の人の声が聞かれつつある。

（２）「生徒の聞く姿勢が良くなった、明るいあいさつが増えた、遅刻がほとんどなくなった、学習への構えが良くなった、保護者の苦情が減ったなど、大きく学校が変わってきた」との中学校長の声。保護者アンケートには「地域の方の力を感じる１年でした。子どもが何事にも熱心に取り組む姿は素晴らしい。数年前よりむっちゃ素晴らしい雰囲気です。」との声があった。

（３）各校「支援の会」の活動が起爆剤になり、会員外の方々や各種団体に、「学校（子ども）のためなら」と、積極的に動いていただける方が徐々に増えている。３校の今年度、ボランティアのべ人数は約 6,000 名が見込まれ、昨年度の倍増になる。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・各校「支援の会」のリーダー発掘、自主運営化、支援の輪の拡張を図り、持続可能な体制を構築していく。
・関係の団体や機関・施設等との連携・協働を進め、小・中学生の体験活動や地域貢献活動の場を広げる。
・町内の保育・幼稚園や学童保育所にも支援・協働の活動を拡げ、地域総がかりの子育てにつなげる。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

・各校「支援の会」の世話人に「各学校運営協議会委員２名」が加わり、協働本部と学校運営協議会との連携を密にしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域とともにある学校・子ども応援団

東近江市	玉緒小学校　地域学校協働本部	玉緒小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］
開始年度：平成 24 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：50 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）


【　さつまいもの苗植えをアドバイス　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・生活科（１年生・２年生）
「さつまいもを育てよう」：さつまいもの苗の植え方、育て方や堀り方などを子どもたちに分かりやすく教えていただいた。また、年間を通じてお世話もしていただいた。
「さつまいも収穫」：栽培したさつまいもでスイートポテトを作りお世話になった方を感謝の会にお招きした。歌や音読を発表したり感謝の手紙を渡したりして、楽しい時間を過ごした。
「ちいきを探検しよう」：地域にあるいちご園で２年生が、いちごのことについて教えていただき収穫を楽しんだ。
・社会科・理科・総合的な学習　（　３年生・４年生・５年生・６年生　）
３年生　「地域探検」：校区内にある製茶工場、自動車整備工場、牛舎、キュウリハウスを見学した。子どもたちに分かりやすく説明していただき、子どもたちの質問に答えていただいた。
４年生　「里山探検隊」：地域にある大森町の里山広場に出かけ、自然の中で薪割りをしたり、のこぎりを使って木を切ったり、木の枝を集めてグループで協力して小屋を作った。町づくり委員会の皆さんに丁寧に指導いただき、普段、学校の中では出来ない貴重な体験学習ができた。
５年生　「田んぼの学習」：農業委員さんや、地主さんのお世話で田植えや、稲刈り、脱穀の体験学習をした。その後お世話になった方々を招いて「感謝祭」を開催し、米作りについて学習した成果を発表した。
６年生　「キャリア教育」：今年度は、池田牧場の方、大工さんを招いて、仕事に対する思いや姿勢などの話をしていただき、その後実際に仕事を体験した。また玉緒幼稚園を訪問して、幼稚園教諭の仕事について学んだ。


【　絵手紙名人さんの丁寧なご指導　】

・家庭科（５年生）
「初めてのソーイング」「ミシンを使って」　各班に１人ずつボランティアさんに付いていただき、個々の児童にきめ細やかな指導助言をしていただくことができた。
・図工　（１年生・５年生）
「絵手紙を書こう」　地域に住んでおられる絵の得意な方に来ていただき、絵手紙の書き方を教えていただいた。
・その他　ミシンの点検修理、図書室の環境整備・飾り（毎週水曜日）、読み語り（毎週金曜日）、図書室開放（朝、毎週２回）
ミシンの点検作業（随時）、登下校の見守り　「毎日」

■　実施に当たっての工夫
・学習のねらいをお伝えしたうえで、ボランティアの方の得意なこと等を生かした活動内容を計画した。
・ボランティアの方との打合せでは、実際の教材を使って説明するようにした。
・ボランティアの方の生きがいになるような活動依頼を心がけた。

■　事業の成果
・同じ方に何度か支援していただいたことで、活動もスムーズにでき、事前の打合せも短時間で済ませることができた。
・回数を重ねるごとにボランティアさん同士も顔見知りになり、お互いに意見を出し合ってくださる姿があった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・学校の要望で、ボランティアを探したが、適材の人を見つけることができないこともあった。
・ボランティア登録の方の特技を生かそうと心がけたが、学校の希望とうまく結びつけることができなかった。
・地域の人材を、見つけ出すことが今後の課題だと思う。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　教頭　）

「必要な時に必要な支援を」を合言葉に、今後につながる継続した支援活動を

東近江市	御園小学校　地域学校協働本部	御園小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：23 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校は、外国籍児童が全体のおよそ一割在籍しており、基本的な会話や読み書きについて地域のボランティアが学習支援を行い、日本語で日常生活や学習活動に取り組めることを目的に毎週定期的に活動を行っている。また、本の読み語りやマラソン大会での安全見守り、家庭科での学習補助、運動場の除草作業など、多岐にわたって地域から支援を受けている。



【　運動会にむけての整備作業　】

■　実施に当たっての工夫

本校では、「必要な時に必要な支援を」を合言葉に進めている。地域学校協働活動推進員が学校のニーズを的確に把握し、それに応じて人材を発掘していただいて支援を受けている。また、ボランティアでお世話になった方々を学校行事や感謝祭にお招きしたり、感謝の手紙を子どもたちから渡したりして、子どもたちの感謝の気持ちを育てることができた。またボランティアの方々にとっては、次のボランティア活動への意欲となり、生きがいにつながっているようにも感じる。

■　事業の成果

地域学校協働活動推進員による地域の方々への積極的な働きかけにより、新たな事業への協力を依頼することができ、支援の幅が広がってきている。また、継続した取組によってスムーズに活動を行うことができるようになり、活動前の打合せの時間も短縮できるようになってきている。ボランティアの方々と子どもたちとの距離が縮まり、お互いに顔なじみになることができた。「子どもたちに出会うのが楽しみです。」と言って来校してくださる方が増え、学校の様子を地域の方々に知っていただけるよい機会となっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域ボランティアの方々が支援活動を行うにあたって一番大切なことは、地域ボランティアと学校関係者が情報交換を密に行い、互いに話しやすい雰囲気づくりに努めることだと考えている。そのためにも、定期的に打合せの時間を設定していく必要がある。学校のニーズを的確に捉えて支援をしていただくことを本校では願っているので、毎年支援のあり方を見直し、マンネリにならないよう（たとえば、「昨年、このような支援をしたから、今年もぜひ…」といった要望していない支援を押しつけない）心がけていきたい。



【　５年ソーイング学習の支援　】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

お問い合わせ
東近江市立御園小学校　ホームページアドレス
http://www2.higashiomi.ed.jp/misonosho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　教頭　）

輝け南っ子！！　～地域を学ぶ、地域の人々と学ぶ～

東近江市	八日市南小学校　地域学校協働本部	八日市南小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：42 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・滋賀学園陸上部生徒による市陸上記録会の練習及び指導
・特別支援学級、畑の先生とじゃがいも、さつまいも、大根等の植え付け収穫
・大凧保存会による大凧作りの指導
・南部コミュニティセンターで、３年生児童が地域の方と一緒にじゃがいも掘り
・八日市南高校生と２年生児童のさつまいも植え及び収穫
・グラウンドの芝生化により、芝生刈りや水やり、肥料などのお世話
・真鍮家さんによる江州音頭の指導
・１年生昔のあそび
・３年生昔のくらし体験



【　市陸上記録会の練習　】

■　実施に当たっての工夫
・市陸上記録会の練習では、高校生が限られた時間の中でどのように指導すればよいか事前に練習計画を考えた。
・特別支援学級の畑では、地域の方が先にうねを作ったり、長期休業中の水やりをしたりしてくださった。
・江州音頭では、子どもたちの興味関心を高めるために、南小学校の歌を作っていただき、全校で歌や踊りの練習をした。

■　事業の成果
・市陸上記録会の練習では、高等学校側からも高校生の勉強にもなるとお聞きした。
・高校生は児童との年齢が近いため、コミュニケーションがとりやすい。
・特別支援学級の児童と地域の方が一緒になって野菜を育て、うねづくりや肥料の世話等をしていただくことで収穫量も増えた。また、かまどベンチを利用して焼きいも作りのサポートもしていただき、児童の収穫の喜びも大きくなっている。
・地域の夏祭りでの江州音頭では、児童が大勢参加し、大きな声であいの手をかけていた。地域の方々から大変活気が出たと喜んでいただいた。



【　特別支援学級、畑の先生　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・市陸上記録会の練習では、雨天時の練習が中止になってしまうため、天候に左右されない練習の工夫が必要である。
・江州音頭では、地域の方にもお知らせし、一緒に踊ってもらえる機会をつくる。
・ボランティアの高齢化により、協力いただく人数が減少しつつある。もう少し若い世代にも参加してもらえるようにしたい。
・学校とさらにスムーズな連携を図るため、ボランティア研修の必要性を感じている。

■　その他
南部まちづくり協議会と連携しており、スムーズな活動ができている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　事務職員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推員　）

地域とともに歩む箕作小学校

東近江市	箕作小学校　地域学校協働本部	箕作小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：125 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・３年生「昔のくらし」の学習では、「八日市歴史文化プロジェクト」が制作された昭和 20～40 年頃の八日市の町の様子を描いた屏風を見せてもらいながら、当時の様子についての話を伺った。生き生きと描かれた町の鳥瞰図に、子どもたちの興味や関心の高まりが見られてよかった。
・校区内の伝統的建築物の大規模修理をされている工務店から、６年生の歴史学習のために活用してほしいと声がかかり、見学を実施した。子どもたちは生きた歴史に触れることができ、伝統建築に深い興味を持つことができた。



【　３年生「昔のくらし」学習　】

・箕作小学校地域学校協働本部では、校区内の「清水小脇街づくり委員会」、「太郎坊応援団」、「中野地区まちづくり協議会」と連携し、各学年の様々な教育活動や芝生化された校庭整備等の支援の継続とその充実がみられる。
・５、６年生の家庭科学習支援や低学年の「畑の先生」、５年生の「田んぼの先生」、読み語り等、たくさんの地域の方にボランティア活動に参加していただいている。

■　実施に当たっての工夫

・各学年の学習のねらいや取組のテーマ〝見て・聞いて・やってみる〟をモットーにした学習活動について、地域学校協働活動推進員が教職員との打合せを綿密に行い、適切な支援活動がなされるように努めた。
・地域に出かける活動では、事前に地域学校協働活動推進員と教職員が一緒に下見をして、児童の安全を第一に進めた。
・支援内容に適したボランティア人材を確保し、適宜依頼できるように各所、各団体、個々人に幅広く声をかけている。
・これまでの取組を継続し、学校と地域、ボランティアの三者が共に安心感と親近感、信頼感がもてるように、いくつもの取組に継続して参加できるような工夫をしている。

■　事業の成果

・学区が広範囲であるため、広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、公的機関、各種団体等と細やかに連携を図ってきたことで、外部から学校や地域学校協働活動推進員に声がかかるようになり、ボランティアからボランティアへと支援の輪にもさらに広がりがみられている。
・自分たちの住む町を学習する中で地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域のひとりとしての自覚や地域への親近感をもてるようになり、保護者からも活動を評価する声が聞かれる。地域では、子どもたちへの学習支援の継続と広がりが見られるようになってきた。



【　６年生　伝統的建築物見学　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今後も、「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆をさらに深め、活動を充実したものにするためにも、教職員と地域学校協働活動推進員との打合せや相談が重要である。また、地域学校協働活動推進員が学習計画の立案への参画、活動後の反省や評価、問題提起、課題解決方法の探求等をすることで、発展的に循環した取組となるよう考えていくことが必要である。
・子どもたちが多くの人と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるよう学校と地域との連携の充実を図るためにも、学校から地域への広報活動が不可欠である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　全教職員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

地域とつながることで、幅広い体験や学びをはぐくむ

東近江市	八日市北小学校　地域学校協働本部	八日市北小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・１年生　地域の方に竹とんぼを作っていただいて「竹とんぼ体験」
・２年生　地域の川に出かけて「ザリガニつかみ」
・３年生　地域のお年寄りに学ぶ「昔遊び」
・４年生　地域の施設に出かけて「いきものの森での体験活動」
・５年生　地域の方にお手伝いいただいた「田んぼの学習」
・６年生　身近な方の職業について学ぶ「夢教室」
・日本語支援教室の児童に日本の伝統文化を伝える「餅つき大会」等、地域の方にご協力いただくことで、様々な体験ができ学習が深まった。



【　１年生　竹とんぼ体験　】

■　実施に当たっての工夫

・授業の支援をいただく場合には、事前に授業者と地域の方とで打合せを行い、効果的な学習になるようにした。
・「お餅つきがしたい」といった学校の要望に対し、地域学校協働活動推進員が臼や杵の準備等具体的な手順を調べて段取りする等、学校が支援して欲しいことの実現に向けて地域学校協働活動推進員等､様々な方が力を貸してくださった。



【　５年生　田んぼの学習　】

■　事業の成果

・豊富な知識や技術を持っておられる地域の方の協力を得ることで、効果的に学習を進めることができた。
・「竹とんぼ体験」や「餅つき大会」など、地域の人の協力がなくては実現しない学習や体験をすることができた。
・身近な方に職業についての話を伺うことで、将来に向けての夢を膨らませることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・活動を安定的に発展できるようにするためには、新たなボランティアやゲストティーチャーの発掘が必要である。
・学校便りやホームページを通じて活動を広く地域の方に発信するようにした。情報の発信を通じて地域の方の理解を深めるとともに、さらなる協力を得られるようにしたい。
・学校が支援を受けることが多いが、地域と協働した活動を仕組めるように工夫していきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　教頭　）

「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～

東近江市	八日市西小学校　地域学校協働本部	八日市西小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：230 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）



【　２年生　町探検　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）「子ども見守り隊」の活動

14 地区で「子ども見守り隊」を結成し、児童の登下校を見守っていただいている。７月には「子ども見守り隊研修会」を開き、日常の子どもたちの様子等、必要な情報を提供していただいている。３月には「６年生を送る会」を参観していただき、子どもたちとの交流の機会としている。

（２）生活科や社会科の校外学習の引率

（１年生）近くの華岳山で春見つけ、夏見つけ、秋見つけの学習をしている。引率と、活動の見守りをボランティアの方にお願いしている。また、事前に公園の使用を願い出ると、管理してくださっている方々が、子どもたちの安全面を考えて公園を整備してくださっている。

（２年生、３年生）町探検、校区探検。行き先毎に小グループに分かれるという学習をしている。各グループに１人ずつボランティアをお願いしている。ボランティアさんが地域の方で、各訪問先の方と顔見知りであるため、見学もスムーズに行うことができた。

（６年生）社会科では、近くの雪野山古墳について現地でボランティアさんに説明をしていただいた。歴史学習の導入として身近な地域教材を学習することで、自分たちの住む地域に魅力を感じることができた。



【　６年生　雪野山古墳見学　】

（３）田んぼの学校での田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援

５年生が総合的な学習の時間に年間を通して田んぼの学習を行い、実際に田植えや稲刈りを体験する学習をしている。苗の植え方や稲刈りの仕方を実際に目の前で教えていただき体験することで、昔ながらの農作業がどのようなものであるのかを考えることができる学習である。稲刈り時には同時に脱穀作業も行っている。

■　実施に当たっての工夫

・人材のデータをファイリングしている。
・地域学校協働活動推進員と連携し、年間を通してどのような支援が必要かを事前に検討しておく。また、地域学校協働活動推進員と各学年の打合せを行い、詳しい内容が各ボランティアに伝わるようにしている。
・学校だよりや学年通信等で活動内容や学習の取組を地域に発信している。

■　事業の成果

・地域学校協働活動推進員と各学級担任との連携がうまくできた。
・　地域の方の声かけにより、新たな登録者が増えた。
・　地域の方とふれあうことで、子どもたちの日常を見ていただけることと、子どもたちが地域の方との接し方を学ぶよい機会となった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・　登録者は増えているが、活動を辞退される方も出てきている。新たに登録していただける方を増やすためにも、どのような活動をしているのかが分かるような発信をしていく必要がある。
・地域行事への参加が今のところ各地区への文化祭参加だけである。今後どのように地域行事等へ参加していくのか、考えていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

今後、６年生を中心に自分たちの住むまちについて考えていきたい。自分にとって住みよい町はどのような町なのかを考え、まちづくりの提案をさせていきたいと考えている。また、コミュニティセンターを中心に連携、協働していければと考えている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　教頭　）

地域の力を学校へ！　「布小応援団」

東近江市	布引小学校　地域学校協働本部	布引小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：31 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［　教育環境の整備　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

通年　ボランティア読み語り、校外活動引率支援、スクールガード活動支援、教育環境整備
４～５月　５年生「田んぼの学校」実施計画・打合せ・田植え、田んぼの虫学習補助
７月　職員研修（地域の方を講師とした玉緒地区地域学習）
７～９月　５年生「田んぼの学校」打合せ・稲刈り・脱穀作業
10 月　５年生「田んぼの学校」収穫感謝祭
６年生　防災学習「出前講座　防災紙芝居」
４年生　総合的な学習「環境こだわりプロジェクト」
11 月　５年生　国語科学習「和の文化を受けつぐ」
１月　３年生　社会科学習「漬け物工場見学」



【　環境こだわりプロジェクト】

■　実施に当たっての工夫

・地域学校協働活動推進員の出勤日を固定することで、教員との円滑な打合せを進めることができた。
・学校だより等で、地域と学校が連携・協働している事例を取り上げて広報に努めた。
・地域学校協働活動推進員が地域のつながりを強固にするよう努力し、学校と地域の連携に努めた。
・「布引っ子応援団」のチラシを継続して配布し、新たなボランティア人材の掘り起こしに取り組んだ。

■　事業の成果

一昨年から地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）が配置され、授業の補助や支援、校外学習の相談、教材の発掘等、学習支援ボランティアの充実に取り組んでいる。地域にも学校ボランティアが周知されつつあり、地域学校協働活動推進員を通して学校からの要望にも答えてもらいやすくなってきている。年間を通して、地域学習の講師（対象：教職員・児童）や支援ボランティアの掘り起こしから、スクールガード活動のサポートまで取り組むことができるようになった。

また、学校の教育環境整備として、ＤＩＹが得意な方が学校のニーズに応じ、遊具の修理や靴箱・画用紙棚の製作を心よく引き受けてくださることから、急激に教育環境が整いつつあるので喜んでいる。土木会社からは水害対策をシュミレーションしたジオラマでの体験学習で、４年生が地球の環境問題を体験学習することができた。実際にショベルカーを運転する体験をさせていただいた上、立派な看板をいただくなど、地域からの愛情を感じられる一年であった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域学校協働活動を「見える化」し、連絡体制を整え、校内体制の充実を図る。
・支援ボランティアを継続させるために、名簿等を作成して、校内での引き継ぎを確実に行う。
・広い校地での学習環境整備のため、施設メンテナンス型のボランティアの充実を模索していく。
・地域学校協働本部の活動について、地域や保護者への広報活動をさらに充実させる。



【環境整備　ジャストサイズの棚の制作】

■　その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクールの設置についての展望が見えていない。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　事務職員　）

報告書記入者（　教頭　）

「地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり」

東近江市	市原小学校　地域学校協働本部	市原小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：82 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
・「いつも身近に本を置こうプロジェクト」（地区集合場所に本があるから、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書）
・学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業（しめ縄づくり、餅つき、豆腐づくり、絵手紙、昼休み企画等）
・お花のボランティアの皆さんが育てた花の苗で花壇を整備（通年の活動）
・「地域の日（毎月）」にお楽しみ昼休み企画を実施（年間２回、絵手紙教室実施）
オープンスクールとして隣接幼稚園児が毎月来校、交流活動を実施。
・認知症こどもサポーター養成講座で学ぶ（福祉教育）
・読み語りボランティアによる魅力ある学校図書館づくり（読書環境　読み語り　創作クラフト等のイベントなど）
・漢字検定の実施（７月、１月）児童のみならず地域、教員・保護者の方からも募集する。


【昼休み創作クラフトのイベント】

■　実施に当たっての工夫
・毎月１回、ボランティア会議を開催し、各活動の反省と今後の計画を立てている。
・ぬくもり（手づくり感）を大事にする。（心が通い合うコミュニケーションで、風通しの良い環境づくりを目指す）
・児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。（一体感を目指す）
・「地域の日」をはじめ、持続可能な視点をもって続けることを大事にする。（持続可能な教育環境づくりを目指す）

■　事業の成果
・児童は、人と仲良く過ごすことを大事にし、学校は多様な学びの場であることを知っている。（地域の人が行き交う学校づくりの進展）
・ホームページの更新を頻繁に行うことにより保護者・地域住民へ情報を提供し、協力を得ている。
・地域の人と児童の絆が深まり、学校全体に明るい笑顔と活気が感じられる。
・教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいＯＪＴとなっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・各活動の前には、学校と地域が、目標の共有化を図る必要がある。また、事前事後の取組をおろそかにしない。
・保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらう必要がある。
（ＨＰや広報紙等で、周知の徹底をさらに図っていく）。
・認知症こどもサポーター養成講座（市役所、社会福祉協議会、高齢者施設、民生委員児童委員、地域ボランティア等。多くの方々が支えてくださり、近隣のグループホーム「やすらぎの里永源寺」訪問４年目）。運動会への招待。
・全校マラソン大会の安全な運営（スクールガードによる見守り活動５年目）
・読み語りボランティアによる創作クラフト活動
・公立図書館と読み語りボランティアとのコラボ事業「図書館まつり」
・「地域の日」毎月第２水曜日の昼休みを自由参観の日に設定。地域住民・保護者の皆様が来校している。
隣接する幼稚園からは毎月５歳児を中心に年間を通して定期的に来校している。


【「地域の日」絵手紙体験、園児は見学】

■　その他（学校運営協議会との協働等）
ホームページアドレス　http://www2.higashiomi.ed.jp/ichisho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　校長　）

郷土の魅力発見　～地域の力を生かしわくわくしながら学び合える山小っ子を目指して～

東近江市	山上小学校　地域学校協働本部	山上小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：22 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【３年生　社会科】

「町たんけんをしよう」

校区の町探検に、地元の地理や産業に詳しい方がボランティアガイドとして一緒に参加していただいた。高野地区では、茶だけでなく桑や薬草の栽培や、伝統的な製法でこんにゃく作りをしておられる方等を紹介しながら説明を受けた。これらの活動を通して自分たちの住む町への愛着を持つことができた。

「森っ子スクール」

地域の竹や地域で生産された炭を使い、七輪でバームクーヘンを作った。多くの方がボランティアとして指導に関わってくださったので、火を扱う学習だったが安全に楽しく充実した活動になった。社会科の「昔の暮らし」にもつながり、値打ちのある取組となった。



【森っ子ｽｸｰﾙ：ﾊﾞｰﾑｸｰﾍﾝ作り】

【４年生　総合的な学習の時間　「稲荷山のひみつをさぐろう！」】

学校の裏山にある稲荷山にボランティアガイドさんと一緒に出かけるなど、体験的な活動を重視しながら学習を進めた。ボランティアさんには、稲荷山散策のガイドだけでなく、地域の歴史の紹介や調べ学習の支援などを、単元全体を通して関わっていただいた。この活動を通して地域の財産である稲荷山への関心が高まった。

【５年生　総合的な学習の時間　「和南川と愛知川生き物調査」】

愛知川清流会の方々にご協力いただき、学校の近くを流れる和南川と愛知川で生き物調査を行った。また、水生生物だけでなく、水質についても調べ、川の水質と生態系について学習を深めた。さらに、学習したことをフローティングスクールにおいて他校と交流し合い、愛知川水系から琵琶湖、琵琶湖から淀川水系に至るまで、共通の課題として問題解決的な活動につなぐことができた。

【５年生　家庭科　「始めようソーイング・ナップサック作り」】

５年生で初めて学習する家庭科の中で、特に一人ひとりの習得に見取りが必要な手縫いとミシン操作について、優れた技術を持たれた方がボランティアとして指導に来てくださった。教科書にない合理的な習得方法を紹介されるなど、児童が意欲的に持続して取り組むことができた。

■　実施に当たっての工夫

・昨年度の経験を基本に成果が見られたものは継続した。一方、事前準備不足等から成果が十分得られなかったものについては、見直しを行った。
・どの学年の取組でも、活動前にボランティアの方々、担任及び地域学校協働活動推進員で綿密な打合せを行い、学校とボランティアの方が、活動の目的や子どもに付けたい力について共通の認識を持てるようにした。
・地域学校協働活動推進員と地域連携担当教員の話合いを増やし、互いの持っている情報を交流しながら活動の幅を広げていった。

■　事業の成果

・地域との新たなつながりを創出し、学校教育活動の中に地域の力を生かす機会となった。
・地域を教材にして学ぶ子どもの姿から、意欲的・主体的な様子が見られた。本物に触れ、実体験を重ねていくことで、実感を伴った理解や、新たな気付き・考えにつなげることができた。
・学校に様々な人が集まり、それぞれの経験や知識を生かした活動を展開していくことで、支援をしてくださる地域の方々にとっても自分を生かす場となった。また、活発な地域づくりにつながり、学校と地域双方にメリットがある活動になった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域の高齢化が進み、今後新たなボランティアをどう創出していくか、持続可能な方法の検討を重ねていくことが重要である。
・地域学校協働活動推進員を中心に、学校が求めているものを地域全体に発信していくことで協力体制を充実していく。

■　その他　　山上小学校 HP：http://www2.higashiomi.ed.jp/yamasho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域の方に支えられて、地域の方とともに学ぶ

東近江市	五個荘小学校　地域学校協働本部	五個荘小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：120 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

授業補助
- 総合的な学習の時間に、地域の歴史や取組を話していただいた（金堂まちなみ保存会、地域の福祉サロン等）。話をもとに学習を深め、学習発表会で地域の方や保護者に発信した。
- 五個荘の郷土料理「泥亀汁」作りにおける調理体験支援
- 茶道、生け花、和太鼓などを使ったクラブ活動における支援
- 家庭科での、手縫い、ミシンの実習支援
- 地域の方から昔のくらしや昔の遊びについて教えていただく学習支援
- 本の読み語り

学校行事支援、子どもの安全確保、見守り
- 地区探検や地域学習、工場見学等の校外学習やたてわり活動等の引率補助、交通安全見守り
- 登下校時の見守りや引率活動、挨拶運動
- マラソン大会にかかる安全見守り活動

学校周辺環境整備
- 校地内、中庭等の植木剪定、樹木の下回り整備作業等



【　マラソン安全見守り　】

■　実施に当たっての工夫
- 地域学校協働活動推進員と教職員が連絡を取り合い、打合せの時間を確保した。また、年度当初に１年間の活動の見通しが持てるよう計画した。
- 多くの人に活動をしてもらえるよう、「学校だより」等でボランティア活動を紹介した。
- 参加してくださったボランティアさんを学校行事に招待して、日頃の子どもたちの様子を参観していただいた。

■　事業の成果
- 地域学校協働活動推進員さんの積極的な働きかけにより、新たな事業について協力をお願いすることができた。
- 事業が定着しつつあり、スムーズに活動を行うことができた。また、学校に来てくださる方も、活動を楽しみにしてくださっている。
- 専門的な知識を持ったボランティアさんに直接教えていただくことにより、子どもたちにとって充実した有意義な活動となった。



【　郷土料理「泥亀汁」調理体験　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
- 従来から連携した活動は継続できたが、協働的な活動にまでは至っていない。
- ニーズに合った新たなボランティア人材を見つけることが困難。
- 今後も、より地域に根ざした活動を展開していく必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ　http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教頭　）

地域とつながる学校づくり　「みんなで育てよう　愛東南の子どもたち」

東近江市	愛東南小学校　地域学校協働本部	愛東南小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：31 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・全校【ボランティアグループ「ブッくんの会」による読み語り】
　週２回の「本の時間」の読み語りや「親子お話会」での地域の昔話の紹介
・クラブ活動【手芸クラブ】羊毛フェルト、消しゴムはんこ等の制作指導と支援
・１年生　生活科【昔遊び名人に教えてもらおう】
　コマ回し、あやとり、お手玉、おはじき等の指導と支援
・３年生　総合的な学習の時間【愛東の農家の名人さんに学ぼう】
　梨、ブドウ、キーウイ、いちじくを栽培されている地域の農家さんの見学
・４年生　社会科地域教材【井について調べよう】
　地域学校協働活動推進員の引率のもと、鯰江井の見学
・５年生　総合的な学習の時間【米について調べよう】田植え、稲刈り、脱穀の作業
　家庭科【はじめてのソーイング】【わくわくミシン】玉どめ、玉結び、なみぬい、ミシン等の学習支援
・６年生　総合的な学習の時間【わが町愛東研究所】ゲストティーチャーからの話
　国語科【町の幸福論】
「愛東について考えるシンポジウム」のパネラー
「愛東の未来を考えるプレゼンテーション」の助言者


【４年生　総合的な学習の時間（井の見学）】



【６年生　愛東について考えるシンポジウム】

■　実施に当たっての工夫

・地域学校協働活動推進員と教職員が打合せをする時間を設定し、学校支援の年間の見通しを共通理解できるようにした。
・学校側のニーズを地域学校協働活動推進員にしっかり伝え、必要な人材の掘り起こしをしてもらった。
・学校だよりや学年だよりで、ボランティアさんの活動の様子などを紹介した。

■　事業の成果

・ボランティアグループ「ブッくんの会」による読み語りは、継続的に続いていることで、子ども達の読書の習慣化や質の向上につながっている。また、今年度は「親子お話会」で地域の昔話を紹介していただき、地域学習としても有意義だった。
・地域学習においては、専門的な知識や技能をもっておられるゲストティーチャーを招くことで、より学習効果が上がった。その成果を 11 月の「くすのきまつり」で、保護者や地域の方々、また、招待したゲストティーチャーの方々に発表することができた。
・６年生の総合的な学習の時間【わが町愛東研究所】におけるゲストティーチャーや国語科【町の幸福論】における「愛東について考えるシンポジウム」のパネラー、「愛東の未来を考えるプレゼンテーション」の助言者は、今年度初めて来ていただいたが、子どもたちの学習意欲の向上につながるとともに、自分たちの住む愛東について考えるよい機会となった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・登録名簿を年度毎に見直し、異動等で教職員がかわっても、継続的に地域との連携がとれるような体制づくりが必要である。
・地域学校協働活動について、保護者や地域への広報活動をより充実させ、新たなボランティアの人材の掘り起こしを進める。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担任　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　　）

地域の教育力を結集し、「地域と共に歩む学校」をめざして

東近江市	愛東北小学校　地域学校協働本部	愛東北小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 26 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：32 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・読み語り活動

本校では、読書ボランティアの方による支援によって実施している。毎月１回朝の始業前に全学年を対象に行い、１年生は、月２回程度、下校前に実施している。子どもたちは、ボランティアの方の読み語りを心待ちにしており、朝、当番が控え室に迎えに行っている。絵本だけでなく、紙芝居等、工夫した読み語りに目を輝かせ聞き入っている。毎回ボランティア間で交流の時間を持ち、お互いに工夫点等を学び合うようにしている。



【　読み語りの様子　】

・５年生「たんぼのこ」の体験学習

当校は、ＮＰＯ法人「茗荷村」、集落の農業法人、ボランティアグループ等の方々の協力を得て、「たんぼのこ」の学習を進めている。
農村地域の本校児童も、最近では農業体験に乏しくなっている中で、この体験学習は貴重な場となっている。田植え・稲刈りはもちろんのこと、稲の生長を見届ける学習等を通じて、米作りの苦労と喜びを味わうことができている。

お米の収穫後には「お米パーティー」を開き、御協力いただいたボランティアの方々を招いて学習の成果を発表し、収穫の喜びを実感する機会をもっている。今年度の稲刈りでは、ボランティアの方々の支援のおかげで、うまく鎌を使い、「うまいもんやな。」とほめられる中で意欲的に活動することができた。



【　稲刈りの様子　】

・５年生の家庭科ミシン学習への支援及び補助

ミシンの学習は、学級担任のみの指導では十分な手が届きにくく、児童の学習効率や安全面での留意を図るための手立てが必要となる。そこで、ボランティアを募ったところ５名の支援スタッフが確保でき、ミシンの学習で糸縫いを行った。ボランティアと子どもたちの和やかな交流の中で家庭科の学習が進み、子どもたちも充実した表情であった。

■　実施に当たっての工夫

・関わっていただく地域の方々と学校がお互いの負担とならない適度な距離感を保つように努めている。
・学校への地域住民の関心や思いが高まるよう、ボランティア人員が少しでも増えるようにしている。

■　事業の成果

・ボランティアの方々の支援により、児童の学習効果が上がり、学習への励みにつながっている。
・子どもたちとの交流の中で、少しずつ学校支援の輪が広がっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・子どもたちの学習や生活の充実に向けて、現場のニーズに応えるために学校教職員と地域学校協働活動推進員の連携を密にするように努めたい。
・地域人材を効果的に学校教育につなげていくために、情報収集のアンテナを高くし、ボランティアの更なる拡充に努めたい。
・当本部では、学校側の依頼に対し、情報等を集約的に持っておられるところへの協力依頼を第一歩としている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

ふるさとの宝・東押立の文化・豊かな自然に学ぶ「地域の学校」

東近江市	湖東第一小学校　地域学校協働本部	湖東第一小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：57 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）田んぼの学校

田園地帯の広がる自然豊かな地域に建つ本校は、「田んぼの学校」の取組で、３年生・４年生・５年生は、毎年、地域の方々の力を借りて、田植えや稲刈りを体験している。また、５年生は、お世話になった方々を招待し、お米の学びの発表会や収穫したお米でのおにぎりパーティーで『収穫感謝祭』を行った。

（２）校区について学ぶ

校区は古くから愛知郡東押立村としての文化の中心であった地域である。３年生の社会科「発見！！私たちの町の宝物」では、校区のまちの自慢や宝物を見つける学習をしている。今年度も北花沢・南花沢町の「ハナノキ」、大沢町の『日本の溜百選』に選ばれている「八楽の溜」等、地域に残る歴史的文化について学習した。また、６年生は社会科の歴史学習で大沢町の戦争疎開体験者から「校区の戦争中の話」を聴いたり、「西堀栄三郎記念探検の殿堂」を見学し、総合的な学習の時間のテーマにしたりする等、地域の歴史や人物への学びを深めることができた。

（３）夢訪問・夢授業

Ｍｉｏびわこ滋賀、村田製作所、湖東記念病院、元プロ野球選手、美容組合等、各方面の協力を得て、子どもたちの将来につながる夢授業を行うことができた。



【　６年生　夢訪問　】

（４）学習支援

家庭科の裁縫実習で、地域の方に手縫いやミシンの基本的な使い方を継続的に指導していただいた。ミシンの操作等、子どもたちが躓いたときにその場の状況に応じて支援していただくことにより、限られた時間で裁縫の技能を身につけることができている。算数科では、個別の教科支援に来ていただき学力補充の取組を進めている。

（５）学習環境整備

運動会（６月）に向けたＰＴＡ作業には隣接の自治会や老人会に協力を求め、さらに環境整備作業（８月）には地区の日赤奉仕団にも協力を呼びかけて、ＰＴＡ会員以外の多くのボランティアを集めて運動場の除草作業を行うことができた。また、ＤＩＹボランティアには、学期はじめに椅子の高さ調整をしていただき、さらに今年度は、特別支援を対象とした学習遊具を作っていただき、その遊び方などを指導していただいた。

■　実施に当たっての工夫

・学校と地域の連携・協働関係が広がりを持つように、校区の自治会や各種団体に広く協力を求めた。
・広報を出すことで学校と地域の連携・協働関係の様子が地域にも見えるように努めた。
・次年度以降も継続して事業ができるように、過度の負担にならないこと、ボランティアさんの得意な分野で活躍していただけるように各計画を立てた。

■　事業の成果

・地域にある「西堀栄三郎記念探検の殿堂」を活用した学習ができ、今後の総合的な学習の時間での可能性を探れた。
・地域の歴史的体験をされたボランティアの方から直接お話を聞くことで歴史を実際にあった出来事として理解することができた。
・憧れの職業への夢を抱くと同時に自分の将来に向けて今必要なことを考えるなどの契機となった。また各業界で働く人の姿を間近にすることで働くことの意義や目標を持って生きることの大切さを学ぶことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・除草ボランティアを広く募ることで、学校の教育環境の現状を知ってもらい、今後につなげることができるとよい。
・地域学習の際、ボランティアの方と担任や地域学校協働活動推進員との打合せの時間的余裕がなく細かな詰めが十分できない。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■　その他（　各教諭　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

育てよう湖二っ子！（ありがとう　素直な気持ちを大切に）

東近江市	湖東第二小学校　地域学校協働本部	湖東第二小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

開始年度：平成 23 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：38　人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［　放課後子ども教室　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・読み語りボランティア（ポンぽんの会）
毎月第２・第４火曜日の朝学習の時間に、絵本の読み語りに来ていただいている。10 年以上継続して来ていただいている方も多く、子どもたちは大変楽しみにしている。

・音楽ボランティア
音楽会に向けて、合奏の補助やピアノ伴奏に何度も来ていただいた。パート練習やリコーダーが苦手な児童を支援していただき、楽器の演奏技能を高めることができた。

・茶道・華道
６年生の総合的な学習で、日本の伝統文化を学ぶ時間として、茶道・華道の先生を招き、指導していただいた。作法だけでなく、姿勢を正すことやおもてなしの心も教えていただけてよかった。この経験をもとに、湖二っ子フェスティバル（生活科・総合的な学習の発表会）でお茶の接待をして、保護者や地域の方に喜んでいただいた。

・夏休み、冬休み宿題教室
長期休業中の学習支援として、平成 29 年度から宿題教室を実施している。地域の社会人や大学生、高校生の協力を得て、学習支援を行っている。



【 読み語りボランティア 】


【　夏休み宿題教室　】

■　実施に当たっての工夫
・年間の見通しと支援実績記録の活用
・保護者からの人材情報及び地域学校協働活動推進員連絡会での情報活用

■　事業の成果

学習支援ボランティア
・保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
・子どもの学習を支援していただき、学習意欲の高まりに保護者の喜ぶ声もある。
・地域のボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると喜んでくださっている。

ゲストティーチャー
・学習ニーズに合わせて、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。地域の方からは「子どもたちに分かる説明の仕方が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持っていただいている。

環境ボランティア
昨年度に引き続き、前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアさんの協力で、前庭や校舎周辺が大変きれいになった。このことも長年取り組んできた成果であるといえる。

地域とともにある学校づくり
地域ボランティアの協力が年々充実する中で、地域の方が主体的に学校支援に取り組もうとする気運も高まっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
（湖東第二小学校）　http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　教務主任　）

報告書記入者（　教頭　）

おとなと子どもの「生き甲斐みつけ」「まなび」をつなぐ活動

東近江市	湖東第三小学校　地域学校協働本部	湖東第三小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 25 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：28 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・まち協歴史文化プロジェクトと連携して、２年生の生活科「まち探検」、３年生の社会科「地域学習」において、より広がりと深みを持たせた。地域学校協働活動推進員も積極的に参画して、『愛知井を辿る』を意識した「まち探検」とした。２地区の案内役にプロジェクトのメンバーが加わった。
・本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に学校に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、稽古・打合せを実施するなど、熱心な取組状況である。昼休みに定期的に発表活動をしている。「朝読書」では、一般の読書ボランティアも一緒に毎月の「読み語り」を実施し、中学校への広がりも見せた。
・伝統の花壇づくりを継承すべく園芸ボランティアが３年目を迎え、児童にも活発な活動を生み、成果も現れた。
・１年生の「秋みつけ」で、今年も「すこやかの杜グランドゴルフ場」の全面的な協力を得て、工作指導などもお世話頂き、さらに深みと広がりのある活動になった。



【　『愛知井』とともに　】

■　実施に当たっての工夫

・子どもたちが地域のよさに気づき愛着を持てるよう、今年度も「まち探検」でパナソニックホームズ敷地内の古墳見学を行ったり、４年生の学習に繋がる『愛知井』の箇所や、各町ごとの高低差に注意を促して、この地が「扇状地」にあることを意識させたりした。
・２年生のまち探検と体験学習として、この地の特産の『清水芋（里芋）』　掘りの体験ができた。「植える体験」と「掘る体験」を２回に亘って協力していただき、貴重な体験となった。
・６年生の平和学習（歴史学習）で、この地域の昔の写真やその他の戦時中の写真などを提供して、出前授業に至るまでの学習に厚みを持たせる資料提供と打合せを行った。疎開時代の経験を語るゲストティーチャーを今年度も招聘しての授業につなげることができた。
・　一昨年度末から発行を始めた地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）通信を今年度も月刊で発行した。（通算で 38 号）※校区（中学校区拡大もあり）に回覧で配布



【　清水芋（里芋）掘りの体験　】

■　事業の成果

・読書ボランティアやその他のボランティアなどが、かねてから登録していただいている方の紹介でさらに新たなメンバーが加わり、複数の活動へと広がりを見せた。
・担任と地域学校協働活動推進員が連携することで、新たな取組も生まれ、今年度の生活・社会科の授業に深まりが生まれる一助となった。さらに、まち協歴史文化プロジェクトとの連携も生まれて広がりを見せた。
・１年生の生活科では、「秋みつけ」や「むかしあそび」で、「湖東地区グランドゴルフ連盟」との連携が生まれ、すこやかの杜での活動に結びついた。
・３年「まち探検」では、地元大企業の内部に入らせていただき、古墳の存在と以後の学習への発展も考慮できた。
・「『愛知井』とともに」を発行し続けている成果として、地域とのつながりがより深くなった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域学校協働活動推進員と各担任の連絡調整には放課後のわずかな時間しかない。限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

「まち協」子育て支援プロジェクトとの連携も模索していく

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　各担任、労務員　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。

東近江市	蒲生東小学校　地域学校協働本部	蒲生東小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：25 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　■その他［ あかね通学合宿ボランティア ］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

「生活科」や「社会科」、「理科」、「総合的な学習の時間」等で、地域教材をいかしたり、体験活動をもとにして学んだりする活動等で、地域住民ならではの経験を生かしたゲストティーチャーや学習支援・安全支援等を実施している。
今年度は、朝タイムの読み語り、１年生の生活科「さんぽ」・「昔の遊び」、２年生の生活科「お店探検」・「生きもの探検」、総合的な学習の時間では、３年生の「町探検」・「農場見学」、４年生の「福祉シニア体験」「高齢者交流会」、５年生の「田んぼの学習」「児童会フェスティバルのおもちづくり」、６年生の社会科「あかね古墳見学」「平和学習」・理科「地層見学」、あかね通学合宿等への支援をしている。



【２年生　生きもの探険】

■　実施に当たっての工夫

・蒲生東小学校地域学校協働本部は、平成 13 年に発足したボランティア「三弓会」を母体に少しずつ支援の輪を広げながら活動を続けている。「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性をいかそう」という考えを基本に伝統的に支援活動を継続している。
・毎月定例のボランティア会議では、実施した活動について反省を出し合い、２～３か月先を見通して参加者を募っている。今年度は、この会議で出された意見から、発表会の参観を組み込むことも取り入れた。担任と相手方との接続を細やかに支援できるようにしている。

■　事業の成果

・地域の方々の専門性や技能を生かした支援、安全への配慮をしていただき、豊かな学習活動を展開することができている。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり、教育力が向上し、郷土愛を培うことにもつながっている。
・子どもたちは、ボランティアの専門的な知識や技能に触れたり、多様な体験の機会を得ることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲を高めることができている。
・ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながら安心して活動できている。
・今年度、学習のねらいに応じた支援の在り方や体験活動のいかし方について検討し、体験活動を通した子どもたちの学習成果物や発表会を参観する機会を増やした。
・子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域資源や教育力を活かした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの方々の誇りでもあり、郷土愛を高めることにもなっている。



【５年生　田んぼの学習　アイガモ農法体験】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の良さを感じながら創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新たなボランティアの方々の参加や育成、等、新たなニーズへの対応が課題となっている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　教頭　）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。

東近江市	蒲生西小学校　地域学校協働本部	蒲生西小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：28 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）



【　あかね通学合宿　ピザ作り体験　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。
・「田んぼの学校」や「総合的な学習の時間」の取組では、地域団体等のボランティアに協力してもらい、学習指導を行っている。
・「あかね通学合宿」は、校区の６年生を対象に実施している。自治会公民館等で宿泊し、自治会やボランティアの方々の見守りの中、自立した生活を目指している。地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業を通して、「ふるさと蒲生」を意識し、地域学習の場として地域の教育力も高められている。

■　実施に当たっての工夫

・支援の内容に適したボランティアをお願いするようにしている。
（田植え稲刈り体験、地域の名人、ふるさと学習、森林保全活動等）
・「あかね通学合宿」は、児童が家庭・学校では体験できないことを経験する場となっている。また、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。また、教職員の時間外の関わりも多かったので、今年度から実行委員会形式の実施に移行し、地域主体の活動になっている。

■　事業の成果

・「あかね通学合宿」は参加後、児童の家庭から「生活に自主性が見られるようになった。」等の意見が多く聞くことが出来ている。地域の方と児童の年齢を越えた繋がりが見られ、様々な交流が生まれている。
・地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアの方の固定化と、高齢化による負担感があること。
・「あかね通学合宿」については、自治会に大きな負担をお願いすることとなり、自治会の施設に頼る面も多く、受け入れてもらえる自治体が少なくなっている。学校やＰＴＡ組織内においても、「あかね通学合宿」のあり方については様々な意見がある。
・ボランティアの公募及び人材発掘等を行い、継続的な活動を行う。



【ボランティアによる読み語り】

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　教務主任　）

わたしたちのまちを知ろう

東近江市	蒲生北小学校　地域学校協働本部	蒲生北学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：20 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

～校区のまちたんけんで自分たちが住んでいるまちの様子を知る～

３年生の社会科「わたしたちのまちのようす」での単元学習において、自分たちの校区に出かける際に、地域学校協働活動推進員やボランティアの方に一緒に歩いて案内をしていただいた。また、児童の安全確保にも御協力いただいた。

お寺の住職さんには、お寺でまつられているものや建物の中にあるものを紹介していただき、まちの自治会長さんには、これまでに起きた災害やそれに対する対策について教えていただく等、それぞれの地域で詳しく話をしていただいた。



【　お寺の住職さんからお話を聞く　】

■　実施に当たっての工夫

・校区に住んでおられる営農指導員や東近江市ボランティアガイド協会の方に依頼をして詳しく教えていただいた
・校区全てのまちを探検することで、児童が団地と字の違いについて気づくことができた。

■　事業の成果

校区には大きな団地と５つの字があるが、その全てを歩くことで自分たちのまちと他のまちとの似ている所や違いについて気づかせることができた。本校児童の多くが団地に住んでいるため、字の様子について詳しく話を聞くことはとても貴重な学習になったと感じる。営農指導員や地域学校協働活動推進員の方には、様々な学習でお世話になり、３年生時だけでなく、多くの子どもたちとの継続的な関わりにつながった。



【　神社で行われる祭りについて教わる　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアの方の高齢化及び固定化
・来年度からの学習指導要領の改訂にあたり「わたしたちの住んでいるところ」の単元にかかる時数が削減されるため、まちたんけんに要する時間の確保・調整
・地域学校協働活動推進員の交代時の引き継ぎ

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任　）

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをめざして～人とのかかわりを大切に～

東近江市	能登川東小学校　地域学校協働本部	能登川東小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：67 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【校外学習引率補助】県外・宿泊以外の各学年の校外学習について、安全確保のために引率補助の活動を行っている。
（１年生）一日校外学習　（２年生）町探検　図書館見学　電車に乗って　（３年生）地区探検　市内巡り　お店・工場見学
（４年生）森林環境学習　消防署見学　一日校外学習　（５年生）園児との交流学習立哨　（６年生）施設見学
【学習支援・その他】子どもと直接かかわる学習支援を大切に活動している。
（特別支援学級）苗植え　抹茶体験　（１年生）苗、球根植え　しゃぼん玉・砂遊び　芋掘り　おいもﾊﾟｰﾃｨｰ
（２年生）トマト苗植え　（５年生）家庭科ソーイング・ミシン学習・調理実習　図工科製作
（６年生）家庭科調理実習　ミシンで製作　◎全校マラソン大会（含試走）の立哨補助
【ゲストティーチャー】人から直接学ぶ学習や交流体験学習を大切にしている。
（６年生）キャリア教育：地域の仕事人に学ぶ　地域（学区内）の仕事人の方にご来校いただき、直接話を聞く学習
能体験学習　日本の伝統芸能を学ぶ体験学習
（２年生）地域の名人さんを招いての交流体験学習
【環境整備】ボランティアさんからの提案で、校舎内外の環境整備を行っている。
◎玄関・家庭科室環境整備　ミシンメンテナンス等

■　実施に当たっての工夫

・年度当初に各学年と打合せを行い、１年間の見通しをもって、計画的に活動できるようにしている。
・「本事業のお知らせと学校ボランティア登録のお願い」文書を年度当初に、学期末に「ボランティアだより」を全戸配付し、保護者、学区民に理解と協力が得られるようにしている。また、職員にも、職員会議や打合せ等で発信（事業の趣旨や学習支援予定等）し、活動が見えるよう心がけている。
・推進員のネットワークやボランティアさんのつながりを活用しながら、学校支援の輪を広げるとともに、お互いの交流を大事にしている。（支援後のふり返りの場や、ボランティア会議・交流会の開催）



【特別支援学級　抹茶体験学習】



【６年生　能体験学習】

■　事業の成果

・今年度も 16 名というたくさんの方が新たに登録してくださり、計 67 名のボランティアさんで様々な支援活動をしていただくことができた。（大学生から 80 歳代の方まで、幅広い年齢層）たくさんの方とのかかわりが、子どもたちにとっての安心感、満足感、達成感につながり、ボランティアさんに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える子が多くなった。
・ボランティアさん自身の居場所にもなり、子どもたちとのかかわりを楽しみにしていただいている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校が、目指す子ども像との関連を明確にし、そのために教育活動の中にどのように位置づけ、活用・運用していくかの熟議が必要。（職員の共通理解と認識、来年度教育課程が変わることでの本事業の有効活用）
・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくし、「連携」「つながり」を大事にしたい。
・人から学ぶことを大切にし、人とかかわる・つながる力をつけたい。（教師も）

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「郷土を愛し、ふるさとを大切にする子」をめざして

東近江市	能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：75 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　■その他（地域教育協議会）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

能登川西小学校区のコミュニティには、１世紀前からの「共生共育」の歴史があり、11 自治会と同窓会、教育推進会の関わりの元、平成 16 年に西小学校区地域教育協議会が発足した。家庭や地域の教育力を上げるために、活動に賛同するボランティアの定例会から学校支援が始まった。「共生共育」の理念を受け継ぎ、学校の子どもたちが積極的に地域に関わっていくことで、地域と学校が連携・協働し「ふるさとを大切にする子」「地域社会に貢献できる人材」「将来の地域の宝」の育成をめざしている。

（１）ふれあい福祉訪問

長年にわたり、６年生が自分の住む地域の一人暮らし老人宅を訪問している。児童は下校時に分かれて集会所などに集まり、地域の日赤奉仕団等の方と連携して数軒の家を訪問する。１回目は、運動会の案内パンフレットと手紙を持って訪れ、２回目は、園芸委員会が育てラッピングしたパンジーの鉢植えを持ち、３年生と共にプレゼントに訪れた。語らい交流することで子どもたちは、お年寄りへの思いやりの心を育てている。



【ふれあい福祉訪問】

（２）能登川作業所の訪問

人権教育及び福祉教育の一環として、毎年、本校で開催する「きぬがさ祭り」において、能登川作業所の方と全校児童が交流している。その過程で、４年生は「総合的な学習の時間」の取組において作業所を訪問し、特に交流を深めている。20 年の伝統があるこの取組の中で、子どもたちは作業所の方たちと自然に接することができている。

新教育課程になっても、地域に開かれた教育課程を重視し、地域社会との相互連携に努めていきたい。



【能登川作業所の訪問】

■　実施に当たっての工夫

・年度当初に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を全戸配布し、学区の方々の理解と協力が得られるようにした。
・西小学校区地域教育協議会の定例会と、そのネットワークを活用し、さらに支援者を広げる努力をしている。

■　事業の成果

・地域学校協働活動推進員の取組により、持続可能で、発展が期待できる事業となった。また、口コミで地域ボランティアの輪がさらに広がりつつあり、主体的に学校支援に関わってくださる方が増えてきた。
・人との関わりを通して、子どもたちの体験が「本物」の体験になり、ふるさとが好きになり、地域と自分の関わりを考えながら学校生活を送ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

これからも持続可能で発展する取組になるように、アンテナを高くして支援者を募り、子どもたちの自主的な活動となるようにしていきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学級担任等　）

報告書記入者（　教頭　）

地域に感謝　子ども応援隊

東近江市	能登川南小学校　地域学校協働本部	能登川南小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：150 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）芝生の校庭

校庭が芝生化されて５年目になる。子どもたちは、ボール遊びだけでなく様々な遊びを楽しんでおり、休み時間には多くの子が運動場で遊んでいる。転んでの怪我がほとんどなく、安心して走り回れるようである。管理については、芝生応援隊の皆さんを中心に、定期的に、芝生刈りや施肥をしていただいている。また、ＰＴＡが地域の皆さんを対象として、校庭開放を年３回実施した。就学前のお子さんとその家族等、多くの方が芝生のグラウンドで楽しんでいた。



【　いきいきサロン　】

（２）猪子山活動

本校は、環境学習にも力を入れている。学校のすぐ近くにある猪子山をフィールドとして、年間を通して全学年が活動している。その際のお手伝いとして、保護者ボランティアや、地域のボランティアの方々に引率していただいたり、猪子山の自然や歴史等についてのアドバイスをしていただいたりした。

（３）いきいきサロン

地域の会館で開催されている「いきいきサロン」に４年生が参加し、運動会の演技や歌を披露したり、一緒に遊んで交流を図ったりしている。子どもたちにとっても地域のお年寄りにとっても貴重なふれあいの機会となっている。

■　実施に当たっての工夫

芝生応援隊の代表の方に、地域学校協働活動推進員をしていただいている。定期的に学校で集まる組織なので、そこで様々な依頼をすることもできた。また、この事業の良さを教職員に浸透できるよう、協働活動推進員と先生方が話せるように、水曜日の昼休みには、職員室に待機していただいている。４月に年間計画を立て、どの学習で支援を求めるかについて共通理解して取り組んだ。

より多くの方に参加してもらうことを大切にし、校外学習の引率やマラソン大会立哨等、広くボランティアを募集して、気軽に参加できるような場面を工夫した。

■　事業の成果

地域の方と関わりながら学んでいる子どもの姿を見ることにより、教師の意識に変容が見られ、地域の方との連携の大切さを体感している。子どものためにもなり、教師の事務負担の軽減にもつながる可能性を秘めていることから、事業への理解が高まり、担任からボランティアを依頼することが多くなった。

マラソン大会の立哨ボランティアや校外学習の引率等、保護者に対してボランティアの募集を行ったところ、多くの方に協力していただき、子どもの安全面で大変有効であった。



【　さつまいもの苗植え　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティアをしていただく方は、地域で何かしらの活躍をしておられる方が多い。新しい方の掘り出しが大切である。先を見据えボランティア組織をしっかりとしたものにしていく必要がある。
・保護者ボランティアとして学校行事等に支援してもらっている伝統がある。スクールガードとして長年活躍されている方もいる。協働活動へ高めていけるよう、それぞれの組織の連携を強化していく必要がある。
・ボランティアをしたいと思っている方が多くいることがわかってきた。学校ボランティアの組織をしっかりとしたものにしていくことが重要である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　学年主任等　）

報告書記入者（　教頭　　）

地域と共に歩む学校！ボランティアによる安心・安全の学習サポートと環境整備！

東近江市	能登川北小学校　地域学校協働本部	能登川北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：29 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇地域と学校が協働した活動

（１）読み語りサークル「大きなかぶＬａさん」による読書活動
・毎週月曜日、９名のメンバーが朝自習の時間に読み語りを実施
・１、２学期末に「ちょっと豪華なお話し会」と題して、大型紙芝居やペープサート等で読み語りを実施

（２）学習ボランティアによる学習指導・学習支援
・社会科･･･米作り体験（５年生）　・家庭科･･･ミシン・裁縫（５年生）
・総合的な学習の時間･･･ハウス野菜の栽培（６年生）
・社会科・生活科・総合的な学習･･･地域学習引率補助（３年生・４年生）
・クラブでの卓球指導・学校行事（マラソン大会）サポート
・ＰＴＡ総会や学級懇談会時の託児ボランティア

（３）環境ボランティアによる校地内環境整備
樹木の剪定や校地の除草等、ボランティアを組織して学校の環境整備を実施

（４）登下校時の児童の見守り活動
登校時の安全ボランティアや下校時のお迎え当番の活動


【くりみフェスタ】

〇継続的に実施している地域と学校の連携・協働事業

（１）くりみフェスタ（全校）
・今年で 15 回目となる学区最大のイベントである。午前中は音楽会、午後は食や遊びのブースを設営し、子どもたちと地域の方々が互いに交流を深めた。（学区地域教育協議会・自治会長・民生委員児童委員・ＰＴＡ・体育振興会・老人会・婦人会等）

（２）いきいきサロン（全校）
・夏休みに、各町のサロンに子どもたちが招待を受け、ゲームや遊びを通して高齢者との交流を楽しんだ。

（３）ほんわかサロン（前半：全校　後半：４年生・５年生）
・５年生の総合的な学習の一環として、約 50 名の地域の高齢者を学校に招いて、音楽発表、クイズやゲーム、会食等で交流を深めた。（自治会長・民生委員児童委員・デイサービス職員・日赤奉仕団等の協力体制）

■　実施に当たっての工夫
・３年目となる今年度は、校区在住の新たな地域学校協働活動推進員が後を引継ぎ、これまで培った地域のネットワークを生かして、新規のボランティアスタッフを増員しながらの協働活動へと発展した。
・日頃ボランティアスタッフは、それぞれ別の活動をしているため、互いに面識がなかった。そこで、夏休みにサポーター交流会を実施した。それぞれの活動の様子について交流したり、成果や課題を確認し合ったりした。このような会合を継続する中で、学校が抱える課題や今後ボランティアとしての取組の方向性等を共通理解し、ボランティアの方々が学校と連携して主体的に学校づくりに参画していただけるようになることを願っている。

■　事業の成果
・学習ボランティアの専門的な指導や個別指導により、子どもたちがわかりやすく安心して学習に取り組むことができた。
・校外学習の引率や行事のスタッフに協力していただくことで、職員の負担軽減と安全安心の見守り体制の確保ができた。
・新規のボランティアの発掘とボランティア名簿の整理ができ、学習のサポート体制や環境整備の継続的な体制が整備できた。
・地域学校協働活動推進員がボランティアの方々と連絡調整することで、担任の業務の負担軽減につながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・これまでからある組織や連携事業を、今後いかに地域と学校の協働事業へと発展させていくのかが課題である。また、地域と学校が連携してどのような子どもを育てるのか、地域学校協働活動の将来のビジョンをどう描くのか等を話合う機会を設定することが必要である。
・学校課題として、登下校の児童の安全確保がある。教職員やＰＴＡの活動だけでは、困難な状況にあり、今後は幅広く地域の方々の見守り体制を構築することが急務である。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　担任・事務職員　）

報告書記入者（　校長　）

地域に根ざし、地域と共に育つ学校の創造を目指して

東近江市	玉園中学校　地域学校協働本部	玉園中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：15 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　■その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）



【　八風太鼓ｱﾝｺｰﾙ　先輩と共演　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

〇文化祭における八風太鼓の演奏
・御園地区の八風太鼓を３年生の文化祭活動の一部に加え、地域の八風太鼓の指導者の方に指導をしていただき地域文化を広め、地域の良さを確認する。また、地域で八風太鼓を習っている生徒が、他の生徒に太鼓の演奏を指導することでより地域との関係が深まった。先輩との共演により地域における縦のつながりが深まりつつある。
・文化祭の合唱練習、当日の審査等に地域の音楽専門的な技能をお持ちの方に依頼して活動をしていただいている。

〇部活動（ソフトテニス、バスケットボール、吹奏楽）の指導において、専門的な技術指導をしていただいている。
〇性教育や薬物乱用防止、がん教育の授業など、専門的な知識を持ち合わせている地域の教育機関（大学等）の専門家を招聘して授業をしていただく。
〇平和学習においては、愛東地区の県立平和祈念館のスタッフにお願いして、地域に根ざした平和学習を展開している。
〇技術科の木工分野にボランティアをお願いして、支援にあたってもらった。

■　実施に当たっての工夫

・地域のコミュニティセンターとの連携をより深くする。
・校区内に在住する中学校教育に必要な人材（ボランティア）の発掘につとめる。また、びわこ学院大学等へボランティアのニーズを積極的に発信する。
・学校だより、ＰＴＡ広報等を通じて、保護者、地域に発信をしている。

■　事業の成果

・地域学校協働活動推進員を中心に、地域の伝統文化である八風太鼓の演奏に取り組んで三年目を迎え、定着しつつある。地域の文化と学校の融合を考え、今後の中学校と地域の関わりを築いている。
・部活動指導においては、生徒が専門的な技能指導を受けることによって、生徒の健全育成に大いに役立っている。


【　１年生　技術科　学習支援　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・ボランティア人材の発掘については、今後、地域のコミュニティセンター等とより連携を深め、継続的に推進していかなければならない。
・今後の「連携・協働」を視野に入れると、学習支援などの単なるボランティアだけではなく、学校と地域がひとつのものを創り上げていく活動を創造することが必要である。生徒全体の活動よりも、生徒会委員会、部活動などの単位が地域で共に活動することによって、地域が活性化するような取組を創造することを展開していきたい。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　校長　）

地域とともに活動する聖徳中学校

東近江市	聖徳中学校　地域学校協働本部	聖徳中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：55 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・図書ボランティアによる読み語りを始めていただいた。現状では毎月第１月曜日に３年生と特別支援学級→２年生→１年生という順に各学級に出向いていただき、絵本等の読み語りをしていただいた。
・部活動支援として、地域の方にバレーボール・ソフトテニス・吹奏楽部・サッカーの４つの部活動において技術指導に来ていただいた。
・学校周辺環境整備活動にとして、５月から 11 月までグラウンド周辺の環境整備をしていただいた。
・八日市ふるさと絵屏風の作成に、参加させていただいた。



【読書ボランティア活動の様子】



【運営会議の一幕】

■　実施に当たっての工夫

夏休みに運営会議を開き、地域学校協働活動推進員の方に地域からボランティアを募っていただき、各行事にどのような体制で取り組んでいくのかを協議し、参加体制を決定した。

■　事業の成果

・読み語りの活動では各学年とも落ち着いた雰囲気の中で活動ができた。朝のあわただしい時間の中で、地域の方々のお話を聞くことにより、静かで落ち着いた学習環境を作り出すことができ、穏やかな一日のスタートを切ることができた。
・学校グラウンド周辺の草刈りを中心として、環境整備に取り組んでいただいた。教職員が職務に専念できる時間を確保していただき、生徒もきれいなグラウンドで活動できている。
・部活動の支援をいただくことで、技術的にも精神的にもより成長に結びついた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・地域の要望と学校での活用を上手く連携させていくこと。
・様々な要望に添った地域人材の掘り出しと確保
・開かれた学校を目指し、定期的な運営会議の開催

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　部活動等担当教員　）

報告書記入者（　校長　）

『力いっぱい！心いっぱい！』地域とつながろうプロジェクト　～チーム船岡～

東近江市	船岡中学校　地域学校協働本部	船岡中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 24 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：５人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）



【　いちのべ万葉フェスタ　】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）中学校　→　地域へ「つながろうプロジェクト」（地域貢献活動）

〇地域清掃活動の実施

「びわ湖の日（７月１日）」に向けて地域清掃が行われる。それに合わせて「自分たちの住む地域を大切にし、気持ちよく生活できるようにする」ことをねらいとして、学校周辺の地域に出向いてゴミ拾いなどの地域清掃活動を行った。

〇中学生の地域行事への参加

・校区にある２つのコミュニティセンターを通じて、地域行事等にボランティアスタッフや出場者として、延べ人数 100 名を超える生徒が参加をした。
イベントでのブースの出店やスタッフとしての仕事を通して、地域の方とのコラボレーションを経験した。

・各コミュニティセンターで行われた文化祭には、それぞれの地区に住んでいる生徒の作品(書写、美術 各１点)を出品した。

〇地域の方とのつながりの中で、「ほんまもん体験」学習

キャリア教育の一環として行っている「ほんまもん(職場)体験」の学習では、担当いただいた地域の方に、学校ではなかなか経験できないことを「心いっぱい」の関わりで提供いただき、生徒は「力いっぱい」体験した。

（2）地域　→　学校へ「つながろうプロジェクト」（教育活動推進員や学校支援ボランティアによる学校教育支援活動）

〇ゲストティーチャーを招いての出前授業の実施

ゲストティーチャーの方の豊かな経験や実例をまじえたお話を聞き、キャリア学習、平和学習、地域学習につなげた。

〇部活動支援の実施

女子バスケットボール部、ソフトテニス部において、外部指導者に継続して指導を行っていただいた。

■　実施に当たっての工夫

（1）中学生の地域行事・ボランティアへの参加を推進するための工夫

〇年度当初に学校とコミュニティセンターで地域行事の日程調整を行い、中学生が参加しやすいように努めた。

・学校行事(部活動大会、テスト前など)日程と地域行事日程との調整を行なった。
特に休日の学校施設の開放及び使用については、部活動の練習計画と日程調整を行った。

〇地域行事ボランティア参加の呼びかけを全校体制で行い、積極的に参加できるような雰囲気づくりに努めた。

・担当教員が、啓発のための掲示物を作成して周知を図った。

・生徒間でも相互に働きかけができるように声の掛け合いを行った。



【　平田地区文化祭　】

（2）地域の教育資源を有効に活用するための工夫

〇学校と地域学校協働活動推進員とが連携を密にとり、学校の要望を的確に伝え、適切な人材を適切な時期に紹介いただけるように、管理職と担当教員、地域学校協働活動推進員の交流の機会を定期的に持った。

■　事業の成果

・地域の方や保護者が学校教育にかかわっていただく機会を積極的に設定することで、中学校の教育活動への理解が深まり、地域に根ざし、地域とつながり、地域に支えられた学校づくりを展開することができた。

・自分の住んでいる地域の良さを知り、地域の一員として様々な活動に取り組み、参画することは、地域に誇りを持つことにもつながり、「自尊感情の育成」を支える要素となっている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域学校協働活動推進員が学校の要望を的確に把握し、タイムリーに適切な地域教育資源を紹介していただくために、担当教員と十分な情報交換等の時間を確保できるよう心がけたい。今後、さらに連携を密に取り、効果のある教育活動につなげていきたい。

■　その他　《 船岡中学校ホームページＵＲＬ 》http://www2.higashiomi.ed.jp/funachu/

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　校長　）

学校と地域の力で環境を校地内の環境を整える活動

東近江市	永源寺中学校　地域学校協働本部	永源寺中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：15 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

校地内環境整備

本校の労務員が日々精力的に校地内の樹木を伐採・選定し、本校職員が整備しているが、地域にも発信して地域と学校とが連携する活動とした。

地域の方の動きは次の通りである。

・学校評議員会の方が中心となり、中庭に以前建てられて古くなった東屋を移築した。
・相谷里山会の方とともに本校の教職員が、昨年度に引き続き、校舎周辺の樹木の剪定や伐採など、学校だけでは対応できない部分で御協力いただき、光が差し込む明るい校舎になった。
・相谷里山会の方が地域の方とともに、学校の前庭にある樹木の剪定や伐採を行った。
・地域の方に校地まわりの除草作業を自主的に取り組んでいただいた。

■　実施に当たっての工夫

・日頃より、管理職、労務員、事務職員、地域学校協働活動推進員が連携し、校地内の環境整備について話合い、主に労務員が整備をしているが、学校の内外に向けて校長より情報発信をしている。
・活動の実施に際して、目的の共有や、配慮を要すること、当日までの準備等について事前の打合せを丁寧に行うことで、充実した取組となった。
・企画の段階からできるだけ、学校と地域の両方に有益なものとなるように配慮している。

■　事業の成果

学校の教職員のみでは円滑に行うことができない活動が実施できた。特に広い校地内に生い茂っている樹木の中には、立ち枯れしていて危険なものや、校舎に接して光を遮ってしまうものがあるため、技術や機械が必要となり、学校だけでは処理することができなかった。

今回も相谷里山会の御協力を得るとともに地域の方も御協力いただき、以前とは全く異なるような光差し込む明るい校舎、きれいな校地となった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

展望について、校長の方針により具体的な活動が変わることは、致し方ないと思う。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　□教　頭　□地域連携担当教職員　□その他



【校地内環境整備】

報告書記入者（　校長　）

地域とともに育む読書活動

東近江市	五個荘中学校　地域学校協働本部	五個荘中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　　地域学校協働活動推進員数：1 人　　ボランティア登録数：16 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■ 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■　部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・図書館開放支援

本校は、平成 27 年度の校舎改築により、学校図書館を兼ねた公立図書館（東近江市立五個荘図書館）が併設される全国的にもめずらしい施設である。原則として週３日、昼休みに図書館を開館している。休館日である月曜日・火曜日以外は、一般利用者とともに子どもたちが図書館で過ごすことから、図書館の利用マナーをはじめ、生徒と一般利用者が自然なかたちでふれあい、多くの本に親しめるようにボランティアの方々に見守りを続けていただいている。



【　２年生　読み語りの様子　】

・読み語り

本校では、年間を通して毎朝 10 分間の朝読書を実施している。その時間帯に月１回（第３月曜日）のペースでボランティアの方々に読み語りを実施していただいている。月ごとに学年を変え、クラス数に応じて１回につき３～４名の方に来校していただいている。

・部活動支援

剣道部の指導をお願いしている。専門的な技術をはじめ、礼儀、作法等も指導してくださり、生徒たちは意欲的に取り組んでいる。本年度は個人ではあるが近畿大会出場も果たしており、よい結果につながっている。



【　剣道部指導の様子　】

■　実施に当たっての工夫

図書館の開放支援に関しては、地域学校協働活動推進員のアレンジにより、毎学期、市立図書館の職員（館長・　司書）、学校図書館司書、中学校管理職、図書館担当教諭と図書館ボランティアからなる開放支援のための会議をもち、日程調整や支援の仕方等について共通理解を図っている。

部活動支援についても、中学校顧問と指導者代表とが密に連絡を取りながら、指導方法や練習日程について調整を行っている。

■　事業の成果

図書館スタッフに加えて多くのボランティアの方々に、温かく見守っていただけたおかげで、マナーよく、けじめある態度で図書館が利用できている。また本の貸出冊数も増加傾向にある。本校は、「朝読書」の取組をはじめて 16 年目であり、各クラスでの朝読書達成率も 90%を越え、生活の中に読書が定着している。さらに学校支援地域本部設立以前からお世話になり、この事業で継続していただいている読み語りについては、子どもたちが心を落ち着けて一日をスタートさせる「朝読書」のアクセントとして貢献していただいている。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域学校協働活動推進員の的確な運営により目立った課題もなく、本校生徒にとってたいへん有意義な事業となっている。部活動指導においても必要に応じてお願いしているところであり、今後とも学校、推進員、ボランティアの三者で、しっかりと情報交換し、コミュニケーションをとりつつ、さらに事業を進めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

五個荘地区は、「地域の子どもは地域で育てる」をキャッチフレーズに、青少年育成に関して熱心な地域であり、地域学校協働活動推進員をはじめ、多くの地域の方々に支えらながら、日常活動や防災学習等の行事に協力していただいている。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　教頭　）

地域の力で、ふるさと愛東が好きな愛東中生を育てよう！

東近江市	愛東中学校　地域学校協働本部	愛東中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：７人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

地域の素晴らしい自然、歴史、産業、取組、施設等を知り、ふるさと愛東が好きな子どもたちを地域と学校が協力して育てていく取組を進めた。

・「総合的な学習の時間」において、地域の人、もの、事業所、施設を活かした地域学習、環境学習、平和学習、職場体験学習、福祉体験学習を全学年で実施した。
・生徒会のボランティア活動として、地域の環境美化活動、保育園と幼稚園への訪問ボランティア活動を行い、地域活動の支援を行った。



【　生徒会花植えボランティア　】

■　実施に当たっての工夫

・「総合的な学習の時間」の実施に関しては、事前に会議を開き、学校の情報と地域の情報を交流し合い、スムーズに学習が進められるようにした。
・定期的に地域学校協働活動推進員と校長が話合いを持ち、学校の困っていること、地域が学校に望んでいることの情報交換を行った。
・１学期に校区の小中学校と校区の地域学校協働活動推進員が集まり、情報交換を行った。

■　事業の成果

・全学年で、ふるさと愛東に関わる「総合的な学習の時間」の授業実施により、生徒たちに郷土愛が芽生えるとともに、地域の方々に生徒の様子を見ていただいたり、学校の学習内容を理解していただけた。
・学校やＰＴＡ活動ではできない環境整備ができた。
・生徒も地域の一員としてボランティア参加し、地域活動の意義を学ぶことができた。



【　１年生　総合的な学習の時間　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校行事や部活動との関係から、日程調整が難しい。
・地域学校協働活動推進員と連携し、また学校ＨＰ等で学校の活動について発信・周知し、部活指導やゲストティーチャーなどに携っていただける地域の人材を発掘していきたい。
・学校職員と地域学校協働活動推進員、ボランティアの方々との交流が進むと、地域学校連携・協働活動が充実する。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

地域と連携した学校作り

東近江市	湖東中学校　地域学校協働本部	湖東中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：12 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

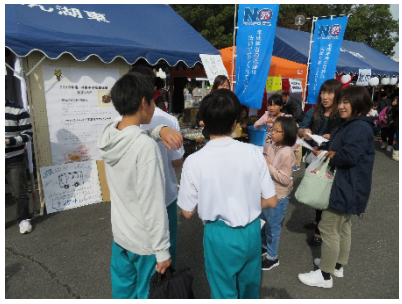
■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）図書ボランティアによる絵本の読み語りを行っている。毎月１回、木曜日に３年生→２年生→１年生→特別支援学級という順に各学級に出向いていただき、絵本の読み語りをしていただいた。また、３年生については、地域学習を取り入れていただいた。
（２）行政(青少年育成市民会議・保護司会・ＰＴＡ)と連携し、登校時の見守りを支援していただいた。
（３）部活動支援として、卓球・吹奏楽部・バスケットボールの３つの部活動で地域の方に来ていただき指導していただいた。
（４）湖東ふるさと祭り等に、中学生ボランティアとして、オープニングセレモニーを担当したり、防災食レシピを振る舞ったり等、ふるさと祭りを盛り上げる機会を提供していただいた。
（５）コトナリエのＬＥＤの飾り付けに、参加させていただいた。



【読み語りボランティア活動の様子】



【地域行事で防災食を振る舞う生徒会役員】

■　実施に当たっての工夫

（１）地域学校協働活動推進員の方に、地域からボランティアを募っていただき、「読み語りについて」の運営会議を行った。
（２）地域学校協働活動推進員とまちづくり協議会が連動し、生徒会と懇談しながら防災の意識向上につなげた。

■　事業の成果

（１）絵本の読み語り活動では、心温まる話を通して一日を温かい気持ちでスタートでき、読書活動への関心を高めることができた。また、地域学習では、地域の歴史についての学びを深め、地域への関心を深めることができた。
（２）地域行事に参加をすることで、地域を支える多くの方々と接し、楽しみながらから地域への貢献について考える機会を持てた。
（３）部活動の支援をいただくことで、技術的にも仲間との協力関係においても生徒の良い成長につなげることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

（１）生徒会との連携により、地域の要望と学校での活用を上手く連携すること
（２）様々な要望に添った地域人材の掘り起こしと確保
（３）開かれた学校を目指し、定期的な運営会議の開催等

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　□教　頭　□地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　校長　）

「地域の力で豊かに育まれる蒲生の子どもの笑顔」

東近江市	朝桜中学校　地域学校協働本部	朝桜中学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度　平成 20 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　　ボランティア登録数：２人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・部活動支援

外部コーチ（教育活動推進員）の方に剣道部とサッカー部の指導をしていただいた。

・地域人材育成

職場体験の実施にともない、事前指導の講師選び等について、地域学校協働活動推進員との打合せを行った。



【　部活指導の様子１】

■　実施に当たっての工夫

・部活動支援

外部コーチ（教育活動推進員）と担当の部活顧問が相互に連絡調整を綿密に行い、円滑に部活指導が実施されるようにした。

・地域人材育成

職場体験学習の内容に沿った支援ができるように、講師選び等について、細かな意見交換を行った。

■　事業の成果

・部活動支援

外部コーチ（教育活動推進員）の優れた指導により、技術面・精神面において、生徒の能力が向上した。

・地域人材育成

次年度の職場体験実施に向けて、地域学校協働活動推進員との打合せを通して地域人材活用の計画を立てることができた。



【　部活指導の様子２】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・部活動支援

（１）指導の時間がさらに確保できると望ましい。

（２）働き方改革を踏まえて、さらに多くの部活動において同様の指導が実施されることが望まれる。

・地域学校協働活動推進員の方とは、職場体験のマナー講師等について相談にのっていただいた。今後は、部活動の支援だけにとどまらず、多くの教育活動において、地域と連携協力していきたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　部活動顧問　）

報告書記入者（　教頭　）

地域学校協働活動推進員の活躍で増加した地域人材　地域人材の増加で深まった地域との連携

東近江市	能登川中学校　地域学校協働本部	能登川中学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：16 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）能登川地区まちづくり協議会が主催している、駅前に設置されているプランターの花植活動に、例年、本校生徒も参加している。花植は春と秋の２回行い、その後の水やり等の世話は、生徒が当番を決め、学校への登校前に行っている。夏休みや冬休み中も欠かさず行っている。本校では、この取組を「フラ輪一・プロジェクト」と称し、今では、生徒会事業の一つに位置づけ、引き継がれているイベントとなっている。

　昨年から、この取組に地域学校協働ボランティアの方々も加わり、一緒に作業を行った。その結果、地域学校協働活動推進員の提案により、この取組を中学生だけではなく、中学校区の小学校や高等学校にも呼びかけ、地域全体の取組に広げていく方向で進行している。

（２）生徒会図書委員会が、昼休みの図書室運営を行っている。図書室を開けたり、閉めたりするのに時間を費やし、生徒が図書室を利用できる時間は 10 分程度であった。そこで、本年度からボランティアの方が運営に参加し、委員の生徒と共に本の貸し出しや図書室の開閉を行っている。その結果、15 分間の昼休み時間をフルに活用して、本の貸し出しを行うことができた。



【　駅前での花植活動　】



【　図書室運営活動　】

■　実施に当たっての工夫

（１）まちづくり協議会のメンバーが、地域学校協働ボランティアを兼ねることで、連携を密にして取組を行う。

（２）小学校と中学校の地域学校協働活動推進員が連携することで、地域全体に広げて取組を行う。

（３）図書委員会担当教員とボランティアさんとの連携を密に行い、運営時間の変更や閉室日の確認を行うことで、円滑な取組にする。

■　事業の成果

（１）まちづくり協議会と学校との間に、地域学校協働活動推進員が入ったことで、きめ細かな打合せが効率的に行えた。また、中学校だけの協力体制から小学校や高校を巻き込む事業へと広がりを見せた。

（２）短い昼休み時間の全 15 分間を本の貸出時間に充てることができた。また、委員の生徒と共に運営することで、生徒自身も地域とのつながりを感じることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

（１）どの事業の、どの場面で、どのようなボランティアさんが必要なのか。学校行事等を見直すこと。

（２）専門的な知識を有するボランティアの場合、人材発掘に時間がかかったり困難であったりすること。

■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　□その他

報告書記入者（　教頭　）

ふるさとは笑顔いっぱい！　元気いっぱい！　「はびろの里コミュニティ」

米原市	活動名　：柏原学区学校協働本部	柏原小学校　学校運営協議会　：□ 有 ■ 無 柏原中学校　学校運営協議会　：■ 有 □ 無 柏原保育園 有の場合　→　学校運営協議会との協働　■ 有 □ 無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）　ボランティア登録数：30 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校　■地域学校協働活動推進員　□行政　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①　小中連携・児童生徒の交流の促進

・柏原中学校の体育大会に小学生を招待

中学生との交流や中学校のよいところを知ってもらうことを目的に、柏原小学校の児童４年生から６年生を対象に希望をとり、100m競争や生徒会種目を中学生に混じって参加。（今年度は 10 名の参加）地域学校協働活動推進員の方には、会場周辺のパトロールや写真撮影を担当してもらった。

・保育園でのクリスマスコンサート

保育園に吹奏楽部が出向いてコンサートを開いた。園児だけでなく小学生や保護者も参加し演奏を楽しんだり、一緒に歌を歌ったりした。部活動の支援員の方も演奏に参加。

③　地域との交流の推進

・　柏原小学校では 1，2 年が自治会館で地域のお年寄りの方達と一緒に歌、レク交流を深めた。この交流の世話役を地域学校協働活動推進員が担当した。また全校児童が地域探訪「はびろウォーク」に参加し縦割りの班で地域を探訪し、地域にまつわるお話を聞くだけでなく、歩いている途中で出会った地域の方と握手をして交流する取り組みを実施した。地域学校協働活動推進員は、ポイントごとに立哨を担当した。



【柏原中学校　お寺 De　Live の様子】

・　柏原中学校「はびろの里未来プロジェクト」

学校と地域が連携し３つのプロジェクトを実施した。

プロジェクト X　「お寺 DE　live」地域のお寺をお借りして中学生が企画、運営したライブ（よさこい、マジックショー、ヒップホップダンス）を実施し地域の方に参加してもらった。

プロジェクト Y　「かまどベンチを活用した炊き出し防災訓練」中学校のかまどベンチ２基を使用し、炊飯とカレー作りを実施し地域の方に試食してもらった。

プロジェクト Z　「中山道コスプレウォーク」学区内の中山道を中心に８キロのコースを子どもたちが作成した衣装で保護者、地域の方とウォーキングを楽しんだ。支援員、ボランティアの方に立哨をお願いした。

■　実施に当たっての工夫

①　「学校運営協議会」での熟議

本部事業の推進・実施にあたっては学校運営協議会で様々な議論を重ね合意形成を行うことでより中身の濃い取り組みができた。

②　学校通信の全戸配布

毎月１回学校通信（A4 裏表刷）を発行し、各校の様子を柏原学区全戸に発信し活動の情報提供を行っている。

■　事業の成果

保育園、小学校、中学校の連携および地域との連携の要として、この事業を展開することで地域全体の風通しがよくなり、課題や成果が把握しやすく、同一歩調で取り組みを進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

将来を見据えて、地域学校協働活動推進員の組織をどのように再編成していくのか、また事業がマンネリ化しないようにするための方策を検討する必要がある。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

コミュニティ・スクールを来年度から小中合同で展開することでさらなる小中の連携が図れるが、保育園との連携がおろそかにならないように配慮していきたい。

■コーディネーターと協同する学校関係者（該当するすべてに■印）

■　校長　■　教頭　■　地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者　（　校　長　）

『子どもは地域の宝』～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てよう！～

米原市	活動名 ： 河南学区地域学校協働本部	河南小学校、河南中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 かなん認定こども園 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務２人）　ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員

□行　政　■その他（河南学区学校運営協議会）



【 河南小学校　ふれあい広場 】

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本学区は、中山道の醒井宿と番場宿を含む宿場町であった地域のため、歴史や文化の史跡が多く、小中学校ともに地域学習に取り組んでいる。その活動を、地域活性化を目的に活動している「番場の歴史を知り明日を考える会」等の活動に支援をいただき実施していることや、小学校でのふれあい広場では、地域サロンの方々に協力をいただきながら様々な取組を行っている。また、本年度からは「河南学区教育フォーラム」を河南学区運営協議会が主催となり、その場で地域コーディネーターから学校へのボランティア参加の呼びかけなども行っている。

■　実施に当たっての工夫

〇講師やボランティアは、できるだけ河南学区にお住まいの方々にお願いするように、地域コーディネーターが人材発掘に努めた。

〇「まいばら教育フォーラム in 河南 2019」において、本事業の進捗状況を報告するとともに、実際にボランティアに参加された方々にインタビューをして、ボランティアスタッフの拡大につなげた。

■　事業の成果



【 河南中学校　家庭科学習支援 】

〇かなん認定こども園の「農園の野菜栽培」においてボランティアの方から季節の野菜作りの助言をいただいたり、絵本の整理していただいたりした。

〇河南小学校の「ふれあい広場」では、地域のサロンの方々にご協力をいただき、子どもたちは折り紙や竹とんぼ、将棋、カロム等で楽しいひとときを過ごしている。ボランティアの方々からも、子どもたちと触れあうことで元気がもらえるなどの感想をいただいた。

〇河南中学校の「書き初め会」では、書道に長けた地域の方にご指導していただいた。また、家庭科のミシン縫いの授業では、教員１人では、なかなか目の届きにくいところを、数名のボランティアに学習支援をしていただくことができた。

〇11 月６日に開催した「まいばら教育フォーラム in 河南 2019」では、地域コーディネーターが取組内容について報告して地域学校協働本部事業の理解を深めてもらえた。また、ボランティアに参加した方にインタビューをして、教育フォーラムに参加されている地域の方々へのよいアピールとなった。さらに、地域コーディネーターからは、「読書」のよさを地域の方々にアピールすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇各校園とも地域コーディネーターとの窓口が校園長に偏りがちなところがある。校園の校務分掌等で「学校・地域コーディネート担当」にその職務をしっかりと任せるようにしなければならない。

〇地域からの支援だけでなく、中学校では「地域を愛し、地域から愛される生徒の育成」を重点目標にし、できるだけ地域行事等へのボランティア活動に重点を置いている。今後も進んでボランティア活動に参加できる呼びかけを進めたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

昨年度、河南中学校で立ち上げた学校運営協議会をもとに、本年度は河南学区学校運営協議会を立ち上げた。昨年度からの「花いっぱい」の活動を「かなん学区・笑顔いっぱい花いっぱい活動」として引き継ぎ、河南学区学校運営協議会と協力して進めることができた。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　校　長　）

ふるさと伊吹とともに歩み、ふるさとを愛する心を育てる地域協働活動

米原市	活動名 ： 伊吹山学区学校支援地域本部	伊吹山中学校 春照小学校 伊吹小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 いぶき認定こども園 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人　ボランティア登録数：60 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域と連携･協働して実施した総合的な学習の時間の取組

昨年度から、中学校の学校運営協議会と連携・協働して、「北国脇往還ふるさとウォーク」を計画・実施している。この取組は、生徒が、地域の名勝や史跡が並ぶ魅力的な道「北国脇往還」を通った昔の人たちが、どのような景色を眺めながら歩いたのか、過去に思いをはせながら、ふるさと伊吹のよさを体感する目的で行うものである。

学校運営協議会では、計画の段階から、生徒が安全に活動できるよう慎重に内容を検討するとともに、より多くの地域の方々に生徒を応援していただけるよう検討を重ねた。



【北国脇往還ふるさとウォーク】

これらの検討の結果、事前には、のぼり旗の設置やポスターの掲示等、地域の方々への広報活動及び協力要請、危険箇所の確認や下草刈り、ＰＴＡや関係機関、報道機関との連絡・調整などに協働して取り組むことができた。当日は、気持ちのよい秋晴れのもと、学校運営協議会委員の皆さんに随行していただき、安全確認、生徒への励ましの声かけ、広報用動画の撮影をしていただいた。また、今年度は学校運営協議会の発案で、ＰＴＡや健康推進員伊吹支部の皆さんに協力していただき、生徒の昼食を用意していただいた。街道を利用した昔の人の気持ちに寄り添うために、おにぎりの炊き出しをしていただいた。昼食時には、健康推進員の皆さんから、バランスのとれた食事の大切さについても教えていただくことができた。

ふるさと伊吹の大切な名勝や史跡が並ぶ魅力的な道「北国脇往還」の記憶を伝承していくためにも、今後も、地域の方々の応援をいただきながら推進していきたいと考えている。

(2) 学習・活動支援

小学校では、地域コーディネーターが、ゲストティーチャーとして総合的な学習の時間の学習に参画し、薬草の歴史の説明や薬草づくり体験等の児童参加型の学習プログラム「伊吹フェスティバル（地域の部）」を計画・実施及び活動支援を行った。中学校では、地域の大学生が、学校行事の運営ボランティアとして生徒の学習･活動支援を行った。また、地域の元教員が、中学３年生を対象に小論文対策講座の講師を務め、学習支援を行った。



【伊吹小学校での伊吹フェスティバル】

(3) 環境整備・栽培ボランティア

自然豊かな各校園の敷地は草木がよく茂り、除草作業が大変であることから、地域コーディネーターが中心となって、地域の有志者に声をかけていただき、複数回、各校園すべての校地の除草作業を行った。また、地域の人と児童・生徒が協働し、花壇やプランターに花の植えつけ等の栽培活動を行った。このように、季節ごとに花が咲き、整備された美しい学校環境づくりに貢献していただいた。

(4) 伊吹地区教育フォーラム

伊吹中学校区では、毎年、園及び小中連携事業の一環として、校種を超えて教員がともに学び合う「伊吹地区教育フォーラム」を実施している。今年度は、「地域と学校でともに子どもを育てていこう」というテーマにそって、春照小学校で授業公開を行い、こども園や小・中学校教員が参観した。続いて、園及び小中学校教員がともに学校・園防災意識を高めるため、社会福祉協議会伊吹支部の協力のもとで「避難所運営ゲーム」を行った。そして、東日本大震災での学校・園の被害や災害に対する対応について意見交流を行い、非常災害に備える具体的方策について検討した。

⑸ 読書、安全ボランティア

小学校では、毎週水曜に読書ボランティアに来ていただき、「本とのすてきな出会い」になるような読み聞かせや図書館整理をしていただいた。また、子どもたちの登下校の安全を見守っていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

各活動の計画段階から、学校と地域が協働して実施できるよう、地域コーディネーターや地域コーディネーターを担当する教員が中心になって内容を検討している。また、学校と地域双方にメリットが生まれるよう配慮しながら行っている。

■ 事業の成果

これらの活動から、地域との連携による「豊かな心」と「ふるさと愛」を育む取組の充実が図られている。こども園の発達段階から、小学校、中学校段階へと継続して、ふるさと伊吹を愛する気持ちの醸成を図る取組を進めてきたことにより、中学校では、ふるさと伊吹を愛する気持ちが年々生徒に浸透してきている。生徒アンケートにおいても、「ふるさと伊吹への愛着や関心は高まった」と肯定的に回答した生徒は、１年生で 79.1%、２年生で 76.8%、３年生で 81.5%にのぼった。また、地域行事や地域の福祉施設等のボランティア活動に積極的に参加する生徒は、中学校全校生徒 150 名に対して延べ 460 名を超え、地域の人々に支えられて学んでいくことで、地域への愛着が一層深まってきたのではないかと考えている。また、多様な地域の人々と協働する中で、子どもの社会性が育まれていくのではないかと期待している。今後は、学校での学びを地域で活用したり、地域での学びを学校生活の中で活用したり、学校を含めた地域社会全体で子どもを育てようという意識が高まっていくことを期待している。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域と連携・協働した活動の中で、中学校区の園・小中学校の連携をさらに推進していく。
〇地域コーディネーター、学校と地域を結ぶコーディネート担当の資質向上をはかり、学校･地域双方にとってよりよい活動になるよう仕組んでいく。
〇中学校区の実情に応じた取組を円滑に推進するとともに、今後に向けて、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの構築をめざす方向性を学校として明確に示していく。
〇子どもたちが、学校での学びを地域で活用したり、地域での学びを学校生活の中で活用したりなど、学校を含めた地域社会全体で子どもを育てようという意識が高まっていけるよう学校が主体となって地域に働きかけていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

〇既存の行事においても、学校運営協議会で協議しながら進めていく予定である。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　□その他（　　）

報告書記入者（　　教　頭　　）

地域人材を生かした特色ある活動によって、米原を愛し米原に貢献できる生徒の育成

米原市	活動名：米原学区地域学校協働本部	米原中学校　米原小学校　学校運営協議会：■有　□無 まいばら認定こども園 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：90 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）防災かまどベンチの活用

平成 29 年度設置した６基の防災かまどベンチを令和元年 10 月 20 日に開催された米原市総合防災訓練で活用した。本訓練では、本校生徒も支援をする側に回り、市の職員に混じってトイレを作ったり、オクタゴンを作ったり、食事のお世話などをしたりした。その中で、かまどベンチで防災カレーを温めたり、農園で収穫した芋を焼いたりして、避難者にふるまった。また、各学年が農園で野菜等を育てているが、かまどベンチを活用した収穫祭ではお世話になっている地域の人にも参加いただいた。

（２）総合的な学習の時間での指導

各学年の総合的な学習の時間に、地域学習として、さつまい、ネギ、ショウガ、ダイコン、タマネギ等の栽培を行った。農業指導員をしておられる方や地域で農業をしておられる方に来ていただき、トラクターで畑を耕してもらったり、植え付けや収穫の指導をお願いしたりした。また、収穫祭では調理、試食を通して、生徒間の相互交流ができた。

（３）中庭テーブル・椅子づくり

12 月７日には中庭で生徒や生徒と地域住民が交流するためのテーブル３台と椅子 24 脚を地域ボランティア９名、保護者２名、生徒 20 名、職員９名で製作した。新生徒会は、そこを「ＨＡＰＰＹ　ＰＬＡＣＥ」と名付け、今後中庭での交流の場として利用する予定である。

（４）米中フェスタ文化の部での地域作品展を開催

（５）夏休みの親子愛校作業への参加と環境整備作業

■　実施に当たっての工夫

○２名のコーディネーターをそれぞれ中学校担当、こども園・小学校担当として分担し、学校との連絡調整を密にした。

○中学校内に地域支援本部室を設置し積極的に活用するとともに、コーディネーターや地域ボランティアと学校職員との食事会を２回開催し、意見交換を行った。

■　事業の成果

○前年度のかまどベンチに引き続き、中庭に交流用のテーブル・椅子を製作することで、学校・家庭・地域が協働して学校運営を行う機運が高まった。

○生徒や職員が地域の方と接する機会が増え、お互いのふれあい、交流が自然に行える雰囲気が醸成されるとともに、地域に根ざした教育の推進や「社会に開かれた教育課程」の実現につながった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○様々な活動が展開でき充実してきているのは、地域コーディネーターの人柄と尽力による部分が大きい。この活動が持続発展するためにも、コーディネーターの役割を理解して行動してくださる方をお願いしたい。

○地域ボランティアの固定化・高齢化が課題であり、新規ボランティアを学校とコーディネーターが連携して発掘していく必要がある。

○コーディネーター含めボランティアの謝金は予算化されているが、食料費等の予算措置がないので困っている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

昨年度コミュニティ・スクールの指定を受け、今年度が２年目である。本校では、地域学校協働本部と学校運営協議会が学校教育を推進する上では両輪となって、うまく機能している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　学年主任　）

報告書記入者（　教　頭　）

校区内の縦のつながりと横のつながりを大事にした大東学区の取組

米原市	活動名　：　大東学区地域学校協働本部	大東中学校　学校運営協議会　：　□有　■無 山東小学校　大原小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 山東幼稚園　大原保育園 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務０人）　ボランティア登録数：30 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　□地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）大東中学校区教育フォーラム

大東中学校区の地域の人々、保護者、教員が一堂に集まり、当学区における学校と地域のあり方や今年度は特に「防災」をテーマとして災害時の対応について理解を深める活動をした。

（2）地域の中学生が小学校の運動会にボランティアとして参加

大東中学校生徒が大原小学校、山東小学校の運動会の運営ボランティアとして参加した。



【　中学生の小学校運動会への
ボランティア参加　】

■　実施に当たっての工夫

〇大東中学区教育フォーラム

社会福祉協議会伊吹地域ソーシャルワーカーをお招きし、避難所運営ゲームのアクティビティを通して地域と連携しながら、災害時に自分事として何ができるかを考える機会をもった。

〇地域の中学生が小学校の運動会にボランティアとして参加

運営だけでなく、競技に参加する生徒も募集することで、小中学校が一体となった運動会にすることができた。

■　事業の成果

地域の人々、保護者、教師が「防災」というテーマで災害時における対応を考える機会をもつことや、地域のボランティア活動を通して、児童、生徒と地域の方との交流ができたことで地域住民の学校教育に対する理解が深まった。



【　夏休み補充学習会で学ぶ　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇地域と学校の連携・協働について具体的な活動目標を定めていく必要がある。

〇学期末や長期休業中の学力補充についても充実させていくことを考えている。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

〇大東中学校では、次年度より、コミュニティ・スクールを実施することも視野に入れて、事業を進めていく必要があると考えている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域連携担当者　）

地域の子どもたちの健やかな育成をめざす「おうみネット支援ボランティア」の取組

米原市	活動名 ： 双葉学区学校支援地域本部	息長小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 坂田小学校 双葉中学校 学校運営協議会 ： □有 ■無 おうみ認定こども園 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：38 人

□学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）クラブ活動や学習活動等への支援

版画やミシンの学習、新体力テスト等で支援をいただき、手が足りない部分を補ってくださったことで、学習に支障なく効率よく活動ができた。

（２）読み聞かせボランティアの方による音読発表会

結成 10 周年を記念して、昼休みに音読発表会を図書室で開いてくださった。たくさんの子どもたちが集まり、熱心に見ていた。また、６年生を送る会でも素敵な音読発表を毎年披露していただいている。

（３）学校花壇の環境整備

「花いっぱいの学校運動」の一環として、春と秋の花づくりに支援をいただいている。学校支援ボランティアの方が、仮植作業をしてくださった花の苗が成長し、環境委員会 の子どもたちと一緒にその苗を花壇に植えてくださった。また、今年度よりその苗を活用して、一人一鉢運動として全校で取り組んでいる。



【結成１０周年記念音読発表会】

■　実施に当たっての工夫

〇学校花壇の整備や花の仮植作業は、事前の準備を学校側でしっかりとしておき、当日の作業がスムーズにいくよう配慮した。

〇活動内容の打ち合わせや読み聞かせ日の設定等については、地域連携担当教員や司書教諭が中心となり、連絡調整を行った。

〇人材確保については、地域学校協働活動推進員の方が中心となり、学校の様々な活動の中で自分が興味関心のある活動に参加していただけるような募集の形をとっていただいた。そのおかげで、参加者が大変参加しやすく積極的に活動していただけた。



【環境委員会の子どもたちとの苗植え】

■　事業の成果

〇以前は、学校花壇の花の仮植作業は学校職員で行っていたが、学校支援ボランティアの方の協力のおかげで、作業を早く終えることができた。また、環境委員会の子どもたちと一緒に作業することを喜んでくださり、子どもたちも学校支援ボランティアの方々の花づくりのお話に熱心に聞き入っていた。

〇図書の読み聞かせや図書室の整備に定期的に来ていただき、新書の本の紹介や季節に合わせたおすすめの本コーナーを作ってくださったことで、子どもたちの本に対する関心や興味が高まった。また、音読発表会も工夫を凝らしたものを披露してくださり、子どもたちがとても楽しみにするようになった。

〇ボランティアの方が、学校に来てくださる機会が増え学校職員との交流も多くなり、気づかれたことや思っておられることなどを気楽に話してくださるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

〇特に中心となってくださる方々の活動が多くなり、負担がかかっていないかが心配。

〇ボランティアのメンバーが限られ、なかなか新たな方の募集が図りにくい。

〇今年度活動していただいたことをもとに、他の学校・園に広がりを見せ地域全体の取組となっていけるとよい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域との連携・協働を深め、学習活動のさらなる充実を目指して

日野町	活動名　：　日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　　ボランティア登録数：50 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）３年生社会科「地域学習」および総合的な学習の時間におけるふるさと学習

３年生では、地域学習として日野町の伝統ある祭り「日野祭り」について学んだ。綿向神社の宮司さんや日野祭りの曳山保存会の方から曳山や日野祭囃子のお話を聞き、充実した学習を行うことができた。また、日野の伝統野菜である日野菜について地域の方々のご協力を得て学習を進めてきた。日野菜を栽培するだけでなく、その歴史や流通、料理について詳しく調べた。そして、グループごとに調べたことを地域の方に発表し、学習のまとめとした。



【　お囃子クラブの活動　】

（２）３・４・５・６年生の総合的な学習の時間における福祉学習

本校では、４年間を見通し、系統立てた福祉学習を行っている。３年生では、視覚障害のある方からお話を聞いた。実際に間近で盲導犬を見せていただくことができ、児童の心に残る貴重な学習の機会となった。また、４年生では、地域にある福祉施設の施設長さんにお越しいただき、障害者理解についてのお話をしていただいた。さらに、５年生では、障害のある方から直接お話を聞いたり、車いす体験をしたりして、学習を深めた。６年生では、これまでの学習を踏まえ、実際に地域の福祉施設へ行き、そこで働いておられる方の様子を見せていただいたり、お話を聞いたりして学習を深めた。

（３）クラブ活動（お囃子クラブ・かるたクラブ）への地域の指導者の招聘

日野町の伝統ある祭り「日野祭り」の際に演奏する「お囃子」をやりたいという児童の強い思いから発足した「お囃子クラブ」。その指導のために、地域の方のご協力を得ている。地域の演奏会にも、大人の方々に交じって出演させていただいている。また、かるたクラブにおいても、地域の方にご指導をいただき、大変活発な活動となっている。

■　実施に当たっての工夫

○見通しを持った計画を立て、早目に知らせ依頼をする。
○事前に綿密な打ち合わせをし、相互理解を図ることで、効果的な学習活動が実現するようにする。
○子どもの実態や目指す姿を共有化し、適切な助言や支援がいただけるようにする。
○参画いただく方々の自由な発想や願いを知り、実現化に努める。

■　事業の成果

○いろいろな活動を繰り返し続けてきたことで、取組に広がりや深まりが出てきた。また、複数回参加いただいた方から、支援の工夫などの声を聞かせていただけるようになり、よりよい活動へと改善、発展させていくことができた。
○参加された方が他の方へ参加を呼びかけてくださる「人が人をよぶ広がり」が出てきた。
○気軽に学校へ足を運んでくださる雰囲気や参加の広がりが出てきた。また、参加者の中から、「今年もこんなことをしたい」、「今年は、こんなことをしたらどうか」といった願いや思いを伝えてくださる方が出てきた。
○児童と地域の方とのふれあいの機会が増え、お互いに顔なじみとなり、地域の中で出会ったときにも気軽に声をかけていただけることが増えてきた。



【伝統野菜である日野菜の収穫】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○現在、団体（日赤さん）を通じての呼びかけを行っているが、より多くの方へ呼びかける方法はないか、検討していきたい。また、団体に属しておられない方へ呼びかけていく方法についても検討していきたい。
○新たな地域学習、地域教材の発掘、教材研究を進めていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

○今後のコミュニティ・スクール導入に向けて組織体制の検討を行っている。
○ホームページにより、学校の取組を広く発信している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

～学校・家庭・地域の　きずな・つなぐ・むすぶ～

日野町	活動名　：　西大路地域学校協働本部	西大路小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：20 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援

□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）総合学習

３年生では地域の産業であるお茶について、茶摘み～お茶の入れ方までを地域の方の協力のもとで行っている。茶摘み体験では、保護者や地域の方にも参加してもらい、児童の体験学習の様子を見ていただいた。摘んだお茶の葉は地域の方が天ぷらにして児童に届けてくださり、お茶の葉の料理を味わう事が出来た。

（２）環境整備

長休みに児童が行っている除草作業に児童と一緒に除草していただいた。



【　茶摘み体験の様子　】

■　実施に当たっての工夫

３年生が体験する学習は、地域の産業や歴史に係ることが多く、地域の方のお力をお借りすることが多いのですが、茶摘み体験などは地域の方にも声をかけて児童とともに地域の産業であるお茶に関心を持ってもらえるようにした。

環境整備では、児童と一緒に除草作業をしながらお互いが顔見知りになり、親しんでもらえるようにした。

■　事業の成果

体験学習や環境整備などでは、できるだけ多くの地域の方々に協力をお願いして児童とふれあう機会を増やしたこともあり、小学校に関心をもってくれる地域の方が増えたように感じた。

音楽会やふれあい学習会などに訪れる地域の方が少しずつ増えている。



【　運動場除草作業の様子　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

小学校に関心を持って下さる方は、増えているとはいえ、同じ顔ぶれが多い。

昨年から昼休みを利用してミニコンサートを実施している。児童も地域の方も自由に楽しめるコンサートなので、このコンサートがひとつのきっかけとなり、地域に開かれた小学校になることを期待している。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

年に数回会議を持ち、様々な意見を交換して現状についてお互い理解を深めるようにしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員　■その他（　各学年担任　）

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「なんぴが大好き」～地域の良さを学校に取り入れ郷土を愛する心を育てる～

日野町	活動名　：　南比都佐地域学校協働本部 ふるさと絆事業（なんぴっこ支援事業）	南比都佐小学校　学校運営協議会　：　□有　☑無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

南比都佐小学校区は、自然に囲まれた田園地帯が広がる地域にあり、地域住民の学校に寄せる期待は大きく協力的である。ふるさと絆事業を通して、地元の特産物を守り広めていく活動や近接する特別養護老人ホームとの交流、また、地域の歴史を学ぶ活動等で地域の方々に支援をいただいている。

本校の特徴的な活動として、地域の特産物である日野菜を地域素材とした学習に全校的に取り組んでいることがあげられる。年間を通じた日野菜栽培には専門的な知識と技能を必要とするため、「南比都佐地区日野菜原種保存会」の方に指導に来ていただいている。日野菜学習は子ども主体の探求的な学習をめざし、各学年の段階に応じた計画を立てている。子どものつぶやきや疑問を大切にして課題を設定しており、従来の肥料と琵琶湖の水草を使った肥料の両方の育ち具合を比較した栽培活動、また、日野菜以外の野菜との比較から日野菜の特徴を考える活動などを行い、児童は意欲的に学習に取り組んでいる。

また、地域の日野菜工場の見学、日野菜を扱ったレシピ作り、日野菜の歴史についての調査など、関連づけた学習も行っている。さらに、栽培した日野菜の種を地域の方に広く販売することも行っている。日野菜学習を通して地域の人々と関わり、地域への関心を深め地域への愛着がもてるようになればと考えている。

■　実施に当たっての工夫

・子どもたちの学習に必要な支援を教頭とふるさと絆支援員が共同で集約し、地域の方々に協力を呼びかけた。地域の支援者は、初めての方にも来ていただくよう心がけ、より多くの方に学校に来ていただき、子どもたちと交流できるようにした。
・隣接する公民館との連携を密にすることにより、地域の人材の掘り起こしに努めた。



【日野菜の種取り（５年生）】

■　事業の成果

・地域の方との毎年の積み重ねの協働学習により、日野菜学習は子どもたちの探求的な学習として定着している。
・担任の声を集約することで、支援が必要な授業に地域の適切な人材にきていただくことができた。今年度から新たに家庭科でのミシン学習の指導補助に地域の方が来て下さり、１つのテーマで最初から完成まで継続して支援いただいた。来ていただいた支援者も児童との関わりを喜んでいただいた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・子どもたちの学習支援に必要な地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する体制をさらに充実させたい。
・今年度は、主に担任からの要望を受けて活動していたが、今後は公民館と連携して地域からの支援者の掘り起こし及び提案をしていきたい。



【ミシン指導補助（５年生）】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　□地域連携担当教職員

□その他（　　）

報告書記入者（　教　頭　）

地域ぐるみで子どもを見守り、学校を支援する協働活動のために

日野町	活動名 ： 必佐地域学校協働本部	必佐小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要
開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：35 人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
（１）見守りあいさつ運動
※朝の登校時間帯に、必佐小見守り応援隊やＰＴＡ有志の皆さんが交代で校門付近に立ち、見守りあいさつ運動に取り組んだ。
（２）体験的な学習への支援
※実習などの指導や支援を経験豊かな方にお願いし、きめ細かな支援を必要とする学習でアドバイスや手助けなどの支援をお願いした。（家庭科の裁縫・ミシン縫い、焼き芋、３学期の伝統的な暮らしや遊び、そろばん等）


【 １年・５年交流活動「竹ぽっくり作り」 】

（３）ふるさと学習支援
※特産品や伝統行事など、ふるさとをテーマにした総合的な学習で、地域の方に指導をお願いした。（日野菜学習、ホイノボリ等）
（４）学校生活を豊かにする活動
※昼休みコンサート（歌やオカリナ）を開催した。
（５）校内音楽会における伴奏や学習支援

■　実施に当たっての工夫
※事業の広報とボランティア募集のためにチラシを全戸配布し、事業に対する理解と協力を得られるようにした。
※本事業の質の向上と改善のため、見守り応援隊の全体会議を年間２回行っている。

■　事業の成果
※見守りあいさつ（声かけ）運動を３年近く続けてきたことで、地域の方々と子どもたちのつながりが増してきた。元気にあいさつをするということだけでなく、子どもたちの登校のリズムが整ってきて、余裕を持って登校が完了でき、スムーズな学校生活のスタートに結びついている。
※本年度から民生委員会、日赤奉仕団など、子どもの生活に関わる団体を「必佐小学校見守り応援隊」として組織化できた。そのことで見守りあいさつ運動の他、学習ボランティアや支援者として参加してくださる方も増えた。
※ボランティアの方々が適切に支援をしてくださるおかげで、子どもたちは技能を習得できただけでなく、「苦労したけどいいのができた」という達成感を味わうことができている。
※たくさんの方に支援してもらえることで、教師は積極的な学習計画を立てることができ、地域教材や人材を活かした授業づくりに努めるようになってきている。


【　昼休みコンサート　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
※見守り応援隊の方々を中心にボランティアや指導者をお願いしているが、地域にたくさんおられる適任の方がまだ把握できていない。今後も引き続き人材の開拓に努めていく必要がある。
※指導者（担任）の願いや指導方針を尊重しながら、若い先生の経験にもなるように、活動推進員からの提案も織り交ぜながら打ち合わせを綿密に行う必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
支援ボランティアの活動だけではないのですが、学校運営の様子や子ども達の学習の様子を右に記載のＵＲＬで紹介しています。　https://hissa.shiga-saku.net
■　コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員　）

桜谷の子どもでよかった～地域の温かい支援で学校教育活動を豊かに～

日野町	活動名　：　桜谷地域学校協働本部 愛称：桜谷学区ふるさと絆事業（さくらっ子事業）	桜谷小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 29 年度　　地域学校協働活動推進員等数：14 人（兼務〇人）　　ボランティア登録数：100 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

地域ふれあいＤＡＹ：地域のいろいろな技術を持った方々を学校にお越しいただき、１，２年生には昔遊び体験を、３年生以上には様々な技術を「弟子入りしよう」という形で体験活動を行った。地域の方と直接触れあう良い機会になったことと、「すごい方がたくさんいらっしゃる！」と、自分たちの地域に誇りが持てるような活動となった。

森のレストラン：さつまいも植えや田植え・稲刈りなどの栽培活動の支援に来ていただいたり、中庭や裏山を整備していただいたりした方々を招待して、昼食を共にした。招待状を出すのは中学年、調理するさつまいもを洗うのは低学年、かまどベンチで収穫物を使って調理するのが高学年というように役割分担し、全校体制で感謝の気持ちを届けた。昼食を共にすることで、地域の方々により親しみを感じられる時間となった。



【　地域ふれあいＤＡＹ：竹細工　】

■　実施に当たっての工夫

ボランティアとして参加されるのは、「HOT けん桜谷隊」、老人会を中心とする地域の方々である。活動の種類や日程によって参加いただける方を地域コーディネーターが中心となり、呼びかけや調整を行った。コーディネーターが毎年ボランティアと教職員にふり返りのアンケートを実施し、年間の活動を見直したり改善したりする事に役立てている。

■　事業の成果

本校は、自然に恵まれた環境に位置する学校であり、その良さを体験活動を通して味わわせたいと考えている。学校のすぐそばにある畑で１・２・６年生はいも植えを、近くの地域の方の田んぼで３・４・５年生は田植えを行っている。また、２年生は生活科で夏や冬に収穫する野菜を、３年生は、郷土野菜の「日野菜」を栽培している。地域の方々に教えていただいたり、支援していただいたりすることで、子どもたちには、上手に育てる方法を教えていただくことに加えて、食材としての作物の大切さや、自然の偉大さ、地域のあたたかさを体感できる機会となっている。地域の方から直接教えていただくことで、より地域を身近に、そしてその素晴らしさに気づく事ができる。

地域の方からは、「子どもが喜んでくれると、元気をもらえる」「この学校の子どもたちの成長に関われることがうれしい」などの感想をいただき、あたたかく支えてくださっている。



【　森のレストラン：かまどベンチで　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

年間計画を立てる段階での見直しと、実施後のふり返りは必要である。例年行っている活動が多いが、改善を加えることも大切であり、学校も支援に来てくださる方も双方の考えを聞くことがこの事業では大事である。地域コーディネーターが昨年度末に、学校と地域に向けてアンケート調査を行ったので、振り返ることができた。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

どの学年も体験活動を中心に地域の方に支援をいただいている。特に自然の良さや地域をよく知るための学習には、地域の方が共に学習の場にいてくださることで、子どもたちに地域をもっと身近に、そして地域に誇りを持てるような活動となっている。「森のレストラン」という活動で、その日頃の支援に感謝し気持ちを伝えている。３・４年生が招待状を書き、１・２年生は収穫した芋を洗い、５・６年生がその芋を使ってみそ汁を作り、収穫した米を給食室で炊き込みご飯に調理していただき、食事を共にしている。教えていただいた地域の方の支えに対して、感謝の気持ちを忘れないことと、地域の方にも学校へ行くことが心から喜んでいただけるよう時間にしたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　教頭　）

自分を想像し、仲間や地域との絆を結べる日野中生徒の確立を目指して。

日野町	活動名　日野中学校地域学校協働本部	日野中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 30 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：個人　25 人　団体　７団体

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

□郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　□行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）家庭科実技支援

・１年生被服学習における「ブックカバー」の制作で、「手縫い」「ミシン縫い」等個別対応が非常に重要な場面で、多くの方々の支援を受け、個々の生徒に技能を定着する事ができた。また、生徒達も遠慮なく質問ができた。

・２年生調理実習では、包丁を使う際の安全確保ができた。



【中庭ウッドデッキの塗装】

（２）敷地内環境整備作業

・約 100m 近くの花壇の手入れや周囲に植わっている木々の剪定をして頂いた。

・中庭ウッドデッキの老朽化が進んでいたので、地域の塗料会社に協力を頂き、塗り直すことができた。

・校庭のサツキが多くの部分で枯れていたため、地域のボランティア団体にご指導をいただきながら、植え直しを行った。

（３）読書活動推進事業

・１・２年生を対象に毎週火曜日に、各学年１クラスずつではあるが、地域の読み聞かせグループの協力を得ながら、読み聞かせ活動を実施した。

・１年生「外国語の本や言葉に触れよう」２年生「ブックトーク」３年生「帯バトル」と銘打って、各学年、全クラスを対象に図書館司書等の協力を得ながら、読書活動推進の授業を行った。

（４）家庭科・保育実習での校舎外移動に関しての交通立番・見守り

３年生・家庭科の保育実習で「あおぞら園」まで自転車での往復路の安全を支援して頂いた。

■　実施に当たっての工夫

（１）については、教科の特質や時間割の関係で長期に渡る日程調整が必要であったが、丁寧に連絡を取り合い実施できた。

（２）については、作業当日に現場にてご指導いただけたことで、地域とのつながりをより深めることができた。

（３）については、今年度初めての取組ではあったが、４つの読み聞かせグループと図書館司書の協力を取り付けたこと、クラス単位で行うことで、より読書を身近に感じられる取組になった。

（４）については、教員だけでは回りきれない立番を行うため、各方面の協力を頂いた。



【外国の本や言葉に触れよう】

■　事業の成果

地域にある様々な得意分野をお持ちの方々に、ご協力を頂くことで、多方面にわたる活動が可能となった。また、本年度２年目を迎え、将来にわたる活動の礎を築くことができた。

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

事業実施上の課題は、地域の中にあるマンパワーを見つけ出すことに大変な労力と費用がかかってしまうことである。行政単位での、人材バンクなどがあると助かる。今後の協議活動の工夫や展望では、本年度、取り組んだ新しい事業を軌道に乗るとともに新たな方面の人材を確保しながら、新しい事業開発を積極的に行っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

本校には、地域学校協働活動推進協議会が設置されており、学期ごとに実施報告や今後についての報告書を出している。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　■その他（　用務員　）

報告書記入者（　　教　頭　　）

ひとりひとりの学びを支える学校・地域・家庭の融合による学校支援活動

竜　王　町	活動名：竜王町地域学校協働本部	竜王小学校・竜王西小学校・竜王中学校・ 竜王幼稚園・竜王西幼稚園 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 22 年度　　地域学校協働活動推進員等数：６名（兼務　１名）　　ボランティア登録数：502 名（平成 22 年度～）

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
□学　校　　□地域学校協働活動推進員　　■行　政　　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習支援
・小・中学校の家庭科のミシンや裁縫等の学習で常時５名程度のボランティアが授業に参加し、担任だけでは個別に行き届かない指導をボランティアが補った。
・小学校の体育では、スポーツテストの測定補助やプール授業の安全監視支援を行った。
・竜王小学校の秋から冬にかけて利用されていない学級園を利用して、家族単位で冬野菜（大根）を栽培し、創立記念式典時に「浅漬け」を提供したり、大規模商業施設において販売を行った。
・竜王西小学校のアートクラブ（クラブ活動）で、年間を通じてクラブ活動の支援を行った。（水鉄砲、バルーンアート　他）



【　スポーツテストの測定支援　】

（２）託児支援
・幼稚園や小学校で授業参観やＰＴＡ行事等に子育て中の保護者も参加できるように託児所を開設して託児支援を行った。

（３）学校行事支援
・竜王幼稚園で、夏の流しそうめんや冬の餅つき大会を行った。
・両小学校のスキー教室は、例年 15 名程度のボランティアにより充実した指導が行えている。今年度は、雪不足により残念ながら中止となった。

■　実施に当たっての工夫
・統括マネージャーとコーディネーターが月１回程度、定期的に会議を開催することにより、円滑な支援推進ができた。
・支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校（園）へ出向き、先生をはじめ、支援ボランティアと話し合いを行い、よかった点、改善すべき点など、今後につながる情報交換を行った。

■　事業の成果
・小学生の児童からは、たくさんの感謝の手紙などをいただき、それを暑中見舞
・年賀状としてボランティアに郵送した。ボランティアからは、「子どもたちから元気をもらった、参加してとても満足している」などの声を聞き、生きがいの場を提供することができた。同時に、地域では子どもとの顔見知りも増え、コミュニケーション面でも拡がりが見られた。



【　スクール農園　大根の販売　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
・双方向性のある展望を持った「連携・協働活動」となるためには、いかに社会に開かれた教育課程を実現するかが重要な鍵となる。そのためには、地域連携の年間活動計画を作り、お互いが全体を見据えながら事業を展開する必要がある。

■　その他（学校運営協議会との協働等）
・学校運営協議会で熟議した内容（どんな子どもに育ってほしいか、子どもの健やかな成長に地域はどう関わるかなど）を地域学校協働本部でいかに具現化していくか検討を加えたい。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
□校　長　　■教　頭　　■地域連携担当教職員　　■その他（　学年主任、学級担任　）

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

「地域とともに多賀の子を育てよう」多賀町地域学校協働本部事業の取組

多賀町	活動名 ： 多賀町地域学校協働本部	町内6校園　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 ■無

地域学校協働本部概要

開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：132 人

■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他［　　］

■　事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学　校　■地域学校協働活動推進員　■行　政　□その他（　　）

■　地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（１）読み聞かせ（小・中・幼・保・こども園）

小学校や保育園・幼稚園以外にも、中学校全校集会で道徳に関する絵本の読み聞かせを実施。生徒が改めて人権等を考えるきっかけ作りとなった。また、学校図書関係の業者と連携し、読み聞かせとともに本に関するクイズ・ゲームなどを取り入れ、子どもたちがさらに本に親しむ機会となっている。

（２）琴・福祉・環境学習

小学校では、地域のサークルにより琴の演奏と爪を付けての体験、パネルシアターによるユニバーサルデザイン・点字の学習など教科書に沿った学習をおこなっている。また、環境委員会や特別支援学級での生活単元学習の中で野菜を育てる際の指導、イチゴ苗植えの指導など、先生と連携して実施。ボランティアの方が、日々の土作りなども率先して行っている。



【　環境委員会での花植え指導　】

■　実施に当たっての工夫

校園からの依頼だけでなく、地域コーディネーターから校園・ボランティアへ話題を投げかけ実施することで、早めからの準備ができた。ボランティアの情報を常に収集し、活動可能な曜日や内容等を把握するよう努め、急な対応に備えた。また、行政内での連携の結果、町内業者から木材（端材）をいただいてキーホルダー作りなどの学習等に利用できた。

■　事業の成果

「一緒に活動でき、とても楽しい」「元気がもらえる」など、やりがいをもって参加していただく活動が増えている。子どもたちは、様々な体験をすることで地域の方々とのふれあいができている。



【　運動会当日は、準備等に大忙し　】

■　事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校支援のさらなる充実を図るため、新たにボランティア活動を創出することが必要である。大学生による運動会補助ボランティアは母校を懐かしみながらの活動であったが、運動会の盛り上がりに大変効果的であった。「ボランティアをするのは初めてだったから緊張した」「次回も参加したい」という感想もいただき今後の活動への協力も期待できる。また、活動が平日に多く、実働ボランティアは限定されているため、口コミ等による募集を絶えず行うことが大切である。

■　その他（学校運営協議会との協働等）

６校園でのボランティア活動を推進するため、各校園での活動に際し、空き教室を利用してボランティア専用の「集いの部屋」を設置している。未設置の校園についても徐々に設置をすすめ、ボランティア活動の幅を広げていくこととしている。

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校　長　■教　頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

令和元年度地域未来塾活動一覧

［ 7市町30教室 ］

市町名	教室数	教室名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
彦根市	15	いきいき学習教室	東中学校	東中学校	○	東中学校区支援地域協議会
		学力補充教室「楽習ひろば」	西中学校	西中学校	○	西中学校区支援地域協議会
		放課後バックアップ教室	城西小学校	城西小学校	○	西中学校区支援地域協議会
		夏休みきらり教室	城北小学校	城北小学校	○	西中学校区支援地域協議会
		土曜教室　てるみ	中央中学校	中央中学校	○	中央中学校区支援地域協議会
		学び育ちLL教室	中央中学校	中地区公民館	○	中央中学校区支援地域協議会
		夏休み補充教室「水曜ゼミ」	南中学校	南中学校	○	南中学校区支援地域協議会
		がってん教室	城南小学校	城南小学校	○	南中学校区支援地域協議会
		夏休み算数教室	城陽小学校	城陽小学校	○	南中学校区支援地域協議会
		彦根中学び座	彦根中学校	彦根中学校	○	彦根中学校区支援地域協議会
		学力補充教室	鳥居本中学校	鳥居本中学校	○	鳥居本中学校区支援地域協議会
		質問教室	稲枝中学校	稲枝中学校	○	稲枝中学校区支援地域協議会
		かがやき教室	稲枝東小学校	稲枝東小学校	○	稲枝中学校区支援地域協議会
		はえみサマースクール ガッテンタイム	稲枝西小学校	稲枝西小学校	○	稲枝中学校区支援地域協議会
		「ぐんぐんクラブ」 「チャレンジ教室」	稲枝北小学校	稲枝北小学校	○	稲枝中学校区支援地域協議会
日野町	1	ちょこっと学習会	日野中学校	日野中学校		
湖南市	2	3年放課後学習会	甲西中学校	甲西中学校		
		日枝中未来塾～外国籍生徒日本語教室、3年進路支援、特別支援学級学習会～	日枝中学校	日枝中学校		
米原市	8	山中サマー・スクール 山中ウィンター・スクール	伊吹山中学校	伊吹山中学校		
		職業人に学ぶ生き方講話				
		小論文対策講座				
		土曜学習会	河南中学校	河南中学校		
		いつ今教室	大東中学校	大東中学校		
		学力補充教室	柏原小学校	柏原小学校		
		学力補充教室	柏原中学校	柏原中学校		
		米原学習教室（MGK）	米原中学校	米原中学校		
豊郷町	1	豊日中学校地域未来塾	豊日中学校	豊日中学校		
甲良町	1	甲良中学校地域未来塾	甲良中学校	甲良中学校		
多賀町	2	多賀町中学生土曜講座	多賀中学校	多賀町立博物館	○	株式会社　ケイ・エム・ジーコーポレーション
		放課後児童見守り（学びっこタイム）	大滝小学校	大滝小学校		
計	30					

“自分が決める”子どものやる気を　地域があと押し

彦根市	活動名：いきいき学習教室	東中学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

年間開催日数：24 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：18 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員 16 人　その他ボランティア　１人　計 17 人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・水曜日の放課後や長期休みを利用して、子どもたちが自主的に学習できる場を提供している。地域の人とつながる場をつくる。
・基礎的なところでつまずいている子どもには、学習支援ボランティアが寄り添いながら学力をあげる。

■　特徴的な学習支援内容
学習教科は自由。子どもが決めたことをやり遂げられるような支援を心がける。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
主体は「東中学校区地域学校協働本部」で、学校と相談しながら運営。「自分が決める」という生徒の自主性を尊重する。募集チラシは、保護者にではなく、子どもに宛てたものにする。参加するという意欲がある生徒の参加を受け入れる。個別に学習ファイルを作成し、学習終了後に、子どもが「今日は何の学習をしたか」やボランティアへの連絡やメッセージ等を記入し、ボランティアとの交流に利用している。


【放課後いきいき学習教室で勉強する生徒】

■　事業の成果
「自分で決める」ことを大切にしているので、子どもたちは主体的にまじめに学習に取り組んでいる。長年継続してきてくださっているボランティアが多いので、個別の子どもへの配慮もあって、参加している生徒の学力も少しずつあがっている。ボランティアと子どもたちとの関係がよく、子どもたちは自分から質問するなど、良い雰囲気の中で学習会ができている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
学年があがるにつれ、塾に行く生徒が増え、参加者が減っているのが現状。
先生との連携で、学力や家庭環境など、本当に支援が必要な生徒が参加しやすいような学習会にしていきたい。

報告書記入者（地域コーディネーター）

地域の人材を活用した「楽習ひろば」

彦根市	活動名：学力補充教室「楽習ひろば」	西中学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

年間開催日数：100 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）　平均参加人数：７人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　17 人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計 17 人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・学力補充を目的とした「楽習ひろば」の開催。放課後の時間帯や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が学習指導を行った。

■　特徴的な学習支援内容
・基礎学力の定着を目指した前期の「楽習ひろば」は、各学年で実施した。
・高校受験を意識した後期の「楽習ひろば」は、３年生を対象として実施した。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・前期の「楽習ひろば」では、各学年生徒のうち、基礎学力の定着を目指し選抜した。
・後期の「楽習ひろば」は、希望者を募って実施した。

■　事業の成果
・生徒の弱点を把握させ、その克服に向けて反復学習をすることにより学力の定着を図った。
・一人ひとりの生徒の実態に応じた個別の学習支援を実施した。


【　生徒の学習の様子　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・学習支援員の出務可能な日時を把握する必要があることや連絡調整が大変であった。
・来てほしいときに学習支援員が確保できなくて困るときがあった。

■　その他
・学校運営協議会を立ち上げたときにどのように進めるかを検討する必要がある。

報告書記入者（　教　頭　）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名：放課後バックアップ教室	城西小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

年間開催日数：31 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人　平均参加人数：13 人
・学習形態：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　４人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　２人　計６人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　算数科を中心に、基礎・基本の定着に向け個別指導を主とした教室を、全学年を対象に各学期に 10 回程度開催した。

■　特徴的な学習支援内容
　プリントやドリルの内容を基礎・基本を中心とするとともに、個に応じて選択ができるように用意し、個別指導を主とした学習支援ができるようにした。


【２年生　放課後バックアップ教室】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
　下校時の安全確保や保護者の負担の軽減のため、対象を全学年に広げた。

■　事業の成果
　地域の方々に個別に丁寧に指導していただけたことで「分かった！」という思いを強く持つことができた。また、外国にルーツを持つ児童にとっては、母国語を交えた支援ができ、学力の向上および心の安定につながった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　対象学年を広げたことで、学年に偏りが無いよう、より多くの学習支援員の確保が急務である。

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

学力向上をねらいとした学力補充「わかる！できる！夏休みきらり学習」

彦根市	活動名：夏休みきらり学習	城北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

年間開催日数：３日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：４人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　４人　地域協働活動推進員（地域コーディネーター）　１人
　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計５人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　夏季休業中に学力補充教室を開催し、個々の学力向上を図ることを目的としている。

■　特徴的な学習支援内容
　算数科はつまずきが見られた場合自学自習がしにくいと言える教科であることや、前の学年の学習内容に遡って復習することが求められる教科であることから、算数科に限定した支援の機会を設けることとした。また、いわゆる夏休みの宿題をする場とせず、子どものつまずきに対応するためのカリキュラムとした。


【　個別指導を受ける児童　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
　保護者対象の案内文書では、学力補充が必要と判断される児童向けの事業であることを説明した上で、募集をかけた。また、夏休みの課題をする場ではないことを説明し、本事業の趣旨を理解していただけるよう努めた。

■　事業の成果
　児童からは「分からなかったところが分かってすっきりした！」「夏休みの宿題もがんばる！」という声が聞かれた。教員からは、「普段時間をかけることができなかった児童にじっくりと教えることができてよかった」という声が聞かれた。このような体験談から、学力補充に関して一定の効果があったと考えている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　結果的に、学習に関するボランティアを担っていただける人材は地域住民の元教員ばかりであったことから、人数の確保が難しくなってきていることを感じている。

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

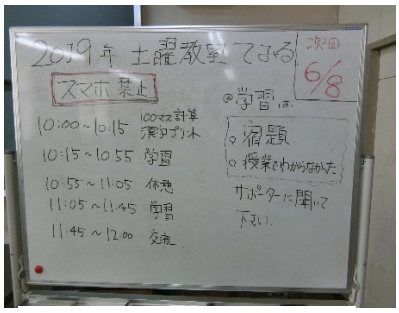
来てみる・やってみる　「土曜教室てみる」

彦根市	活動名：土曜教室 てみる	中央中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

年間開催日数：15 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：11 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　３人　協働活動推進員　０人　協働活動支援員　７人　その他ボランティア　５人　計 15 人
・学習支援員等の属性：■企業人　□行政職員　■元教員　□地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　子ども達への学習補助はもちろん支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■　特徴的な学習支援内容
　１対１の指導を基本とし、学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にして、子ども達への学習の動機付けとなるように、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。学習支援員やボランティアとの対話や学習後の交流を楽しみに来る子どもも多い。２時間程度の学習であるが、終了後に学習支援員で子どもの様子の交流や活動の振り返りを行うことが、子どもへの関わりの質の向上につながっている。



【学習のメニューと流れ】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
　全校生徒に案内を配布し、希望を募っている。部活動の時間と重なることも多いが、生徒が主体的に選択できるように部活動顧問、地域コーディネーターともに配慮している。

■　事業の成果
　個別指導により、つまずきを的確に把握しながら学習支援を行い、基礎学力の定着を図ることができている。また、週末に学習に集中し充実した時間を過ごすことができることから、家庭学習の定着にもつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　学習支援員やボランティア支援員の人材の確保、および教室の企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。

報告書記入者（　教頭　）

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所

彦根市	活動名　：　学び育ちＬＬ教室	中央中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

年間開催日数：40 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：10 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　■その他（平日夜実施）
・学習支援員等人数：学習支援員　15 人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　３人　計 18 人
・学習支援員等の属性：■企業人　□行政職員　□元教員　■地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。学習補助に加え、学びの押し付けではなく、自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることもねらいとしている。

■　特徴的な学習支援内容
　マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にし、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。そのため固定した時間割は定めず、その日の子どものコンディションに応じて活動している。年に数回、ハロウィンパーティーやクリスマス会、スポーツ交流、卒業お祝い会なども実施し、幅広い経験ができる機会を設けている。


【　教室の様子　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
　中央中学校の土曜教室と同時期に全校生徒に案内を配布。また、活動状況はフェイスブックページを設け発信していることから、他学区の子どもたちの参加もある。保護者との連絡やボランティア間の連携として、公式 LINE を設けたり、LINE グループを使った情報交換をしている。

■　事業の成果
　子ども個人のモチベーションにあわせた学習を進めることで主体的に取り組む習慣ができてきている。また不登校気味の子どもも参加し、気分転換や自分を見つめる時間になっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備の経費と教材の保管場所確保が課題である。

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

夏休み補充教室＆放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名：夏休み補充教室、「水曜ゼミ」	南中学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

年間開催日数：25 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）　平均参加人数：10 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　７人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計７人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
〇夏休み補充教室（７～８月）は、学年ごとに４回開催し、夏休みや２学期以降の学習を充実させるために、夏休みの宿題を先生に質問しながら学習を進めている。
〇放課後学習「水曜ゼミ」（９～２月）は、３年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身につけるために、プリントを使って学習している。


【　水曜ゼミ　】

■　特徴的な学習支援内容
学習支援員は元教員や地域の大学生、保護者が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容のプリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
夏休みの補充教室は全員を対象に参加を募っている。また、水曜ゼミは受験を控えた３年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。コーディネーターが活動を紹介したボランティア便りを作成し、学習支援員の確保にあたっている。

■　事業の成果
家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携して学習支援員が確保できる体制にしていきたい。

報告書記入者（　教　頭　）

「わかった」「できた」子どもの笑顔のために

彦根市	活動名：がってん教室	城南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

年間開催日数：３日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：130 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　６人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計６人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　□元教員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・夏季休業中の午前３日間を設定し、１学期の学習内容を中心とした学力補充を行う。
・夏季休業中に取り組むとよい家庭学習などの相談にのり、２学期のスタート時に自信や学習意欲をもてるようにする。

■　特徴的な学習支援内容
夏季休業中の課題や児童自身が付けたいと考える力にあった学習など、個々に選択できるようにする。また、学年によっては、演習を中心とする「どんどんコース」、参加児童全員で話し合ったり教え合ったりできる「じっくりコース」など、学び方を選ぶことができる。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
開催要項は全家庭に配布するとともに、目的や取組方等を担任から児童へ説明する。強制はしないが、１学期末の個別懇談会で、個別に参加を促すこともある。

■　事業の成果
学習に自信がもてなかったり、夏季休業中、どのように学習や課題を進めたらよいか不安に思ったりする児童が、気軽に相談できる場となっていた。小集団での学習や個別に質問ができる環境で、安心して学びに向かうことができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
参加児童の実態や人数によっては、十分対応できない日もあった。支援員の増員と開催日数、時間の検討をしていく必要がある。

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

つなげよう　子どもを育む　地域の力　　～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名　：　夏休み算数教室	城陽小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

年間開催日数：２日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）　　平均参加人数：30 人

・学習形態：■個別の学力補充　　□教材を使った一斉学習　　□その他（　　）

・教室のもち方：□放課後実施　　□土曜日実施　　■長期休業日実施　　□その他（　　）

・学習支援員等人数：学習支援員　２人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計２人

・学習支援員等の属性：□企業人　　□行政職員　　□元教員　　□地域住民　　■大学生　　□NPO 等関係者　　■その他

■　活動の概要と目的

夏季休業中の２日間（７月 22 日～23 日）、いずれも８：45 から 10：15 までの実施とした。算数科を中心に、個別の学力補充を目的とした。

■　特徴的な学習支援内容

保護者や担任が、個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心としたため、少人数の指導体制を仕組むことができた。つまずきや戸惑いには、スモールステップによる支援を行うことができた。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

保護者あてに希望者を募る、または、個別指導が望ましいと考えられる児童に参加を促す声かけをすることで参加を呼びかけた。学区内の滋賀県立大学の学生にもゲストティーチャーを呼びかけ、支援を得ることができた。



【　夏休み算数教室　】

■　事業の成果

基礎、基本の積み上げが不十分な児童にとって、個別対応の支援は心強く、また反復や発展の演習問題を示されることで、自身のつまずきに対して意欲的に向き合うことができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、支援いただける方の確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

報告書記入者（　　教　　頭　　）

学びを育む学習会

彦根市	活動名：彦根中学び座	彦根中学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

年間開催日数：80 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：０人　　平均参加人数：12 人

・学習形態：■個別の学力補充　　□教材を使った一斉学習　　□その他（　　）

・教室のもち方：■放課後実施　　□土曜日実施　　■長期休業日実施　　□その他（　　）

・学習支援員等人数：学習支援員　10 人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計 10 人

・学習支援員等の属性：□企業人　　□行政職員　　■元教員　　■地域住民　　■大学生　　□NPO 等関係者　　□その他

■　活動の概要と目的

毎日の授業だけでは十分に学力が定着しない生徒も多く、基礎学力の定着のためには、学力補充が必要となる。しかし、一人では家庭学習に取り組めなかったり、何を学習してよいのかわからなかったりする生徒も多い実情があるため、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別の対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

■　特徴的な学習支援内容

＊定期テスト前質問教室　　＊夏季休業中の補充学習および質問教室

全学年で、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が数名で学習支援を行っている。

＊３年生の放課後学習会

10 月から毎週木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材のわからない問題や、数学と英語の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。



【　３年学習会　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

＊学習支援員を確保するため、募集ポスターとチラシを製作し、近隣の大学に配布した。

■　事業の成果

＊家庭学習に取り組めない生徒が学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが学習にまじめに意欲的に取り組めていた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

＊学校の立地条件から、学生の学習支援員が集まらず、確保が難しい現状にある。

＊予算が減額されたため、支援の回数が制限され十分な機会が得られていない。

■　その他

・活動状況は、本校ＨＰにて掲載している。https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/

報告書記入者（　　教　　頭　　）

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	鳥居本中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

年間開催日数：13 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：５人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　５人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　１人　計６人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■　特徴的な学習支援内容
〇基礎的な学力の補充
長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題（ワーク）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
〇参加者の募集については、学力の補充が必要な生徒を教員が選んでいる。
〇実施にあたっては、個別に教えてもらえるようにしている。

■　事業の成果
〇生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。
〇地域の方も、中学生に学習を教えることで充実感がある。
〇学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。


【　夏休み補充教室　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
〇学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる方をどのように集めるかが、大きな課題である。
〇今年度は、学習支援に新たに４人来ていただけた。
〇平日の放課後等に実施できないかを検討中である。

報告書記入者（　地域連携担当教職員　）

本当にわかったと生徒が感じる学習サポート

彦根市	活動名：質問教室	稲枝中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合→学校運営協議会との協働 ： □有 □無

年間開催日数：31 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人（兼務１人）　平均参加人数：10 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　■土曜日実施　■長期休業日実施　■その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員５人　地域協働活動推進員（地域コーディネーター）１人
協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計６人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・目的　自ら学ぼうと意欲のある生徒への学習支援を行い、学力向上を図る

■　特徴的な学習支援内容
・夏休み→１・２・３年生を対象に補習的学習に重点を置き、自学自習の支援を行う。
・12・１・２・３月→３年生を対象に高校入試に向けた学習支援

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・生徒の募集→夏休み質問教室は、全学年の生徒および保護者に、質問教室の趣旨を説明して募集
３年生対象の高校入試に向けた質問教室は、希望者はもとより、学習塾に通っていない生徒や教師から見て受験対策を必要とする生徒に勧める。

■　事業の成果
・参加者が、質問教室に「来てよかった、わかった」と感じている。
・個別に丁寧に指導してもらい「わかった」という思いを持ち、自信を深めることにつながった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・中学校の地域未来塾の講師の発掘が大変である。（特に数学と英語）
・学校と地域コーディネーターの打合せが重要となる。現職の先生にも部活と同じように手当を支給するか、塾の先生を派遣してもらうことも考えないとボランティアに頼るだけでは、継続は難しいと考える。

報告書記入者（地域コーディネーター）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名：かがやき教室	稲枝東小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

年間開催日数：14 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：４人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　４人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計４人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
２、３年生の児童を対象に、月に２～３回程度の学力補充の時間を計画した。

■　特徴的な学習支援内容
児童がつまずきを感じている学習内容を選び、個別指導の形式で学習支援をした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
学期ごとに希望者を応募した。
参加する児童の数を絞り、個に応じて充実した指導ができるようにした。
参加者が多数の場合は、教員で協議をして決定した。

■　事業の成果
漢字や計算など基礎的な力を高めることで学ぶ意欲を向上させることができた。



【　２年生の様子　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
参加者が多数のため学期での交代制をとった。その結果、継続して参加することができない児童もいた。
実施回数や指導体制を含めて、運営方法を考えていきたい。

報告書記入者（　　地域連携担当教職員　　）

わくわく　はえみ学習

彦根市	活動名　：はえみサマースクール ガッテンタイム	稲枝西小学校　学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

年間開催日数：９日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：０人　平均参加人数：17 人
・学習形態：■個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　■その他（特別日課で生み出した時間）
・学習支援員等人数：学習支援員　４人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計４人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・学習内容の理解に課題を要する子どもの学力補充と、より確かな学力の定着を目指す。

■　特徴的な学習支援内容
・課業中は、全国学力学習状況調査の結果を受け、弱点と思われる学習内容に特化した。長期休業中は、思考力や表現力を問う課題にも力を入れた。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・児童数が少なく、校区が広いため、一部の児童が参加する形態を取ると下校が成立しない。長期休業日は、保護者の送迎が可能な希望者を対象とした。課業中は、特別日課で生み出した１時間を、４～６年生の３～６校時に重なりがないように割り振り、担任・学習支援員・校内教員（教頭または教務）の３人体制で指導に当たれるようにした。可能時数については、本部事業のコーディネーターが一括して調整している。

■　事業の成果
・担任プラス教員と支援員の配置により、通常の３倍で学習を行う。分らない時にタイムリーな支援が受けられ、学習は楽しいと感じる、分かる喜びを感じる子どもが増えた。学習への意欲の高まりも見られた。



【はえみサマースクール】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・一部の子どもを対象とすることは、下校に課題があり難しい。今後はコース別に分けることで、個々の学力アップを図りたい。

報告書記入者（　　地域連携担当教職員　　）

わかる楽しさを味わい、学ぶ意欲を高める「ぐんぐんクラブ」「チャレンジ教室」

彦根市	活動名　:「ぐんぐんクラブ」 「チャレンジ教室」	稲枝北小学校　学校運営協議会 : □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 : □有 □無

年間開催日数：55 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：５人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　６人　計６人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
少人数の個別指導のような学習で、「わかる」楽しさを味わい、自信をつけ学習への意欲を高められるようにする。

■　特徴的な学習支援内容
「ぐんぐんクラブ」：課業日の月曜日（１～３年）水曜日（４～６年）、学期ごとに参加児童を募集し、定員を８名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数を中心に担任が個に応じた課題（プリント等）を準備する。
「チャレンジ教室」：夏季休業中の３日間、担任と学習支援ボランティアとで個別指導を行う。担任が準備するプリントや夏季休業中の課題等に取り組む。


【　チャレンジ教室　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
どちらも全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにする。また、個別指導が有効と思われる児童へは事前に保護者に呼びかけ、参加を促している。

■　事業の成果
学習に苦手意識のある児童にとって、わからないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「わかった」という実感をもちやすく、意欲が高まり、学習の成果も上がっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
個別指導が不要と思われるが参加を希望するケースが特に下学年では多く見られるため、今後は個別指導が必要な児童にのみ個別に声をかける方法も検討したい。

報告書記入者（　教　頭　）

気軽に学ぼう、気軽に訪ねよう、ちょこっと学習会。

日野町	活動名　：　ちょこっと学習会	日野中学校　学校運営協議会 : □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 : □有 □無

年間開催日数：13 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：６人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　８人　協働活動推進員　１人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計８人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　□元教員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
１回の学習会に１～３名の大学生の学習支援員を配置し、多人数に対応できるようにした。基本的には、個別学習支援の形を取り、学習支援員は各自が行う学習に寄り添い、質問を受けたことに対応してもらう、解き方のアドバイスを示してもらうなどの支援をお願いした。この学習会の大きな目的としては、一人では学習に向き合えない生徒や、日頃は質問などがしにくい生徒にとって学びの場となることを目的としている。

■　特徴的な学習支援内容
夏季休業中の集中学力補充と、１、２年生で行われた学力補充の支援を行った。また、９月からは、部活動のない日や定期テスト前を意識した日程調整を行い、より多くの生徒が参加しやすい期日になるように心掛けた。また、支援員を本校卒業の大学生にお願いすることで、生徒にとってより身近で親しみやすい存在になっていたと考える。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
参加者の募集については、全校生徒が使用する昇降口に、月ごとに実施日を掲示した。また、朝の会や帰りの会を利用して、担任より、期日の連絡と積極的な参加を促すようしてもらった。

■　事業の成果
今年度の事業への生徒の参加状況をみると、昨年度よりも多くなっていた。また、昨年度は、参加者が固定していた傾向にあったが、本年度は多くの生徒が参加できていたようである。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
本年度は、本事業を担当している教員の教え子が支援員として多く協力してくれたが、毎年このような形で実施することは困難であると考える。支援員を学校単位で確保するのは、大変な難しいことである。そこで、行政の単位で支援員の募集や登録を進めていただき、それらを上手く活用させていただく方向にしていくことが、本事業を継続させていくために、必要なことと考えている。

報告書記入者（　教　頭　）

あせらず　・　あわてず　・　あきらめず　　～「今」を大切に～

湖南市	活動名　：　３年放課後学習会	甲西中学校　　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

年間開催日数：32 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人　　平均参加人数：15 人

・学習形態：■個別の学力補充　　■教材を使った一斉学習　　□その他（　　）

・教室のもち方：■放課後実施　　□土曜日実施　　□長期休業日実施　　□その他（　　）

・学習支援員等人数：学習支援員　２人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計２人

・学習支援員等の属性：□企業人　　□行政職員　　■元教員　　■地域住民　　■大学生　　□NPO 等関係者　　□その他

■　活動の概要と目的

・全国学力学習状況調査や学校教育活動アンケートの結果からも、家庭学習がほとんどできていないことがあきらかになり、生徒たちの家庭での学習環境もあるが、学習方法がわからないとの要因もあきらかになった。そこで、地域の方や卒業生などに学習ボランティアとして支援していただき、自主的、主体的な学習習慣を身につけて学力向上を図るため、進路実現のため９月から放課後週２回１時間実施した。



【　生徒同士の教え合い　】

■　特徴的な学習支援内容

・３年生を中心に自分で教材を持ってきてもいいが、毎回テーマ学習として５教科での単元を絞って提示を行い、プリントなどを使用しての学習に取り組む。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

・担任や教科担当から声かけをしたり、友だち同士で誘いあったりしての参加。

■　事業の成果

・生徒同士の教え合う場面も多く見られた。

・学習方法などアドバイスを受けられる場ともなっていた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・「わかりたい」が「できる」になるに変わるような場の設定などの工夫が必要である。

・学力に課題やしんどさのある生徒への参加を促す配慮ある声かけを行う。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員・教頭　）

未来に羽ばたく子どもたちをサポートして

～日枝中未来塾～外国籍生徒日本語教室、３年進路支援、特別支援学級学習会

湖南市	活動名　：　日枝中未来塾 ～外国籍生徒日本語教室、３年進路支援、 特別支援学級学習会～	日枝中学校　　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

年間開催日数：25 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：９人（兼務４人）　　平均参加人数：８人

・学習形態：■個別の学力補充　　□教材を使った一斉学習　　□その他（　　）

・教室のもち方：□放課後実施　　□土曜日実施　　■長期休業日実施　　□その他（　　）

・学習支援員等人数：学習支援員　４人　協働活動推進員　４人　協働活動サポーター　１人　その他ボランティア　〇人　計９人

・学習支援員等の属性：□企業人　　□行政職員　　■元教員　　■地域住民　　□大学生　　□NPO 等関係者　　■その他

■　活動の概要と目的

学力保障や学校生活の安定のために、支援が必要な生徒に対して、学校支援員や地域のボランティアの方の支援のもと学習会を実施する。

■　特徴的な学習支援内容

外国籍生徒が全校の１割を超える本校では、ポケトーク等を活用して、子どもたちの学習支援を行い、生活の安定と進路支援を行っている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

基本的には希望参加であるが、三者懇談会や通訳を介し、生徒の状況を伝え参加を促している。また、長期休暇中に実施することで、学習リズムの維持を図っている。

■　事業の成果

丁寧で、個別的な支援による取組の結果、生徒の学習意欲の向上や、進路に対する前向きな姿勢が見られている。



【　日本語教室にて　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

数年来の取組によって、一定の参加者があり学習会として成果をあげつつある。ただ、長期休業中に定期的に実施していくためには、指導者の安定的な確保と、学習会運営の財政的な基盤整備が不可欠である。

■　その他

ポケトーク等のコミュニケーションツールやタブレット等の機器の充実も、教室活性化の一助となることは間違いない。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

山中(やまちゅう)サマースクール、ウィンタースクール

米原市	活動名：山中サマー・スクール 山中ウィンター・スクール	伊吹山中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数： １人　平均参加人数：46 人

・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）

・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数：学習支援員　２人　協働活動推進員　４人　協働活動サポーター　２人　その他ボランティア　０人　計８人

・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

長期休業を利用して、生徒一人ひとりが、自分の習熟度に応じて学習を進めることで、基礎的・基本的な知識を習得するためだけでなく、授業でわからなかった内容や課題にじっくり取り組んだり、高校入試を見据えて入試問題に取り組んだりする学習会を開催した。



【　山中ウィンター・スクール　】

■　特徴的な学習支援内容

本校では、全校生徒が一同に集まって給食を食べるランチルームがある。このランチルームを会場に学習会を行うことにより、複数の学習支援員が生徒の要望に応じて支援できる体制をとることができるようにした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

自分の習熟度に応じて学習を進めることができるような形態をとっているため、参加を希望した生徒全員が参加している。
学習内容や課題等は、各生徒が自分で予定を立てて準備し、目標を決めて学習に臨むようにしている。
部活動に配慮して、長期休業中の午後に実施した。

■　事業の成果

長期休業中の学習会であるため、生徒にとっては充実した学習習慣を継続させることができた。また、自分の習熟度に応じて各教科の学習を進めることができるため、目標が立てやすく、十分に理解できるまで学習に取り組むことができた。さらに、毎回、できるだけ多くの学習支援員を招聘することで、多様な生徒の学習支援が可能になった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今年度は、希望する生徒を対象にし、自分の習熟度に応じて学習を進める形態で実施したが、より多くの生徒が参加できるように開催日数を増やす方向で検討していきたいと考えている。また、特に理解が不十分な生徒が、基礎的・基本的な知識を習得できるようにするため、学習支援員の確保に努め、個別の学習指導・支援ができる体制づくりを進めていく必要がある。

■　その他

特になし

報告書記入者（　　教　　頭　　）

地域の職業人に学ぶ「生き方講話」

米原市	活動名：職業人に学ぶ　生き方講話	伊吹山中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

年間開催日数：１日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：60 人
・学習形態：□個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　■その他（　キャリア教育　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　■その他（　総合的な学習の時間　）
・学習支援員等人数：学習支援員　０人　協働活動推進員　１人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計１人
・学習支援員等の属性：■企業人　□行政職員　□元教員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的

本校２年生の生徒を対象に、本校地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）である伊吹電業株式会社取締役　安田金次氏により、働くことの意義や勤労について学ぶ「生き方講話」学習会を実施した。


【　生き方講話　】

■　特徴的な学習支援内容

本校のキャリア教育の年間計画に基づき、地域の企業を経営され、働いておられる方を講師に招き、働くことの意義や勤労について学ぶ機会をもった。講話の中では、働くことの意義に加え、社会の価値観の変化の中で適応していくための工夫、また、挨拶やマナーの大切さ、基本的な教養を身につけるために学ぶことや創意工夫しながら連続的に思考を深めていくことの大切さ等について講話していただいた。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

当講話は、職場体験学習の事前学習に位置づけ、職場体験学習に行く際の心構えや挨拶・マナーの大切さ等を学ぶ機会とした。
幼い頃から顔馴染みである地域の方に、企業人としての厳しい表情で、働くことの意義や働く上で大切にしなければならないことを教えていただくことで、より身近に話を聞くことができる機会をもつことができた。

■　事業の成果

職場体験学習の事前学習に位置付けたことで、職場体験学習に行く際の心構えや挨拶・マナーの大切さ等を学ぶ機会となった。
また、幼い頃から顔馴染みである地域の方に教えていただくことで、より身近に話を聞くことができる機会となった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今後は、多様な職種の方に講師を務めていただくことで、生徒のさまざまな興味・関心に対応していけるようにしていきたい。
その際、より少人数で講話を聞くことができるようにし、生徒が疑問や不安に思っていること、講話の中でもっと掘り下げて聞きたいことが聞きやすくなるように配慮していくことも考えている。

■　その他

特になし

報告書記入者（　教　　頭　　）

小論文対策講座

米原市	活動名：小論文対策講座	伊吹山中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　■無

年間開催日数：５日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：０人　平均参加人数：16 人
・学習形態：□個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　■その他（ 個別の添削学習 ）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（ ）
・学習支援員等人数：学習支援員　１人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計１人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
本校３年生の生徒を対象に、本県県立高等学校特色選抜や推薦選抜での入学検査で課される小論文に対応するため、地域住民であり、元高等学校教員でもある講師を招聘し、「小論文対策講座」を実施した。

■　特徴的な学習支援内容
生徒は、本県県立高等学校のこれまでの小論文の問題を課題にして、本番さながらに挑戦するとともに、学習支援員を務める講師が一人ひとりの小論文を添削することで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるように支援内容を工夫した。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
自分の希望する進路に応じて、希望した生徒全員が参加している。
講師が一人ひとりの小論文を添削することで、生徒一人ひとりが自分の小論文を見直し、課題を改善できるようにした。



【　小論文対策講座　】

■　事業の成果
生徒一人ひとりが複数の小論文の課題に取り組み、また、講師により個別に添削を行うことで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるようになり、充実した講座となった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
小論文の添削に時間がかかり、勤務時間外にかけて添削していただかなければならない課題が生じたため、来年度以降改善する必要がある。

■　その他
特になし

報告書記入者（　教　頭　）

学校と地域の力により、子どもの学びを支えていく

米原市	活動名　：　米原学習教室（MGK）	米原中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

年間開催日数：63 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人　平均参加人数：15 人
・学習形態：□個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（ ）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（ ）
・学習支援員等人数：学習支援員　０人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　５人　計５人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
長期休業中に、低学力の生徒を中心に学習支援を行った。また、３年生は２学期から放課後の時間を活用し、数学と英語の講座を実施した。更には、入試の小論文対策として、１月に３回講座を開催した。

■　特徴的な学習支援内容
夏季休業中の米原学習教室では、１、２年生はそれぞれの生徒が課題を持ち寄り、教員と地域ボランティアが個別支援を行った。３年生においては、同様に個別支援を行うとともに数学と英語の講座を開催した。また、１月には入試の小論文対策として、国語の教員とボランティアがその対応にあたった。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
学年通信で募集をよびかけ、課題の大きい生徒には直接声をかけた。

■　事業の成果
１人では課題等に取り組めない生徒が課題をやりきり提出することができた。３年生においては、学期を追うごとに授業が落ち着いた雰囲気で受けられるようになり、それぞれ力をつけることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
地域に教員ＯＢがおられ、非常に助かっている。教員ＯＢの講座に本校教員が入ることにより、教員の学びにもつながった。

■　その他
特になし。

報告書記入者（　教　頭　）

笑顔いっぱい・学びいっぱい活動　～自ら学ぼうとする生徒への学習機会の場の設定～

米原市	活動名　：　土曜学習会	河南中学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

年間開催日数：16 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：０人（兼務０人）　平均参加人数：10.9 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　３人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計３人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　□元教員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　月２回土曜日の午前中に開催し、自主的に学ぼうとする生徒のためにその場を提供して、子どもの学びの基礎を育てる。

■　特徴的な学習支援内容
　本校卒業生の大学生を講師に招き、自主的に学習を進める上でわからないところをすぐに質問できるようにした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
　保護者宛には土曜学習会の開講日を事前に知らせて、生徒の都合のつく時間に参加できるようにした。部活動練習後に参加する生徒も多くいた。



【　土曜学習会の様子　】

■　事業の成果
　家庭では集中できず家庭学習が進まない生徒も、土曜学習会に参加して、頑張っている生徒に感化されて集中して学習に取り組めることができた。また、わからないところをすぐに、講師の大学生に質問することができ、理解を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　講師の大学生の都合もあり、開催日を決定することに苦慮した。定期テスト前には多くの生徒が参加することから、今後も学習する場の提供は必要と強く感じた。

■　その他
　土曜学習会を開催する日の前夜には保護者あてにメール配信をして周知した。

報告書記入者（　校　長　）

大東中生に「学ぶ環境」と「自ら学ぶ場」を

米原市	活動名　：　いつ今教室	大東中学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

年間開催日数：21 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：４人（兼務０人）　平均参加人数：約 25 人
・学習形態：□個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　■その他（学力補充教室）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　０人　協働活動推進員　１人　協働活動サポーター　１人　その他ボランティア　12 人　計 14 人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
　現在行っている教育活動に加え、生徒に新たな「学ぶ環境と自ら学ぶ場」を提供し、着実に努力させることで子どもたちが自らの「成長」を実感するとともに、学習習慣を定着させる。また、生徒、保護者、教職員に地域住民を加えて学校教育目標の中の「頭を鍛えよ」の実現に向けた取り組みとする。さらに教員の働き方改革にも資する取り組みとする。

■　特徴的な学習支援内容
　コーディネーターの紹介等による地域の方々を講師に迎えて、定期テスト前の放課後や長期休業中に教室を開講する。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
　学校で参加者募集のチラシを配り、できるだけ多くの生徒への参加を呼びかける。

■　事業の成果
　保護者対象の学校アンケートには、教室の実施に関して肯定的に捉えている方が多く、次年度の継続を望んでおられる。
　令和元年度の参加者（１月 27 日現在）･･･延べ人数約 550 名

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
　ボランティア（指導講師）の確保、実施日数の増加にむけた調整等

■　その他

報告書記入者（　教　頭　）

夏休みにしっかり学力を付けよう！

米原市	活動名　：　学力補充教室	柏原小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

年間開催日数：８日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人（兼務２人）　平均参加人数：15 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　４人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計４人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
概要：夏季休業中に希望者を募り、学校の教室を使って学力補充教室を行う。
目的：低学力の児童の基礎的な学力の向上・定着。
　　自宅では学習に取り組むことが難しい児童への学習時間の確保。
　　発展的な課題に取り組む意欲のある児童への支援。

■　特徴的な学習支援内容
夏季休業中の課題に取り組ませて、質問に答えたり、困っている児童に指導したりするなどの支援をした。
担任が用意した学習プリントなどにも取り組ませた。発展的な問題については考え方のヒントを与えるなどの支援を行った。



【それぞれの課題に
取り組む子ども達　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
夏季休業前に文書で学力補充教室について保護者に知らせた。
担任から個別の保護者や児童に参加を呼びかけるなどもした。

■　事業の成果
自宅ではなかなか学習に取り組めない子どもも、この時間には他の子どもと一緒に学習に取り組め、夏季休業中の課題を進めることもできた。
一人では解決するのが難しい発展的な課題にも個別の支援があることで粘り強く取り組むことができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
指導者と指導時間の確保

報告書記入者（　教　　頭　）

受験に向けてのラストスパート！！

米原市	活動名　：　学力補充教室	柏原中学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

年間開催日数：２日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人（兼務２人）　平均参加人数：13 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　１人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　２人　計３人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
概要：冬季休業中に希望者を募り、学校の教室を使って学力補充教室を行う。
目的：３年生を対象として、高校入試に向けての学習支援を行う。

■　特徴的な学習支援内容
高校入試を控えた３年生が各自で準備した課題に取り組む中で、支援員が個々の学習の様子を観察しながら、適宜支援を行った。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
冬季休業前に文書で、生徒及び保護者に開催の案内を行った。
自宅での学習が難しい生徒には、学期末懇談会の中で個別に声掛けをして、参加を促した。

■　事業の成果
３年間の総復習ができる最後の長期休業ということで、生徒も真剣に学習に取り組み、力をつけることができた。
つまずいたり疑問を感じたりする内容をその場で解決できるため、途中で投げ出すことなく集中力を持続して学習に取り組むことができた。また、受験に向けて頑張る仲間の姿が刺激となり、学習意欲が高まった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
今年度は冬季休業中に４時間実施したが、もっと早い時期から時間数も拡大して実施していけるとよい。
教科学習に対する指導だけでなく、小論文の指導等についても検討していきたい。

報告書記入者（　校　　長　）

小グループを利用したサポート学習　～全ての子どもたちの学びを深めるために～

豊郷町	活動名　：　豊日中学校地域未来塾	豊日中学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

年間開催日数：17 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：10 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　■土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　９人　協働活動推進員　０人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計９人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・大学生や教員ＯＢなど地域住民の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい全ての子どもに学習支援を実施し、学年ごとに以下に挙げることをめざした。
３年：進路実現に向けて、基礎･基本的な内容を重点的に学習することによって、基礎学力の定着を図る。
英語科の発展的な学習として、英文を暗唱しスピーチする技能を高め、コンテストに挑戦する。
２年：１学期の学習内容の定着と学力向上を図る。
夏休みの宿題を仕上げることと、確認テスト対策を行い、学習の達成感を味わう。
１年：夏休みに指名制の補習、希望制の質問教室を実施。学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。


【 学力補充教室 】

■　特徴的な学習支援内容
・これまでの補充学習に加え、退職教員による英語科の発展的な学習のサポートも行った。英語によるスピーチ技能の向上に向け個別指導を受けることで自信を付け、コンテストに出場し県大会で入賞することができた。
■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・バッチリスタディ教室（町隣保館主催の通年学力補充教室）担当者とも連携を図りながら学習支援員を募集し、教員と協働で学習支援を行っている。町ぐるみで子どもの学びをサポートする環境の醸成に努めている。
■　事業の成果
・先輩にあたる大学生から気軽に学習や進路についてのアドバイスを受けることができ、積極的に学習するとともに身近なモデルとして捉え、将来や進路を考える契機にもなった。
■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・地域連携担当者である教頭がコーディネートする形での実施になっているため、地域学校協働活動推進員を配置し、地域学校協働本部を組織し、その中での活動として運営されるようになると素晴らしい。

報告書記入者（　教頭　）

学力向上を目指す放課後学習会　学生チューター招聘事業

甲良町	活動名　：　甲良中学校地域未来塾	甲良中学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

年間開催日数：50 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：人（兼務　人）　平均参加人数：30 人
・学習形態：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　１２人　協働活動推進員　〇人　協働活動サポーター　〇人　その他ボランティア　〇人　計〇人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　□元教員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
中学３年生の２学期以降、進学・受験に向けて学力の定着を図るため放課後の時間を利用し、地域の学生を中心とした支援員の協力の下、学力向上のための学習支援を実施。今年度で、３年目となった。
■　特徴的な学習支援内容
生徒は、本人の希望で参加し、毎回 20 名程度の参加があった。支援員の学生は３～６名の参加が得られ、できる限り少人数での学習に取り組んだ。
■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
３年目となり、学生支援員は 12 名と増えた。自分が辞めても次の支援員を紹介してくれるなど、学生が学生を紹介してくれる形ができ、支援員の充実を図ることができた。
■　事業の成果
家庭でなかなか学習に取り組めない生徒の中には、学生支援員が来ることを楽しみに放課後学習会に参加するものもいた。また、意欲的に学習に取り組む生徒からの質問で学生支援員にとっても良い刺激となっている。


【 放課後学習会の様子 】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
学習会に是非とも参加してほしい生徒にどのようにアプローチし、参加を促していくか、放課後学習会を少しでも有効に活用し、低学力の克服を目指したい。

報告書記入者（　教頭　）

中学校・提携塾・博物館が連携して、中学生の学力向上を図る 土曜講座（サタスタ）

多賀町	活動名 ： 土曜講座（サタスタ）	多賀中学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 ■無

年間開催日数：18 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：38 人
・学習形態：□個別の学力補充　■教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方：□放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　４人　協働活動推進員　１人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　０人　計５人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　□元教員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要と目的
中学生の学力伸長を目的に、中学校と連携をして、希望を募り開講している。
年間 18 日間、土曜日の午前中に、町立博物館を会場として開講している。

■ 特徴的な学習支援内容
国語・数学・英語の３教科の学習を、学年別に 50 分間ずつ実施している。
提携塾に講師派遣を依頼し、中学校の年間計画に沿った学習をすすめている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
中学校・提携塾・博物館と調整して開講日を決め、学びやすい講座とした。
宿題を伴う学習を行い、家庭学習とタイアップした効果的な学びの場とした。

■ 事業の成果
経済的に塾に行けない子どもへの学習機会となり、保護者から大変喜ばれている。
学校と連携した指導と効果的な個別支援により、学習に自信を付けた子も多い。


【 土曜講座風景（１年生） 】

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
個別支援の充実を図るために、ボランティアの参加拡大を図る必要がある。奨学金受給者・大学生以外にもボランティアを広く呼びかけ、参加を募りたい。

報告書記入者（　教育専門員　）

学びも遊びも充実した学びっこタイム（放課後見守り）

多賀町	活動名 ： 放課後児童見守り（学びっこタイム）	大滝小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

年間開催日数：60 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人　平均参加人数：15 人
・学習形態：□個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　■その他（宿題プリント、音読、計算カード）
・教室のもち方：■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数：学習支援員　２人　協働活動推進員　１人　協働活動サポーター　０人　その他ボランティア　10 人　計 13 人
・学習支援員等の属性：□企業人　□行政職員　■元教員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　■その他

■ 活動の概要と目的
低学年児童の下校時の安全確保、学習時間の確保、地域住民とのふれあいを目的に、大滝小学校と連携をして、年間約 60 日間、毎週木曜日・金曜日に実施している。

■ 特徴的な学習支援内容
木曜日は宿題のあと、みんな遊びとして、地元産の木材（端材）を使って工作やゲーム、昔遊び等を、金曜日はパソコン、英語、地域サークル等によるカロム、パネルシアター、読み聞かせ（本に関するゲーム含む）など遊びを組み込んだ内容を毎月計画の上実施している。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
参加児童は１・２年生全員。ボランティアは随時募集し、ローテーションにより様々な活動ができるように工夫している。また、児童には月間予定を事前に知らせ、活動に興味を持たせるようにしている。


【 子育てサークルの「パネルシアター」 】

■ 事業の成果
児童は「今日はどんなことするの？」など実施を毎回楽しみに参加しており、保護者も事業の継続を希望されている。ボランティアの方は、子どもたちと学ぶ活動・遊ぶ活動を通して楽しい時間を一緒に過ごし、「子どもたちから元気がもらえる」など良い感想を多く持たれ、欠席することなく予定通り参加されている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
事業内容の充実を図るために、ボランティアの参加拡大を図る必要がある。地域住民やサークル等にも広く募集していく。

報告書記入者（　地域コーディネーター　）

令和元年度　放課後子ども教室一覧

7市町38教室

市町名	教室名	主な実施場所	対象学校区名	委託	委託団体名
近江八幡市（5）	寺子屋　沖島	沖島小学校	沖島小学校		
	寺子屋　岡山	岡山小学校	岡山小学校		
	寺子屋　金田	金田コミュニティセンター	金田小学校		
	寺子屋　安土	安土小学校	安土小学校		
	寺子屋　老蘇	老蘇小学校	立老蘇小学校		
草津市（1）	放課後自習広場	笠縫小学校	笠縫小学校		
栗東市（8）	金勝放課後子ども広場	コミュニティセンター金勝	金勝小学校		
	治西のびのび広場	治田西小学校・コミュニティセンター治田西	治田西小学校		
	はるたっこ広場	治田小学校・コミュニティセンター治田	治田小学校		
	チャレンジはるひがっこ	治田東小学校	治田東小学校		
	大宝わくわくタイム	大宝小学校	大宝小学校		
	大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校	大宝西小学校		
	さんさん・キッズ	大宝東小学校	大宝東小学校		
	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校・コミュニティセンター葉山東	葉山東小学校		
野洲市（7）	野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす	野洲小学校 三上小学校 祇王小学校 篠原小学校 北野小学校 中主小学校	○	野洲市地域教育協議会
	三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ		○	
	祇王ほほえみ体験学習教室	コミュニティセンターぎおう		○	
	篠原地域子ども教室	コミュニティセンターしのはら		○	
	北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		○	
	中主地域子ども教室（中里学区）	コミュニティセンターなかさと		○	
	中主地域子ども教室（兵主学区）	コミュニティセンターひょうず		○	
東近江市（7）	八日市キッズ夏休み学習会	八日市コミュニティセンター	八日市北小学校・箕作小学校		
	みなみっこ学習会（夏休み）	南部コミュニティセンター	八日市南小学校		
	みなみっこ学習会（冬休み）	南部コミュニティセンター	八日市南小学校		
	みなみっこ学習会（春休み）	南部コミュニティセンター	八日市南小学校		
	東近江市アミーゴ教室	福祉センターハートピア	八日市南小学校 箕作小学校 御園小学校 玉緒小学校 玉園中学校		
	放課後子ども教室「まなびぃ」	市原小学校	市原小学校		
	宿題教室	湖東第二小学校	湖東第二小学校		
日野町（6）	日野町チャレンジ教室	日野町立図書館	日野小学校 南比都佐小学校 必佐小学校 桜谷小学校 西大路小学校		
	日野小チャレンジ教室	日野小学校	日野小学校		
	放課後チャレンジ教室	西大路小学校	西大路小学校		
	書道教室・英語教室	南比都佐公民館	南比都佐小学校		
	必佐小学校区放課後こども教室	必佐小学校	必佐小学校		
	桜谷小学校放課後学習	桜谷小学校	桜谷小学校		
豊郷町（4）	夏休みわくわく学習会	日栄小学校	日栄小学校		
	夏休みわくわく学習会	豊郷小学校	豊郷小学校		
	さとっこふれあい教室	豊郷町公民館	豊郷小学校・日栄小学校	○	豊郷町青少年育成町民会議
	とよっ子探検隊	豊郷町公民館	豊郷小学校・日栄小学校	○	

宿題を中心に勉強に取り組み、基礎学力の定着を図ろう

近江八幡市	活動名 ： 「寺子屋 沖島」	沖島小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

主な活動場所：沖島小学校多目的ホール
年間開催日数：42 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数： １人
平均参加人数：14 人　平均スタッフ数： ２人　開始年度：平成 28 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□ 芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　■水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要
内容…宿題や自主学習に取り組む。
対象…水曜日は全児童、金曜日は１，３年生児童

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
わからないところを中心に学習支援員に聞きながら、国語の漢字ドリルや算数の計算ドリル、計算プリントなどの宿題や復習に取り組んだ。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
必要に応じて学校の教員が補助教員として指導にあたっている。

■ 他事業との関わり　なし



【 放課後学習の様子 】

■ 事業の成果と課題
○ 「放課後一定時間学習する。」という意識がかなり子どもたちに浸透している。特に、高学年に行くにしたがって時間いっぱい宿題に取り組んでいる。
○ まだまだ宿題が中心で、予習や復習といった自主的な学習に取り組む姿は少ない。また、放課後学習が家庭学習につながっていかない。

報告書記入者（　教頭　）

～新たな発見、新たな学びを～

近江八幡市	活動名：「寺子屋　岡山」	岡山小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

主な活動場所：岡山小学校各教室
年間開催日数：26 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）： １人
平均参加人数：20 人　平均スタッフ数： ２人　開始年度：平成 31 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□ 芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要
〇子どもたちの学習意欲の向上や主体的な学びの習慣の確立を図ることを目的とし、学校の教室を使って水曜日の放課後に３０分程度実施した。学習支援員は４名で元教員である。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
〇学習支援員が元教員で、それぞれ、国語、社会、算数と専門性を持っておられるということもあり、宿題や学校の学習の補充を行うことはせず、専門性を生かした学習活動を行った。算数ではインド式計算や数の仕組み、国語では論語などの漢文や古文なども提示し、子どもたちの学習意欲の向上を図った。

■ 事業の成果と課題
〇将来学ぶ学習内容を先どりすることで、子どもたちは興味を持って学習に取り組むことができた。
〇学習支援員が様々な教材を工夫し準備していただいているが、予算が十分でない。



【 放課後学習開講式 】

報告書記入者（ 教頭 ）

安全な放課後、安心な居場所づくりを！

近江八幡市	活動名：「寺子屋　金田」	金田小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

主な活動場所：金田コミュニティセンター
年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：25 人　平均スタッフ数：３人　開始年度：平成 29 年度

・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□ 芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）

・活動日：□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要
・４年生の児童（希望者）が放課後コミュニティセンターに集い、学習やスポーツ、体験活動に取り組む。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・市生涯スポーツ課と連携し、スポーツ推進員の指導の下、ニュースポーツ「キンボール」に取り組んだ。
・前半は学習タイム、後半には五色百人一首や俳句づくり、防災学習、地域学習等、児童が喜ぶプログラムを組んだ。
・推進員や学習支援員による絵本の読み聞かせもあり、落ち着いた雰囲気の寺子屋となった。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・推進員と教頭が内容について相談、協議し連携を図った。スポーツの際は学校体育館を開放した。

■ 他事業との関わり
・特になし。

■ 事業の成果と課題
・事後のアンケートでは児童も保護者も大満足な様子で、楽しく充実した活動を振り返っていた。
・希望する児童が多く、場所の関係で抽選となった。参加したい児童が参加できる仕組みづくりが望まれる。

報告書記入者（　教頭　）

教師ではなく地域のいろいろ方とのふれあいをめざし、書く文化活動を広げる。

近江八幡市	活動名：「寺小屋　安土」	安土小学校　学校運営協議会 ： □有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有　□無

主な活動場所：安土小学校各教室
年間開催日数：28 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：35 人　平均スタッフ数：６人　開始年度：平成 27 年度

・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□ 芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）

・活動日：□月　□火　□水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要
・子どもたちに「書く」という活動を通じて学習活動の基礎作り。
・教師ではなく、地域のいろいろな方とのふれあいをめざす。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
（４年）・今の保護者の方々がかつて小学校で学ばれていた教科書の教材から、今は掲載されていない教材を選びその文章を書き写す活動。
（５年）・「朝日こども新聞」の「天声子ども語」のコラム約 400 字をノートに写す。
（６年）・万葉集や古今集などの歌や古典の音読と筆写活動。


【　６年生　古典の音読の後、筆写中　】

■ 事業の成果と課題
６年生９人、５年生 11 人、４年生 17 人の合計 37 人がそれぞれの学年で実施している。６年生の９人のうち転入生１名以外は８人とも３年連続の参加である。参加者の感想を紹介する。
（児童）放課後学習に行ってよかったなと思いました。字もきれいにていねいに書けるようになりました。あと、百人一首も楽しく友だちと戦えて１回だけ勝てたのでうれしかったです。これからも字をていねいにきれいに書いていきたいです。
放課後学習のこれからの課題は、なんといっても指導してくださるボランティアの方のさらなる人材発掘と人材確保である。

報告書記入者（　教　頭　）

寺子屋おいそで学習方法を身につけよう！地域の力、お借りします。

近江八幡市	活動名：「寺子屋　老蘇」	老蘇小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

主な活動場所：老蘇小学校各教室
年間開催日数：18 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：18 人　平均スタッフ数：２人　開始年度：平成 30 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□体験活動　□ 芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　■火　□水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要
・基礎学力の定着をめざした学習活動をする。
・地域の学生による支援を受け、自主学習や家庭学習の方法を習得する。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・計算力の向上をめざして、毎回はじめに「百ます計算」をする。
・決められた学習をするのではなく、各々がやろうと決めた学習をする。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・対象の３・４年生が６時間授業の日に設定し、図書室を活用できるようにした。
・放課後児童クラブが校地内にあるので、寺子屋が終われば各自参加できる。

■ 他事業との関わり
・老蘇まちづくり協議会でも、夏季休業期間中に「寺子屋」を全学年対象に実施している。



【　寺子屋老蘇　】

■ 事業の成果と課題
成果・他学年とともに学習する機会となり、互いがよい刺激を受けあった。
・支援員や教職員など、ひとりに関われる大人が多いので、疑問をもったときにすぐ解決できる環境がある。
課題・下校時刻が遅くなるので、保護者の迎えを必須条件としたため、保護者の都合で参加できない児童がいる。

報告書記入者（　　教頭　　）

学びのセーフティーネット　～学習習慣の定着を目指して～

草津市	活動名　：　放課後自習広場	笠縫小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

主な活動場所：笠縫小学校各教室
年間開催日数：35 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：44 人　平均スタッフ数：２人　開始年度：平成 30 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□体験活動　□ 芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：■月　□火　□水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要
・小学校１年生から３年生を対象に放課後の時間帯を活用し、自学自習を行うことで、児童の学習習慣の定着を図る。
・課業時間に学習したことを反復することで学習意欲を高め、家庭での学習につなぐ。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・宿題や復習等、「何を勉強するか」を自分で決めて取り組ませることで、家庭学習の自分のスタイルを見つけさせ、定着させるように工夫している。
・校内教室で実施し、終了時刻を高学年の下校時刻に合わせることで、安全に過ごし下校できるようにしている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・運営委員会において、各事業の実施方法等について連絡調整を行っている。
・事業の後、放課後児童クラブにいく児童は、放課後児童クラブの担当職員が送迎を実施している。



【　放課後自習広場　】

■ 事業の成果と課題
・参加児童は、一定時間主体的に学習する習慣がついてきている。
・下校指導については、児童ごとに対応が異なり、事故・トラブルが生じた際に、現場にいる支援員の精神的負担が大きい。
・学校の敷地内で実施する事業のため、保護者からの連絡が学校あてに来ることも多く、参加に関わる必要な家庭連絡等、担当教員の業務負担となることがある。

報告書記入者（　　教頭　　）

卓球を通してみんなとふれあう「金勝放課後子ども広場」

栗東市	活動名 ： 金勝放課後子ども広場	栗東市立金勝学校 学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

主な活動場所：コミュニティセンター金勝
年間開催日数：４日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：28 人　平均スタッフ数：６人　開始年度：平成 30 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□ 芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中

■ 活動の概要
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
・コミュニティセンターにある卓球台を活用し、卓球の体験活動を通して異学年の子ども達や地域住民との交流を深めました。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・コミュニティセンターがふれあいサロン事業として実施しているシニア卓球教室に参加されている地域の方々にサポータースタッフとしてご協力いただき、地域住民と子ども達の交流にもつなげています。


【 卓球 】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学童の子ども達と合同ですることもありました。

■ 他事業との関わり

■ 事業の成果と課題
・卓球経験のない子ども達にもサポータースタッフの方々が丁寧に指導してくださるおかげで、徐々に上達していき、笑顔が増え、和気あいあいとした雰囲気で卓球を楽しむことができてスポーツの楽しさを感じてもらうことができました。
・夏休み期間以外にもコミュニティセンターや地域の方々の協力を得て、活動を広げていけるよう取り組みを進めていきたいです。

報告書記入者（　市担当者　）

人権・なかまづくりを大切にのびのび活動する「治西のびのび広場」

栗東市	活動名 ： 治西のびのび広場	栗東市立治田西小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

主な活動場所：治田西小学校体育館、コミュニティセンター治田西
年間開催日数：28 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：27 人　平均スタッフ数：８人　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□ 芸術・文化　■スポーツ
・活動日：□月　■火　■水　■木　■金　■土　■日　■長期休業中

■ 活動の概要
・地域と学校が連携し、互いに助け合い、励まし合う活動を通して、人権意識を高め差別をなくしていこうとする態度の育成や連帯意識の高揚を図り、地域でのなかまづくりを進めてきました。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・人権学習、集団遊び、創作活動、平和学習、クッキング、スポーツ活動など毎回内容を変えながら、様々なジャンルの体験活動を行いました。
・人権学習の一環として、地域のふれあい文化祭でステージ発表を行いました。
・帰宅時には地域のサポータースタッフが子どもたちと一緒に帰ることにより、保護者の迎えがなくても活動に参加できるようにしました。


【 ふれあい文化祭での発表の様子 】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・教員がスタッフとして参加し、活動内容の決定や進行等、主体的に活動にかかわっています。
・地域の方にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら、事業活動を進めています。また地域の様々な団体の方（総合型スポーツクラブの方々など）と協働して活動しています。地域からは資金面の支援もいただいています。

■ 事業の成果と課題
・軽スポーツや創作活動、人権学習など様々な体験活動を通じて、子どもたちは楽しく過ごす中で、異学年同士の子どもたちの交流もでき、仲間意識が少しずつ育ちつつあります。サポーターとして事業に係っていただいている地域の方々や、地域の様々な団体の方々と一緒に活動することにより、地域の方々と子どもたちとの交流を深めることができました。
・スタッフの高齢化、スタッフの不足が課題になっています。

報告書記入者（　学校担当者　）

いつも楽しいみんなの広場「はるたっこ広場」

栗東市	活動名　：　はるたっこ広場	栗東市立治田小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：治田小学校体育館　コミュニティセンター治田
年間開催日数：25 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：38 人　　平均スタッフ数：８人　　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　■スポーツ
■その他（　自由遊び　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
・高学年の授業により、体育館が使用できない間はコミュニティセンターで宿題に取り組んだり、絵本の読み聞かせを行ったりしました。体育館では、ボール遊びやなわとび、バドミントンなど軽スポーツを中心に自由遊びをいました。


【　びっくりコラージュ　】

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・季節の体験活動として、七夕飾り作りをしました。クリスマスにはお楽しみ会を開催し、コミュニティセンターの調理室でホットケーキ作りをしました。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校には参加児童への連絡調整等でご協力をいただいています。

■　他事業との関わり

■　事業の成果と課題
・自由遊びや、読み聞かせを通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
・スタッフの高齢化やスタッフ人数不足が大きな課題となっています。

報告書記入者（　　市担当者　　）

新しいことにどんどんチャレンジ「チャレンジはるひがっこ」

栗東市	活動名　：　チャレンジはるひがっこ	栗東市立治田東小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：治田東小学校体育館
年間開催日数：27 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：18 人　　平均スタッフ数：６人　　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにしました。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・６月七夕飾り作り、10 月餅つき、12 月クリスマス会、２月節分遊びと季節に応じた体験活動を実施しました。７月には親子参加のお楽しみ会として、ながしそうめんやかき氷を行いました。お楽しみ会は地域の家族同士が交流する機会にもなりました。


【　お楽しみ会　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいています。

■　他事業との関わり

■　事業の成果と課題
・自由遊びや、季節に応じた体験活動通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
・スタッフの高齢化やスタッフ人数不足が大きな課題となっています。

報告書記入者（　　市担当者　　）

いつも楽しいわくわく活動「大宝わくわくタイム」

栗東市	活動名　：大宝わくわくタイム	栗東市立大宝小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：大宝小学校体育館
年間開催日数：22 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：37 人　　平均スタッフ数：８人　　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
・活動内容については事前に決定し、ボール運びリレーや紙鉄砲作りなど毎回違う活動を行いました。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・七夕飾り作りやクリスマスグッズ作り、お正月遊びなど季節に応じた活動を行いました。
・毎活動の最後にドッジボール（ドッジビー）を行いますが、年齢差や体力差などに考慮したチーム分けをした対戦を行い、全員が楽しめるよう工夫しました。


【　ボール運びリレー　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校には参加児童への連絡調整等でご協力をいただいています。

■　他事業との関わり

■　事業の成果と課題
・毎回内容の違う体験活動や遊びを通して、子ども達が楽しく放課後を過ごすことができ、色々なことに興味を持つきっかけを与えることができました。
・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
・スタッフの高齢化やスタッフ人数不足が大きな課題となっています。

報告書記入者（　　市担当者　　）

地域の方とのふれあいを大事に「大宝西ふれあい子ども広場」

栗東市	活動名　：　大宝西ふれあい子ども広場	栗東市立大宝西学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：大宝西小学校体育館
年間開催日数：26 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：26 人　　平均スタッフ数：８人　　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、月 1~2 回程度季節に応じた体験活動を行いました。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・６．７月七夕飾り作り、10 月綱引き、12 月クリスマス会、１月カルタ大会など季節に応じた体験活動を行いました。誕生日の参加者がいる月の最後の回にはみんなで誕生日の歌を歌うなどのお祝いを行いました。


【　七夕飾り作り　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校には参加児童への連絡調整等でご協力をいただいています。

■　他事業との関わり

■　事業の成果と課題
・自由遊びや、季節に応じた体験活動通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
・スタッフの高齢化やスタッフ人数不足が大きな課題となっています。

報告書記入者（　　市担当者　　）

明るく元気に太陽のように「さんさん・キッズ」

栗東市	活動名　：　さんさん・キッズ	栗東市立大宝東学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：大宝東小学校体育館
年間開催日数：28 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：53 人　　平均スタッフ数：９人　　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにしました。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・７月しゃぼん玉遊び、１月かるた遊び、スローイングビンゴ体験を行いました。スローイングビンゴ体験では地域のスポーツ推進委員の方に指導していただきました。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいています。

■　他事業との関わり


【　スローイングビンゴ　】

■　事業の成果と課題
・自由遊びや、体験活動で新たな遊びと出会うきっかけを与え、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
・スタッフの高齢化やスタッフ人数不足が大きな課題となっています

報告書記入者（　　市担当者　　）

活動を通してみんなとふれあう「葉山東ふれあい子ども広場」

栗東市	活動名　：　葉山東ふれあい子ども広場	栗東市立葉山東小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：葉山東小学校体育館　コミュニティセンター葉山東
年間開催日数：29 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：42 人　　平均スタッフ数：10 人　　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行いました。
・軽スポーツ・クラフト・将棋の３部門にわかれて活動を行いました。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・通常は３部門がそれぞれ別々に活動しているため、他部門の参加者との交流機会がないことから、年に数回全部門合同でお楽しみ会を実施し、別部門の参加者とも交流を図りました。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいています。

■　他事業との関わり


【　将棋　】

■　事業の成果と課題
・各部門によるそれぞれの体験活動を通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
・スタッフの高齢化やスタッフ人数不足が大きな課題となっています

報告書記入者（　　市担当者　　）

まず一度やってみよう。いろいろなことを体験して、初めて分かることがいっぱいある！

野洲市	活動名：野洲学区わくわく子どもクラブ	野洲小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

主な活動場所：コミュニティセンターやす
年間開催日数：12 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数： １人（兼務１人）
平均参加人数：15 人　平均スタッフ数： ３人　開始年度：平成 18 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　■ 芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要
いけ花教室・絵手紙教室・親子クッキング・日本舞踊や茶道教室など学校での基礎的な学習の他に、派生的に子どもたちがやって見たいと思う体験学習を主体的にテーマに掲げ、子供の興味を引き付け、参加意欲を高めることをねらっている。地元のお店に協力いただき材料の購入はじめ、職人さんの出前講座で手作り体験もあり、座学だけなく体験して・身体を使って学習することに重きをおいて進めている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
学年ごとではなく、全学年同時に同じ内容の課題に取り組んで、協力しあい、見習いながら、そろぞれの共同体験学習に取り組んで、成果を上げている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
月に１回土曜日の午前中に開催しているので、直接的に学校の放課後ではないが定期開催なので、生活のリズム形成にかかわっているのではと思われる。

■ 他事業との関わり
開講式は毎年５月にすべての参加者及び父兄も交えて、文化小劇場にて開講式を開催、これから１年一緒にやろうという気持ちを盛り上げて連帯感を築いている。


【　わくわくいけ花教室　】

■ 事業の成果と課題
長年にわたり「子どもクラブ」を開催し、同じ子が１年から６年卒業まで継続しており最初はおぼつかない様子だったのが、卒業するころには立派に体得し、家庭においても成果を発揮していることが想像されて非常に喜ばしいと思われる。

報告書記入者（　コミュニティセンターやす事務局長　）

今年も新しい自分にチャレンジ！仲間と一緒に楽しもう！

野洲市	活動名　：三上楽しいクラブ活動	三上小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 □無

主な活動場所：コミュニティセンターみかみ
年間開催日数：50 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数： １人（兼務１人）
平均参加人数：12 人　平均スタッフ数：2. 75 人　開始年度：平成 14 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　■ 芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　□日　□長期休業中

■ 活動の概要　月１回／年間
○「生け花」（第１土曜日）　○「クッキング」（第３土曜日）
○「茶　道」（第４土曜日）　○「将　棋」（第２，４土曜日）

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・子ども達の居場所のひとつとして活動、他に体を動かして楽しむクラブが４つあり複数楽しめるよう、なるべく活動日が重ならないように調整している。
・コミセンまつり事業での生け花の展示や来館者へ呈茶でのもてなし、将棋は他館の子どもとの交流戦など活動の成果を試す試みを行っている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・当クラブは平日の開催はなく、連携は今のところない。

■ 他事業との関わり
・年に一度のコミセンみかみ事業（悠紀まつり）では、先にも書いた通り発表の場を設けていて、茶道クラブのお茶でのもてなしは毎年地域の方に喜んでいただいている。


【クッキングの様子】

■ 事業の成果と課題
・複数のクラブを楽しんでいる姿が見受けられ、子どもの居場所として機能を果たしていると思われる。
・活動支援員の後継者不足が課題である。

報告書記入者（ 三上地域教育推進委員会事務局 ）

色んなことにチャレンジしよう！！「ぎおう子ども体験教室」

野洲市	活動名　：祇王ほほえみ体験学習教室	祇王小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：コミュニティセンターぎおう
年間開催日数：51 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：21 人　　平均スタッフ数：７人　　開始年度：平成 17 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　■　芸術・文化　■スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　■日　□長期休業中

■　活動の概要
・クッキング教室は、学区の健康推進員の指導のもと、料理の楽しさ、健全な身体づくりをと実施している。
・よさこい妓王は、よさこいを通して、地域に『笑顔と元気』をと活動している。



■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・祇王学区には、妓王まちづくり推進協議会があるので、地域とのふれあいを重視し指導者はなるべく地域から出てもらうようにしている。
■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・２つの教室とも学校や地域と、企画や募集を連携している。
■　他事業との関わり
・なるべく多くの子ども達に参加してもらえるよう日程・内容の調整をしている。
■　事業の成果と課題
・子どもたちが教室で習った料理を自宅で作り家族にふるまったり、家事を手伝えるようになった。
・よさこいの演舞を人前で披露することで自信を持ち積極的な思考がもてるようになった。
・地域の人と交流することで、子どもたち自ら地域の大切さを学んでくれている。

報告書記入者（ コミュニティセンターぎおう事務局 ）

かわいい子には体験を！自然に触れ、人に触れ、健やかな成長を育む「ワクワクしのっこ」

野洲市	活動名　：篠原地域子ども教室	篠原小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：コミュニティセンターしのはら
年間開催日数：52 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：15 人
平均参加人数：７人　　平均スタッフ数：2.5 人　　開始年度：平成 17 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　■　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　■日　■長期休業中

■　活動の概要
学校の休日を、子どもたちに有効に過ごしてもらえることを考え、少しでも、自然に触れ、人に触れる体験活動をして、健やかな成長を育む。
■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
日本文化の体験として、茶道や、臼と杵を使った餅つき、流行のハーバリウムを取り入れたりしている。
■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
土・日や長期休暇に実施する為、連携が取れていない。今後、何らかの形で協力できればと思う。
■　他事業との関わり
大きな行事の時は青少年事業として、館外にも出掛け、指導者にも幅広く協力を願っている。



【　ハーバリウム教室　】

■　事業の成果と課題
茶道教室は、１年ではなく継続している子がいる。女子の参加率が高く、男子の参加率を高める事業を考えていきたい。
低学年の参加が多いので、指導者のみならず、お手伝いのボランティアを増やしていきたい。

報告書記入者（ 篠原地域子ども教室運営協議会事務局 ）

活動を通してみんなと触れ合う「北野っ子フレンドリークラブ」

野洲市	活動名　：北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

主な活動場所：コミュニティセンターきたの
年間開催日数：24 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：25 人　　平均スタッフ数：７人　　開始年度：平成８年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　■芸術・文化　■スポーツ
■その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
青少年育成が年間計画を立案し学校を通して募集し、土曜日の９時 30 分から２時間

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
１~３年生は、保護者の送迎を原則とした。　緊急時のために、固定電話、携帯番号を通知願っている。健康推進員,又他に活動されている方々に依頼して活動。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
コミセンきたの敷地内を活動基本としているので連携はない。

■　他事業との関わり
北野育成会活動だけで他の事業との関わりは、スタッフ不足で対応出来ない。

■　事業の成果と課題
教室の編成を同年代のみにせず、クラブ形式とした。学校では機会が少ない料理教室、お菓子作などに多く時間を当てる。
今後の課題：指導者探し、サポーターの後続者が問題として残る。



【　将棋　教室　】

報告書記入者（ 北野小学校区育成会会長 ）

体験は心と体の栄養だ！さあ元気になろう！

野洲市	活動名　：　中主地域子ども教室（中里学区）	中主小学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

主な活動場所：コミュニティセンターなかさと
年間開催日数：20 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：２人　　開始年度：平成 18 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　■日　□長期休業中

■　活動の概要
茶道クラブ、手芸クラブ、各月１回、年間 10 回を小学生以上対象で行っている。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
【茶道クラブ】・12 月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしている。
【手芸クラブ】・子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
小学校を通じてチラシ（申込用紙）を配布している。

■　他事業との関わり
学校行事と子ども教室事業の日程調整を行い、参加しやすい環境づくりに努めている。

■　事業の成果と課題
〔課題〕・子ども達の習熟度にバラツキがあるので、少数の指導者で教えるのが難しい。
・子どもたちの集中力を持続させる工夫が必要である。
〔成果〕・集中力の持続性や達成感を得られ、そのことが学習意欲の向上に結び付く一助となっていると考えられる。



報告書記入者（中主地域子ども教室運営協議会事務局／中里学区）

みんな仲良くいろいろ体験　いつも元気な中主っ子

野洲市	活動名　：中主地域子ども教室（兵主学区）	中主小学校　学校運営協議会　：□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：□有　□無

主な活動場所：コミュニティセンターひょうず
年間開催日数：20 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：３人　　開始年度：平成 18 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　■　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　■日　■長期休業中

■　活動の概要
基本的に子どもたちの自主性を尊重し、学校では経験出来ない体験をする中で楽しい仲間作りに繋げていく場を提供している。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
クッキング教室は小学生とその保護者（親や祖父母）が一緒の参加としているが幼児の兄弟姉妹も参加可能としているので、家族中で料理を楽しんでもらっている。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
教室開催チラシを小学校に持って行き、全校生徒への配布をお願いしている。

■　他事業との関わり
コミュニティセンターひょうずの収穫祭において茶道クラブの小学生たちに着物姿でお抹茶コーナーの接待を手伝ってもらい、地域の方に喜んでもらっている。

■　事業の成果と課題
茶道クラブにおいては異学年の子どもたちが年々上達していく中で、コミュニケーション能力や協力性が培われているように思う。


【クッキング教室】

報告書記入者（中主地域子ども教室運営協議会事務局／兵主学区）

子ども達の健やかな成長を願い、地域・学校・家庭が手を携え合う学習会

東近江市	八日市キッズ夏休み学習会	箕作小学校　学校運営協議会　：□有　■無

主な活動場所：八日市コミュニティセンター　　対象本部：箕作小学校・八日市北小学校
年間開催日数：４日　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：33 人　　平均スタッフ数：22 人　　開始年度：平成 29 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
■その他（　交流活動　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中（夏休み）

■　活動の概要
・地域の児童の夏休みの宿題を、地域のボランティアが支援する。
・ダンス、ゲーム、英語ストレッチを取り入れ、参加児童の交流を図る。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
学習だけでなく、英語遊びやダンス等を取り入れて、児童が楽しんで参加できるように工夫している。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校を通じて夏休み学習会の案内を児童へ周知している。
・主催団体から、年２～３回、校長に活動報告をして、指導助言を受けている。


【　学習会の様子　】

■　事業の成果と課題
・多くの児童が参加し、夏休みの宿題だけでなく、楽しんで活動することができた。
・箕作小学校の児童だけでなく、聖徳中学校区の児童が校区の中心にある八日市コミセンで交流することができた。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員、教頭　）

わかった！できた！～地域の人々と学ぶ学習会～

東近江市	みなみっこ学習会	八日市南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：南部コミュニティセンター　　地域学校協働活動推進員数： １人　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数： ８日
（夏休み）開催日数： ４日　　平均参加人数：30 人　　平均スタッフ数：10 人
（冬休み）開催日数： ２日　　平均参加人数：37 人　　平均スタッフ数：12 人
（春休み）開催日数： ２日　　平均参加人数：30 人　　平均スタッフ数：10 人　※予定
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中（夏休み・冬休み・春休み）

■活動の概要
長期休業中の宿題等の支援を通じて、子どもたちが学習習慣を身につける。
■特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・学習後に低学年はカルタ、高学年は百人一首を実施した。
・学習時間（２時間）に時間割を設定し、間に休憩を挟むことでメリハリが出た。
■学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
学校から教職員が訪問したことで、児童のやる気が高まったように思う。
■他事業との関わり
南部まちづくり協議会と一緒に活動をしている。ボランティアの募集だけでなく参加児童のおやつや学生ボランティアへの謝礼など金銭的な補助もしてもらった。
■事業の成果と課題
・学習後に百人一首をすることで、楽しみながら百人一首の句を覚えることができた。
・学生ボランティアは、参加児童と年齢が近いためコミュニケーションがとりやすい。
・高校生にもボランティアとして参加してもらっている。
・ボランティアの確保が年々難しくなっている。


【学習の様子】

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

「地域に根づき育つ子」の育成

東近江市	東近江アミーゴ教室	東近江市地域学校協働本部 学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：東近江市福祉センター　ハートピア　年間開催日数：36 日　　地域学校協働活動推進員数： １人
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数： ９人　　開始年度：平成 23 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・毎週土曜日　午後２時から午後４時
・国語、算数、社会等の学習支援及び日本語の習得

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・参加者それぞれの課題に応じた個別教科学習の実施
・かるた等を活用した日本語習得学習

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・学校からの宿題等の支援

■　他事業との関わり
・地域の社会福祉団体と連携して、クリスマス会等を実施


【　地域の社会福祉団体との交流の様子　】

■　事業の成果と課題
・個々の課題に応じた学習支援を実施することで課題克服及び日本語習得の成果が感じられる。
・参加者のつながりが生まれ、よき居場所となっている。

報告書記入者（　統括コーディネーター　）

地域で学び、地域で育つ「市原っ子」の明るく楽しい共同学習の場

東近江市	放課後子ども教室「まなびぃ」	市原小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：市原小学校
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員数： １人
平均参加人数：40 人　　平均スタッフ数： ４人　　開始年度：平成 25 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
■その他（コンピュータを活用した自主学習ｅライブラリ）
・活動日：□月　□火　□水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
１年生～３年生は、前半 16:00～17:00　保護者送迎
４年生～６年生は、後半 17:00～18:00　保護者送迎
(30 分間は図書室で自学・共同学習、30 分はコンピュータ室でｅライブラリ)

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・『まなびぃ　ふりかえりカード』に「今日のめあて」を記入して学習に取り組む。
・終了時点、児童は「マナビィふりかえりカード」に成果等を記入している。
・児童が主体的に活動するようにしている。支援者は必要な時に寄り添うのみ。
・ｅライブラリでの学習を個々に積み上げている。


【　友だちと学び合う子どもたち　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・要請はしていない。一般教員は適宜自由に児童の活動を見守る。
・管理職がＰＣの準備、受付を手伝い、後始末、施錠などの管理は管理職。

■　事業の成果と課題
・「まなびぃ」の日を楽しみにして参加申込みを継続されている。
・送迎が難しい保護者の参加希望をどうするかが課題。小字草の根ハウス等での開催を望まれているが人材不足である。
・児童は「小学校（図書室・コンピュータ室」は学びの場）と認識しているので、主体的に学習を行っている。
・担当している人への挨拶、靴を並べて脱ぐなどのマナーが育ってきた。

報告書記入者（　校長　）

宿題教室（夏休み・冬休み）

東近江市	宿題教室	湖東第二小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

開始年度：平成 29 年度　　主な活動場所：湖東第二小学校　　地域学校協働活動推進員数： １人
（夏休み）開催日数：３日　　平均参加人数：25 人　　平均スタッフ数：９人
（冬休み）開催日数：３日　　平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：５人
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中（夏休み・春休み）

■　活動の概要
長期休業中の学習支援

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
地域の社会人や大学生、高校生に協力を得て、学習支援を行う。


【　夏休み宿題教室　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
担任や関係職員もできるだけ参加し、学習支援を行う。

■　事業の成果と課題
長期休業中の学習課題等、子どもたちの学習を支援していただき、学習意欲の高まりにつながっており、保護者の喜ぶ声もある。参加いただいているボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると喜んでくださっている。

報告書記入者（　教頭　）

自分のペースでできる学習をサポート！！　「日野町夏休みチャレンジ教室」

日野町	活動名　：　日野町チャレンジ教室	日野町　　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：日野町立図書館
年間開催日数：６日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人（兼務２人）
平均参加人数：40 人　　平均スタッフ数：10 人　　開始年度：平成 26 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中

■　活動の概要

自分で学習内容を決めて取り組みたい児童、基礎的・基本的な学習内容について自分のペースで取り組みたいと考えている児童を対象に、日野町内退職教員有志が中心となり、大学生の学習支援ボランティアとともに少人数体制で学習支援を展開し、学習に対する関心や意欲をより一層高めることを目的とする。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

町内５校の３年生～６年生の子どもたちを募集し、参加決定後、どのような学習に取り組みたいかについて各自計画を立てさせるようにした。

学習支援スタッフの事前会議を２回実施し、学年や児童の興味関心や取り組みたい学習内容からグループを設定して、スタッフの配置を決める。学習の終盤には自分の計画に対しての振り返りや次の日の見通しを持たせる。ホワイトボードを活用し、学習支援スタッフからのアドバイスだけでなく、子どもたち同士の教え合いを大切にするようにする。



【　夢中で学習に取り組む子どもたち　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

参加した子どもの中には、学校主催の補充学習に参加している場合もある。学習支援スタッフが学校の学習支援にも関わることがあり、子どもたちも安心して学習に取り組むことができている。

■　事業の成果と課題

４人に１人のスタッフを配置し、苦手な問題に対してきめ細かな声かけや指導ができた。「集中して勉強が進められた」「いろいろな問題に挑戦できた」という声が多く聞かれ、有意義な学習の場となった。

報告書記入者（　学校教育課　参事　　）

「日野小チャレンジ教室」の取組

日野町	活動名　：　日野小チャレンジ教室	日野小学校　　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：日野小学校各教室
年間開催日数：７日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：25 人　　平均スタッフ数：５人　　開始年度：平成 30 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中

■　活動の概要

夏季休業期間において実施した。夏休みの宿題や各自がやりたいと思う自主課題、また、復習のための補充プリントなどに取り組んだ。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

補充プリントを多数用意し、児童の実態に合わせて取り組めるように工夫した。個別の指導により、児童の苦手なところがしっかりと理解できるようにした。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

各学級において、チャレンジ教室への参加の呼びかけをした。また、学習支援員とともに学級担任も学習指導に当たった。

■　他事業との関わり

日野小チャレンジ教室の日に合わせて、学校の図書室開放を行った。また、日野町が実施する「日野町夏休みチャレンジ教室」への参加も積極的に呼びかけた。



【夏休みの日野小チャレンジ教室】

■　事業の成果と課題

大変集中して、じっくりと学習に取り組む児童の姿が見られた。複数のスタッフがいることで、苦手な問題や自分一人では取りかかりにくい課題に対して困っている児童へ、個別の声かけや指導ができた。児童からは、「集中して勉強できた」、「苦手だった問題が解けるようになって嬉しい」、「いろいろな問題に挑戦できた」という声があり、有意義な学習の場となった。

報告書記入者（　　教頭　　）

放課後にじっくりゆっくり勉強タイム！　日野町立西大路小学校　放課後チャレンジ教室

日野町	活動名　：　放課後チャレンジ教室	西大路小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：西大路小学校各教室、和室
年間開催日数：65 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：３人（兼務１人）
平均参加人数：６人　　平均スタッフ数：２人　　開始年度：平成 29 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：■月　■火　□水　■木　□金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
学習に支援が必要な児童（３年～６年対象）を中心に、放課後、宿題や基礎学習を行う。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
10 名でスタートしたが、落ち着きのない児童もおり、年度途中で少人数グループに編成しなおした。そうすることで、集中して学習に取り組める雰囲気ができた。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
時々、担任が様子を見に来て、指導を行う場面もあった。

■　他事業との関わり
特になし


【　きめ細かくじっくりと
放課後チャレンジ教室　】

■　事業の成果と課題
＜成果＞　少人数での学習なので、個々の学習のつまずきがわかり、個々に応じた学習を行うことができた。
＜課題＞　60 分間いかに児童の集中力を持たせるか、学習意欲を持たせるか、が課題である。

報告書記入者（　　教頭　　）

「なんぴが大好き」～地域の学び場づくり～

日野町	活動名　：書道教室・英語教室	南比都佐小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：南比都佐公民館
年間開催日数：44 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：33 人　　平均スタッフ数：２人　　開始年度：平成 25 年度（書道教室）　平成 28 年度（英語教室）
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　■金　■土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
・英語の基礎、発音などを中心に、学校での補充学習を実施。（英語教室）
・硬筆・毛筆の書き方の基礎を習得する。滋賀県書道協会の検定に出品。（習字教室）

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・毎月の作品を公民館のロビーに展示、文化祭に作品を展示している。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・小学校と活動場所の公民館が隣接しており、学童保育の子どもたちの参加が多い。


【英語学習の様子】

■　事業の成果と課題
・毎週、楽しみにしている児童が多く、地域の良き学びの場として定着している。
・本校は小規模校のため、児童の下校時の人数が少なく、一人きりで帰ることがないように配慮している。平日の教室は、教室に直接参加する児童がいるため、下校時の調整が難しい。

報告書記入者（　　教　頭　　）

“できた”“わかった”を増やし、子どもたちの学習意欲を引き出す

日野町	活動名　：　必佐小学校区放課後子ども教室 「放課後必佐寺子屋」	必佐小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：必佐小学校各教室
年間開催日数：54 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：０人（兼務０人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：３人　　開始年度：平成 26 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　■火　□水　■木　■金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
中・高学年を対象とした補充学習の実施

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・教科は算数に限定（プリントを使っての学習）する。
・算数の基礎基本について、苦手や遅れが見られる部分の補充を行う。
・授業内容の理解が不十分な部分の補充を行う。ただし、宿題は取り扱わない。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
・参加児童は授業終了後、下校せずに放課後１５：４５～１６：３０に少人数教室で学習する（下校は保護者の迎えを基本とする）。


【　学習の様子　】

■　他事業との関わり
・平成 31 年度退職教員の豊かな経験を活用した学校教育活動支援事業（県幼小中教育課）

■　事業の成果と課題
・参加することで、内容理解が不十分であった授業の復習ができ、日常の授業へ意欲的に取り組む児童が増えた。
・学習アンケート「家で、自分の計画を立てて勉強しますか。」（5 月・1 月実施）において、強肯定評価が 5 ポイント向上した。
・参加児童を増やしたいが、指導人数との兼ね合いもあり、指導が必要と思われるすべての児童の参加が難しい。

報告書記入者（　　教頭　　）

子どもの「わかった！」「できた！」が増えるといいな～放課後学習

日野町	活動名　：　桜谷小学校放課後学習	桜谷小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：和室
年間開催日数：21 日　　平均参加人数：42 人　　平均スタッフ数：４人　　開始年度：平成 29 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　■木　□金　□土　□日　□長期休業中

■　活動の概要
木曜日　１，２年　１４：４５～１５：３０
３～６年　１５：３０～１６：１５
この時間帯を活用し、校内の和室で算数の復習を中心に学習を進めている。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
・参加の希望者を募るが、放課後の時間帯であるので、下校の仕方が前もってわかるように連絡カードを作る。学童へ行く、バスで帰る、お迎えで帰るなどを記入できるようにしておく。
・学習したプリントは、各自のファイルにとじ、学習の成果を残していく。何を学習　したのか、どこがわからなかったのかなど振り返ることができるようにする。


【　和室での放課後学習　】

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
学期毎に出席カードを作り、参加する日を学習日の月曜には確認する。希望による参加が中心であるが、欠席などで学習した方が良いと考える子どもには、担任から声もかける。
学童に行く子どもは、この学習を終えてから学童に向かう。

■　事業の成果と課題
低学年ほど希望者が多いが、学習の始めに 100 マス計算などで口を閉じて静かに取り組む時間を設け、その後、課題に取り組むようにすると、集中して学習できるようになってきた。わからないことを確認しながら、進むことができるが、人数が多く個々に対応仕切れない場面があることが課題である。

報告書記入者（　　教頭　　）

個のつまずきに寄り添った補充教室　（日栄小学校）

豊郷町	活動名　：　夏休みわくわく学習会	日栄小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：日栄小学校
年間開催日数：３日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：150 人　　平均スタッフ数：23 人　　開始年度：平成 20 年度
・活動内容：■学習支援員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中

■　活動の概要
夏季休業中に３日間の３回、自主参加の学習会を午前９時～11 時半まで開催している。地域の教員 OB や役場職員、県内外の大学生、近隣の保育園・幼稚園の職員等をボランティアスタッフとして招き、児童の学習支援をお願いしている。
１回を３校時に分け、１校時国語、２校時算数のプリント選択学習、３校時は自主学習に取り組む。スタッフによる読み聞かせやみんなで百人一首などをする時間に充てた。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
３回目の３校時は、長浜バイオ大学の CELL 部の協力を得て、「おもしろ科学実験教室」を開催し、科学的な事象の面白さに気づける機会をもった。
子どもが主体的に取り組めるよう、学習単元、題材を複数用意し選べるようにした。



■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
参加者募集から実施まで、担当者間で連携し学習会のねらいや実施方法など打ち合わせを密に行った。

■　他事業との関わり
わくわく学習会のボランティアスタッフと町の他の事業で出会うことがある。

■　事業の成果と課題
長期休業中に定期的に学習会を実施することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡を取って話したりすることができた。プリント学習が中心であったので、自分のペースで学習を進めることができた。
子どもたちの中には、休み時間や休憩時間に地域の大人や大学生のスタッフと話すことを通して、大人への憧れや大学に行きたいと感じる子もおり、キャリア教育の視点からも良い機会となった。
夏季休業中であり、申込みはしたが、当日欠席という子も結構多かった。

報告書記入者（　教務主任　）

とよっ子探検隊

豊郷町	活動名　：　とよっ子探検隊	日栄・豊郷小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：各体験活動場所
年間開催日数：４日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：3 人　　開始年度：平成 20 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ
□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　■日　■長期休業中

■　活動の概要
小学４年生から小学６年生対象事業。博物館や牧場などで体験活動を行った。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫
普段体験できないようなことを体験できるプログラム作りを心掛けている。

■　学校や放課後児童クラブとの関わり・連携
町内すべての小学校に募集をかけるため、普段は関わりを持たない子ども同士の関わりができた。

■　事業の成果と課題
体験活動を行うことで、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられた。興味が湧くプログラムづくりが課題である。

報告書記入者（　事務局員　）

夏季休業中学力補充教室「夏休みわくわく学習会」　（豊郷小学校）

豊郷町	活動名　：　夏休みわくわく学習会	豊郷小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：豊郷小学校
年間開催日数：４日　　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均参加人数：171 人　平均スタッフ数：19 人　　開始年度：平成 20 年度
・活動内容　：　■学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他
・活動日　：　□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中

■　活動の概要

〇将来を担う子どもたちの学習意欲向上をねらいとして、町と小学校が協働して、各学年における１学期の既習内容などの復習に取り組む。１・２時間目は国語と算数のプリント学習を中心に学習する。３時間目は、自ら教科やテーマを決めて進める自主学習、あるいは百人一首や辞書を用いた学習など、各学年の状況に応じて子どもたちが楽しみながら学習できるよう工夫している。

〇１・２時間目は子どもたちが１学期学んだことの復習に取り組み、わからないところを大学生や町の機関などから参加していただいた方に教えてもらいながら活動に取り組んでいる。３時間目については、「科学実験教室」を開催するなど、子どもたちの興味や関心を高められる取組をしている。

■　特徴的な活動内容や実施に当たっての工夫

〇保護者に募集案内を配り、懇談会で担任から保護者に直接参加を呼びかけたり、事前に学習を周知したりして、児童が積極的に学習会に参加できるよう努めている。事前にボランティアと各担任との打ち合わせの時間をとり、スムーズに進められるようにしている。また学習会終了後もふりかえりを行っている。

■　事業の成果と課題

〇休業中の児童の様子を把握し、生活リズムの改善につなげることができた。
〇既習内容の復習を中心に学習することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡したりする機会ができた。
〇参加児童どうしや担任・ボランティアとのコミュニケーションの場にもなっていて、夏季休業中でも学級のつながりをもつことができた。
〇希望する全ての児童が対象であるため、少人数や個別での指導が難しい。



【　科学実験教室　】

報告書記入者（　児童支援加配　）

さとっこふれあい教室

豊郷町	活動名　：さとっこふれあい教室	日栄・豊郷小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合　→　学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：豊栄のさと
年間開催日数：５日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：８人　　平均スタッフ数：４人　　開始年度：平成 20 年度
・活動内容：□学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）
・活動日：□月　□火　□水　□木　□金　■土　■日　■長期休業中

■　活動の概要

小学１年生から小学３年生対象事業。地域の方を講師として迎え、料理やスポーツなどの活動。

■　特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

様々な体験活動を地域全体で支援する体制づくりのため、地域の方に講師となっていただいた。

■学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

町内すべての小学校に募集をかけるため、普段は関わりを持たない子ども同士の関わりができた。

■　事業の成果と課題

体験活動を行うことで、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられた。興味が湧くプログラムづくりや、地域の講師探しが課題である。

報告書記入者（　事務局員　）

放課後児童クラブの現状

令和元年5月1日現在

1　放課後児童クラブ数実施状況

（1）　小学校の状況

小学校区数	221 か所	児童数	81,220 人
小学校１～３年生の総数	40,180 人	＊４～６年	41,040 人

（2）　放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合　計
	97	172	84	353

（3）　放課後児童クラブの状況

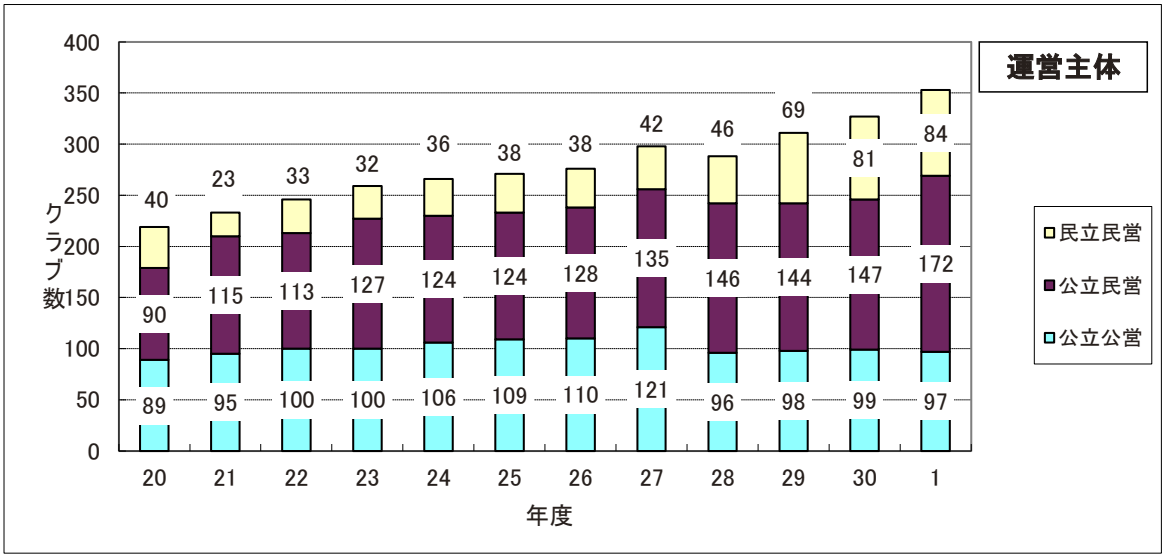
調査項目		公立公営	公立民営	民立民営	合　計
実施場所別放課後児童クラブ数	児童館・児童センター	1	2	5	8
	学校の余裕教室	47	24	3	74
	学校敷地内専用施設	30	59	0	89
	公有地専用施設	17	58	0	75
	民有地専用施設	0	1	18	19
	民家・アパート	0	0	9	9
	公的施設利用	2	17	11	30
	団地集会室	0	0	0	0
	保育所	0	0	7	7
	幼稚園	0	3	0	3
	認定こども園	0	0	0	0
	空き店舗	0	4	31	35
	その他	0	4	0	4
	合計	97	172	84	353
登録児童数別放課後児童クラブ数	９人以下	0	0	6	6
	１０人～１９人	1	8	16	25
	２０人～３５人	41	41	30	112
	３６人～７０人	25	88	26	139
	７１人以上	30	35	6	71
	合計	97	172	84	353
障害児受入数別放課後児童クラブ数	受入なし	15	30	45	90
	１人	19	30	14	63
	２人	17	27	9	53
	３人	11	27	4	42
	４人以上	35	58	12	105
	合計	97	172	84	353
平日の終了時刻別放課後児童クラブ数	１７：０１～１７：３０	0	0	0	0
	１７：３１～１８：００	16	1	3	20
	１８：０１～１８：３０	44	56	14	114
	１８：３１～１９：００	37	114	44	195
	１９：０１～２０：００	0	1	19	20
	２０：０１～２１：００	0	0	1	1
	２１：０１～２２：００	0	0	0	0
	合計	97	172	81	350
休日の開館状況別放課後児童クラブ数	土曜日（毎週実施以外）	81 (2)	56 (87)	61 (17)	198 (106)
	日曜・祝日	0	37	6	43
	長期休暇	97	147	84	328
学年別児童数	小学校１年生（障害児）	1,702 (80)	2,535 (120)	944 (35)	5,181 (235)
	小学校２年生（障害児）	1,513 (82)	2,248 (118)	762 (31)	4,523 (231)
	小学校３年生（障害児）	1,322 (55)	1,893 (108)	657 (20)	3,872 (183)
	小学校４年生（障害児）	866 (31)	1,283 (93)	446 (10)	2,595 (134)
	小学校５年生（障害児）	439 (24)	778 (56)	249 (12)	1,466 (92)
	小学校６年生（障害児）	197 (13)	376 (43)	98 (3)	671 (59)
	その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計（障害児）	6,039 (285)	9,113 (538)	3,156 (111)	18,308 (934)
学年別利用（登録）できなかった児童数	小学校１年生（障害児）				12 (0)
	小学校２年生（障害児）				4 (0)
	小学校３年生（障害児）				6 (0)
	小学校４年生（障害児）				19 (0)
	小学校５年生（障害児）				37 (0)
	小学校６年生（障害児）				44 (1)
	その他（障害児）				0 (0)
	合計（障害児）				122 (1)

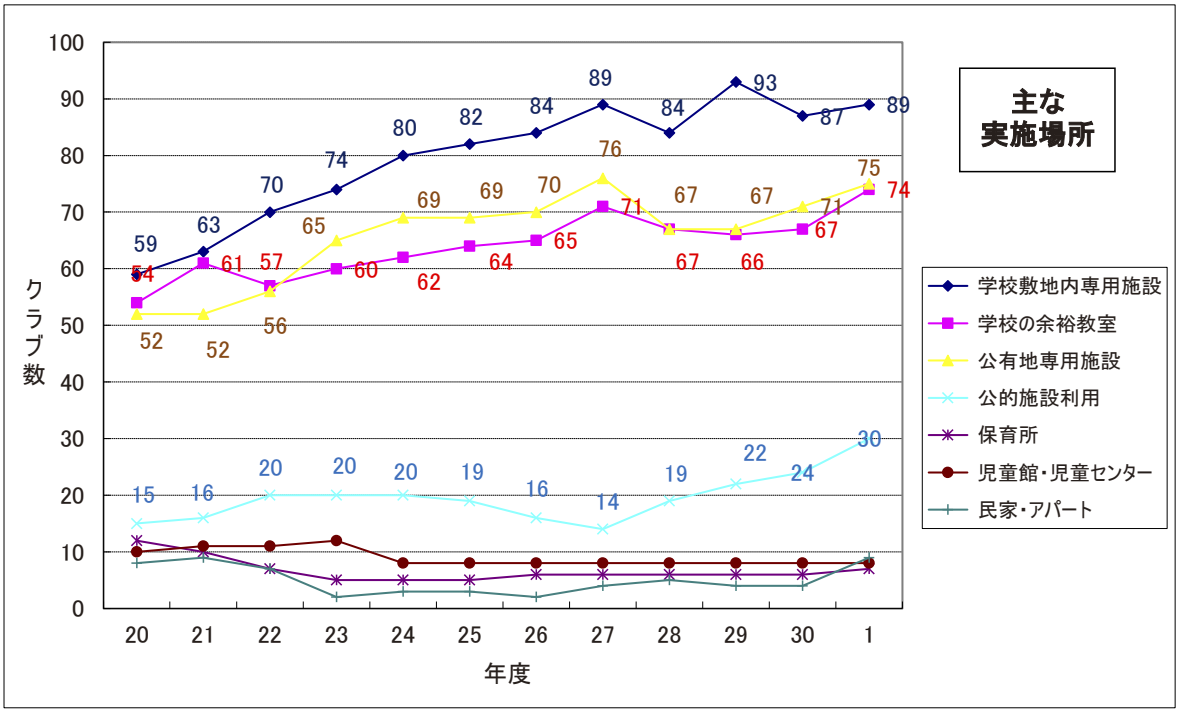
注：（　）内の数は、再掲である。

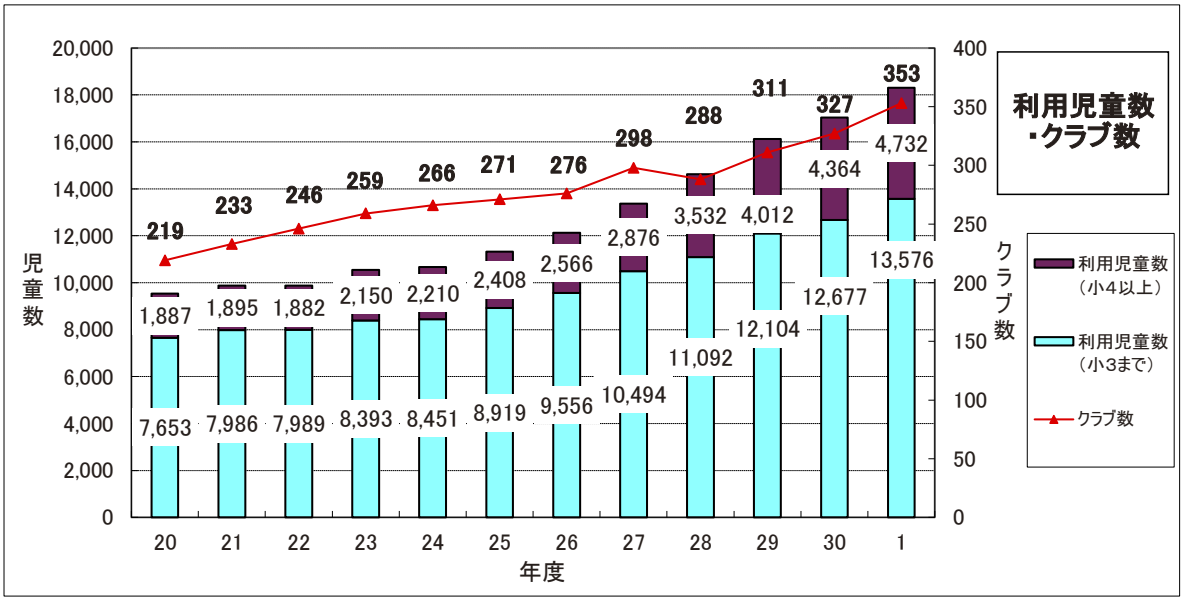
（4）　市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 （B／A）	実施市区町村 市（特別区）	町	村	合　計 B
19	100 %	13	6	0	19

2　放課後児童クラブ数の推移







令和元年度 土曜日の教育支援活動一覧

3市1町35教室

市町名	教室数	活 動 名	主な実施場所	委託	委託団体名
甲賀市	5	水口教室	水口中央公民館・綾野小学校	○	地域で作る土曜日夢の学習
		土山教室	土山中央公民館	○	地域で作る土曜日夢の学習
		甲賀教室	かふか生涯学習館	○	地域で作る土曜日夢の学習
		甲南教室	甲南公民館、甲南青少年研修センター	○	地域で作る土曜日夢の学習
		信楽教室	かふか生涯学習館	○	地域で作る土曜日夢の学習
湖南市	9	いしべっ子学習教室	石部まちづくりセンター		
		みなみっこ土曜講座	石部南小学校		
		土曜教室	岩根まちづくりセンター		
		学校や地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校・菩提寺まちづくりセンター		
		菩提寺学区土曜日の教育支援活動～わくわく体験・学習活動～	菩提寺北小学校・菩提寺まちづくりセンター		
		さんさん教室	夏見公民館・柑子袋まちづくりセンター・吉永公民館		
		ひがしっこ教室	みくもふれあいセンター		
		しもしょう土曜教室	下田小学校・下田まちづくりセンター		
		土曜教育支援活動	サンヒルズ甲西		
東近江市	15	蒲生マックスクラブ マックスダンス（初級）	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ マックスダンス（中級）	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ マックスダンス（上級）	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ 囲碁・将棋	蒲生コミュニティセンター		
		蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生地区を主とした滋賀県内のフィールド		
		玉緒キッズダンス ダンスクラブ(初級)	玉緒小学校		玉緒地区地域教育協議会
		玉緒キッズダンス ダンスクラブ(中級)	玉緒小学校		
		五個荘地区 OH！茶！チャ！チャ！	てんびんの里文化学習センター		OH！茶！チャ！チャ！
		五個荘地区 将棋同好会	五個荘コミュニティセンター		将棋同好会
竜王町	6	竜王キッズクラブ おやつクラブ	竜王町公民館 竜王町農村女性の家		
		竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 和太鼓クラブ	竜王町公民館 他		
		竜王ユースブラス（吹奏楽教室）	竜王町公民館 他		
計	35				

つないで　つむいで　織って　創って　地域にあった着こなしできる　まちづくり

甲賀市	活動名　：　水口教室	学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：水口中央公民館、綾野小学校
年間開催日数：45 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：５人　　開始年度：平成 30 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
参加無料としている。保護者の付き添い見守りがあれば、乳幼児も見学可。
講師、指導者、スタッフは、地域住民が担っている。



【　料理教室　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
ＮＰＯ「地域で創る土曜日夢の学習」に事業委託。元教師、自治振興会関係者、地域ボランティアなど、多様な人材に活躍していただいている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
事業展開には、地域住民ボランティアの存在が重要となるので、今後の地域におけるボランティアの可能性について確認するためのボランティア調査を行った。
また、市内小学生の食を取り巻く環境についての実態把握と今後の料理教室の展開に役立てていくための調査を実施した。

■　事業の成果と課題
参加者アンケートをチェック方式でとっているが、おおむね「よかった」との回答を得ている。
参加者やスタッフがもっとも多い地域で、関わる人が多いと、次に向けての提案も出しやすい。
子どもたちの居場所となる事業を支える高齢者がスタッフとして事業に参画することは、社会貢献活動としての高齢者の居場所づくりにもつながる。

■　その他

報告書記入者（　社会教育スポーツ課　文化係長　）

つないで　つむいで　織って　創って　地域にあった着こなしできる　まちづくり

甲賀市	活動名　：　土山教室	学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：土山中央公民館
年間開催日数：45 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：３人　　開始年度：令和元年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
参加無料としている。保護者の付き添い見守りがあれば、乳幼児も見学可。
講師、指導者、スタッフは、地域住民が担っている。



【　きらねっと広場　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
ＮＰＯ「地域で創る土曜日夢の学習」に事業委託。元教師、自治振興会関係者、地域ボランティアなど、多様な人材に活躍していただいている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
事業展開には、地域住民ボランティアの存在が重要となるので、今後の地域におけるボランティアの可能性について確認するためのボランティア調査を行った。
また、市内小学生の食を取り巻く環境についての実態把握と今後の料理教室の展開に役立てていくための調査を実施した。

■　事業の成果と課題
参加者アンケートをチェック方式でとっているが、おおむね「よかった」との回答を得ている。
初めて取り組む地域であるが、他地域へ参画する子どもたちの割合が高い。
全市的に行動範囲が広がることは、他地域の子どもたちや保護者の新しい交流につながる。

■　その他

報告書記入者（　社会教育スポーツ課　文化係長　）

つないで　つむいで　織って　創って　地域にあった着こなしできる　まちづくり

甲賀市	活動名　：　甲賀教室	学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：かふか生涯学習館
年間開催日数：45 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：５人　　開始年度：令和元年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
参加無料としている。保護者の付き添い見守りがあれば、乳幼児も見学可。
講師、指導者、スタッフは、地域住民が担っている。



【　工作教室　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
ＮＰＯ「地域で創る土曜日夢の学習」に事業委託。元教師、自治振興会関係者、地域ボランティアなど、多様な人材に活躍していただいている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
事業展開には、地域住民ボランティアの存在が重要となるので、今後の地域におけるボランティアの可能性について確認するためのボランティア調査を行った。
また、市内小学生の食を取り巻く環境についての実態把握と今後の料理教室の展開に役立てていくための調査を実施した。

■　事業の成果と課題
本年度から事業を立ち上げた地域であるが、事業数はまだまだ少なく、市内でもっとも取り組みが遅れている。
課題は、身近な地域課題解決のために社会教育、生涯学習に関わる活動を推進していくことの認識と地域人材の発掘であり、自治振興会との連携も図っていく必要がある。
また、参加者が少ない事業でも、すぐにやめるのではなく、積み重ねることが必要である。

■　その他

報告書記入者（社会教育スポーツ課　文化係長）

つないで　つむいで　織って　創って　地域にあった着こなしできる　まちづくり

甲賀市	活動名　：　甲南教室	学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：甲南公民館、甲南青少年研修センター
間開催日数：45 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：５人　　開始年度：平成 30 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
参加無料としている。保護者の付き添い見守りがあれば、乳幼児も見学可。
講師、指導者、スタッフは、地域住民が担っている。



【　生け花教室　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
ＮＰＯ「地域で創る土曜日夢の学習」に事業委託。元教師、自治振興会関係者、地域ボランティアなど、多様な人材に活躍していただいている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
事業展開には、地域住民ボランティアの存在が重要となるので、今後の地域におけるボランティアの可能性について確認するためのボランティア調査を行った。
また、市内小学生の食を取り巻く環境についての実態把握と今後の料理教室の展開に役立てていくための調査を実施した。

■　事業の成果と課題
参加者アンケートをチェック方式でとっているが、おおむね「よかった」との回答を得ている。
子どもたちの居場所となる事業を支える高齢者がスタッフとして事業に参画することは、社会貢献活動としての高齢者の居場所づくりにもつながる。

■　その他

報告書記入者（社会教育スポーツ課　文化係長）

つないで　つむいで　織って　創って　地域にあった着こなしできる　まちづくり

甲賀市	活動名　：　信楽教室	学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：信楽開発センター、雲井地区農村活性化センター
年間開催日数：45 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：5 人　　開始年度：令和元年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
参加無料としている。保護者の付き添い見守りがあれば、乳幼児も見学可。
講師、指導者、スタッフは、地域住民が担っている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
ＮＰＯ「地域で創る土曜日夢の学習」に事業委託。元教師、自治振興会関係者、地域ボランティアなど、多様な人材に活躍していただいている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
事業展開には、地域住民ボランティアの存在が重要となるので、今後の地域におけるボランティアの可能性について確認するためのボランティア調査を行った。
また、市内小学生の食を取り巻く環境についての実態把握と今後の料理教室の展開に役立てていくための調査を実施した。



【　自然体験教室　】

■　事業の成果と課題
本年度から事業を立ち上げた地域であるが、自然体験教室のように、定期化する事業がでてきた。
参加者アンケートをチェック方式でとっているが、おおむね「よかった」との回答を得ている。
課題は、個人それぞれの事情で様々ある。（欠食児童、不登校気味の児童、ひとり親家庭の児童、小学生とともに乳幼児と参加する子育て中の親など。）個別の課題がありながらも、誰もが集中して講座に参加できるような提案の積み重ねが求められる。

■　その他

報告書記入者（　社会教育スポーツ課　文化係長　）

自ら進んで宿題に取り組む子どもたちを支えるいしべっ子学習教室

湖南市	活動名　：　いしべっ子学習教室	石部小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合→学校運営協議会との協働　：　■有　□無

主な活動場所：石部まちづくりセンター
年間開催日数：５日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：88 人　　平均スタッフ数：15 人　　開始年度：平成 27 年度
・活動内容：■学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
長期休業期間を利用して、地域の大人と触れ合いながら学習することにより、学ぶ意欲を育てる場とする。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
まちづくり協議会や学生ボランティアに協力を依頼し、会場を校区の中心にあるまちづくりセンターに設定した。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
学校運営協議会の学習支援委員会が中心となり、事前に計画を立て、協議し、子どもたちが安全に楽しく学習ができるように配慮した。参加児童の感想を聞き、部会で反省会を開き、改善すべき点を明確にしている。
低学年、中学年、高学年と３部屋に分け、集中できる環境にし、また、宿題ができた子には用意しておいた学習プリントで復習できるように工夫した。

■　事業の成果と課題
地域の学習支援ボランティアや校区のまちづくり協議会の協力に支えられ、のべ 439 人の子どもたちが参加し、楽しく学習ができた。
児童や保護者にも浸透し、年々参加人数が増えてきている。そのため、教室数が増えることにより、学習支援ボランティアの確保が課題である。



【　冬休み学習教室　】

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

子どもと地域がひびきあう！「ふるさと意識の醸成」を目指して

湖南市	活動名　：　みなみっこ土曜講座	石部南小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

主な活動場所：石部南小学校
年間開催日数：11 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：36 人　　平均スタッフ数：12 人　　開始年度：平成 28 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
11 回開催される「みなみっこ土曜講座」では、「ふるさと意識の醸成」「主体性の育成」を大きな柱とし、校区にある県立近江学園を舞台に子どもたちへの研修を行ったり、地域に伝わる伝統行事に参加したりと、地域の特徴を生かした活動になっている。

■外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
学校広報誌と共に学校応援団活動を紹介した広報誌を発行している。
石部南まちづくり協議会活動へ参加し交流を行っている。


【　ふれあい広場に参加しよう！　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
企画段階からの児童の参画により、子どもたちの思いを生かしながら実施している。

■　事業の成果と課題
講座によって参加学年のかたよりがあるため、参加対象学年をどのように設定するかが難しい。
夏休みこども教室は参加者が多く、１人のボランティアへの負担が大きかった為、人数制限や教室を分けて開催する。

■　その他
学校運営協議会理事が、児童会本部の児童との懇談会をもち、実際に子どもの声を企画に生かしている。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

個々の課題と成長を共有した学習支援　　～ 一対一の関わりを大切に ～

湖南市	活動名　：　土曜教室	岩根小学校　学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　■有　□無

主な活動場所：岩根まちづくりセンター
年間開催日数：20 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：６人　　平均スタッフ数：７人　　開始年度：平成 22 年度
活 動 内 容 ：■学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
個別の指導・支援を要する通常学級児童の内、校内の協議結果に保護者の合意が得られた児童を対象として実施している。通常学級では実現が難しい一対一の指導が可能な体制（児童とスタッフの人数）を構築し、国語と算数の基礎的学習を中心に位置づけている。


【　音読に取り組む・・・　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
指導・支援にあたるのは元教員・保育士および教育や福祉等を志す学生等が中心であり、平日の学校支援員やスクーリングケアサポーターを兼ねている者もいる。人から人にリレーされる「人材情報」を大切に扱い、人材の確保と発掘に努めている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・対象児童の人数・・・適正規模を維持し、指導・支援の質を保てる範囲内とすること。
・目的の共通理解・・・自分の弱みを認めながらも課題に取り組み、力がつくことを自覚して自尊感情が高まること。
・体制の構築・・・現職の教員は管理職のみとし、運営もスタッフも地域人材が担うこと。

■　事業の成果と課題
〇間違いを恐れずに課題に取り組むことで、スタッフと児童および児童同士の間に自己開示的な人間関係が形成される。
〇専門家による音読指導を組み込んでいることにより、大切なポイントの理解や自分の変容に対する自覚が生まれる。
△家庭状況や児童の意向の変化により、通いたくても通い続けられなくなる児童が年間１～２人発生する。

■　その他
・外国にルーツのある児童の支援を行う場の構築について検討を重ねている。

報告書記入者（　校長　）

学校や地域で学ぶ土曜日教室～小中連携・地域でつながる子どもたち～

湖南市	活動名：学校や地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

主な活動場所：菩提寺小学校、菩提寺まちづくりセンター
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：２人（兼務２人）
平均参加人数：31 人　　平均スタッフ数：５人　　開始年度：平成 26 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■　芸術・文化　□スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・夏休み勉強会
・郷土学習　他


【　12 月門松作り　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　学区内にある竹林の竹を活用し、門松や竹とんぼ作り。地元の川の生き物を調べる学習。その際、まちづくり協議会に材料の調達･製作指導など事前準備等の協力をいただいている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
　自分たちの住んでいる地域のことを学習に取り入れることで、地元の事を知る機会が増えた。今後も、自分たちの住んでいる地域のことに興味を持てるような学習が出来たらと思う。

■　事業の成果と課題
　参加者数も安定してきたが、活動内容によっては参加人数が一桁の時もある。無理のない活動を進めていきたいが、参加しやすい内容を考える必要がある。参加人数に対してスタッフ不足の時があるので、今後の課題でもある。

■　その他

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

菩提寺学区　土曜日の教育支援活動　～地域の子どもが繋がる～

湖南市	活動名　：菩提寺学区　土曜日の教育支援活動 ～わくわく体験・学習活動～	菩提寺北小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有　□無

主な活動場所：菩提寺北小学校、菩提寺まちづくりセンター
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人
平均参加人数：45 人　　平均スタッフ数：５人　　開始年度：平成 22 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
菩提寺学区にある菩提寺北小学校・菩提寺小学校の２校が菩提寺まちづくり協議会の支援のもと、年に 10 回の土曜日の教育支援活動をおこなっている。
今年は門松作りや、ペットボトルロケットなど、学習以外の体験を親子でおこなった。


【　子どもたちが作った門松　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
講師や指導は、すべて地域の方にお願いした。また推進員以外にもたくさんの支援員がサポートし、２校集まっての大人数の開催の体験活動もスムーズにおこなわれた。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
費用の面、体験内容の多様性もあり、菩提寺まちづくり協議会の支援が不可欠である。小学校単位では、なかなかできないものも多く、これからも協働で進めていきたい。

■、事業の成果と課題
興味深い体験活動が多く、たくさんの子どもたちが目を輝かせているのが印象的である。また親子での参加とされる活動内容も多く、土曜日や休日ということもあり多くの父親の参加も見られ親子での貴重な時間ともなっている。

報告書記入者（　地域学校協働活動動推進員　　）

地域ぐるみで子どもを見守る「さんさん教室」

湖南市	活動名　：　さんさん教室	三雲小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：吉永公民館、夏見公民館、柑子袋まちづくりセンター
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務０人）
平均参加人数：40 人　　平均スタッフ数：15 人　　開始年度：平成 27 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■　芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・夏休みの宿題や自主学習の支援、折り紙アートによるうちわ作り、お抹茶やダンス等の体験学習も取り入れた。
・秋季には、歴史探訪（天保義民碑・文五郎碑）を実施した。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・みくも学区まちづくり協議会と連携し、参加者増加にも対応できるスタッフの配置や材料費の支援を受けることができた。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・安全面を考え、学区内のまちづくりセンター等４か所の会場にて開催した。
・講師を地域の中から迎えることで、広く活動を知っていただく機会とする。

■　事業の成果と課題
・学習だけではなく、参加型の体験を合わせて企画したことで、参加者が増加した。



【　お抹茶体験　】

■　その他
・「スモールティーチャー」として中学生の協力を得ることが出来、双方の学びとすることが出来た。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

地域と協働して開く「東っこ教室」

湖南市	活動名　：　ひがしっこ教室	三雲東小学校　学校運営協議会　：　□有　■無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　□無

主な活動場所：みくもふれあいセンター
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：１人（兼務１人）
平均参加人数：30 人　　平均スタッフ数：３人　　開始年度：平成 26 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・学習会、お抹茶体験、交流遊び(昔遊び・ワードバスケット)、親子パン教室、
・折り紙アート、ふるさと歴史探訪「天保義民碑」「文五郎顕碑」、書初め教室

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・三雲学区まちづくり協議会との連携
・コーディネーター、推進員、まちづくり協議会等の人脈活用
・小中連携による学生ボランティア(スモールティーチャー募集)
・「ひがしっこ教室」ＯＢへの声掛け

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・学習会「ひがしっこ教室」のスタイルは開催当初から基本的に変えていない。
・「自主・協力」「異学年交流」を大切にしている。
・地域人材を活用した体験学習を取り入れ、学力補充以外にも関わっていただける機会を作った。

■　事業の成果と課題
・リピーターが多くなった。年々、開催を楽しみに待っている児童が増加している。
・三雲学区まちづくり協議会と連携していることにより、スタッフや体験学習の内容が充実してきた。
・地域に頼りきりにならないよう、保護者の中からも支援者を発掘していくことが課題である。



【　折り紙アートの制作活動　】

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

ボランティアさんと一緒に夏休みの宿題をやっつけよう！「しもしょうサマースクール 2019」

湖南市	活動名 ： しもしょう土曜教室 ～しもだっこは地域の子～	下田小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

主な活動場所：
年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数： 3 人
平均参加人数：20 人　平均スタッフ数：10 人　開始年度：平成 26 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　□ 芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動

下田小学校で土曜日の教育支援活動が始まってから毎年実施している「しもしょうサマースクール」ですが、夏休みの宿題を早々に終わらせる児童も多く参加者が数年前より減少していたため、内容を自由研究に役立つものなどに変更して実施していた。

しかし、夏休みの宿題を集中してみんなで一緒にやることも大事な経験のひとつと考え、今年度は夏休みの宿題（ワークや自主学習）をするという取組にし、児童たちの見守りや宿題の指導を地域の中学生や高校生、大学生にお願いした。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

毎年、日枝中学校と連携し、中学生ボランティアを募っているが、それだけではなく、下田小学校の卒業生と日頃から連絡を取り合い、協力をお願いしている。


【 学習の様子 】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

小学生参加者は「教えてもらう」側ではあるが、将来は「教える」側になるということを支援している大人が常に意識し、子どもたちに伝えている。「教える」側として参加するようになった子どもたち（中、高、大学生）も、小学生があこがれる存在でいるように意識しながら接している為か、過去に参加したことのある子どもたちが「教える」側として戻ってきてくれている。

■ 事業の成果と課題

宿題を少しでも終わらせることはもちろんだが、地域の中学生や高校生、大学生たちと交流することができる場になっている。

宿題をするのが苦手な児童の参加が少ないようなので、そういった課題のある児童が参加しやすい

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

ふるさとを知ろう、知ってもらおう！～地域でつながれみとっこ！～

湖南市	活動名 ： 土曜教育支援活動	水戸小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： ■有 □無

主な活動場所：サンヒルズ甲西
年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：３人（兼務２人）
平均参加人数：34 人　平均スタッフ数：８人　開始年度：平成 26 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　□ 芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■ 活動の概要・特徴的な活動

ＣＳを導入した年であることから活動がスタートした年として、学校や子どもたちを知ってもらうことが第一とし地域にＰＲに出かけ、子どもたちが活動できる場づくりに取り組んだ。

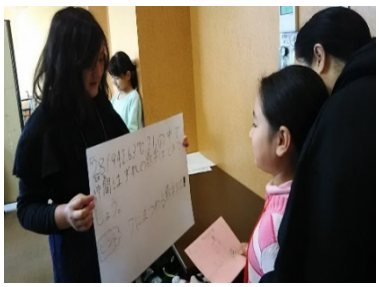
■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

まちづくり協議会の主催する納涼祭やフェスタでビラ配りや掲示のポスターを制作した。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

まちづくりフェスタでは 4 年生以上を対象に実行委員を募り小学生が考えたクイズをスタンプラリーにして受付やクイズの出題、景品引き換えを担当した。今年は初めて田代が池公園で行われているペットボトルツリーイルミネーションの制作、飾りつけも行った。

小中連携事業である宿題応援隊・夏の絵画教室では学校とサンヒルズ甲西の二か所を会場にし、まちづくり協議会の青少年部会と合同で体験教室を開催した。


【 フェスタでクイズ出題！ 】

■ 事業の成果と課題

自治会の避難訓練や清掃に地域の一員として参加できたことや、昨年から続いてフェスタに参画したことで小学生の活躍する姿を見た地域の方から「がんばってるね！」とお褒めの言葉をかけてもらえた。子どもたちが自信をつけていく様子を間近で見ていると大人が思っている以上に子どもが力を持っていることがわかり、大人はこうしたたくさんの「場」を用意することが重要だとわかった。今ある地域の「場」を地域だけ、学校だけで考えるのではなく共に話し合いながら活動を進めていくことが来年以降の課題である。

報告書記入者　（　地域学校協働活動推進員　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ マックスダンス（初級）	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：11 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：５人　　平均スタッフ数：１人　　開始年度：平成 24 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。
・積極的に地区や市の大会に出場し活動している。
・地域の行事やイベントに参加し発表している。



【　発表会の様子　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気を大切にしている。
・子どもたちの意欲が継続し高まるように工夫している。

■　事業の成果と課題
・子どもたちは、意欲的に教室に参加している。
・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。
・練習時間が短いために全体の動きを合せることが難しい時がある。
・練習場所が狭く、全体練習の感覚がつかみにくい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ マックスダンス（中級）	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：11 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：９人　　平均スタッフ数：１人　　開始年度：平成 26 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
・地域の行事やイベントにも参加し、会場を盛り上げている。
・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。



【　発表会の様子　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
・目標を持ち、子どもたちがメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■　事業の成果と課題
・大会出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのかが指導者として難しい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ マックスダンス（上級）	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：11 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：12 人　　平均スタッフ数：１人　　開始年度：平成 27 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・中級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
・ステージでの発表を活動の中心として、積極的に各大会に出場している。
・中級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。


【　発表会の様子　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
・子どもたちが目標に向かってメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■　事業の成果と課題
・大会出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのかが指導者として難しい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ KIDS　FLOWER（キッズフラワー）	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：７日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：８人　　平均スタッフ数：２人　　開始年度：平成 14 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得する。
・じっくりと落ち着いて取り組むことで、創造することの楽しさを味わってもらう。


【　クラブ員の作品展示　】

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
・完成した作品を地域の行事などに展示して、創作意欲を高めるようにしている。

■　事業の成果と課題
・熱心に作成する子どもたちの様子から、集中力や持続力を養えたと考える。
・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。
・材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：48 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：２人　　開始年度：平成 28 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・毎週練習を行い、各大会等に出場して演奏の経験を積み重ねている。
・子どもたちの健康を考え、永久歯が生えそろう小学校３年生以上を対象にしている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・クラブ員の保護者等、経験のある方の協力を得ている。
・指導者の知り合い等で他地域の指導をしている方の協力も得ている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・練習が単調にならないよう簡単な曲を演奏するようにしている。
・発表会に出場して、ステージに対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。



【　体験会の様子　】

■　事業の成果と課題
・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれるようになった。
・週一回の練習のため、上達に時間がかかる。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：11 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：15 人　　平均スタッフ数：６人　　開始年度：平成 14 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・好きな作品を作ったり絵付けをしたりして、思い思いの作品作りをしている。
・マックスクラブ発表会で地域の子どもたちに体験教室を実施している。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・蒲生地区で活動されている「あかね陶芸クラブ」に指導をお願いしている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・子どもたちの自主性を尊重し、出来るだけ指導者は手を出さないようにしている。
・体験教室を実施することで、その面白さや楽しさを他の子どもたちに体験してもらいクラブ員を増やす工夫をしている。



【　体験会の様子　】

■　事業の成果と課題
・陶芸に関心のある子どもが増えており、常にクラブ員が一定数集まる。
・作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
・制作時間に個人差があり、早く終わった子どもや丁寧にゆっくり作業を進める子どもへの対応が難しい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ ガリ版クラブ	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：11 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：２人　　平均スタッフ数：１人　　開始年度：令和元年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・制作上の面白さと同時に、ガリ版発祥の地としての意義も伝えている。
・一人ひとり制作する内容が違うので、それぞれの思いを大事にしている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・ガリ版をともなった地域おこしとして来られている協力隊の方に指導してもらっている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・最初は簡単な作業で出来るガリ版印刷をおこない、次第に自分の好きな図柄等に移行していくようにしている。

■　事業の成果と課題
・ガリ版印刷の楽しさを理解してもらうと同時に、蒲生地区がその始まりの地であることを理解してもらえた。
・地味な作業であるためＰＲが難しく、仲間の輪を広げることに時間がかかる。



【　活動の様子　】

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：あかね文化ホール
年間開催日数：40 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：18 人　　平均スタッフ数：５人　　開始年度：平成 14 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
・通常の練習は、初心者と経年者を時間差で分けて練習している。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・わらべ組を卒業した高校生や大学生及び社会人等に指導してもらっている。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・習熟度別に初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
・先輩が後輩を指導する等、縦のつながりも大切にしながら活動している。

■　事業の成果と課題
・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。



【　発表会の様子　】

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：４人　　平均スタッフ数：２人　　開始年度：平成 14 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・茶道経験のない子がほとんどなので基本から学んでいる。
・茶道の所作と併せて基本的な礼儀作法について学ぶ。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・指導者を見つけるために人材バンクやボランティアグループのリストを利用している。
・指導者間のネットワークも利用している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・年度末に体験教室を開き、面白さや楽しさをより多くの子どもたちに感じてもらい、クラブ員を増やす工夫をしている。



【　稽古の様子　】

■　事業の成果と課題
・クラブ員はより深く茶道を理解することにより、自ら練習に集中する様子が見られる。
・動き自体が地味な活動なので、その面白さが理解されにくい。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	蒲生マックスクラブ 囲碁・将棋クラブ	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生コミュニティセンター
年間開催日数：11 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：７人　　平均スタッフ数：３人　　開始年度：平成 19 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・囲碁将棋の基本を学ぶことにしている。
・囲碁や将棋に親しむことを目的とし、小中学生を対象とした初心者向きの内容としている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・地域に住む囲碁将棋愛好会を指導者として、小中学生を対象とした初心者向きの教室を開催している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・集中力が持続するように、休憩を入れたり活動時間を短めにしたりする等の工夫をしている。
・レベルに応じて指導者対クラブ員、クラブ員同士の対局を行う等、活動に変化を取り入れ、子どもたちの囲碁将棋に対する意欲が持続するように工夫している。



【　体験教室の様子　】

■　事業の成果と課題
・囲碁や将棋にさらに深く興味を持ってくれる子どもが出てきている。
・活動や対局を通じて世代間を越えて楽しむ様子が見られた。
・対局において、教えたり、教えてもらったりする等のコミュニケーションを大切にし、世代間の交流が活発になるように工夫している。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名　：　蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生東小学校　蒲生西小学校　蒲生北小学校　朝桜中学校 学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：蒲生地区を主とした滋賀県内のフィールド
年間開催日数：10 日　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：15 人　　平均スタッフ数：４人　　開始年度：平成 20 年度
・活動内容：□学習支援　■体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動
・館外活動が基本であり、子どもたちの五感を使った活動をこころがけている。
・地域の自然にふれあいながら、新たな発見を体験する。
・低学年は保護者と一緒に、高学年は自分一人で活動している。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
・蒲生地区にお住まいの方で協力していただける方を内容に応じて依頼している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・活動内容の中で継続して観察するものや比較して違いを認識するもの等でクラブ員の興味を引き付けるようにしている。



【　カヌー体験　】

■　事業の成果と課題
・東近江地域への理解を深めることができた。
・クラブ員に年齢差があり、同じ内容の活動をしても時間差が生じてしまう。

報告書記入者（　蒲生マックスクラブ　代表　）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	玉緒キッズダンス教室（初級）	玉緒小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：玉緒小学校　体育館
年間開催日数：30 日　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：20 人　　平均スタッフ数：４人　　開始年度：　平成 27 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　■スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
　インストラクターに来てもらい、地域の顔見知りの子どもたちが集まり、小学校区域内でダンスレッスンを行っている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　地域の夏祭りや文化祭等でオープニングを飾り、日頃の練習成果を発表している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
　遠くのダンス教室ではなく、身近な小学校の体育館を借りて実施している。

■　事業の成果と課題
・全身を使ってリズムに合わせて踊る練習を積み重ねることにより、リズム感が身についた。
・インストラクターの謝金等、補助金の増額を希望する。



【　集合写真　】

■　その他
　夜なので窓に映った姿を見て頑張っているが、鏡があるとさらに練習効果が高まる。

報告書記入者（　玉緒キッズダンス教室　代表　）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	玉緒キッズダンス教室（パンキング・中級）	玉緒小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：玉緒小学校　体育館
年間開催日数：30 日　　地域学校協働活動推進員数： １人
平均参加人数：15 人　　平均スタッフ数： ４人　　開始年度：平成 27 年度
・活動内容：□学習支援　　□体験活動　　□　芸術・文化　　■スポーツ　　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
初級から徐々に技術を上げていき、ヒップホップダンスの面白さを子どもたちに味わってもらい、楽しんで参加できるように心がけている。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
今年は、身体障碍者フェスティバルにも参加し、日頃の練習成果を市民の皆さんに発表し、地域との繋がりをアピールした。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
・入門から参加している子どもたちは、かなり表現力も身に着き、自信を持って取り組む姿勢が出てきた。
・表現力を高める事の UP を図り、子どもたちが楽しめる取組に全力をあげている。


【　フェスティバルでのステージの様子　】

■　事業の成果と課題
・様々な動きを身に着けることにより、体の柔軟性、俊敏性が高まった。
・ヒップホップダンスは、見た目以上にかなりハードであり、練習を通して基礎体力が身についた。

■　その他
音楽に合わせて楽しく踊る。出来なくてもいい。楽しければそれでヨシ！

報告書記入者（　玉緒キッズダンス教室　代表　）

楽しく、気軽にお茶の世界に触れてみよう！

東近江市	五個荘地区　OH!茶！チャ！チャ！	五個荘小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

主な活動場所：てんびんの里文化学習センター
年間開催日数：12 日　　地域学校協働活動推進員数： １人
平均参加人数：10 人　　平均スタッフ数：６人　　開始年度：平成 20 年度
・活動内容：□学習支援　　□体験活動　　■　芸術・文化　　□スポーツ　　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動
小学校が週休二日制になり、土曜日の子どもの居場所つくりの為に地区の茶道クラブのメンバーが中心となり、茶道を教える。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
五個荘地区の行事である、五個荘ぶらりまち歩き、学習センター主催のひなまつり貝合わせに子どもの発表の場として参加している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
活動を始めて 20 年以上継続できている。低学年から高学年まで少人数で全ての子どもに目が行きわたるようにサポートしている。

■　事業の成果と課題
１年生の時から参加している子どもたちは、６年生まで継続して参加している。小学校を卒業した後、茶道を続けられる場所をどのようにすればよいか思案中。


【　お茶どうぞ！　】

■　その他
・小学生の子どもたちにとっては、私達サポーターはおばあちゃん世代である。
・礼儀、所作等を子どもたちに教えているつもりでも、子どもたちから教えられる事もある。
・サポーターが増え、今より多くの子どもたちが参加できるよう、活動を広げていきたい。

報告書記入者（　五個荘地区 OH!茶！チャ！チャ！　代表　）

将棋をとおして、子供の教育的側面の育成・礼儀・大人とのコミュニケーションを学ぶ

東近江市	五個荘地区　将棋同好会	五個荘小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

主な活動場所：　五個荘コミュニティセンター
年間開催日数：　12 日　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：　20 人　　平均スタッフ数：10 人　　開始年度：平成 31 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　□　芸術・文化　□スポーツ　■その他（　将棋　）

■　活動の概要・特徴的な活動

将棋の娯楽を通じて、将棋の持つ別な側面、思考力・集中力・決断力・洞察力の養成や、日常生活の礼節を身に着けることが出来る等、子どもたちへの教育的効果が期待される。また、学んだ知識や経験、技術を駆使して一局を争うことは「勝った喜び」「負けた悔しさ」を通じて「相手を思いやる心」を育み、将来、いろいろな場面で活かされることに期待している。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

活動して頂いている大人の将棋レベルより、高レベルの児童がいるために、五個荘地区で将棋指導員クラスの方の協力を得て実施している。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

・これまでは、地区社会福祉協議会の児童教育の一環として行ってきたが、補助の終了に伴い、参加の大人にて協議の結果、継続することとした。
・会場費や諸々の設備等の必要があるため、会費徴収にて運用をおこなっていた。



【　活動の様子　】

■　事業の成果と課題

事業の成果（子どもたちの成長等）を把握することは難しいが、普段家族以外と話す機会もあまりないと思われるため、家族以外の大人とのコミュニケーションをとる等、一定の成果としてみている。また、設備等は以前のものを使用しているが、会場使用費用・将棋指導員の謝礼等、今後の継続は不透明である。

報告書記入者（　五個荘地区将棋同好会　代表　）

めざせ！パティシエ

竜　王　町	活動名　：　竜王キッズクラブ おやつクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合　→　学校運営協議会との協働　：　□有　■無

主な活動場所：竜王町農村女性の家、竜王町公民館
年間開催日数：７日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：　３名（兼務　３名）
平均参加人数：13 名　　平均スタッフ数：　１名　　開始年度：平成 27 年度（中断あり）
・活動内容：□学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

おやつ作りを通し、調理の基礎や技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

公民館職員の友人である地元の栄養士の方にご指導をいただくことにより、連携や情報共有が安易で、より分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

地元でとれた果物等を有効活用して、子どもたちだけでも家庭で作れるメニューを考え、七夕、ハロウィン、クリスマス、バレンタインなどのイベントにあったおやつを作っている。また、地元の果物等の良さに気づき、郷土に愛着をもってもらう。



【　チョコマーブルケーキ作り　】

■　事業の成果と課題

・子どもたちから家でも作ったという声を多く聞き、クラブ活動の場だけでなく家庭での実践に結びついている。
・異なった年齢の子どもが班単位で協力して料理を作ることで、技能の向上はもとより、班での自分の役割をしっかりと把握し、完成させることで責任感や協調性を養うことができた。
・今年度から前年度までとは異なる講師の方に依頼することとなった。次年度以降の講師は白紙の状態であり、事業を継続的に安定して持続させていくためには、講師の確保が急務である。
・メニューやレシピの考案・作成、食材の買い出しなど、職員の負担が大きい。

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

めざせ！家族みんなで理科博士

竜　王　町	活動名　：　竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

主な活動場所：竜王町公民館　他
年間開催日数：12 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：　３名（兼務　３名）
平均参加人数：17 名　　平均スタッフ数：　３名　　開始年度：平成 18 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　□スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動

サイエンスを通し、新しい学びや技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元の自然に関する書籍等の編纂に携わり、自然観察や自然素材を使った工作教室などを手がけている団体や元教師にご指導をいただくことにより、より分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

小学校１年生から６年生までの小学生を対象に家族参加も可能としており、上の子どもだけでなく下の子どもが小学生になった際に再度クラブに入ってくれる子ども（家族）も多く、継続した取り組みができている。



【　自然観察会　秋の虫とどんぐり　】

■　事業の成果と課題

・天体観望（夏・冬）、自然観察、野鳥観察、科学工作など、サイエンスに関わるいろいろな活動内容に取り組むことにより、理科離れがさけばれる昨今ではあるが、サイエンスをはじめ何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。
・家族参加も可能なため、知識の向上はもとより、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

身につけろ！美文字

竜　王　町	活動名　：　竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

主な活動場所：竜王町公民館
年間開催日数：22 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：　３名（兼務　３名）
平均参加人数：15 名　　平均スタッフ数：　２名　　開始年度：平成 23 年度
・活動内容：■学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

書道を通し、硬筆・毛筆を基礎から学び、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

県の展覧会等でも受賞経験のある有段者の元町職員にご指導をいただくことにより、連携や情報共有が安易で、より分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

同じ講師のもと、小学校２年生から６年生までの小学生を対象として、同じ教材をもとに継続した取り組みができているので、一度クラブに入ると６年生まで継続してくれる子どもが多い。



【　硬筆の練習　】

■　事業の成果と課題

・技能の向上とともに、何度も何度も練習をし、教えてもらう継続した取り組みにより、進歩が形となって現れるため、何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
・年間を通して開催回数も多く、学校行事や地域行事等と重複する回は参加者が少なくなるため日程設定に工夫が必要である。また、講師の日程調整をすることも難しく、当初予定日での開催が困難となり開催日の変更も生じている。

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

何事にもチャレンジして、生きる力を身につけよう！

竜　王　町	活動名　：　竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

主な活動場所：竜王町公民館　他
年間開催日数：12 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：　３名（兼務　３名）
平均参加人数：21 名　　平均スタッフ数：　２名　　開始年度：平成 22 年度
・活動内容：■学習支援　■体験活動　□芸術・文化　■スポーツ　■その他（　郷土学習　）

■　活動の概要・特徴的な活動
　チャレンジを通し、さまざまな体験から技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　地元の農園や道の駅、消防署員、赤十字奉仕団、高等学校、元教師のご協力とご指導をいただくことにより、活動内容に応じて、より分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
　クラブの卒業生である中学生・高校生にボランティアをお願いし、小学生の身近な存在として、講師や職員の補助をお願いし、リーダー養成につなげたいと思っている。


【　防災キャンプ　放水体験（着装）　】

■　事業の成果と課題
・野外活動が中心となるため安全管理を十分に行う必要があり、内容によっては活動に制限を設けざるを得ないことがある。
・宿泊体験等は、内容によっては事前研修の必要があり、講師以外にも指導員や協力者をお願いする必要もあり、準備が大変である。
・カヌー体験、防災キャンプ、スキー教室等では、受講料以外に体験活動費用として負担金を徴収しなければならず、保護者の負担が増大する。

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

迫力のあるバチさばきで、心に響く鼓動を！

竜　王　町	活動名　：　竜王キッズクラブ 和太鼓クラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会　：　■有　□無 有の場合 → 学校運営協議会との協働　：　□有　■無

主な活動場所：竜王町公民館　他
年間開催日数：23 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：　３名（兼務　３名）
平均参加人数：13 名　　平均スタッフ数：　１名　　開始年度：平成 15 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　）

■　活動の概要・特徴的な活動
　和太鼓を通し、技能の向上はもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が切磋琢磨し、発表会等により地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
　和太鼓の演奏や指導を生業とされている方にご指導をいただくことにより、より分かり易く学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫
　同じ講師のもと、小学校３年生から６年生までの小学生を対象として、継続した取り組みができているので、一度クラブに入った子どもは６年生まで継続してくれる子どもが多い。


【　ふるさと竜王夏まつり出演　】

■　事業の成果と課題
・和太鼓の演奏や指導を生業とされている方にご指導をいただくことにより、無理なく技能の向上が図れたとともに何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
・町イベント等に定期的に出演することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
・異なった年齢の子どもが活動を行うことで、自分の役割をしっかりと把握し、責任感や協調性を養うことができた。
・和太鼓は団体での演奏であり、練習であっても一定人数がそろわないと練習にならないため、地域行事等により参加者が極端に少ない日は練習内容を変更しなければならないことがある。

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

奏でよう、素敵なハーモニーを！

竜 王 町	活動名 ： 竜王キッズクラブ 竜王ユースブラス（吹奏楽教室）	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 有の場合 → 学校運営協議会との協働 ： □有 ■無

主な活動場所：竜王町公民館　他
年間開催日数：50 日　　地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）数：　３名（兼務　３名）
平均参加人数：17 名　　平均スタッフ数：　３名　　開始年度：昭和 62 年度
・活動内容：□学習支援　□体験活動　■芸術・文化　□スポーツ　□その他（　　）

■　活動の概要・特徴的な活動

吹奏楽を通し、音楽の基礎知識を身に付け、技能の向上や両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。



【　ジュニアミュージックフェスティバル出演　】

■　外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方にご指導をいただくことにより、より分かり易く、学ぶことができる。

■　体系的・継続的な取組にするための工夫

３名の講師の方にご指導をいただくことにより、分からないところはじっくりと、技能にあった練習をすることができる。また、講師不在により開催を取りやめることがなくなる。

卒業生のほとんどが中学校の吹奏楽部に入部するため、継続した活動ができる。また、中学校の吹奏楽部との良好な関係が築けているため、練習のお手伝いに来てくれることや中学校吹奏楽部の定期演奏会での合同演奏にもつながっている。

■　事業の成果と課題

・県の大会や町イベント等に出演することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
・異なった年齢の子どもが活動を行うことで、自分の役割をしっかりと把握し、責任感や協調性を養うことができた。
・受講生は担当楽器が決まっており、練習であっても一定人数がそろわないと練習にならないため、地域行事等により参加者が極端に少ない日は練習に支障がでることがある。そのため、日程設定に工夫が必要である。
・開催時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

令和元年度 家庭教育支援活動一覧

○事業実施市町および取組教育支援活動

8市町16活動

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動	家庭教育を支援する取組の展開	連絡会議・ケース会議	保護者への情報提供
1	近江八幡市	○	○	○		
2	草津市			○		
3	栗東市			○		
4	甲賀市	○	○	○		
5	湖南市		○	○		
6	高島市	○	○	○		
7	日野町	○		○		
8	竜王町			○	○	○

○教育支援活動の内容

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	習得を期待する能力	養成後の活動の場
1	近江八幡市	3	・より客観性を持った視点で現状を見る ・関係機関との連携、人材の紹介、発掘 ・研修などの企画、提案	・学校や地域施設において保護者交流や研修会等の企画 ・関係機関の情報をアドバイス
2	甲賀市	1	・手遊びや絵本読み聞かせ等のスキル ・ボランティアとしての意識向上・心構え ・子育てサポーターとしての基礎知識	・ブックスタート、園での読み聞かせ ・子育て広場等の後方支援
3	高島市	1	・家庭環境の多様化や地域社会の変化への対応	・子育て支援者や地域の民生委員・児童委員として活動
4	日野町	5	・子どもの発達や遊びについての知識 ・親子に寄り添い、子育てや家庭教育について相談に応じるための力	・親子ぷれすて、つどいの広場、子育てサロン等、親子が集う場所での支援

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動日数	主な活動内容		
				学習機会の提供・コーディネート	サロン・相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	9	237(延べ)	○	○	○
2	甲賀市	10	20(延べ)	○		
3	湖南市	5	235(延べ)	○	○	○
4	高島市	12	36(延べ)	○	○	

【支援する取組の展開】

	市町名	実施小学校区数	開催回数	活用する行事等の機会 ※1	講座の概要 ※2
1	近江八幡市	9	10	④⑤⑥	②③⑦⑪
2	草津市	4	42	④⑤	①②③⑤⑥⑦
3	栗東市	1	4	②③④⑤	①②⑥
4	甲賀市	8	38	④⑥	①③④⑥⑫⑬
5	湖南市	4	13	④⑤⑥	①②③⑤⑥⑦⑪⑬
6	高島市	13	33	④⑤⑥	①⑫⑬
7	日野町	5	36	②⑤⑥	③⑦⑬
8	竜王町	2	29	⑤⑥	②③⑤⑪⑬

※1 ①乳幼児健診 ②就学時健診、③入学説明会 ④保護者会、参観日 ⑤PTA研修会等 ⑥単独開催

※2 ①発達段階の特徴や親の心得 ②保護者同士の交流や子育てに関する意見交換会 ③生活習慣、食育 ④遊び、運動
⑤仕事と家庭の両立や親子のコミュニケーション ⑥道徳心・思いやり、命の大切さなど心の育成 ⑦インターネットや携帯電話等 ⑧お小遣い・消費生活
⑨いじめ、不登校、非行、問題行動の対応 ⑩虐待 ⑪子育て・家庭教育への男女共同参画 ⑫乳幼児とふれあい ⑬その他

令和元年度事業計画書等より

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市にも、三世代以上が同居している家庭、核家族家庭、単親家庭など様々な家庭がある。その中で地域に根ざして生活している家庭もあれば、周りとの関係性が少なかったり、孤立傾向にあったりする家庭も少なくない。そして、経済的に厳しい家庭や、就労形態が子育てのしにくさにつながる家庭、子どもとの関わり方に困難を感じている家庭、子どもの特性を親だけで抱え込み、しんどい思いをしている家庭も存在する。また、「～してはいけない。」と感じる環境の中で、子育てのしにくさを感じている親もいるようである。そのような中で不安や悩みをかかえたまま子どもと向き合う保護者もいる。保護者自身が抱える課題も多岐にわたり、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、誰かが少し寄り添い話を聞くことで不安や悩みを軽減できる場合もある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者の支援の一助となるようにする。また、誰かとつながることで、保護者自身の家族や地域で生きにくさを感じていることへの、不安や課題を軽減できるようにする。そして、安定した子育てにつながるようにする。



【６月市子育てサロン】
～自分だけの怒りのトリセツをつくろう～

■本年度の活動

（１）市内９小学校における各家庭支援チームによる活動の展開

・定期的な支援チームでの情報共有会議
・保護者対象の子育てに関する講座の実施
・各学期の参観行事や懇談会時におしゃべりサロンの実施
・家庭教育支援員による相談活動

（２）市子育てサロンの実施と家庭支援員の交流

・各学期１回ずつ、市内小学校および５歳児の保護者対象の子育てサロンの実施（１、２学期は小学校対象、３学期は５歳児の保護者と小学校一部学年対象）、終了後のふり返りと、小学校等への概要報告



【11 月市子育てサロン】
～伝わりにくさ、やりにくさ～

■本年度の成果

・９小学校の家庭支援員同士の交流が各校での活動にいかされている。
・昨年の振り返りをいかし、今年は市子育てサロンにテーマを設定し講師を招いて実施することにより、参加者が増えたことから、保護者の抱えるしんどさが垣間見えた。
・すぐに成果の表れる事業ではないが、各校での家庭教育支援員のはたらきかけや、学校単位では実施しにくいサロンを市で実施することにより、学校現場の支援となっていることもある。

■今後の課題

・各学校に有効な家庭教育支援になるよう、事業の方向性を明確に示していく。
・しんどさを感じている保護者の思いに寄り添えるよう、支援が必要と思われる保護者とつながれるよう、学校と家庭教育支援員がスムーズに連携できるようにする。
・家庭教育支援員、学校、学校内の家庭教育支援チームと事務局の連携を密にする。

小学校は家庭教育支援のプラットホーム

近江八幡市	
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施	
講座数（活動日数）	40 講座（40 日）

家庭教育支援チーム数	９　チーム
家庭教育支援員数	９　人
子育てサポーター等	１４　人
実施開始年度 （平成 21 年）	実施学校区数 （９　小学校区）

■　活動の具体的内容

〇地域人材の養成

家庭教育支援員の資質向上や情報交換のため、県主催の研修会の案内や、市子育てサロンの場を研修の一つとして考えている。

〇家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、主任児童委員、家庭教育支援員等を構成員とする家庭教育支援チームを設置し、学校からの指示や助言を得ながら家庭教育支援活動を行えるよう努める。各学校の状況に応じた活動を行う。

〇学習講座・行事の実施

家庭教育支援員が、家庭教育支援チームの一員として学校と連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行う。

〇連絡会議・ケース会議の設置、運営

学校の状況に応じて、月１回程度、家庭教育支援チーム連絡会をもち、チーム内あるいは地域と情報を共有し保護者への対応や日々の児童理解や支援・指導にいかす。より深刻なケースは、各機関と連携し、訪問教育相談員やスクールカウンセラーの教育相談、福祉のケース検討会議等へつないでいることもある。コミュニティセンターや民生委員等とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めているチームもある。

〇保護者に対する情報提供

講演会の案内や開催する講座に沿ったテーマの情報提供や、家庭教育支援員が受けた講演内容の提供をする。子育てサロンなどの案内も随時行う。

■　特徴的な活動内容

〇保護者と家庭教育支援員等が子育てについて気軽に話せる座談会（ほっこりカフェ）
〇子育てコーディネーターや家庭教育相談員を招いた子育てサロン
〇保護者対象のテーマを設けた講演会や学習会
〇親子活動としての料理教室や、ものづくり教室、映画鑑賞会、学習会
〇親子、地域、学校が連携した行事
〇各校の家庭教育支援員と、市職員の企画で「市子育てサロン」の実施



【食生活を見直す郷土料理作り】
（学区健康推進員さんとコラボ！）

■　実施に当たっての工夫

〇保護者が多く参加する行事で、本事業の PR をするようにした。
〇事業のネーミング、堅苦しくならない環境、実施曜日や時間帯の設定を工夫した。
〇親子で一緒にできる活動を取り入れるようにした。
〇家庭教育支援員、スクールソーシャルワーカー、学校の職員、相談員など、それぞれの内容で相談がしやすい環境を設定した。
〇参加しやすいように、日時の設定の仕方や、地域のコミュニティセンターや子どもセンター利用など実施場所の検討。
〇子どもの小学校区では参加しにくかったり、家庭教育支援員の配置が無い小学校の保護者も対象にしたりするため市全体の保護者対象に「市子育てサロン」の開催を継続した。（今年度はテーマを設定して講師による講話とワークショップを２回開催）小学校を介しての申し込みに加え、市教委に電話・ＦＡＸで直接申し込めるようにした。参加状況や様子については、各小学校に紙面報告をしている。

■　事業の成果

〇地域をよく知る家庭教育支援員や、子育てサポーターのかかわりで、保護者の状況に合わせた支援ができた。
〇家庭教育支援員の継続した関りから、家庭訪問で保護者とつながることが可能になったケースがある。
〇コミュニティセンターを拠点とした地域の方と親子が一緒にできる講座も定着してきた所もある。
〇保護者のサロンへの参加人数は少ないものの、相談や話し合いなどは充実してきている。また内容が明確な講座へは参加しやすいようである。（アンガーマネジメントや子どもの特性の理解など）

■　事業実施上の課題

〇各校での課題をとらえ、本事業で可能なことや方向性を明確にすること。
〇家庭教育支援チームが効果的に機能するための連絡調整の持ち方の工夫が必要である。
〇このような事業に参加しにくい保護者へのはたらきかけの方法、親同士が気軽につながれる場づくりを考えていく必要がある。

報告書記入者（　生涯学習課　）

草津市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市においては、市制施行（昭和 29 年）より、一貫して人口が増加しており、子育て世帯や核家族、新たに本市に転入してくる子育て世帯も多く、家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多い。家庭での子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者へ学習機会を提供することにより家庭教育の推進を図る。

■本年度の活動

（１）家庭教育学習事業費補助金

家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位 PTA の実施する家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位 PTA における特色のある家庭教育学習事業を支援。



【　親子のコミュニケーション講座　】

（２）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。

学校と連携した学習会の実施や、１歳６か月の乳幼児健診の場を活用し、図書館との連携により家読の大切さの啓発を実施。また、地域の公共施設（図書館）を利用し、家庭の教育力の向上を図る講座を実施。



【　絵本 de うちどくサポート広場　】

（３）家庭教育に関する情報発信

市広報誌において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、テーマにあったチラシや資料を配布するなどの情報発信を行う。

■本年度の成果

家庭教育サポート事業について、各小学校と連携し、保護者の集まる機会を利用して、家庭教育に関する講座を実施することにより、SNS の危険性や家読の大切さなどの啓発に努めた。

また、乳幼児健診の場を活用した家庭教育支援の実施により、家庭教育に関心が薄い保護者への啓発に取り組むことができた。

■今後の課題

・家庭教育講座等に参加することが難しい保護者に対する学習機会の創出

草津市家庭教育サポート事業～コミュニケーションで育む家庭の力～

草津市	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	６講座（41 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　１　）チーム （　０　）人 （　０　）人
実施開始年度 平成 30 年度	実施学校区数 （　３小学校区）

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、保護者向けの学習機会の提供や情報発信により、家庭の教育力の向上を図るとともに子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

〇保護者に対する情報提供

市広報誌において、家庭教育に関するテーマで記事を掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、家読や自尊感情、ネットトラブル防止等に関する啓発チラシや資料を配布することで情報発信を行う。

■　特徴的な活動内容

〇　学校と連携した家庭教育サポート事業

市内３校と連携し、授業参観や学校行事等の保護者が集まる機会の前後に学習会を実施

・外部講師を招いた「きちんと届く伝え方～表情豊かに向き合って子どもの感性を育もう～」「みんなが笑顔になれる親子のコミュニケーション」他全４講座

〇　地域の公共施設を利用した家庭教育サポート事業

図書館の会議室を利用した講座を実施し、スマートフォン等の利用に関する家庭でのルールづくりについて家庭の教育力の向上を図る学習会を実施

・滋賀県警や少年センター職員によるインターネットトラブル防止に関する講演

・図書館司書との連携のもと関連図書を掲示



【　図書館での家庭教育講座　】

〇　１歳６か月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

月に３回ある１歳６か月の乳幼児健診の場を活用し、「絵本 de うちどくサポート広場」を実施

・健診の待ち時間に読み聞かせの啓発ＤＶＤを上映
・たくさんの絵本を展示し、親子で絵本に触れてもらう
・月の最後の健診時には、図書館司書による読書相談を併せて実施
・家庭での読書環境に関するアンケートの実施
・乳幼児期からの家庭読書の大切さを啓発するチラシを受診者全員に配布

■　実施に当たっての工夫

〇　地域の公共施設を利用した家庭教育サポート事業

・対象年齢等を限定することにより保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施できるよう調整

・図書館司書との連携のもと関係図書を掲示し、図書の貸し出しについて案内することにより、家庭での継続した学びとなるよう促した。また、実施テーマを会場施設（図書館）に関連しない内容とすることにより、普段図書館に来ることの少ない保護者に対しても図書館の利用と家読の大切さの啓発を行った。

〇　１歳６ヵ月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

・たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を惹き、また、読書に関心の低い保護者に対しては、家読の案内チラシを配布するとともに家庭での読書環境に関するアンケートを実施し、口頭で家読の啓発を行った。

■　事業の成果

〇　参加者アンケートでは、「インターネットは今後ますます重要になってくるので、とても参考になりました。これからも情報収集に努めたいと思います」、「共感してあげることの大切さを改めて思いました」などの感想をいただき、どのテーマでも家庭での教育力の向上につなげることが出来た。

■　事業実施上の課題

〇　学校と連携した家庭教育サポート事業

近年、共働き家庭が急増していることもあり、小学校では、保護者が多く集まる事業をなるべく同一日に実施するなど、事業の整理を図られていることから、より多くの学習機会を提供できるよう、実施方法の見直しについて検討する必要がある。

報告書記入者（　生涯学習課　職員　）

栗東市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

地域のつながりの希薄化に伴い、子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや行き詰まりを感じながら、一人で悩んでいる保護者は少なくない。当然校園に相談されることはあるものの、支援が必要な家庭があまりにも多く、十分には対応しきれないというのが現状である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭と地域・学校をつなぎ、地域の身近な幼児園、小中学校等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭教育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進し、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことを目指す。

■本年度の活動

（１）就学時健診での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

（２）校内適応指導教室における支援・保護者相談

対象児童５名を中心に支援。送迎時に保護者に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

（３）連絡会議・ケース会議への参加

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や当該児童の担任に、保護者対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

（４）保護者に対する情報提供

学校だより等において、家庭教育支援員の紹介をした。また、子育てに悩んだときは、いつでも相談できるということを保護者に発信した。

■本年度の成果

どんなところを家庭で育てていくのか、学校との連携はどのように図っていけばよいのか。家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。また、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■今後の課題

家庭教育についての講演や相談会の回数をさらに増やし、たくさんの保護者に学んだり交流したりする機会を提供していく必要がある。参加につながる周知方法についても、検討していきたいところである。

家庭の教育力アップをめざして　～栗東市の家庭教育支援～

栗東市	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	４講座（現在５８日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　　）チーム （　１　）人 （　　）人
実施開始年度 平成３０年度	実施学校区数 （　１　小学校区）

■　活動の具体的内容

〇連絡会議・ケース会議の設置、運営
　それぞれのケースについて、家庭教育支援員が、学校の担当者や該当児童の担任に、保護対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

〇保護者に対する情報提供
　学校だより等において、家庭教育支援員の紹介をした。また、子育てに悩んだ時は、いつでも相談できるということを保護者に発信した。

■　特徴的な活動内容

〇就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設
　就学時健康診断では、子育てに悩んだ時は相談できる人や体制があるといことを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

〇校内適応指導教室における支援・保護者相談
　個別懇談会等で、児童の様子をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりを円滑にするための手立てについて助言したりした。



子育て相談窓口

■　実施に当たっての工夫

〇就学時健康診断では、来年度就学を予定している保護者に向けて、子どもたちが学校生活をよりよく送るために、子育てに悩んだ時には相談できる人や体制があるといことを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。基本的な生活習慣を整えるなど、就学までの数か月に家庭でできることについて助言するなど、就学前からの支援を行った。

〇校内適応指導教室において、児童に応じて学習や生活の支援を行った。対象の児童の保護者には、児童のがんばりや成長について話をしたり、生活改善に向けてのアドバイスをしたりした。保護者は相談を通して、子育てで大切にすることがわかり、子どもへの関わり方の見直しにつながった。

■　事業の成果

〇研修会や相談会を通じて、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

〇家庭教育支援員が、じっくり話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わるようになった。

■　事業実施上の課題

〇福祉部局との連携をどう深めていくかということが課題である。

〇保護者が自分の子育てについて振り返ったり、また、保護者同士が家庭教育について交流したりする機会をどのように設けていくとよいか検討していきたい。

報告書記入者（　教頭　）

甲賀市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

・子育て親育ち講座については、講座と聞くと敬遠され参加しない保護者も多いため、講座を参観と参観の間に組み込んだり、親子向けの内容にしたりそれぞれ工夫し、開催している。

・子どもとの向き合い方や自身の育児に悩む人は多いが、日々の忙しさから見つめなおす時間がなかなかないのではと感じる。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

・子育てサポーターの育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようにする。

・子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように、家庭の軸である父親や母親（時には祖父母）に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

■本年度の活動

（１）ブックスタート事業（年間 28 回）

（２）子育てサポーター養成講座（３講座１見学）

（３）いきいき孫育て講座（３講座）

（４）子育て親育ち講座（園・小学校）（保幼９園実施予定）

（小学校５校実施予定）



【　子育てサポーター養成講座　】

■本年度の成果

・ブックスタート事業は開始から 10 年が経過し、事業開始当初の対象児が小学校に在学している。来られた方々が「赤ちゃんに絵本をもらえて良かった」「何を選んだら良いかわからなかったので参考になります」とおっしゃっていた。

・今年度から各種サポーター養成講座を１つに統合し、「子育てサポーター養成講座」として開催した。



【　ブックスタート事業　】

■今後の課題

・比較的取り組みやすいテーマでの事業の開催が多く、保護者のさまざまな悩み解決や子育てのサポートにつながるような新規テーマや講師の開拓が必要である。また、様々な子育て講座を開催していくにあたり、子育てサポーターの存在は欠かせず、多くのサポーターが活動に参加しやすくなるためにも、フォローアップ講座等を充実していく必要がある。

“親力”アップを目指して　～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	４講座（21 日） ※ブックスタート事業は除く

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　　１　）チーム （　　）人 （　　）人
実施開始年度 平成 23 年度	実施学校区数 （　　小学校区）

■　活動の具体的内容

〇地域人材の養成

子育てサポーター養成講座(全４回うち１回実地見学)

〇学習講座・行事の実施

いきいき孫育て講座(全３回連続講座)

子育て親育ち講座小学校(８校枠うち５校程実施予定)

子育て親育ち講座保幼園(27 園枠うち９園実施済みまたは予定)

〇保護者に対する情報提供

「らっこだっこぎゅっと」チラシ発行(年間版)



【　いきいき孫育て講座　】

■　特徴的な活動内容

〇いきいき孫育て講座(全３回)

それぞれの発達段階に応じた孫との接し方・親世代の援助の仕方について資料やふれあい遊び、絵本などを通して学ぶ。

〇子育て親育ち講座

園の参観や学校での参観・授業で、親もしくは親子で一緒に家庭教育について学ぶ。

テーマは食育・命の大切さ・運動・ふれあい・絵本の読み聞かせの大切さなど。

■　実施に当たっての工夫

〇「いきいき孫育て講座」については、基本は押さえながらも新しい内容も盛り込んであらゆる視点から講話をしていただいている。

〇「子育て親育ち講座」では園や小学校の要望に応じて講師を紹介しているが、昨年度の実績だけではなく新しい講師にも来ていただけるように情報収集している。

■　事業の成果

〇アンケートでは「今と昔の子育ての違いがわかって良かった。」「すぐにやってみようと思うものをたくさん教えてもらい、再確認ができてよかった」などの感想だった。講座終了後に講師に質問や相談をされる方がおられた。(いきいき孫育て講座)

〇どの講座も参加した保護者には好評である。日々の子育てを見つめなおす良いきっかけとなり、保護者自身も気持ちが軽くなっておられる方が多いと感じた。(子育て親育ち講座)

■　事業実施上の課題

〇事業や講座の参加につながる周知方法を検討する必要がある.

報告書記入者（　子育て政策課　　課長補佐　）

湖南市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が多忙で孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状がある。ひとり親家庭の増加や貧困など、家庭教育を行う上で困難な社会で、家庭環境が多様化している中で、子どもが学校生活に容易に適応できないといった困難を抱える家庭が増えている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者自らが家庭教育の主体であるという意識を持ちつつ、地域を始めとしたさまざまな人とのつながりの中で、一緒になって家庭教育を行っていくという協働の関係づくりが重要である。孤立した子育てではなく、他の子育てを知り協働することで子育てに幅と広がりができ、子どもの育ちを豊かにすることができる。

■本年度の活動

（１）家庭教育支援チームの設置・活動

①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援

・保護者対象に毎週水曜日 13：00～15：00「菩っこはうす」で「ほっとサロン」を開設

②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け　広義のチームによる支援

・保護者の信頼を受け、家庭へ「訪問型支援」を実施

③石部小学校…チーム名「さんぽ」…チームによる支援

・保護者対象に毎月 10 日、20 日、30 日　子育てサロン「さんぽ」を開設

④菩提寺北小学校…チーム名「あすなろカフェ」…チームによる支援

・保護者対象に各週水曜日 13:00－15:00　「あすなろハウス」で「あすなろカフェ」を開設

（２）学習講座・行事等の実施　【子育て講演会の開催】

保護者のニーズを受け止め、必要な情報を得ることのできる講演・講座を開催する。

■本年度の成果

・　支援員や子育てサポーターは、保護者と悩みを受け止め、学校と情報を共有し、子どもへの支援の糸口を見つけ出すようにしている。また、学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携・協働の有効な相談対応、情報提供を進めている。

■今後の課題

・　専門的な知識や豊富な実践経験のある講師を招いて魅力ある講座等を企画し、子ども支援にかかる研修の機会をより多くの人に提供していきたい。



【　菩提寺北小あすなろカフェ　】

「あすなろカフェ」もっと気軽に立ち寄ってもらえる場にしたい～　クリスマスリース作り～

湖南市	
活動内容 □　地域人材の養成 ■　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	講座（28 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　４　）チーム （　５　）人 （　　）人
実施開始年度 令和元年度	実施学校区数 （　４小学校区）

■　活動の具体的内容

〇家庭教育支援チームの設置・活動
あすなろハウスで「あすなろカフェ」開設。

〇学習講座・行事の実施
・月３回程度　10 時～12 時「あすなろカフェ開設」。
・12 月「クリスマスリース作り」開催。

〇保護者に対する情報提供
・「あすなろカフェ」開催日を事前にお便りで告知。



【　あすなろカフェでの作品作り　】

■　特徴的な活動内容

〇月 3 回程度 10 時～12 時に「あすなろカフェ」を開設
子育ての不安や日ごろの悩みをなど気軽に話せる場を設けている。

〇12 月に講師の先生をお招きして手作りリース講座を開設した。

〇校内持久走大会の時間に合わせ「あすなろカフェ」を開き、バザーも開催した。



【　クリスマスリース・参加者作品　】

■　実施に当たっての工夫

〇今年度は全日程午前に「あすなろカフェ」を開き、参観日に設定するなど
参加してもらいやすいよう工夫して、お便りで告知した。

〇自然素材を集め、少しの材料費で豪華なクリスマスリースを作ってもらえるよう
講師の先生と打ち合わせを重ね、努力や工夫をした。

〇地域学校協働本部（あすなろ応援団活動）と協働してバザーを開催したが告知
不足か集客が少なかった。

■　事業の成果

〇「あすなろカフェ」の存在はかなり周知されてきた。昨年同様に開催日以外でも相談を聞く機会もでてきた。

〇クリスマスリース作りは参加者７名。講師の先生が卒業生の保護者ということで在校生の保護者も参加しやすかった。
小学校は山に囲まれていて立地を生かした自然素材集めもでき、自然に触れてもらう癒しの時間となった。
参加者それぞれ、個性豊かな素晴らしいリースが出来上がり、「また、参加したい！」とうれしい声も聞かれた。

■　事業実施上の課題

〇あすなろカフェにもっと気軽に立ち寄ってもらえるような場所にしたい。
学校行事の際のカフェ開催を増やしたり、告知方法の検討も考えている。

〇参加者が少ないので、いろいろなジャンルのミニイベントを設定して来訪者が増える工夫をしていきたい。

報告書記入者（　地域学校協働活動推進員　）

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化により親が身近な人から子育てを学ぶ機会の減少や、地域での人とのつながりの希薄化、少子化など、家庭教育を支える環境が大きく変化している。核家族化や地域の人間関係の希薄化に伴って、子育て世代が気軽に相談できる相手が不足し、家庭教育力の低下が進行している。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てを終えた世代が子育て世代を支援する体制の構築と、地域全体で子育てをする基盤の構築により、保護者が安心し、ゆとりをもって家庭での子育てを行えるよう支援する。

また各種講座の開催により、日々変化する情報社会と子育ての関わりについて啓発し、現代の家庭教育で何が問題となり、どのような支援が求められているのか知る機会を提供する。

これにより、保護者と地域が子育てに対して、より高い問題意識を持ち続け、教育の原点として家庭が子どもの「生きる力」を育む場として機能することを目指す。

■本年度の活動

（１）高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

子どもの育ちを地域で見守り、保護者の相談相手となるべく、組織化された家庭教育支援チームの支援活動を推進している。月２回、子育てひろばを開催しており、子育てや家庭教育に関する相談対応、学習機会の提供など、定期的な活動を実施している。

（２）共育学習会

親子を対象に、親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が必要なのかを考える等、親と子が共に育つための学習の機会を提供する。

（３）子どもにどうかかわりあうか講座

市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として保護者を対象に実施している。その時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供している。

（４）地域教育力向上講座

地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成するため実施する。

■本年度の成果

家庭教育支援チーム「パラソル」では、親子ヨガや食育教室、歯科教室などのイベントを開催し、家庭で大切にすることについて参加者に知ってもらうことができた。また、研修会などに参加することによりチーム員の能力向上に努めた。

地域教育力向上講座・共育学習会では、福祉部局等の関係団体と連携して、講座を開催した。幼少期、思春期の子どもとの接し方について参加者の方に学んでもらい、子育ての大切さを再確認する機会となった。

■今後の課題

・講座の参加者が減少傾向にあり、多くの人に受講してもらえるような工夫が必要になってくる。

家庭と地域が一体となって、子どもの「生きる力」を育む場に

高島市	
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 □ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 □ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	20 講座（20 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数	（ 1 ）チーム （ 12 ）人
実施開始年度 （H26 年度）	実施学校区数 （13 小学校区）

■ 活動の具体的内容

〇地域人材の養成
・地域教育力向上講座
地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成するため実施する。
〇家庭教育支援チームの設置・活動
・高島市家庭教育支援チーム「パラソル」
家庭教育に関する相談対応や、親子で参加する取組・講座等の学習機会の提供を行っている。また、相談会・座談会などを開催し、家庭教育支援の拠点活動を行っている。
〇学習講座・行事の実施
・子どもにどうかかわりあうか講座
市内小中学校および幼稚園、保育園、こども園の保護者を対象に、発達段階に応じた子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供する。
・共育学習会
親子を対象に親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が必要なのかを考えるなど親と子が共に育つための学習の機会を提供する。


【パラソルの活動様子】

■ 特徴的な活動内容

〇家庭教育支援チームでは、毎月第２水曜日、第４土曜日に「ひろばパラソル」と称して拠点活動を開催している。保護者の気軽な相談相手として、家庭教育支援チーム員が自身の経験から対応し、困難なケースは、福祉部局や専門機関につなぐこととしている。

〇子どもにどうかかわりあうか講座では、地域の公民館と園・学校が連携して企画し、実施している。


【共育学習会の様子】

■ 実施に当たっての工夫

〇家庭教育支援チーム「パラソル」では、定期的にイベントを開催し、地域に「パラソル」の事を知ってもらえるよう努めた。

■ 事業の成果

〇家庭教育支援チーム「パラソル」では、親子ヨガや食育教室、歯科教室などのイベントを開催し、家庭で大切にすることについて参加者に知ってもらうことができた。また、研修会などの参加によってチーム員の資質向上に努めた。

〇地域教育力向上講座・共育学習会では、福祉部局等の関係団体と連携して、講座を開催した。幼少期、思春期の子どもとの接し方について参加者の方に学んでもらい、子育ての大切さを再確認する機会となった。

■ 事業実施上の課題

〇講座の参加者が減少傾向にあり、多くの人に受講してもらえるような工夫が必要になってくる。

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいないため、育児への不安やストレスを抱える親が増えている。また、生活習慣の乱れや経済的な困窮など家庭教育の支援を必要としている家庭もある。

これから親になる世代や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、家庭教育の情報や学習機会の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもは地域の宝であり、親だけでなく地域に見守られ育っていくことが望ましい。「地域で子育て」というメッセージを発信し、次代を担う子どもたちを地域全体で関わり育てるという意識を浸透させ、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指す。



【親子ぷれすて】

■本年度の活動

（１）家庭教育支援事業「親子ぷれすて」

毎月第４金曜日を基本に、親子が遊びを通してふれあうと同時に、親同士や子育てサポーターと子育てについて話し合い、悩みを相談できる場所として開催。

（２）学習講座・行事の実施

・ＰＴＡ等子育て学習会･･･保育園・幼稚園・小学校・中学校で開催（11 講座）
・就学前学習講座･･･全小学校（５校）で年１回
・マイナス１歳からの子育て講座･･･２講座
・親育ち講座･･･２講座

（３）地域人材の育成

・子育てサポーター養成講座･･･３講座



【親育ち講座】

■本年度の成果

・親子ぷれすてには、毎回 10～20 組の参加があり、交流、情報交換の場となっており、子育ての悩みの解消につながっている。
・小学校やＰＴＡ等と連携した学習会を開催し、多くの保護者に参加してもらうことができた。
・子育てサポーターの確保が課題となっていたが、他事業と連携した働きかけにより、新規で５名のサポーターを確保することができた。

■今後の課題

・子育てサポーターなど支援者の確保と育成が必要である。
・各種事業への参加者が固定化している傾向にあるため、これまで参加したことのない親子の孤立を防ぐため、各関係機関との連携や未参加親子への情報発信を強化する必要がある。

「子育ては楽しくかけがえのないもの！」を合言葉に学びと出会いの場の充実を！！

日野町	
活動内容 ■　地域人材の養成 □　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	23 講座（23 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　０　）チーム （　０　）人 （　９　）人
実施開始年度 （ H22 年度 ）	実施学校区数 （　５　小学校区）

■　活動の具体的内容

就学前学習講座（５講座）、ＰＴＡ等子育て学習会（11 講座）、親育ち講座（２講座）、マイナス１歳からの子育て講座（２講座）を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議（６回）、子育てサポーター会議（５回）を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（２回）を開催している。


【就学前学習会】

■　特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会（授業参観、１日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、命の宿ったマイナス１歳（胎内）からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの！」と思えるパパ・ママを目指し子育て講座を開催した。

■　実施に当たっての工夫

子育て応援通信「ゆっくりおおきくなあれ」（毎月１日発行）を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス１歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定している。

■　事業の成果

〇就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、１日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

〇ＰＴＡ等子育て学習会

実施単位をＰＴＡにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

〇マイナス１歳からの子育て講座

出産前から両親がしっかりと学習することで、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、ワンオペ育児の抑制に大きな効果があると思われる。

■　事業実施上の課題

〇各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう情報発信を工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子に対し、子育て情報や学習機会を提供できるよう取り組む必要がある。

〇子育てサポーターの育成

子育てサポーターが支援者として保護者と信頼関係を持ち、相談等に対応できるよう、事業やセミナー等への積極的な参加を促すなど、しっかりと育成していく必要がある。

報告書記入者（　　生涯学習課　担当　　）

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

近年の様々な社会情勢の変化は、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く環境に大きな影響をもたらしている。特に、いじめや不登校に対する対策や急速な情報化社会への対応、家庭や地域の教育力低下に対する対応は喫緊の課題となっている。ＰＴＡ会員を中心とした住民が地域の絆を深め、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く様々な課題の解決につながる活動および啓発を推進する。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりをめざす必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、子どもたちの夢と希望を育むため、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努める。

■本年度の活動

・随時　運営委員会の開催
・随時　講師等との事前打ち合わせ会議（意見交換会）の開催
・随時　案内チラシの作成と広報啓発活動の実施
・11 月 23 日（土）　竜王町教育フォーラム 2019
・３月中旬　次年度事業内容の検討会の開催



【　竜王町教育フォーラム 2019　】

■本年度の成果

・町全域を対象とした教育フォーラムでは、「学校・家庭が思いをひとつに、竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～」のテーマに基づき、子どもたちが主体的に学び、行動する力を養うには、学校における「読(よみ)・書(かき)・算盤(そろばん)」といった基礎基本の徹底反復学習と家庭学習、規則正しい生活習慣の大切さを学ぶ機会となった。
・民間団体の代表にデータを交え分かり易くご講演をいただき、保護者からは改めて家庭における学習習慣の大切さ、規則正しい生活習慣を身につけることがいかに大切であるかを再認識する良い機会となった等の感想をいただいた。
・学校園単位で講座・行事等を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援をすることができた。
・子どもを取り巻くさまざまな被害の実態を知り、保護者自身の子育てにおける役割について再確認する場にするとともに、多くの保護者が集うことを踏まえ、子育てについての悩みを共感するだけでなく、子育てをする仲間として互いに支え合えるような保護者同士の関係づくりができた。

■今後の課題

・講座・行事等の参加者がまだまだ少ないので、事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を工夫していくことが必要である。
・ニーズの把握、ニーズに対応した地域人材や外部団体等への依頼の仕方、関わり方が難しい。

竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～

竜　王　町	
活動内容 □　地域人材の養成 □　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	4　講座　（　4　日　）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　0　）チーム （　0　）人 （　0　）人
実施開始年度 平成 22 年度	実施学校区数（　2小学校区）

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施

・家庭教育支援研修会　各学校園において子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

・教育フォーラム　町内ＰＴＡを中心とした住民が一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深め、地域の教育力を醸成させる。

■　特徴的な活動内容

【　竜王西幼稚園　】

〇人権学習会

1 月 24 日（金）の午前に開催。対象者は在園児の保護者。子どもを取り巻くさまざまな被害の実態を知り、保護者自身の子育てにおける役割について再確認する場にするとともに、多くの保護者が集うことを踏まえ、子育てについての悩みを共感するだけでなく、子育てをする仲間として互いに支え合えるような保護者同士の関係づくりを支援した。



【　竜王西幼稚園　人権学習会　】

【　竜王町ＰＴＡ連絡協議会・竜王町社会教育委員の会・竜王町教育委員会　】

〇竜王町教育フォーラム 2019

11 月 23 日（土）午前に開催。対象者はＰＴＡ関係者、社会教育関係者、地域住民等。「学校・家庭が思いをひとつに、竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～今こそ「キラリと光る竜王っ子」をめざして～」のテーマに基づき、社会教育委員による「我が家の子育て」についてのトークの後、「人生は、生活習慣と勉強の習慣で決まる～生活習慣の重要性、家庭の役割・学校の役割～」と題して、（一財）基礎力財団理事長で陰山ラボ代表の陰山英男さんに子どもたちが主体的に学び、行動する力を養うには、学校における「読(よみ)・書(かき)・算盤(そろばん)」といった基礎基本の徹底反復学習と家庭学習、規則正しい生活の習慣を身につけることが大切であり、この２つを車の両輪の如く取り組むことの必要性についてデータをもとにご講演をいただき、徹底反復学習と家庭学習、規則正しい生活習慣の大切さを学ぶ機会となった。



【　竜王町教育フォーラム 2019　】

■　実施に当たっての工夫

〇教育フォーラムでは、地域で活躍されている子どもたちの社会教育活動の成果の発表の場として、コーラスやダンスの発表を行い、保護者や地域の方々に広くＰＲする機会となった。

■　事業の成果

〇人権学習会のテーマや内容が重く、研修に参加した保護者自身がどのように受け止めてくれるのかと思ったが、研修を通して、保護者自身が実際の状況をまずは知り、保護者としてどう子どもに向き合うのか、また、困った時に助けてもらえる機関があることを知ってもらえる機会となった。

〇保護者自身も不安を抱えながらの子育てであることを改めて感じ、幼稚園としても保護者をサポートできる場であり、保護者のニーズにあった必要な情報を提供できる場として、子育て支援には欠かせないと感じた。

〇家庭における学習習慣の大切さ、規則正しい生活習慣を身につけることがいかに大切であるかを再認識する良い機会となった。

■　事業実施上の課題

〇子どもたちの健やかな成長には、彼らが好奇心や創造性を持って物事に取り組む力を育くみ、達成感などを通して自己肯定感を得ることや、各家庭での「家庭学習や規則正しい生活」の習慣化に向けた日々の関わりが大切であり、保護者が家庭でできることにしっかり取り組み、学校と家庭が車の両輪の如く機能することで、子どもたちの健やかな成長を支援していきたい。

報告書記入者（　公民館　公民館係　係長　）

滋賀県コミュニティ・スクール推進事業について

1　目的

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。

2　事業内容

コミュニティ・スクールの全校設置と推進体制の構築をめざす教育委員会を対象とした「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」（国庫補助事業）として実施。

（1）CSアドバイザー派遣

①趣旨

・コミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行う実践者（ＣＳアドバイザー）を県教育委員会に配置し、市町教育委員会や県立学校からの要請に応じて派遣する。

・県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進するなど、コミュニティ・スクールの設置や取組の充実に資することを目的とする。

②CSアドバイザー



（令和元年度　滋賀県教育委員会作成　コミュニティ・スクール　リーフレットより）

③派遣実績

	派遣日 出役時間	派遣先 研修名	派遣 アドバイザー	概要　①参加者　②テーマ・内容
1	5月8日（水） 15:00 ～ 16:50	湖南農業高等学校 （小会議室） 運営委員研修	髙木　和久	①　学校教職員　15名 ②「なぜ学校と地域との『連携・協働』が必要なのか」
2	5月17日（金） 15:25 ～ 16:30	第1回コミュニティ・スクール 連絡協議会 （県庁東館7階大会議室）	6名	①　市町教委担当者 ②　CSアドバイザー派遣説明　市町設置状況等情報交換
3	5月30日（木） 10:00 ～ 11:40	草津市 （市役所8階大会議室） コミュニティ・スクール研修会	武井　哲郎	①　教育部長、市教委学校政策推進課、市内学校教職員、学校運営協議会委員等　57名 ②　効果的な学校運営協議会の持ち方や工夫
4	6月12日（金） 9:00 ～ 10:00	甲賀市 （市役所4階401会議室） 教育委員研修会	宮治　一幸	①　市教育委員、市教委学校教育課　19名 ②　コミュニティ・スクールの立ち上げと推進体制の構築に向けて ～コミュニティ・スクール、地域学校協働本部の仕組みと役割～
5	6月14日（金） 連絡協議会 15:50 ～ 13:00	コミュニティ・スクール推進 フォーラム兼第2回コミュニティ・ スクール連絡協議会 （大津会場：県庁東館7階大会議室）	3名	①　行政関係者、学校関係者、学校運営協議会委員、学校評議員、地域学校協働活動関係者、PTA関係者等　75名 ②　グループディスカッション「導入・推進にあたっての疑問・課題」でのファシリテーター
6	7月6日（土） 13:30 ～ 16:00	長浜市 （湖北文化ホール） 学校運営協議会委員・教職員 研修会	松田　幸夫	①　市教委（教育指導課・教育改革推進室）、小中学校教職員、事務職員、学校運営協議会委員等　90名 ②　学校を核とした地域力の向上について志の集まる学校へ ～滋賀県内外の取組について～

7	7月18日（木） 13:30 ～ 16:00	高島市 （市役所新館2階） 地域学校推進員協議会	松田　幸夫	①　地域学校協働活動推進員、市教委(学校教育、社会教育課)　10名 ②　・地域学校協働活動と学校運営協議会との連携について ・質疑応答
8	8月1日（木） 14:00 ～ 16:00	湖南農業高等学校 （会議室） 職員研修	高木　和久	①　学校教職員　29名 ②　湖南農の実践からコミュニティ・スクールのあり方について
9	8月8日（木） 13:00 ～ 14:00	甲賀市 （市役所4階402会議室） 教育委員研修会	宮治　一幸	①　市内小中学校管理職、市教委学校教育課　19名 ②　コミュニティ・スクールの立ち上げと推進体制の構築に向けて ～コミュニティ・スクール、地域学校協働本部の仕組みと役割～
10	8月20日（金） 連絡協議会 15:40 ～ 16:25	コミュニティ・スクール推進フォーラム兼第2回コミュニティ・スクール連絡協議会 （近江八幡会場：県立男女共同参画センター大ホール）	7名	①　行政関係者、学校関係者、学校運営協議会委員、学校評議員、地域学校協働活動関係者、PTA関係者等　130名 ②　グループディスカッション「導入・推進にあたっての課題」でのファシリテーター
11	8月26日（月） 14:45 ～ 15:45	国際情報高等学校 （視聴覚室） 職員研修	宮治　一幸	①　学校教職員 30名 ②　・学校運営協議会設置に向けて
12	8月27日（火） 15:00 ～ 16:30	草津市 （草津市教育研究所） コミュニティ・スクール研修会	伊藤　照男	①　行政関係者、市内学校教職員、学校運営協議会委員、市教委学校政策推進課　26名 ②　学校運営協議会の充実・発展のために求められている委員の役割やあり方について
13	9月17日（火） 9:30 ～ 11:30	野洲市 （野洲市役所別館1階会議室） 第1回野洲市学校運営協議会検討会議	武井　哲郎	①　市教委（学校教育課・生涯学習課）、子ども課、校長代表　6名 ②　学校運営協議会制度について学ぶ
14	10月3日（木） 10:00 ～ 12:00 13:00 ～ 15:00	甲良町 （甲良町公民館1階研修室） 地域連携に係る交流研修会	高木　和久	①　AM：教育長・校長園長・学校教育課　6名 PM：教頭・副園長・学校教育課　5名 ②　コミュニティ・スクールの立ち上げについて～交流を通し各校園の構想を広げ深める～
15	10月9日（水） 9:30 ～ 10:30	日野町 （役場2階201会議室） 校長会	北辺　禎雄	①　町内小中学校校長、市教委学校教育課等　15名 ②　日野町立小中学校にコミュニティ・スクールを導入するにあたって
16	10月28日（月） 13:30 ～ 17:00	彦根市 （彦根市立東中学校　大会議室） 第2回東中学校区支援地域協議会	高木　和久	①　東中学校区小中学校教職員、地域学校協働活動推進員、市教委生涯楽学習課　42名 ②　支援から協働へ～コミュニティ・スクールについて考える～
17	10月29日（火） 14:00 ～ 17:00	東近江市 （東近江市役所　東A会議室） 第2回東近江市地域学校協働活動推進に向けた研修会	北島　榮雄	①　教育長、教育部長、市教委（学校教育課・生涯学習課）、小中学校管理職、地域学校協働活動推進員　22名 ②　コミュニティ・スクールに係る検討会
18	11月18日（月） 15:00 ～ 17:00	滋賀県CSアドバイザー会議	7名	①　CSアドバイザー、県教委生涯学習課　13名 ②　滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について
19	11月19日（火） 9:30 ～ 11:00	多賀町 （多賀結いの森　大会議室） 小中学校教頭研修会	伊藤　照男	①　教育長、教育次長、町内教頭、町教委学校教育課・生涯学習課　11名 ②　地域とともにある学校園づくり
20	11月28日（木） 10:00 ～ 12:00	野洲市 （篠原小学校会議室） 篠原小学校区 学校応援団懇談会	高木　和久	①　市教委学校教育課、市内地域学校協働活動推進員、学校評議員、小中学校教職員等　16名 ②　学校運営協議会制度について学ぶ
21	12月9日（月） 15:00 ～ 17:00	北大津養護学校 （図書室） 職員研修	高木　和久	①　学校教職員等　60名 ②　なぜ、今コミュニティ・スクールが必要なのか～教職員の共通理解とよりよい導入に向けて～
22	12月19日（木） 14:00 ～ 16:00	彦根市 （彦根市民会館　第3会議室） 地域学校協働活動　地域コーディネーター研修会	北辺　禎雄	①　地域学校協働活動推進員、小中学校管理職、市教委生涯学習課　22名 ②　なぜ今、コミュニティ・スクールか
23	1月14日（火） 19:00 ～ 21:00	竜王町 （竜王中学校　会議室） 竜王町学校運営 協議会学習会	武井　哲郎	①　竜王町小中学校学校運営協議会委員、竜王中教職員、町教委学校教育課　15名 ②　学校運営協議会の学習会ならびに体制づくりについて
24	1月24日（金） 12:30 ～ 16:40	「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムin滋賀 （滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール）	パネリスト 宮治　一幸 松田　幸夫	①　行政関係者、学校関係者、学校運営協議会委員、学校評議員、地域学校協働活動関係者、PTA関係者等　691名 ②　トークセッション 第1部：「持続」するために大切にすること 第2部：教職員の役割
25	1月29日（水） 15:00 ～ 16:30	彦根市 （彦根市立城北小学校図書室） 城北小学校区コミュニティ・スクール研修会	伊藤　照男	①　市内地域学校協働活動推進員、城北小教職員、市教委生涯学習課　23名 ②　コミュニティ・スクールとは
26	2月21日（金） 15:00 ～ 16:30	草津市 （草津市役所　大会議室） コミュニティ・スクール研修会	松田　幸夫	①　市内小中学校管理職・CS担当教員、市教委学校政策推進課　30名 ②　次年度の円滑な学校経営の学校経営のスタートに向けて大切にすべきこと
27	2月27日（木） 9:00 ～ 12:00	野洲市 （篠原小学校会議室） 篠原小学校区 学校応援団懇談会	高木　和久	①　市教委学校教育課、市内地域学校協働活動推進員、学校応援団関係者、篠原小教職員等　5名 ②　学校運営協議会制度に向けた準備について

（2）コミュニティ・スクールの研修の充実

①コミュニティ・スクール推進フォーラム （詳細は「Ⅰ　推進協議会の取組」 の項に掲載）

②管理職研修

■日時　　令和元年 10 月８日（火）　13:30～16:30

■会場　　滋賀県総合教育センター　新館３階研修室Ｃ

■内容等

・総合教育センター主催管理職研修において、「地域と連携・協働による学校づくり」をテーマにした研修を設定。コミュニティ・スクールの制度や、目的、県内で取り組まれている具体的な実践事例を通して、管理職として求められる役割について理解を深めていただいた。

・小・中・県立学校の校長・副校長・教頭　　40 名が参加。

（3）推進協議会・連絡協議会の開催

①学校を核とした地域力強化プラン推進協議会

・ＣＳアドバイザーはオブザーバーとして参加し、自身の経験やアドバイザー派遣を通じて得た市町および県立学校等のコミュニティ・スクール導入・取組充実に関する実情や課題等の情報提供を行う。

②コミュニティ・スクール連絡協議会

・県内全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について研究する目的で設置。

・各市町コミュニティ・スクール担当課、県立学校の代表者、ＣＳアドバイザー等が参加し、推進方策や効果的な運営方法等の情報共有・情報交換を行う。

開催実績

	市町教育委員会 参加者：コミュニティ・スクール担当課代表等		県立学校 参加者：校長等	
第1回	日時 会議名 場所	5月17日（金） 「学校を核とした地域力強化プラン」研修会 東館7階大会議室	日時 会議名 場所	4月11日（木） 県立学校経営等協議会 東館7階大会議室
	内容	市町推進状況等交流　CSアドバイザー紹介 CSアドバイザー派遣の活用依頼	内容	県設置方針説明 県推進事業等情報提供
	参加者数	25名	参加者数	60名
第2回	日時 会議名 場所	6月14日（金） コミュニティ・スクール推進フォーラム（大津会場） 県庁東館7階大会議室	日時 会議名 場所	6月14日（金） コミュニティ・スクール推進フォーラム（大津会場） 県庁東館7階大会議室
	内容	導入・取組の充実に関する課題等グループディスカッション	内容	導入・取組の充実に関する課題等グループディスカッション
	参加者数	市町教育委員会関係者　8名	参加者数	県立学校関係者　28名
	日時 会議名 場所	8月20日（火） コミュニティ・スクール推進フォーラム （近江八幡会場） 県立男女共同参画センター　大ホール	日時 会議名 場所	8月20日（火） コミュニティ・スクール推進フォーラム （近江八幡会場） 県立男女共同参画センター　大ホール
	内容	導入・取組の充実に関する課題等 グループディスカッション	内容	導入・取組の充実に関する課題等 グループディスカッション
	参加者数	市町教育委員会関係者　16名	参加者数	県立学校関係者　26名
第3回	日時 会議名 場所	1月24日（金） 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムin滋賀 （兼第3回「学校を核とした地域力強化プラン」研修会） 県立芸術劇場びわ湖ホール　大ホール	日時 会議名 場所	10月3日（木） 県立学校経営等協議会 県庁東館7階大会議室
	内容	地域学校協働活動およびコミュニティ・スクールの取組事例発表、行政説明・情報提供	内容	設置アンケート調査結果の概要説明
	参加者数	市町教育委員会関係者　29名	参加者数	60名

(4)県立学校の学校運営協議会設置推進

①県設置方針を策定

・法改正による努力義務化を受け、県立学校への学校運営協議会の設置を推進する。
・すべての県立学校を対象学校とし、各校の実情や意向に応じて希望する学校から順次設置する。

②「滋賀県学校運営協議会規則」の改正(平成 30 年3月 30 日付け)

・設置努力義務化により「学校の指定」がなくなることから、「指定学校」を「対象学校」に修正。
・「学校運営への必要な支援に関する協議」を学校運営協議会の役割に追加。
・中高一貫の場合には、「２以上の学校について１の協議会を設置することができる」文言の追加。
・職員の採用その他任用に関して学校運営協議会が意見を述べることができる事項を教育委員会規則で定めることについて、「特定の個人に関する事項を除く」とする。

令和元年度学校運営協議会設置校について

協議会数：８（高等学校７、特別支援学校１）

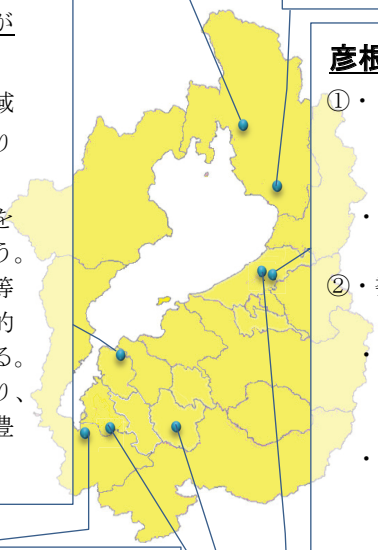
学 校 名　　■学校運営協議会の始期
①学校の特色等
②設置目的、設置後のビジョン等
※①②は、令和元年度設置校のみ記載

伊香高等学校　■H30 年度(2018 年度)

長浜北高等学校　■H28 年度(2016 年度)

守山北高等学校　■R 元年度 (2019 年度)

①・守山市、野洲市在住の生徒が多数を占める。保護者や地域、関係機関との連携を図り、地域に根ざした特色ある学校づくりを学校経営方針に掲げる。
②・周辺施設との地域防災訓練を通じ、自助・共助の精神を養う。
・大学、専門学校、地元企業等との連携により、生徒が実践的に学ぶキャリア教育を推進する。
・近隣福祉施設との連携を図り、実習や交流等を通じて生徒の豊かな人間性を育む。



彦根工業高等学校　■R 元年度 2019 年度

①・ものづくりをとおして社会に貢献しうる資質と能力を養う教育目標のもと、近隣小学校等との連携を図る。
・2020 年度に創立 100 周年を迎えるので協議会との連携を図る。
②・委員には、地元小中学校長、企業、まちづくり関係者等を考えている。
・生徒が地域や小中学校に出向き、学んだ知識や技能をすすんで生かす社会貢献の機会を充実させる。
・高大連携、技能コンテスト等、生徒が様々な交流や専門的な学びの機会を通じて視野を広げる機会を設ける。

瀬田工業高等学校　■H30 年度(2018 年度)

河瀬中学・高等学校　■H30 年度(2018 年度)

草津養護学校　■R 元年度 (2019 年度)

①・社会に出て子どもがいきいきと活動できるように、また社会が子どもを理解できるように発信していくことを目的に、平成 30 年３月、学校後援会を設立。通学バスで登下校をする児童生徒が多い。
②・登下校における非常時の対応は喫緊の課題であり、消防署、関係機関等との連携を図り、防災の取組をすすめる。
・後援会との連携を図り、学校で培った力を児童生徒が発揮する機会、地域の方が教育活動に参画する機会を設ける。

甲西高等学校　■R 元年度 (2019 年度)

①・「力行 (りょっこう)」を校訓とし、将来地域のリーダーとして活躍できる生徒の育成、地域に愛され地域に信頼される安心安全な学校をめざす。
・湖南市とのつながりが強く、地域に根付いた高校である。
②・地元企業、事業所と連携を図り、活動や体験を中心としたキャリア教育を推進する。
・活動や経験、地元企業の大人とのつながりをとおして、自己を知り、卒業後の進路決定につながる社会人としての夢と希望を大きく抱く生徒の育成をめざす。

令和元年度
学校を核とした地域力強化プラン事業実践事例集

令和２年（2020 年）３月

発行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
〒５２０－８５７７　滋賀県大津市京町４丁目１－１
ＴＥＬ：０７７－５２８－４６５４
ＦＡＸ：０７７－５２８－４９６２
ＭＡＩＬ：ma06@pref.shiga.lg.jp
ホームページ：「におねっと」https://www.nionet.jp/